

JUNTENDO UNIVERSITY SHIZUOKA HOSPITAL



JUNTENDO UNIVERSITY
SHIZUOKA HOSPITAL

順天堂大学医学部附属 静岡病院 年報



2024年度版

2024 年度版静岡病院年報発刊に寄せて

順天堂大学医学部附属静岡病院院長 佐藤浩一

2024 年 4 月、ついに働き方改革が開始されました。静岡病院では医師は B 水準、連携 B 水準、時間外労働時間 1860 時間以内の特定労務管理対象機関の指定を受けました。また臨床研修医は順天堂大学附属 4 病院すべてで 960 時間以内の A 水準の届出をしております。慢性的な過重労働のないよう面接指導を適切に行い、時間外労働時間の短縮に努めました。2035 年には特例措置が廃止されるため、全ての医師が A 水準となるよう、特定看護師の養成、医師事務作業補助者や薬剤師の増員などを図り、タスクシフト・タスクシェアを推進してまいります。

2019 年 1 月に新棟 I 期棟の地鎮祭が執り行われてから、5 年 4 ヶ月の歳月をかけてついに新棟 II 期棟が完成し、4 月 26 日静岡病院新棟 II 期工事竣工式が執り行われました。小川理事長を始め静岡県東部 17 市町長など、100 名を超える多くの方々にご出席頂きました。新棟には救命救急センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、救急外来など当院の重要な機能を移転し、さらにハイブリッド手術室やロボット手術室を含む最新の手術室 11 室を新たに増設し、静岡県東部の中核に相応しい設備と機能を有する県内有数の病院となりました。

5 月 6 日、新棟の完成に合わせて、静岡病院では全ての部署で医療情報システムの更新を行いました。最新の電子カルテの導入により医療 DX を促進し、外来待ち時間の短縮を図るとともに、患者サービスの向上や地域医療連携の推進を目指します。

6 月 19、20 日、病院機能評価を受審しました。受審結果は合計 88 項目のうち、S 評価 2 項目、A 評価 78 項目、B 評価 7 項目、C 評価 1 項目と大変優秀な成績でした。S 評価の 2 項目は、「救急医療機能を適切に発揮している」、「放射線治療機能を適切に発揮している」で、C 評価は「BLS の実施訓練が行われていないこと」で、C 評価に対しては、静岡災害医学研究センターと協力して BLS の実施訓練を施行しております。病院機能評価の受審により、当院の医療の質および運営状況を評価して頂き、静岡病院の更なる発展に繋げたいと考えております。

8 月 5 日、三島駅南口東街区再開発事業における定期建物賃貸借予約契約をミサワホーム株式会社と締結しました。これにより静岡病院サテライトクリニック構想が本格的にスタートしました。このサテライトクリニックは、24 階建てタワー・マンション 4 階の 1248m² の広大なフロアで、専門外来と高度検診センターを開設する予定です。

順天堂大学は、現在、高大連携を推進しており、9月18日に静岡県立沼津東高等学校と高大連携に関する協定を締結いたしました。これは静岡県立韮山高等学校について2校目の協定締結で、相互に協力して地域の発展に貢献できる人材を育成したいと考えております。今後はさらに、近隣の高校と高大連携を推進していきたいと考えております。

10月24日、臨床研修医の令和6年度マッチング結果が発表されました。静岡病院は定員36名中マッチ数36名、マッチ率100%で、順天堂大学4附属病院全体では、定員155名中マッチ数155名、マッチ率100%と最高の結果でした。また静岡県全体でみると、今年度のマッチ数は浜松医大を抜いて静岡県では最多の結果でした。今後もより多くの臨床研修医を獲得していきたいと考えております。

3月5日、医療連携フォーラムを三島プラザホテルで開催し、院外84施設より116名の参加がありました。第1部の学術講演会では、心臓血管外科科長梶本完准教授より「高齢化社会における当院の心臓弁膜症治療～フルオプションで実現するオーダーメイドアプローチ～」、歯科口腔外科科長井染洋助手より「当院における歯科口腔外科の診療について」のご講演がありました。その後第2部の懇親会について各診療科科長からの挨拶があり、ご列席の方々と親交を深める事が出来ました。

以上のようにこの静岡病院は毎年多くの課題に取り組んでおり、今後も職員一同力を合わせ、多くの問題を一つ一つ解決していくこうと考えております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

行事写真



新入職員講習会



新棟Ⅱ期工事竣工式



新棟Ⅱ期（H棟） 外観



子ども医療体験会（コード・ブルーセミナー）



三島駅南口東街区再開発事業
契約締結（ミサワホーム株式会社）



高大連携 病院見学会（葦山高校）



高大連携 病院見学会（沼津東高校）



高大連携 医学部見学会（葦山高校）



ドクターヘリ運航調整委員会



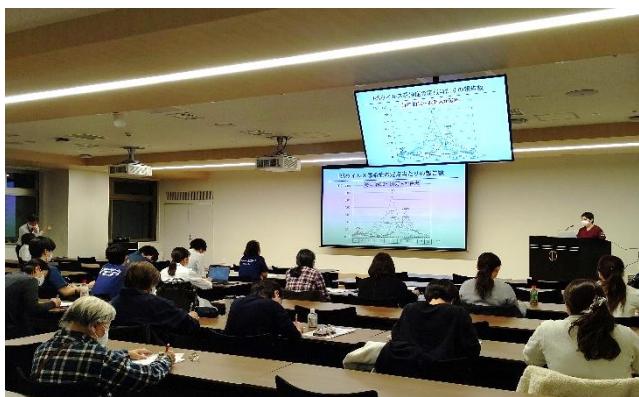
高大連携協定調印式（沼津東高校）



病児・病後児保育開始



病院・ドクターヘリ病院見学会



東部周産期研究会



医療連携フォーラム



臨床研修医修了証書授与式



看護師特定行為研修 修了式

ミニレクチャー(動画 WEB 配信)

順天堂大学医学部附属静岡病院
ミニレクチャー動画 (WEB再配信)

子宮頸がん予防ワクチンについて

1997年4月2日から2008年4月1日までの誕生日の女性は2025年3月31日までキャッチアップ接種(※)が公費負担で受けられます。
(接種は計3回で、完了するまでに約6ヶ月かかります。)
(※)キャッチアップ接種とは、子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)の積極的な個別勧奨が一時的に差し控えられていた間、ワクチンの接種機会を逃した方を対象に実施する予防接種です。

再配信期間
2024年
8月5日(月) → 9月30日(月)
◆約10分間のミニレクチャー動画
◆視聴無料・申込不要

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
産婦人科 准教授
金田 容秀

【お問い合わせ】
順天堂大学医学部附属静岡病院
地域医療連携室
電話：055-948-3111

QRコードよりご視聴ください。
当院ホームページ内の専用ページへ移行します。



市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院 第87回 市民公開講座
排尿トラブルから未来の健康を守る：
ロボット手術と低侵襲治療

2024年5月29日(水)
17時00分～18時00分 (開場：16時30分)
参加無料
申込不要

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
泌尿器科
長屋 直哉 准教授



ZOOMウェビナーID : 934 1879 2899
URL : <https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/93418792899>

QRコードよりご視聴可能です。
事前申込は不要です。開始時刻になりましたら下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

順天堂大学医学部附属静岡病院 第88回 市民公開講座

肝がん撲滅運動公開講座

2024年7月25日(木)
17時00分～19時00分 (開場：16時30分)

参加無料
申込不要

講演1：肝がんのはなし

消化器内科

教授 玄田 拓哉



講演2：肝臓は糖尿病の主要臓器

糖尿病・内分泌内科 教授 野見山 崇



講演3：肝臓病の食事について
栄養科 管理栄養士 浅田 純香子

お問い合わせ
会場者特典として
抽選グッズを
配布します

講演4：肝臓病予防に有効な運動って？

川原井寿洋 理学療法士 小林 敦郎

講演終了後、来場者を対象に胆肝膵の有無や肝臓の硬さを測る無料エコー検査(15名程度(先着順))を行います。(検査希望の方は来場時に受付にてお申し出ください。)

会場参加
〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地
当院 H棟大会議室

◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
◆病院内では、マスクの着用および手指消毒をご協力をお願いいたします。

◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
ZOOMウェビナーID : 985 9646 0595
URL : <https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/98596460595>

[主催] 一般社団法人 日本肝臓学会
[共催] 順天堂大学医学部附属静岡病院(肝疾患相談支援センター)、順天堂大学医学部、静岡災害医学研究センター
[お問い合わせ] 順天堂大学医学部附属静岡病院 肝疾患相談支援センター、地域医療連携室 電話：055-948-3111
病院ホームページ：<http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第89回市民公開講座

胃がんのはなし あれこれ

【講師】
順天堂大学医学部附属静岡病院
外科
伊藤 智彰 教授

日時
2024年9月19日(木)
17時00分～18時00分（開場：16時30分）

会場参加
〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地
当院 H棟大会議室

- ◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
- ◆病院内では、手指消毒等の感染症対策へのご協力ををお願いいたします。
- ◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
 ◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
 ◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら
 下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

ZOOMウェビナーID : 978 1983 3990
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/97819833990>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話 : 055-948-3111
 病院ホームページ : <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第90回市民公開講座

ハッピーライフ with 糖尿病 ～一病息災で健康長寿～

【講師】
順天堂大学医学部附属静岡病院
糖尿病・内分泌内科
野見山 崇 教授

日時
2024年11月21日(木)
17時00分～18時00分（開場：16時30分）

会場参加
〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地
当院 H棟大会議室

- ◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
- ◆病院内では、手指消毒等の感染症対策へのご協力ををお願いいたします。
- ◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
 ◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
 ◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら
 下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

ZOOMウェビナーID : 950 7674 6044
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/95076746044>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話 : 055-948-3111
 病院ホームページ : <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第91回市民公開講座

あなたの脈乱れてませんか？ ～心房細動を治して健康長寿へ～

【講師】
順天堂大学医学部附属静岡病院
循環器内科
塩澤 知之 准教授

日時
2025年1月8日(水)
17時00分～18時00分（開場：16時30分）

会場参加
〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地
当院 H棟大会議室（定員300名）

- ◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
- ◆病院内では、手指消毒等の感染症対策へのご協力ををお願いいたします。
- ◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
 ◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
 ◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら
 下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

ZOOMウェビナーID : 972 2763 6448
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/97227636448>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話 : 055-948-3111
 病院ホームページ : <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第92回市民公開講座

子どもの外科医療 ～見逃せない疾患と低侵襲治療について～

【講師】
順天堂大学医学部附属静岡病院
小児外科
瀬尾 尚吾 准教授

日時
2025年3月13日(木)
17時00分～18時00分（開場：16時30分）

会場参加
当院 H棟大会議室（定員300名）
(〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地)

- ◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
- ◆病院内では、手指消毒等の感染症対策にご協力いただきまますようお願いいたします。
- ◆発熱・咳・風邪の症状がある場合につきましては、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
 ◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
 ◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら
 下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

ZOOMウェビナーID : 964 1949 3642
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/96419493642>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話 : 055-948-3111
 病院ホームページ : <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

目次

1. 病院概要

1-1. 2. 3 病院理念・基本方針・施設概要	1
1-4 組織機構図	2
1-5 所属長一覧	3
1-6 医師名簿	4
1-7 職員数	5
1-8 各種委員会	6
1-9 (1) 活動報告	8
1-9 (2) 講演会	10
1-10 社会貢献・地域交流活動	11
1-11 指定・認定・許可事項	13

2. 診療科報告

2-1 膜原病・リウマチ内科	16
2-2 血液内科	18
2-3 消化器内科	20
2-4 呼吸器内科	23
2-5 腎臓内科	24
2-6 糖尿病・内分泌内科	26
2-7 循環器内科	29
2-8 小児科	42
2-9 小児外科	45
2-10 一般外科	48
2-11 脳神経外科	55
2-12 整形外科	59
2-13 脳神経内科	65
2-14 心臓血管外科	68
2-15 呼吸器外科	71
2-16 形成外科	73
2-17 眼科	75
2-18 耳鼻咽喉科	80
2-19 麻酔科・ペインクリニック	82
2-20 放射線科	84
2-21 メンタルクリニック	87
2-22 皮膚・アレルギー科	89
2-23 泌尿器科	93
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター	97
2-25 救急診療科	102
2-26 病理診断科	112
2-27 リハビリテーション科	114
2-28 臨床検査科	117
2-29 歯科口腔外科	118

3. 部門報告

3-1	薬剤科	119
3-2	栄養科	124
3-3	放射線室	126
3-4	検査室	129
3-5	手術室	131
3-6	血液浄化センター	132
3-7	臨床工学室	134
3-8	輸血室	136
3-9 (1)	看護部	138
3-9 (2)	看護総務課	147
3-9 (3)	看護入院業務課	150
3-9 (4)	看護外来業務課	152
3-9 (5)	看護教育課	155
3-10	救命救急センター	160
3-11	ドクターへリ運航対策室	161
3-12	新生児センター	165
3-13	がん治療センター	166
3-14	こどものこころのケアセンター	168
3-15	予防医学センター	170
3-16	GCP センター	173
3-17	臨床研修センター	176
3-18	看護師特定行為研修センター	179
3-19	地域医療連携室	185
3-20	医療福祉相談室	186
3-21	入退院支援室(入退院支援看護師)	187
3-22	患者・看護相談室	189
3-23	受診相談・総合案内	190
3-24	医療安全管理室	191
3-25	感染対策室	193
3-26	健康安全推進センター	196

4. 統計

4-1. 2	病床利用率・在院日数	198
4-3	診療科別延患者数(外来)	199
4-4	診療科別延患者数(入院)	200
4-5	新患者数(外来)	201
4-6	新患者数(入院)	202
4-7	退院患者数	203
4-8. 9	年齢別延患者数(外来・入院)	204
4-10	地区別延患者数(外来)	205
4-11	地区別延患者数(入院)	206

1. 病院概要

1-1 病院理念

1. 学は「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を図る

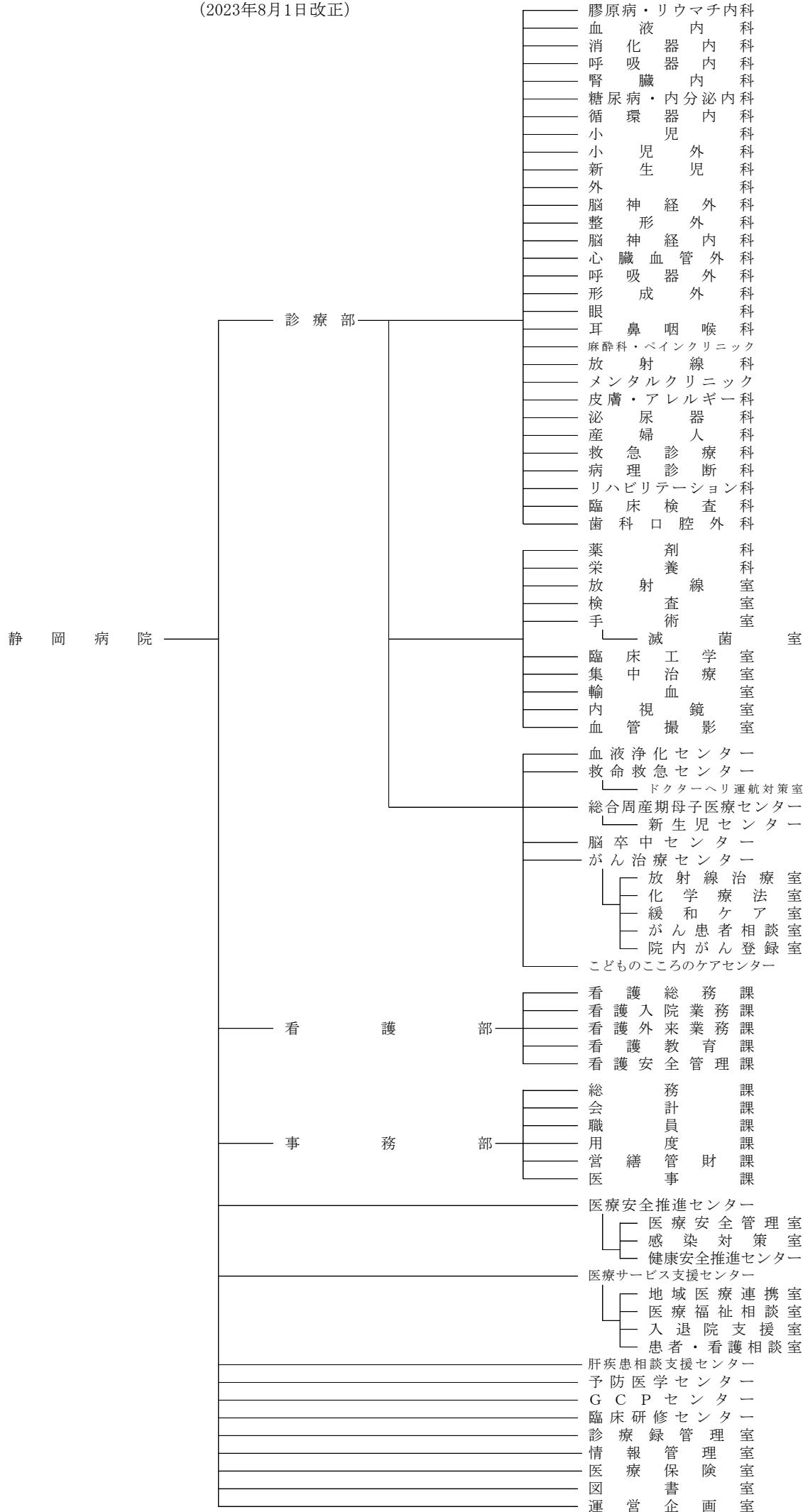
1-2 基本方針

1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供します。
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護を行います。
3. 快適な療養生活ができる環境を提供します。
4. 救命救急医療や在宅医療など地域医療や連携に寄与します。
5. 災害時の拠点病院として地域医療に貢献します。
6. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組みます。
7. 最新の医療情報の提供に努めます。

1-3 施設概要

名称 : 順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地 : 〒410-2295
静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号 : 055-948-3111(代表)
FAX : 055-948-5088
敷地面積 : 25,700.83 平方メートル
病床数 : 633 床(稼働病床 633 床) ※2025 年 3 月 31 日現在

順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図
(2023年8月1日改正)



1-5 所属長一覧

令和7年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	佐藤 浩一	看護部長	堀込 克代
副院長	藤田 和彦	看護総務課	近藤 利津枝
副院長	山本 拓史	看護入院業務課	宮澤 初美
院長補佐	岩神 真一郎	看護外来業務課	矢田 みどり
院長補佐	桐野 衛二	看護教育課	濱口 真知子
診療部長	山本 拓史	看護安全管理課	荻島 真弓
膠原病・リウマチ内科	片桐 彰	事務部長	小野 隆宏
血液内科	高野 弥奈	総務課	小池 直樹
消化器内科	玄田 拓哉	会計課	佐藤 憲一
呼吸器内科	岩神 真一郎	職員課	小野 隆宏
腎臓内科	清水 芳男	用度課	尾崎 治之
糖尿病・内分泌内科	野見山 崇	営繕管財課	小野 隆宏
循環器内科	荻田 学	医事課	萩原 賢泰
小児科	馬場 洋介	救命救急センター	柳川 洋一
新生児科	大川 夏紀	ドクターへリ運航対策室	柳川 洋一
小児外科	瀬尾 尚吾	新生児センター	大川 夏紀
外科	伊藤 智彰	総合周産期母子医療センター	田中 利隆
脳神経外科	山本 拓史	脳卒中センター	山本 拓史
整形外科	大林 治	がん治療センター	田中 顕一郎
脳神経内科	野田 和幸	放射線治療室	大島 理規
心臓血管外科	梶本 完	化学療法室	高野 弥奈
呼吸器外科	市之川 英臣	緩和ケア室	三澤 恭平
形成外科	苅部 綾香	がん患者相談室	金田 容秀
眼科	太田 俊彦	院内がん登録室	田中 顕一郎
耳鼻咽喉科	楠 威志	こどものこころのケアセンター	桐野 衛二
麻酔科・ペインクリニック	尾前 肇	肝疾患相談支援センター	玄田 拓哉
放射線科	杉山 宗弘	予防医学センター	野見山 崇
メンタルクリニック	桐野 衛二	GCPセンター	玄田 拓哉
皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	臨床研修センター	中尾 保秋
泌尿器科	藤田 和彦	診療録管理室	大林 治
産婦人科	田中 利隆	情報管理室	中尾 保秋
救急診療科	柳川 洋一	医療安全推進センター	藤田 和彦
歯科口腔外科	井染 洋	医療安全管理室	藤田 和彦
病理診断科	和田 了	感染対策室	岩神 真一郎
臨床検査科	田内 一民	健康安全推進センター	桐野 衛二
薬剤科	玄田 拓哉	医療サービス支援センター	清水 芳男
栄養科	野見山 崇	地域医療連携室	清水 芳男
放射線室	杉山 宗弘	医療福祉相談室	清水 芳男
検査室	和田 了	入退院支援室	清水 芳男
手術室	尾前 肇	患者・看護相談室	清水 芳男
滅菌室	尾前 肇	医療保険室	山本 拓史
リハビリテーション科	田沼 明	図書室	土至田 宏
血液浄化センター	清水 芳男	運営企画室	小野 隆宏
臨床工学室	尾前 肇		
集中治療室	山崎 翔		
輸血室	岩尾 憲明		
内視鏡室	伊藤 智彰		
血管撮影室	荻田 学		

1-6 医師名簿

□併任 令和7年3月31日現在

膠原病・リウマチ内科	小児科	井上弘章	入江隆介	臨床研修医
片桐彰	馬場洋介	春山高毅	高橋正洋	安齊正敏
津島浩	大石賢司	宮原臯熙	大島理規	石塚ジュスタン正也
東村奎	石上順平	高庭透	藤絢佳	岩田秀
原真理子	中村果歩	リハビリテーション科	中野響己	大下将弘
加藤究太	田中智秀	田沼明	萩原慧	大野響
血液内科	竹原英駿	□大林治	メンタルクリニック	岡田南
高野弥奈	杉山茉莉香	脳神経内科	桐野衛二	奥龍一郎
小池道明	田中寛顕	野田和幸	内田由寛	小野寺瑠美子
岩尾憲明	新生児科	大熊泰之	皮膚・アレルギー科	尾立路輝
三澤恭平	大川夏紀	松島隆史	長谷川敏男	川端脩人
森洋輔	荒井美輝	椎名健太	生玉梨紗	北之園怜
山田晃平	池田奈帆	松本貴文	宗田昂己	郡司隆教
浅妻和樹	平岡由衣	宮地真由	▽加藤芙未	齊藤歩貴
消化器内科	相原久人	心臓血管外科	阿部央聖	佐藤俊意
玄田拓哉	稻葉真理子	梶本完	田代大地	進藤樹
嶋田裕慈	佐藤恵也	畠博明	宇根ちさと	田中陽
佐藤俊輔	荒井裕香	大石淳実	太田有美	寺川智將
村田礼人	戸田方紀	大山徹真	村松海人	寺川理乃
佐藤祥	小児外科	田中利昌	今村菜奈	長野晃久
永合浩己	瀬尾尚吾	呼吸器外科	泌尿器科	中山誠一朗
山口征大	中島秀明	市之川英臣	藤田和彦	中山知恵
池田裕至	惠畠優	谷口敬	中島晶子	福永千恵紘
北祐次	外科	曾和嵩	長屋直哉	松田恵理香
呼吸器内科	伊藤智彰	形成外科	矢内惇郎	松永樹哉
岩神真一郎	佐藤浩一	荔枝部綾香	森野純貴	村山倫太郎
岩神直子	櫛田知志	小林弘人	永島優生	守田凱紀
吉田隆司	田中顕一郎	諏訪健志	廣瀬華穂	矢田昌敬
安部寿美子	上田脩平	眼科	鉢田賢人	山口創平
巾麻奈美	加藤永記	太田俊彦	産婦人科	山田青瑚
黒田優実	山本陸	土至田宏	田中利隆	吉野亮
反町峻	小泉明博	杉田丈夫	金田容秀	阿部寛
栗山充	仁平高朔	平井麻紀	田中里美	池田吏玖
腎臓内科	兵藤圭泉	小森翼	柳原康穂	小野祐一朗
清水芳男	花川翔太	市川浩平	平沼賢悟	苅部伶
若林啓一	藤崎隆	菊池遙太	矢田昌太郎	韓雪
矢ヶ崎元洋	宮下真美子	渡部史郎	佐々木徹	楠本優作
秋元麻衣	脳神経外科	尾原祐樹	大塚早織	國吉愛佳
庄司有里	山本拓史	廣澤邦彦	田嶋俊彬	熊久保那奈
野村理奈	中尾保秋	堤和佳子	切替麻以子	小林快
糖尿病・内分泌内科	藤田修英	耳鼻咽喉科	塚本博幸	近藤哲
野見山崇	中嶋伸太郎	楠威志	中西愛澄香	坂田啓輔
岩本達也	足立知司	本間博友	救急診療科	沢彩南
伊藤直顕	黒田清隆	城所淑信	柳川洋一	辛金洋
横山哲郎	渡邊碧音	佐藤将盛	大森一彦	鈴木絢子
坂本怜	檀聰	山名奏季	長澤宏樹	鈴木大輝
福元麻葉	鬼木蘭丸	西山明登	大坂裕通	高野佑奈
循環器内科	牧野健作	麻酔科・ペインクリニック	河合健司	田中千裕
荻田学	池村涼吾	尾前毅	田中規子	陳穎妍
諏訪哲	整形外科	長谷川陽子	須田夏実子	月原知輝
塩澤知之	大林治	洪景都	夏目晃輔	角田陽
和田英樹	最上敦彦	櫻庭園子	前川ちひろ	柄木麗亞
谷津翔一朗	神田章男	山崎翔	太田宗一郎	長岡貴謙
設樂準	糸井陽	中村萌	濱田通果	中嶋慎太郎
遠藤裕久	守屋秀一	渡邊佳織	病理診断科	中島瑞貴
小野里匠也	渋谷研太	八子	和田了	二宮遼太郎
延島優香	分島智子	正木那実	臨床検査科	野村宜史
大塚隆弘	富澤杏奈	室谷修平	田内一民	早川清子
稲葉慎太郎	三浦健太郎	櫻井志奈	歯科口腔外科	山田春花
山田瑛文	古城智也	上田恩来	井染洋	劉晉廷
阿部圭希	石井悠也	放射線科	中村瑛史	渡邊里空
安島鵬飛	田村憲靖	杉山宗弘		

1-7 職員数

令和7年3月31日現在

職種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看護師	131	657		5	793	0	0	0	793
助産師		36			36	0	0	0	36
准看護師		6			6	0	0	0	6
介護福祉士	6	14		1	21	0	0	0	21
助手	1	2		6	9	2	98	100	109
中材・滅菌事務員					0	4	32	36	36
		1			1	0	22	22	23
小計	138	716	0	12	866	6	152	158	1,024
薬剤師	27	11		5	43	0	0	0	43
薬剤科事務員					0	0	11	11	11
診療放射線技師	31	7	1		39	0	0	0	39
放射線室助手					0	0	2	2	2
放射線室事務員					0	4	4	4	4
臨床検査技師	8	23	1	4	36	0	0	0	36
検査室看護師		3		6	9	0	0	0	9
検査室事務員					1	13	14	14	14
理学療法士	20	6			26	0	0	0	26
作業療法士	3	4			7	0	0	0	7
言語聴覚士	1	3			4	0	0	0	4
リハビリテーション科事務員					0	1	1	1	1
管理栄養士	2	6		1	9	0	0	0	9
栄養士	1	1		1	3	0	0	0	3
調理師	11	3	1		15	0	0	0	15
栄養科助手	2	2			4	15	53	68	72
栄養科事務員				1	1	0	0	0	1
視能訓練士	2	5			7	0	0	0	7
臨床工学技士	11	3		1	15	0	0	0	15
臨床心理士		3			3	0	0	0	3
メンタルクリニック助手				3	3	0	0	0	3
歯科衛生士		2			2	0	0	0	2
歯科技工士	1				1	0	0	0	1
小計	120	82	3	22	227	16	84	100	327
事務員	48	40		10	98	7	175	182	280
看護師				1	1	0	0	0	
社会福祉士	4	4			8	0	0	0	8
保育士					0	1	14	15	15
技術・労務・警備・施設助手	3				3	72	48	120	123
医局秘書				5	0	1	16	17	17
小計	55	44	0	16	115	81	254	335	450
医療安全管理責任者		1			1	0	0	0	1
感染管理者		2			2	0	0	0	2
健康安全推進センター患者看護相談室看護師・准看護師	1				1	0	0	0	1
入退院支援室看護師・准看護師	3				3	0	0	0	3
がん治療センター看護師・准看護師	7				7	0	0	0	7
小計	10		1		11	0	0	0	11
小計	0	24	0	1	25	0	0	0	25
医師	名誉教授					0	0	0	0
	特任教授	6			6	0	0	0	6
	教授	16			16	0	0	0	16
	先任准教授	2			2	0	0	0	2
	先任准教授(臨床)	6	1		7	0	0	0	7
	特任准教授	1			1	0	0	0	1
	准教授(大学院)	1			1	0	0	0	1
	准教授(講座)	5	1		6	0	0	0	6
	准教授(診療)	5			5	0	0	0	5
	准教授(実習)	5			5	0	0	0	5
	准教授(教育)	4	2		6	0	0	0	6
	特任講師		1		1	0	0	0	1
	講師				0	0	0	0	0
	助教	30	6		36	0	0	0	36
	助手	59	24		83	0	0	0	83
	専攻生	10	7		17	0	0	0	17
	大学院生	14	7		21	0	0	0	21
	シニアアレジメント	0	1		1	0	0	0	1
	非常勤助手	1	1		2	0	0	0	2
	臨床研修医	41	19		60	0	0	0	60
小計	206	70	0	0	276	0	0	0	276
合計	519	936	3	51	1,509	103	490	593	2,102

1-8 各種委員会

令和6年4月1日時点

委員会名	委員長名	委員会名	委員長名
病院運営委員会	佐藤 浩一	運営協議会	佐藤 浩一
診療会議	山本 拓史	管理会議	小野 隆宏
医療安全・危機管理委員会	藤田 和彦	人権委員会	佐藤 浩一
感染対策委員会	岩神 真一郎	VRE 対策委員会	岩神 真一郎
災害対策委員会	柳川 洋一	救命救急センター運営会議	柳川 洋一
J スタット委員会	大坂 裕通	勤務環境改善委員会	山本 拓史
褥瘡対策委員会	苅部 綾香	がん治療センター運営委員会	田中 頤一郎
がん診療委員会	田中 頤一郎	看護師特定行為研修管理委員会	太田 俊彦
看護師特定行為業務管理委員会	大森 一彦	静岡病院安全衛生委員会	桐野 衛二
放射線安全委員会	大島 理規	放射線治療品質管理委員会	大島 理規
放射線被ばく安全委員会	杉山 宗広	臨床倫理委員会	玄田 拓哉
倫理審査委員会	玄田 拓哉	治験審査委員会	玄田 拓哉
図書管理委員会	諸橋 達	医療保険委員会	山本 拓史
施設基準委員会	山本 拓史	薬事委員会	楠 威志
資材委員会	諫訪 哲	機種選定委員会	佐藤 浩一
内視鏡運営委員会	伊藤 智彰	輸血療法委員会	岩尾 憲明
手術室運営委員会	尾前 肇	病棟利用・外来対策委員会	山本 拓史
臨床検査適正化委員会	和田 了	予防医学センター運営委員会	野見山 崇
クリニカルパス委員会	神田 章男	DPC コーディング委員会	山本 拓史
3AICU 運営委員会	山本 拓史	地域医療支援病院運営委員会	佐藤 浩一
広報委員会	最上 敦彦	脳死・臓器移植委員会	野田 和幸
虐待対策委員会	馬場 洋介	医療機器保守委員会	諫訪 哲
廃棄物管理委員会	和田 了	医療ガス安全管理委員会	石井 宏和
業務委託委員会	藤田 和彦	礼儀・接遇マナー向上委員会	山本 拓史
ご来院皆様の声検討委員会	清水 芳男	栄養管理委員会	野見山 崇

診療録管理委員会	大 林 治	透析機器安全管理委員会	清 水 芳 男
医療情報システム委員会	中 尾 保 秋	CPC・CRC・デスカンファレンス委員会	和 田 了
静岡病院専門研修医プログラム委員会	佐 藤 浩 一	静岡病院専門医・キャリア形成プログラム委員会	中 尾 保 秋
臨床研修センター会議	中 尾 保 秋	研修管理委員会	佐 藤 浩 一

1-9(1) 活動報告

年月日	会議・行事実施事項
6. 4. 1	新入職員オリエンテーション
12	看護師特定行為研修開講式
15	医療安全研修会（DVD）（～2月28日）
6. 3	春季健康診断（～14日）
19	病院機能評価受審（～20日）
28	ドクターへリ事後検証会
8. 30	抗菌薬研修会（e ラーニング）（～2月28日）
9. 1	災害訓練（部署別）（～1月31日）
4	静岡県東部ドクターへリ運航調整委員会
9	感染対策研修会（e ラーニング）（～2月28日）
21	消防訓練
27	ドクターへリ事後検証会
31	感染対策研修会（e ラーニング）（～2月29日）
11. 20	東部保健所病院立入検査
12. 9	秋季健康診断（～13日）
27	ドクターへリ事後検証会
7. 1. 9	賀詞交歓会
3. 18	臨床研修医修了証書授与式
19	がん治療研修会（e ラーニング）（～3月31日）
21	ドクターへリ事後検証会
31	看護師特定行為研修修了式
上記のほか毎月定例として開催される会議	
第1火曜日	薬事委員会、治験審査委員会、がん診療委員会
第1木曜日	管理会議
第2月曜日	資材委員会
第2火曜日	栄養管理委員会（奇数月及び4月）
第2水曜日	診療会議、医療情報システム委員会（奇数月）
第3月曜日	運営協議会
第3水曜日	クリニカルパス委員会（奇数月及び4月）、救命救急センター運営会議（奇数月）

第3金曜日	感染対策委員会、医療安全危機管理委員会
第4水曜日	静岡病院安全衛生委員会
第4木曜日	褥瘡対策委員会、がん治療センター運営委員会（奇数月）
最終水曜日	施設基準委員会、医療保険委員会
毎月1回	病院運営委員会
隔月1回	輸血療法委員会、内視鏡運営委員会、災害対策委員会
3ヶ月に1回	コーディング委員会、臨床研修センター会議、診療録管理委員会、放射線安全委員会、広報委員会

1-9(2). 講演会

年月日	講座名・テーマ
6. 5. 29	第87回 市民公開講座 「排尿トラブルから未来の健康を守る：ロボット手術と低侵襲治療」
7. 25	第88回 市民公開講座 ①「肝がんのはなし」 ②「肝臓は糖尿病の主要臓器」 ③「肝臓病の食事について」 ④「肝臓病予防に有効な運動って？」
8. 5	ミニレクチャー動画配信<動画配信>（～9月30日） 「子宮頸がん予防ワクチンについて」
9. 19	第89回 市民公開講座 「胃がんのはなし あれこれ」
〃	第53回 東部周産期研究会 「新生児マススクリーニング検査の現状と将来への展望」
11. 21	第90回 市民公開講座 「ハッピーライフ with 糖尿病 ～一病息災で健康長寿～」
7. 1. 8	第91回 市民公開講座 「あなたの脈乱れていませんか？～心房細動を治して健康長寿へ～」
2. 27	第54回 東部周産期研究会 「妊娠中からできるRSウイルス感染症予防（RSウイルス母子免疫ワクチン）」 「早産期のRSウイルス感染症予防」
3. 13	第92回 市民公開講座 「子どもの外科医療 ～見逃せない疾患と低侵襲治療について～」

1-10 社会貢献・地域交流活動

年月日	活動名
6. 4. 11	ハローワーク出張就労相談会
5. 9	ハローワーク出張就労相談会
6. 5	無料個別就労相談会
8	看護の出前授業（講師派遣）
13	ハローワーク出張就労相談会
7. 6	こども医療体験セミナー「コード・ブルーセミナー」
11	ハローワーク出張就労相談会
30	ここいきサポートネットワーク推進事業
8. 3	重症心身障害児対応看護従事者養成研修（ファシリテーター派遣）
6	高校生1日ナース体験事業（～7日）
8	ハローワーク出張就労相談会
21	県立韮山高等学校病院見学会（高大連携）
〃	無料個別就労相談会
24	災害看護地区研修（講師派遣）
26	県立沼津東高等学校病院見学会（高大連携）
9. 1	沼津市総合防災訓練（コーディネーターとして派遣）
7	いいお産の日（講師派遣）
12	ハローワーク出張就労相談会
14	県立沼津東高等学校「医学人材キャリアアッププログラム・講演会」（講師派遣）
〃	家族支援専門看護師による“よろず相談”（相談員派遣）
10. 3	東都大学「急性・重症患者看護 CNS」（ゲストスピーカ派遣・17日）
4	伊豆中央高等学校看護講座（講師派遣）
10	ハローワーク出張就労相談会
11	地域づくり会議
16	無料個別就労相談会
24	御殿場市立御殿場中学校「キャリア教育の一環」（講師派遣）
11. 2	看護職「こころざし育成セミナー」（講師派遣）
14	令和6年度 静岡県災害医療従事者研修会（講師派遣・～15日）
〃	県立韮山高等学校「大学レクチャー」（講師派遣）
〃	ハローワーク出張就労相談会
30	高齢者権利擁護等推進事業（講師派遣）
12. 12	ハローワーク出張就労相談会

年 月 日	活 動 名
6. 12. 18	無料個別就労相談会
7. 1. 9	ハローワーク出張就労相談会
18	ドクターへリ格納庫・病院見学会
2. 13	ハローワーク出張就労相談会
15	家庭生活支援員養成研修（講師派遣）
19	無料個別就労相談会
21	聖隸クリフォトファー大学「卒業生と在学生との懇談会」（講師派遣）
22	日本大学三島高等学校「医療系分野進学講座」（講師派遣）
28	県立沼津東高等学校「医学人材キャリアアッププログラム・講演会」（講師派遣）
3. 2	静岡 DMAT 看護師研修（講師派遣）
5	2024 年度 医療連携フォーラム開催
6	ハローワーク出張就労相談会
10	ここいきサポートネットワーク推進事業（年 2 回開催）
17	富士宮西高等学校「看護・医療セミナー」（講師派遣）
24	地域づくり会議

1-11 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター	昭和 56 年 11 月 1 日
新生児センター	昭和 57 年 4 月 1 日
エイズ拠点病院	平成 8 年 5 月 20 日
災害拠点病院	平成 8 年 11 月 26 日
日本医療機能評価機構認定病院	平成 16 年 3 月 15 日(初回認定日)
静岡県東部ドクターへリ基地病院	平成 16 年 3 月 17 日
臨床研修指定病院	平成 16 年 4 月 1 日
地域がん診療連携拠点病院	平成 19 年 1 月 31 日
総合周産期母子医療センター	平成 20 年 8 月 1 日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成 21 年 3 月 10 日
DPC 対象病院	平成 23 年 4 月 1 日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成 24 年 3 月 1 日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
難病法に係る難病指定医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
静岡県アレルギー疾患医療拠点病院	平成 30 年 10 月 1 日
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関	平成 30 年 12 月 1 日
地域医療支援病院	令和 2 年 1 月 7 日
特定行為研修指定研修機関	令和 2 年 2 月 26 日

診療科名	学会認定
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
膠原病・リウマチ内科	日本リウマチ学会教育施設
血液内科	日本血液学会血液研修施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設
循環器科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本循環器学会トランスサイレチン型心アミドーシスに対するビンダケル導入施設認定

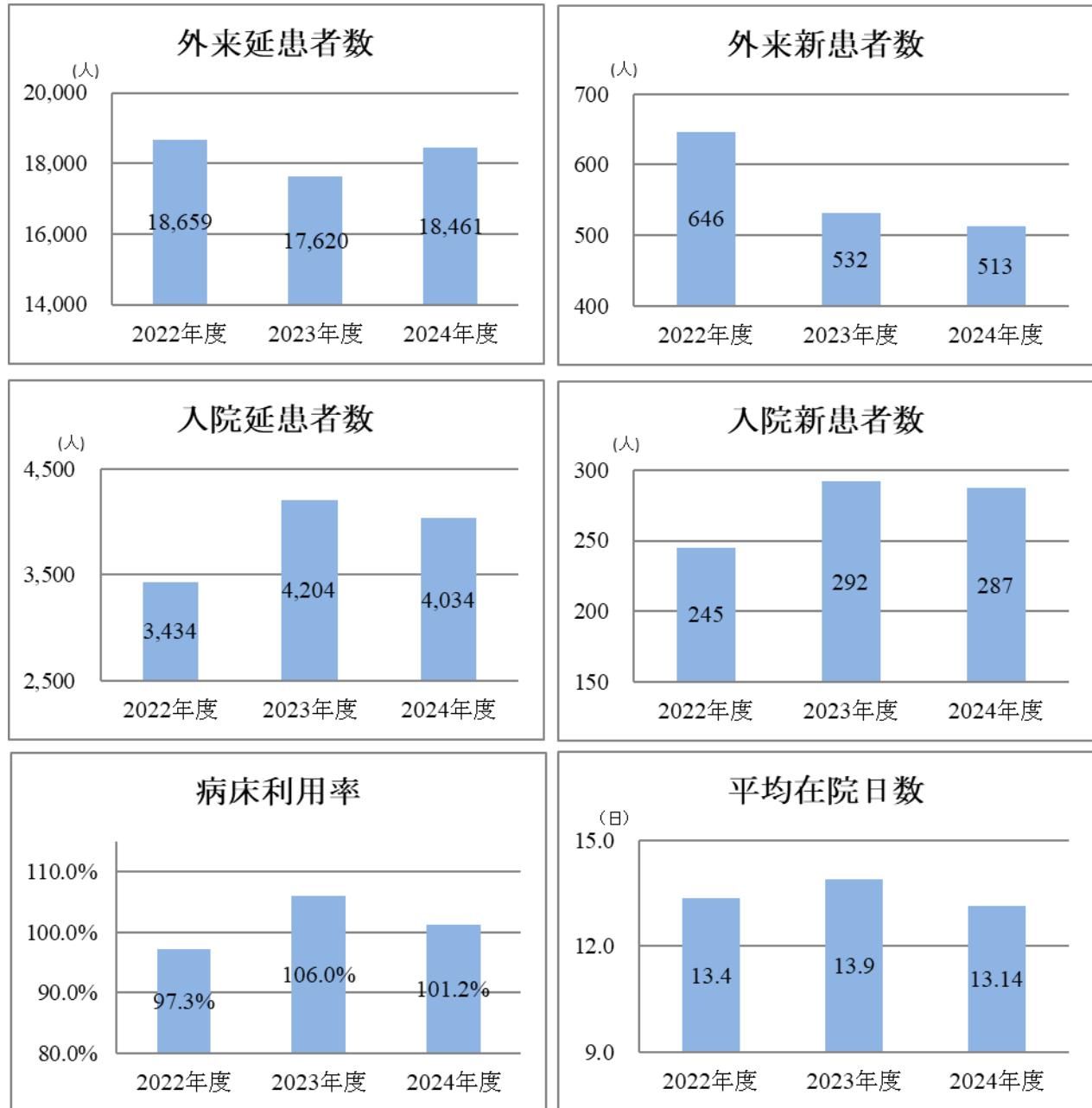
外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本胃癌学会認定施設
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本大腸肛門病学会関連施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
	日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
	日本専門医機構外科専門研修プログラム認定
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本専門医機構麻酔科専門研修プログラム認定
	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育施設
	日本脳神経外傷学会研修施設認定
	日本専門医機構脳神経外科専門医研修プログラム認定
	一般社団法人 National Clinical Database 施設会員
	日本脳卒中学会一次脳卒中センター
整形外科	日本整形外科学会専門医研修施設
	日本手外科学会研修施設
	日本専門医機構整形外科専門研修プログラム認定
	日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
	補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	ロボット心臓手術関連学会協議会ロボット心臓手術実施施設
	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
	経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
新生児科	日本周産期・新生児医学会認定施設(新生児)基幹施設

小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
	日本臨床神経生理学会認定施設
皮膚・アレルギー科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設(母胎・胎児)基幹施設
	静岡県医師会母体保護法指定医師研修機関
	日本産科婦人科学会専門研修連携施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
	日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神科専門医制度研修連携施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
放射線科	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
	日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
	日本IVR学会専門医修練施設
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本外傷学会外傷専門医研修施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
リハビリテーション科	日本リハビリテーション医学会研修施設
	日本リハビリテーション医学会研修プログラム認定
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
放射線室	日本救急撮影技師認定機構指定実地研修施設
栄養科	日本病態栄養学会栄養管理・NST 実地施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
薬剤科	日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設
	日本医療薬学会専門薬剤師研修施設
臨床検査室	日本臨床衛生検査技師会品質保証施設
	日本臨床細胞学会施設認定
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

2. 診療科報告

2-1 膠原病内科・リウマチ科

診療実績



研究・教育活動

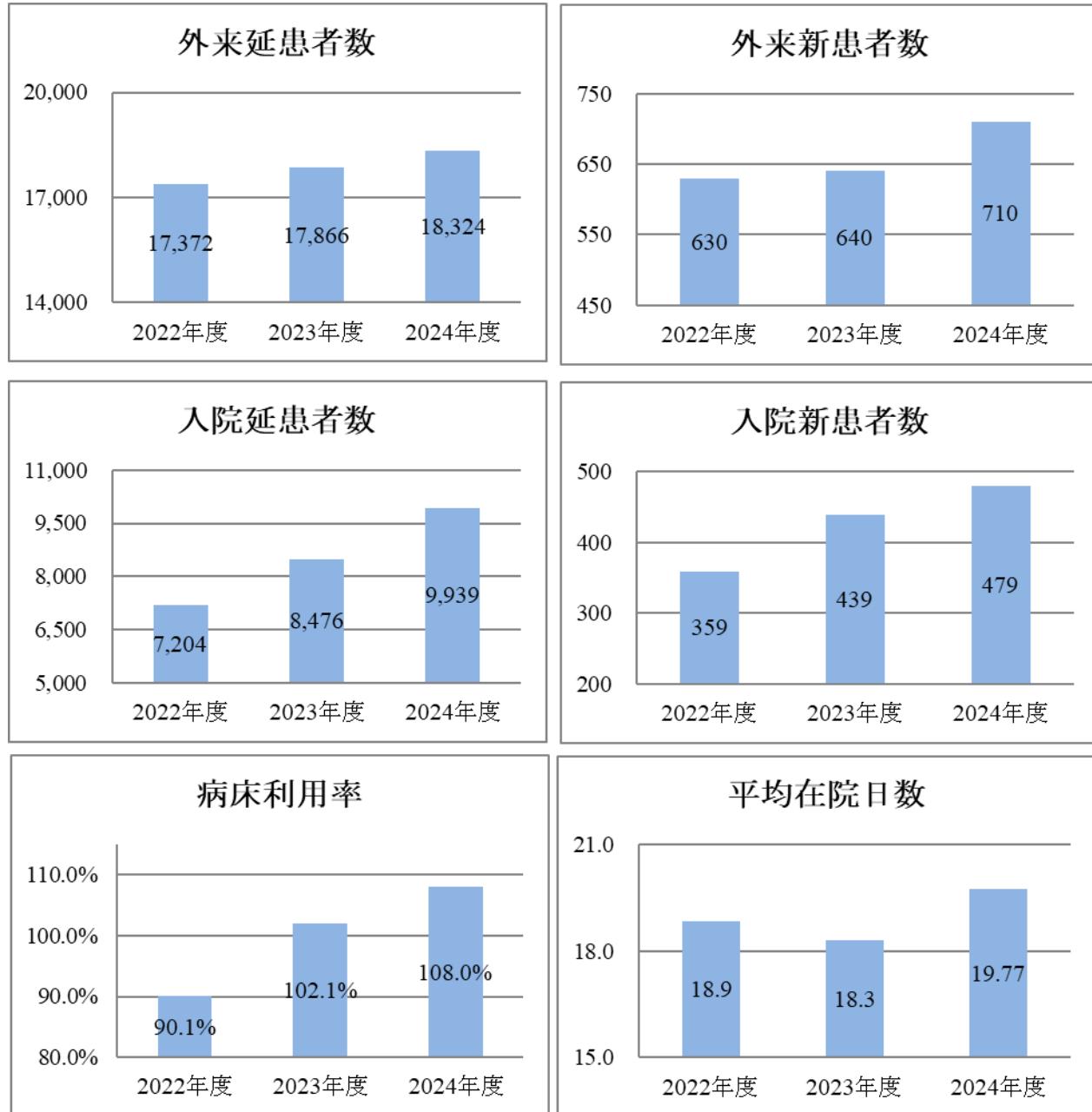
- 草生真規雄、片桐彰、山路健、田村直人ら 「アバタセプト（ABT）を新規投与する日本人活動性 RA 患者の多施設前向き観察研究（ORIJIN 研究）におけるシトルリン化蛋白抗原別 ACPA 抗体価の推移と治療反応性の解析」 第 67 回日本リウマチ学会総会 2024 年 4 月 19 日
- 竹内幹、加藤究太、安東泰希、津島浩、片桐彰、山路健、田村直人、「シェーグレン症候群を合併した TAFRO 症候群の一例」 第 67 回日本リウマチ学会総会 2024 年 4 月 18 日
- 津島浩、原真理子、東村奎、加藤究太、片桐彰、「AYA 世代発症大腸癌の治療後に診断された全身性

エリテマトーデスの一例」第35回中部リウマチ学会学術集会 2024年9月7日

4. 津島浩、原真理子、東村奎、加藤究太、片桐彰、「縦隔気腫を合併した膠原病患者の臨床的特徴に関する考察」第39回日本臨床リウマチ学会 2024年11月30日

2-2 血液内科

診療実績



2024年度 症例件数

	総数	初発
白血病	55	34
悪性リンパ腫	120	76
骨髄異形成症候群(抗がん剤治療)	20	11
多発性骨髄腫	64	18
アミロイドーシス	11	8
再生不良性貧血		8
ITP		11

発表

第13回日本血液学会東海地方会 2024年6月9日名古屋

ホスタマチニブ治療導入後に完全奏功に至った難治性免疫性血小板減少症

丸尾粹貴、三澤 恒平、森 洋輔、土屋 俊、岩尾 憲明、小池 道明、高野 弥奈

日本内科学会 第253回東海地方会 2024年6月30日名古屋

難治性の麻痺性イレウスをきたしたAL型アミロイドーシスの症例

今村 達哉、森 洋輔、三澤 恒平、岩尾 憲明、小池 道明、高野 弥奈

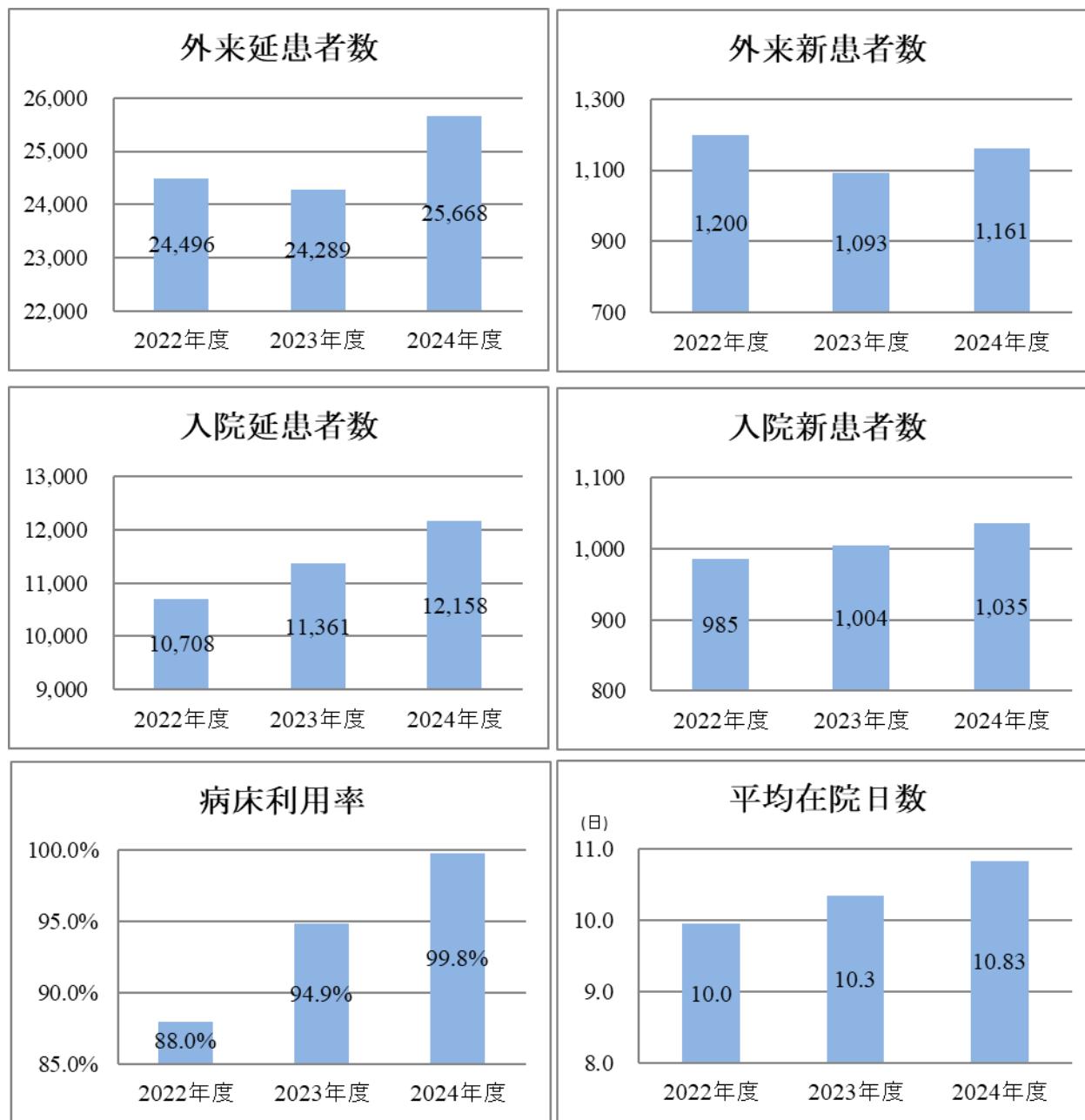
第86回日本血液学会学術総会 2024年10月11日、京都

難治性免疫性血小板減少症に対する当院でのホスタマチブ治療について

佐野友紀、三澤 恒平、山田晃平、森 洋輔、岩尾 憲明、小池 道明、高野 弥奈

2-3 消化器内科

診療実績



研究・教育活動

【原著（英文）】

1. Om R, et al. Retrograde Transcaval Obliteration for Refractory Hepatic Encephalopathy with Multiple Intrahepatic Portosystemic Venous Shunts. *Intern Med.* 2024; 63: 969-973.
2. Nomura K, et al. Small Intestinal Arteriovenous Malformation Treated by Double-balloon Endoscopy. *Intern Med.* 2024; 63: 2131-2135.
3. Ikeda Y, et al. Hepatitis B surface antigen (HBsAg) glycan isomer is predictive of HBsAg

- seroclearance in patients with chronic hepatitis B. *Hepatol Res.* 2024; 54: 888-898.
4. Sanyal AJ, et al. A Phase 2 Randomized Trial of Survodutide in MASH and Fibrosis. *N Engl J Med.* 2024; 391: 311-319.

【原著（和文）総説】

1. 玄田拓哉. 肝移植の適応条件と適応疾患. 日本肝臓学会編 肝臓専門医テキスト改訂第4版. P286-287.
2. 玄田拓哉. 脳死肝移植の臓器分配. 日本肝臓学会編 肝臓専門医テキスト改訂第4版. P289-290.
3. 玄田拓哉. 急性肝炎. 医学書院 今日の治療指針 2025. P531-P532.
4. 佐藤俊輔、他。肝硬変に伴う難治性腹水に対するトルバズタン投与後早期の血清ナトリウム値変化と生命予後との関連。日本門脈圧亢進症学会雑誌 30巻1号 2024. Page30-35.

【学会発表（国際）】

1. Shimada Y, et al. Characteristics of endoscopic findings of PPI/P-CAB-related gastropathy for patients using each antacid. DDW, Washington D.C., USA, 18-21 May 2024
2. Sato S, et al. Steatotic liver disease with normal liver function: Clinical use of ultrasound attenuation method and shear wave elastography, EASL Congress, Milan, Italy, 5-8, June 2024.
3. Sato S, et al. Fibrosis in asymptomatic steatotic liver disease with normal alanine aminotransferase: analysis of 2448 health check-up cohort by ultrasound attenuation imaging and shear wave elastography. APASL STC on MASLD, Kaohsiung, Taiwan, 28, June, 2024.
4. Shimada Y, et al. Characteristics of web like mucus as an endoscopic finding of PPI/P-CAB related gastropathy. UEGW, 12-15 October 2024.
5. Shimada Y, et al. Comparison of gastric ulcer cases in patients taking warfarin or DOACs. UEGW, 13 October 2024.

【学会発表（国内）】

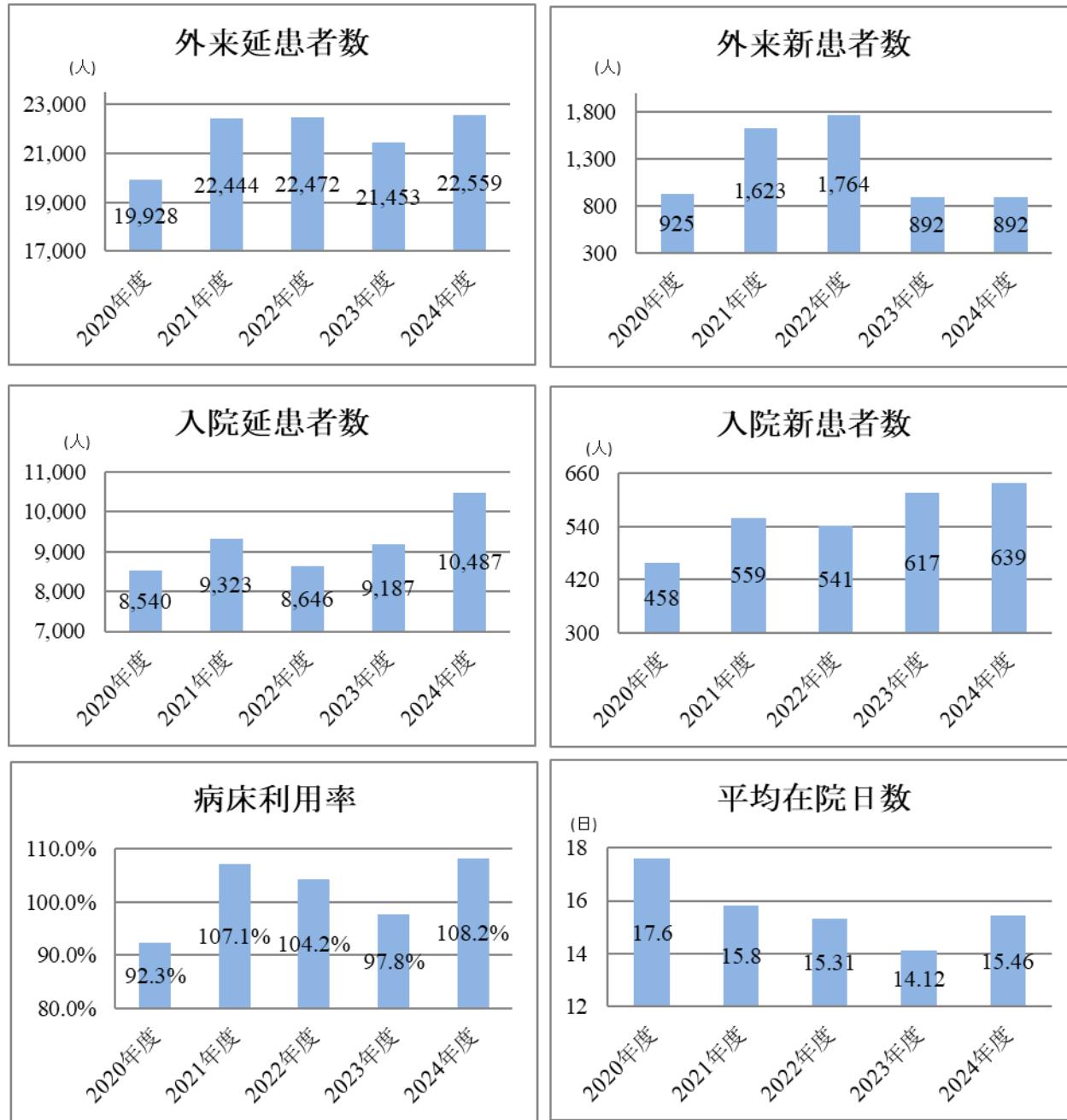
1. 嶋田 裕慈、他。DAPT 症例における胃粘膜傷害の性差に関する検討。第 110 回日本消化器病学会総会、徳島、2024 年 5 月 10 日
2. 佐藤俊輔、他。肝機能正常脂肪肝 超音波減衰法を用いた早期診断の臨床的意義。日本超音波医学会第 97 回学術集会、横浜、2024 年 5 月 31 日
3. 池田裕至、他。肝硬変患者の免疫異常は ACLF 発症準備状態か？第 50 回日本急性肝不全研究会、熊本、2024 年 6 月 12 日
4. 池田裕至、他。血中炎症性サイトカイン IL-6 高値は肝硬変患者の非代償症状悪化と関連する。第 60 回日本肝臓学会総会、熊本、2024 年 6 月 13 日
5. 寺井 雄一朗、他。混合性結合組織病に合併した特発性門脈圧亢進症により難治性肝性脳症を呈した一例。第 60 回日本肝臓学会総会、熊本、2024 年 6 月 13 日。
6. 村田礼人、他。B 型慢性肝炎患者に対するエンテカビル長期投与における薬剤耐性出現率とその予

測因子。第 60 回日本肝臓学会総会、熊本、2024 年 6 月 13 日-14 日。

7. 佐藤俊輔、他。Inactive/Active HCC に対する DAA 治療の成績と意義。第 60 回日本肝臓学会総会、熊本、2024 年 6 月 14 日。
8. 嶋田 裕慈、ほか。当院におけるおよそ 10 年間の除菌治療、除菌率の傾向。第 30 回日本ヘルコバクター学会学術集会、倉敷、2024 年 6 月 21 日。
9. 永合浩己、他 血管塞栓術前後の内視鏡所見を確認した結腸動静脈奇形の一例 日本消化器病学会 東海支部第 140 回例会、愛知、2024 年 6 月 22 日
10. 佐藤俊輔、他。ALT 正常脂肪肝と肝線維化：ATT / SWE を同時測定した健診データ 2397 例の解析。第 10 回肝臓と糖尿病・代謝研究会、兵庫、2024 年 7 月 6 日。
11. 加藤蓉子、他。内視鏡的粘膜下層剥離術が診断に有効であった食道類基底細胞癌の一例。第 380 回 日本消化器病学会 関東支部例会 2024 年 7 月 27 日。
12. 佐藤俊輔、他。エコーで実現する脂肪肝の地域包括アプローチ：健診センター ⇄ 大学病院の実例をふまえて。第 65 回日本人間ドック・予防医療学会学術集会、横浜、2024 年 9 月 7 日。
13. 山口征大、他。非ステロイド性抗炎症薬とプロトンポンプ阻害薬が原因と考えられた collagenous colitis の一例。第 254 回日本内科学会東海地方会、静岡、2024 年 10 月 6 日。
14. 巍 理華、他。内視鏡的破碎を複数回行うことによって巨大胃石を完全除去した 1 例。第 254 回 日本国内科学会東海地方会、静岡、2024 年 10 月 6 日
15. 池田裕至、他。HBsAg glycan isomer (HBsAgGi) is predictive of HBsAg loss in patients with chronic hepatitis B. JDDW 2024、神戸、2024 年 10 月 31 日
16. 嶋田 裕慈 他。白点と蜘蛛の巣様粘液は果たして Vonoprazan 内服に特化した所見として良いのか。JDDW 2024、神戸、2024 年 10 月 31 日。
17. 佐藤俊輔、他。SVR 後の肝がんサーベイランスをいつまで続けるべきか インターフェロン治療後 長期観察例の解析。JDDW、神戸、2024 年 10 月 31 日。
18. 北 祐次、他。肝硬変患者の初回非代償症状出現に寄与する因子の解析：血中炎症性サイトカイン IL-6 上昇と非出血症状発症リスク。JDDW 2024、神戸、2024 年 11 月 1 日。
19. 山口征大、他。非代償症状として II 型呼吸不全で発症した Pickwick 症候群合併非 B 非 C 型 肝硬変の一例。第 45 回日本肝臓学会東部会 宮城 2024 年 12 月 6 日。
20. 北 祐次、他。当院における難治性腹水に対する腹腔静脈シャントの治療成績。第 45 回日本肝臓学会東部会、仙台、2024 年 12 月 6 日。
21. 加藤蓉子、他。尿細管間質性腎炎に合併した原発性胆汁性胆管炎の 1 例。第 45 回肝臓学会東部会 2024 年 12 月 6 日。
22. 池田裕至、他。肝硬変患者の免疫異常は ACLF 発症準備状態か？第 45 回日本肝臓学会東部会、仙台、2024 年 12 月 6 日
23. 加藤蓉子、他。アルコール関連 Acute on Chronic Liver Failure (ACLF)に対し生体肝移植を行った一例。第 383 回 日本消化器病学会 関東支部例会 2025 年 2 月 15 日。

2-4 呼吸器内科

診療実績



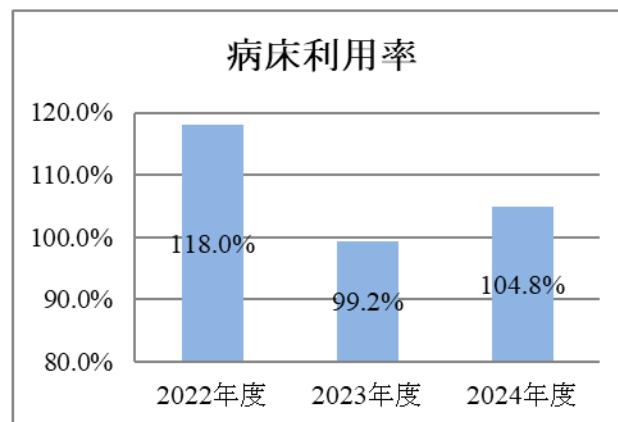
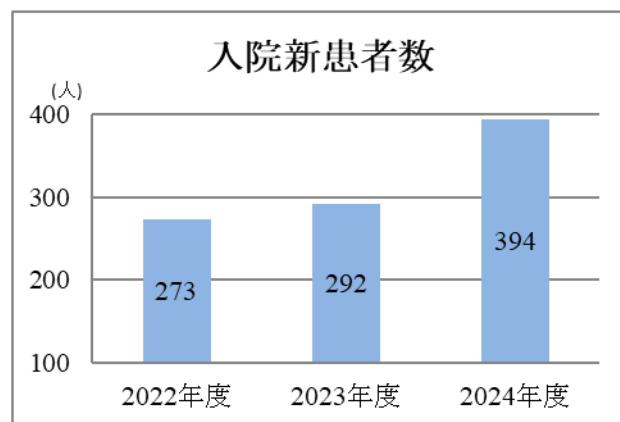
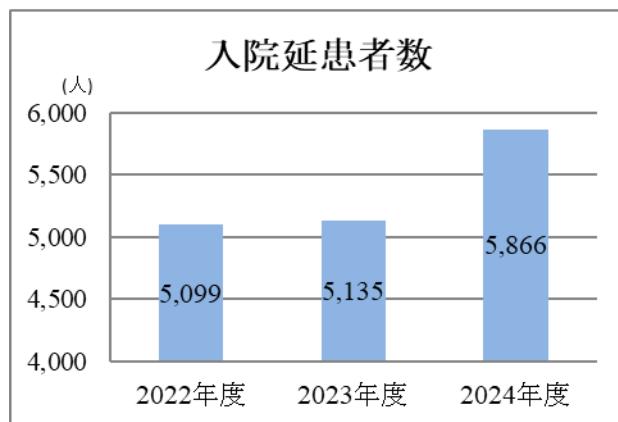
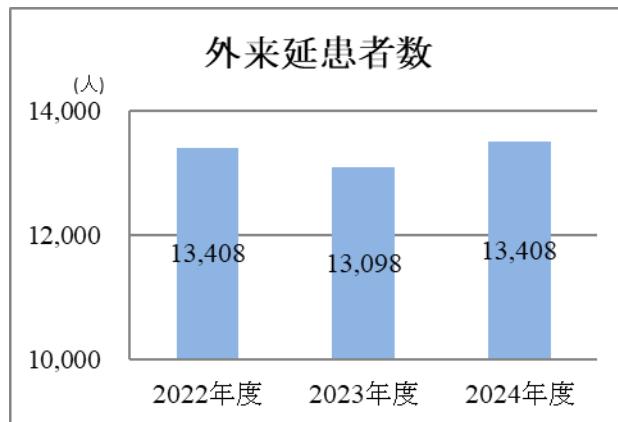
研究・教育活動

和文報告その他

- 中島由貴、吉田隆司、早川瑛梨、渡邊隆康、早川乃介、岩神直子、和田了、岩神真一郎：肺癌に対するプラチナ製剤併用療法および免疫チェックポイント阻害剤による維持療法が大腸癌に奏功した一例. 第125回日本呼吸器学会東海地方学会 2024年6月8日 名古屋市中小企業振興会館 (吹上ホール)

2-5 腎臓内科

診療実績



研究・教育活動

【研究業績】

論文 英文・原著

1. Nagasawa H, Suzuki S, Kobayashi T, Otsuka T, Okuma T, Matsushita S, Amano A, Shimizu Y, Suzuki Y, Ueda S. Effect of fruits granola (Frugra®) consumption on blood pressure reduction and intestinal microbiome in patients undergoing hemodialysis. *Hypertens Res.* 2024 Nov;47(11):3214-3224.

学会発表・国内

1. 清水 芳男、中井 公美、田中 翔大、若林 啓一、鈴木 祐介. 伊豆半島・賀茂地域のCKD 対策に対する重点的対象者の抽出. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 2024年6月7日. パシフィコ横浜
2. 若林 啓一、中井 公美、田中 翔大、長澤 肇、清水 芳男、鈴木 祐介、若林 正則、今泉 健太郎、若林 良則. 生検鉗子やロングシーズを用いた内シャント閉塞に対する治療戦略. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 2024年6月8日. パシフィコ横浜
3. 吉武 由莉、田中 新、中井 公美、若林 啓一、清水 芳男. Fanconi症候群の誘因として紅麹サプリメントの影響が考えられた一例. 第54回日本腎臓学会東部学術集会. 2024年9月28日. ライトキューブ宇都宮
4. 高山 卓也、荒井 瑠美、若林 啓一、清水 芳男. 透析患者における低栄養の実態と課題 - 管理栄養士の立場として - 第64回静岡腎不全研究会. 2024年10月6日. グランシップ
5. 吉武 由莉、田中 新、中井 公美、若林 啓一、清水 芳男. Fanconi症候群の誘因として紅麹サプリメントの影響が考えられた一例. 第69回静岡腎セミナー. 2024年8月31日. グランシップ
6. 矢ヶ崎 元洋、野村 理奈、秋元 麻衣、田中 新、若林 啓一、清水 芳男、鈴木 祐介. IVR および手術による治療が困難な医原性椎骨動脈仮性動脈瘤に対して用手的圧迫により止血した一例. 第65回 静岡県腎不全研究会. 2025年3月2日. グランシップ
7. 秋元 麻衣、矢ヶ崎 元洋、五十畠 理奈、若林 啓一、清水 芳男. 粗大化した右腎に著明な石灰化がみとめられた慢性腎臓病の一例. 第70回静岡腎セミナー. 2025年3月1日. 静岡第一ホテル.

講演会

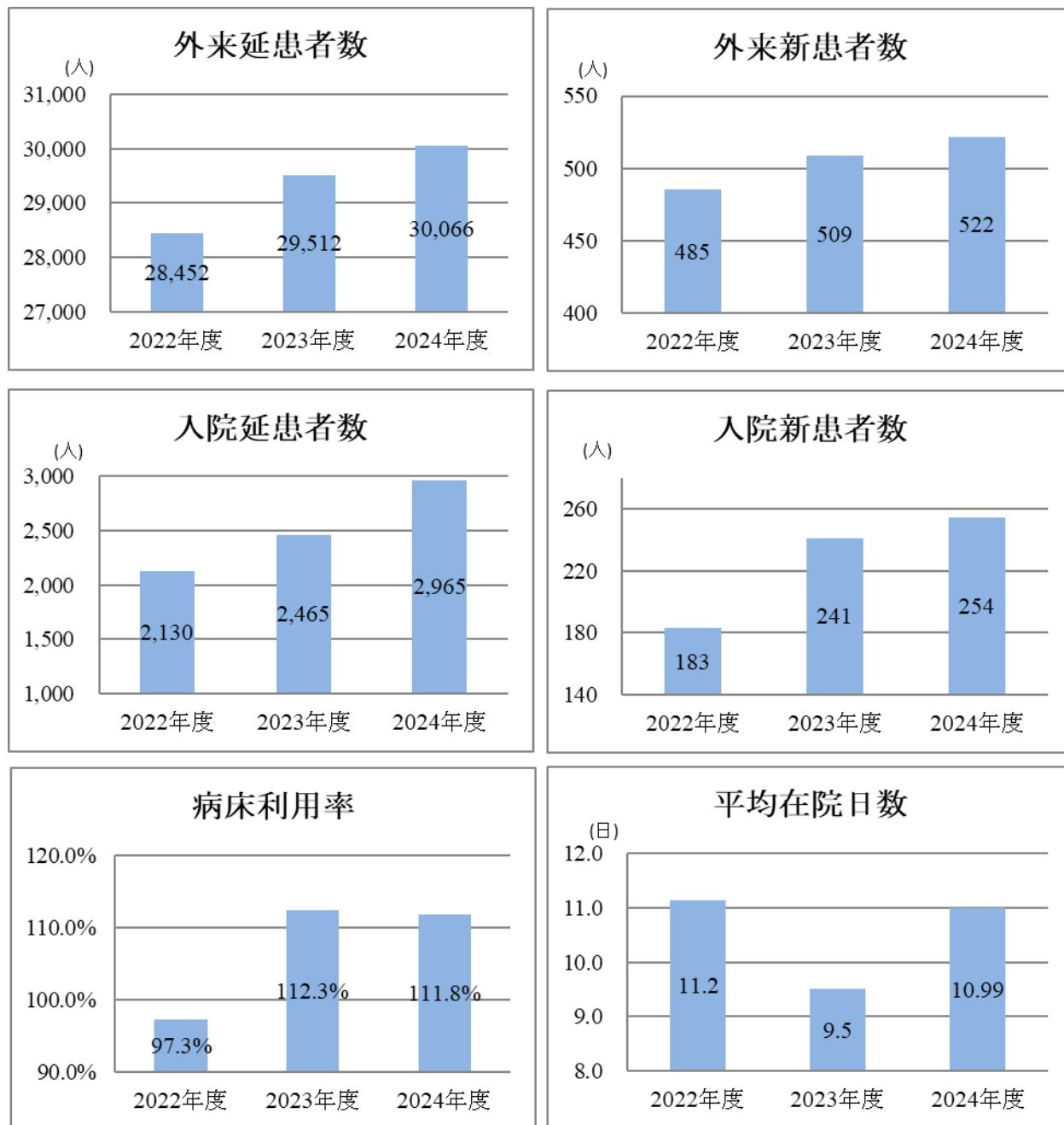
1. 清水 芳男. CKDの成り立ちとこれから. 田方エリアCKD学術講演会. 2025年2月3日. ホテルサンバレー富士見

著書

1. 清水 芳男、富野 康日己. 頻尿. 内科診断学 第4版. 医学書院, 東京 2024年3月31日 pp656-60.

2-6 糖尿病・内分泌内科

診療実績



研究・教育活動

学会発表

1. 山崎望、麻生克己、佐藤まり重、佐藤淳子、早川美穂、野見山崇、古川祥子：糖尿病専門クリニックにおける7年間での2型糖尿病患者の癌発症の調査. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京(日本), 2024/5/19, 口演
2. 武藤麗奈、岩本達也、清水理那、門倉椋、山崎望、岩澤卓弥、和田了、瀬山理恵、田中利隆、野見山崇：高血圧・多尿を契機に褐色細胞腫と妊娠尿崩症の併発が診断された一例. 第97回日本内分泌学会学術総会, 神奈川(日本), 2024/6/6, 口演 (Clinical Endocrinology KO Rounds Runners-up受賞)
3. 武井礼、山崎望、小田原瑠璃、門倉椋、高木恵理、岩本達也、野見山崇：甲状腺ホルモンを経口投与で補充し救命した粘液水腫性昏睡の1例. 第253回日本内科学会東海地方会, 愛知(日本), 2024/6/30, 口演
4. 野見山崇：Diabetes Care のESTATE～インクレチニ療法の進化と真価～. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
5. 関根直樹、高橋淑子、門倉椋、岩本達也、山崎望、野見山崇：発症から短期間で胎児娩出に至り、母児共に救命しえた劇症1型糖尿病妊婦の一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
6. 榎澤尚子、久保田和義、鈴木純子、仲田幸代、綾部優子、野見山崇、池田富貴：HCL・AHCL療法が有効であった1型糖尿病・血液透析患者の1例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/15, 口演
7. 門倉椋、山崎望、小田原瑠璃、関根直樹、岩本達也、野見山崇：DKAにショック肝を合併した一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
8. 高橋淑子、山崎望、門倉椋、関根直樹、岩本達也、野見山崇：SGLT2阻害薬開始1か月後に機種性腎臓病を発症した一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/15, 口演
9. 高木恵理、岩本達也、小田原瑠璃、門倉椋、山崎望、野見山崇：バセドウ病とSPIDDM probableを同時期に発症した一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
10. 長嶋春樹、山崎望、佐藤元律、安田晴菜、野見山崇：急性胰炎が疑われた劇症1型糖尿病の一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
11. 小田原瑠璃、山崎望、門倉椋、高木恵理、岩本達也、野見山崇：清涼飲料水ケトーシスが疑われたが劇症1型糖尿病であった一例. 第97回日本糖尿病学会中部地方会, 石川(日本), 2024/9/14, 口演
12. 小田原瑠璃、岩本達也、門倉椋、高木恵理、山崎望、野見山崇：バセドウ病患者でチアマゾール誘発性の薬剤誘発性血管炎が疑われた例. 第24回日本内分泌学会東海支部学術集会, 岐阜(日本), 2024/9/21, 口演
13. 岩本達也、小田原瑠璃、高橋淑子、門倉椋、高木恵理、関根直樹、山崎望、綿田裕孝、野見山崇：実臨床におけるチルゼパチドの有効性と安全性の検証. 第24回日本内分泌学会東海支部学術集会, 岐阜(日本), 2024/9/21, 口演
14. 野見山崇：Diabetes Care のESTATE～Advocacy, Incretin & Beyond～第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 宮城(日本), 2024/10/5, 口演

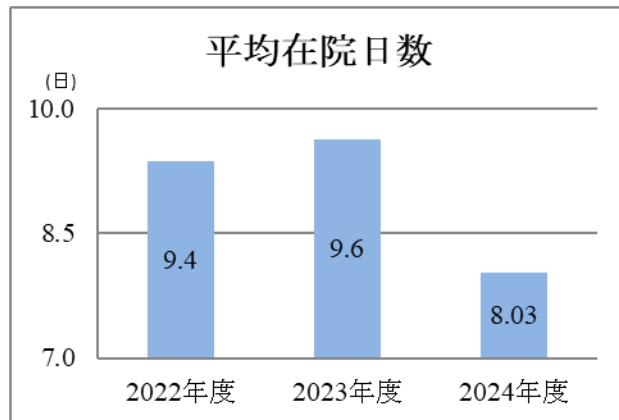
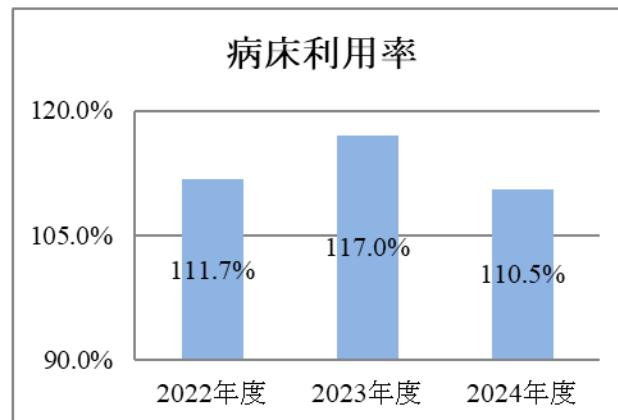
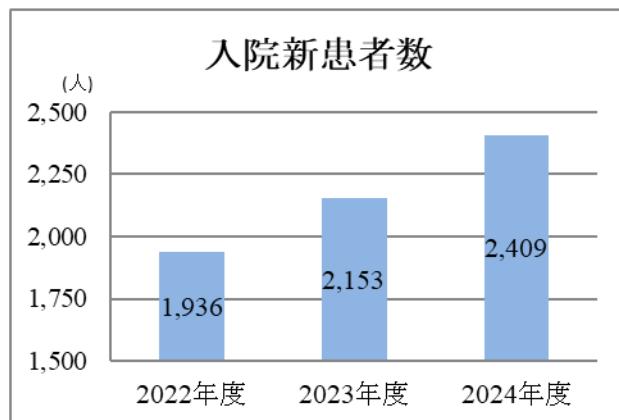
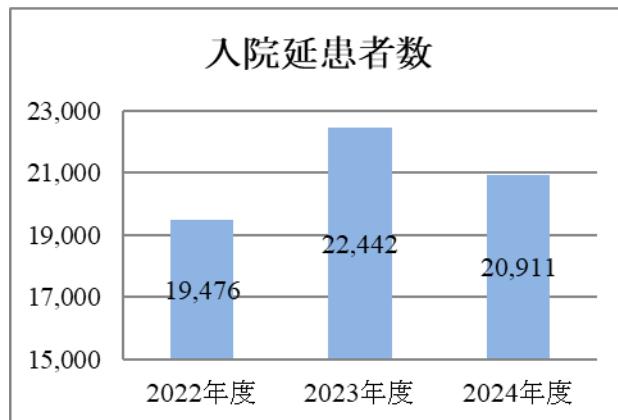
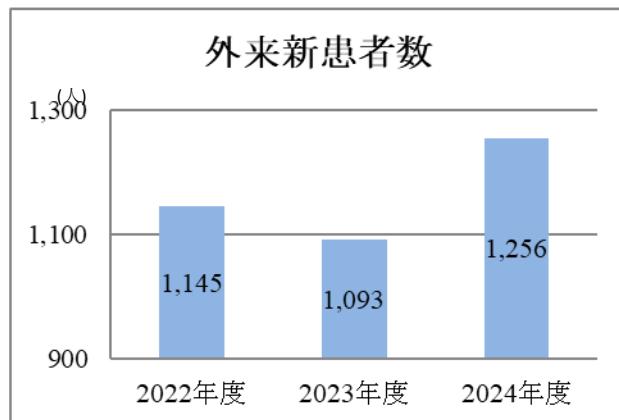
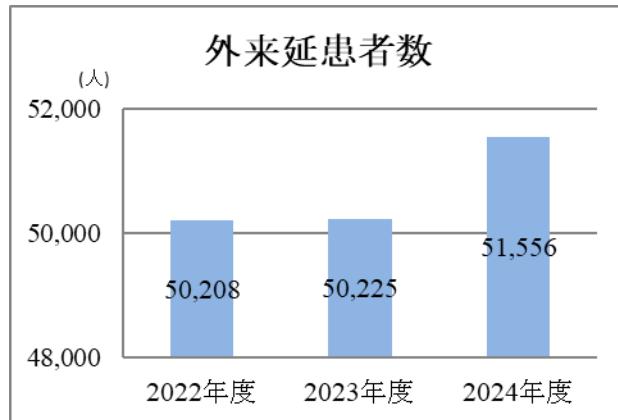
15. 野見山崇：ダイアベティスと共に歩む人生を護る～GLP-1 受容体作動薬の真価～第 39 回日本合併症学会, 茨城 (日本), 2024/10/4, 口演
16. 関根直樹、高橋淑子、門倉椋、岩本達也、山崎望、野見山崇：AGA 治療薬が血糖コントロールに影響したと考えられる 2 型糖尿病の一例. 第 254 回日本内科学会東海地方会, 静岡(日本), 2024/10/6, 口演
17. 野見山崇:Diabetes Care の ESTATE～インクレチニン療法の真価～第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知 (日本), 2024/11/30, 口演
18. 岩本達也、小田原瑠璃、高橋淑子、門倉椋、高木恵理、関根直樹、山崎望、綿田裕孝、野見山崇：実臨床におけるチレゼパチドの有効性と安全性の検証. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知 (日本), 2024/11/30, ポスター発表

和文著書

1. 野見山崇：糖尿病と歩む幸せな人生のために アドボカシー活動. 内科, 2024, 133 卷 5 号, 1123-1127
2. 岩本達也、佐藤淳子、安田晴菜、尾崎あづさ、綾目達宏、高木恵理、小貝俊樹、小瀧真実、山崎望、門脇聰、中島健一、西田友哉、池田富貴、麻生克己、綿田裕孝：477 名の 1 型糖尿病患者コホートにおける 2019～2023 年の死因の検討. 糖尿病, 2024, 67 卷 9 号, 387-393
3. 野見山崇：糖尿病の病態・治療・ケアまるごと LIVE. 糖尿病ケア+ (プラス), 2024, 21 卷 6 号
4. 野見山崇:【みるだけ 3 分動画でサクわかり！新人スタッフ必見★ケアにつながる糖尿病の病態と治療】糖尿病の薬物療法（経口薬）(解説). 糖尿病ケア+ (プラス), 2024, 21 卷 3 号, 296-303
5. 野見山崇 企画：糖尿病治療薬のチョイス！こんなときあんなとき. 内科臨床誌 メディチーナ, 2025, 62 卷 1 号

2-7 循環器内科

診療実績



研究・教育活動

英文論文（原著・総説）

1. Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Nishizaki Y, Yanagisawa N, Yokoyama K, Murata N, Saito Y, Nagashima K, Matsumoto N, Okumura Y, Minamino T, Daida H. Major bleeding increases the risk of subsequent cardiovascular events in patients with atrial fibrillation: insights from the SAKURA AF registry and RAFFINE registry. *Heart Vessels.* 2024 Online ahead of print.
2. Tsurumi N, Naruse Y, Kurebayashi N, Morikawa S, Sano M, Shiozawa T, Takano S, Ogano M, Kimura K, Miyajima K, Sugiura R, Henmi R, Muto M, Hosoya N, Hasebe H, Mizukami A, Iguchi K, Atsumi A, Odagiri K, Yanagisawa S, Inden Y, Murohara T, Maekawa Y. Mid-term outcomes of delivery catheter-based and stylet-based right ventricular septal pacing: Follow-up results from a multicenter, prospective, randomized study. *J Arrhythm.* 2024; 40(3): 605-613.
3. Odagiri F, Tokano T, Miyazaki T, Hirabayashi K, Ishi K, Abe H, Ishiwata S, Kakihara M, Maki M, Matsumoto H, Shimai R, Aikawa T, Takano S, Kimura Y, Kuroda S, Isogai H, Ozaki D, Shiozawa T, Yasuda Y, Takasu K, Iijima K, Takamura K, Matsubara T, Tabuchi H, Hayashi H, Yokoyama K, Sekita G, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Minamino T. Clinical impact of cryoballoon posterior wall isolation using the cross-over technique in persistent atrial fibrillation. *Pacing Clin Electrophysiol.* 2024; 47(10): 1326-1337.
4. Kadoguchi T, Shimada K, Fukui N, Tanaka N, Tsuno H, Shiozawa T, Fukao K, Nishitani-Yokoyama M, Isoda K, Matsushita S, Yokoyama N, Daida H. Accumulation of polyunsaturated fatty acid-derived metabolites in the sarcopenic muscle of aging mice. *Geriatr Gerontol Int.* 2023; 23: 297-303.
5. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S. A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia. *Ann Vasc Dis.* 2023 Sep 25;16(3):219-222. doi: 10.3400/avd.cr.23-00011. PMID: 37779656.
6. Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Ono K, Kadota K, Suwa S, Morishima I, Yoshida R, Hata Y, Akao M, Yagi M, Suematsu N, Morino Y, Yokomatsu T, Takamisawa I, Noda T, Doi M, Okayama H, Nakamura Y, Hibi K, Sakamoto H, Noguchi T, Kimura T; STOPDAPT-2 Investigators. Clopidogrel vs Aspirin Monotherapy Beyond 1 Year After Percutaneous Coronary Intervention. *J Am Coll Cardiol.* 2024 Jan 2;83(1):17-31.

7. Ishihara T, Kuramitsu S, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, DoiJiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Mano T; J-CONFIRM Investigators. Sex Differences in 5-Year Outcomes After Deferral of Revascularization Following Physiological Coronary Assessment. *Circ Rep.* 2024 Jan31;6(2):19-27.
8. Bradley TD, Logan AG, Filho GL, R. Kim off J, Cantolla JD, Arzt M, Ridolfi S, Parati G, Kasai T, Dunlap ME, Delgado D, Yatsu S, Bertolami A, Pedrosa R, Tomlinson G, Marin JM, Tan Tucci C, and Floras JS, for the ADVENT-HF Investigators. Randomised Trial of Adaptive Servo-ventilation for Sleep-Disordered Breathing in Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. *Lancet Respir Med.* 2024 Feb;12(2):153-166. (IF 38.7, CI 10)
9. Nozaki YO, Yatsu S, Ogita M, Wada H, Takahashi D, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Takahashi N, Sonoda T, Shitara J, Tsuboi S, Dohi T, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T. Outcome after primary percutaneous coronary intervention for ST-segment-elevation myocardial infarction complicated by cardiogenic shock. *J Cardiol.* 2024 Feb 17: S0914-5087(24)00023-6.
10. Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T.
An Aspirin-Free Versus Dual Antiplatelet Strategy for Coronary Stenting: STOPDAPT-3 Randomized Trial. *Circulation.* 2024 Feb 20;149(8):585-600.
11. Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, Wada H, Kumamaru H, Yamaji K, Ishii H, Amano T, Miyata H, Kobayashi Y, Kozuma K; J-PCI Registry Investigators.
Benchmarking System Monitoring on Quality Improvement in Percutaneous Coronary Intervention: A Nationwide Registry in Japan. *JACC Asia* 2024 Feb 20;4(4):323-331
12. Okumura Y, Nagashima K, Watanabe R, Yokoyama K, Kato T, Fukaya H, Hayashi H, Nakahara S, Shimizu W, Iwasaki YK, Fujimoto Y, Mukai Y, Ejima K, Otsuka T, Suzuki S, Murakami M, Kimura M, Harada M, Koyama J, Okamatsu H, Yamane T, Yamashita S, Tokuda M, Narui R, Takami M, Shoda M, Harada T, Nakajima I, Fujiu K, Hiroshima K, Tanimoto K, Fujino T, Nakamura K, Kumagai K, Okada A, Kobayashi H, Hayashi T, Watari Y, Hatsuno M, Tachibana E, Iso K, Sonoda K, Aizawa Y, Chikata A, Sakagami S, Inoue M, Minamiguchi H, Makino N, Satomi K, Yazaki Y, Aoyagi H, Ichikawa M, Haruta H, Hiro T, Okubo K, Arima K, Tojo T, Kihara H, Miyanaga S, Fukuda Y, Oiwa K, Fujiishi T, Akabane M, Ishikawa N, Kusano K, Miyamoto K, Tabuchi H, Shiozawa T, Miyamoto K, Mase H, Murotani K; REHEALTH AF

- study. Registry for Evaluating Healthy Life Expectancy and Long-Term Outcomes after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation in the Very Elderly (REHEALTH AF) study: rationale and design of a prospective, multicenter, observational, comparative study. *BMJ Open*. 2023 Feb 15;13(2): e068894. doi: 10.1136/bmjopen-2022-068894. PMID: 36792334
13. Chikata Y, Iwata H, Miyosawa K, Naito R, Koike T, Moriya S, Yasuda H, Funamizu T, Doi S, Endo H, Wada H, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Minamino T. Elevated levels of plasma inactive stromal cell derived factor-1 α predict poor long-term outcomes in diabetic patients following percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Diabetol*. 2024 Mar 30;23(1):114.
14. Hasebe H, Naruse Y, Sano M, Kurebayashi N, Morikawa S, Tsurumi N, Shiozawa T, Takano S, Ogano M, Kimura K, Miyajima K, Sugiura R, Henmi R, Muto M, Hosoya N, Mizukami A, Iguchi K, Atsumi A, Odagiri K, Kiyama Y, Maekawa Y, on behalf of the Mt. FUJI trial investigators. Delivery catheter system carries more physiological right ventricular septal pacing than stylet system. *J Cardiovasc Electrophysiol*. 2024 Apr;35(4):802-810.
15. Polypharmacy and Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention. Yamamoto K, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Ozasa N, Sakamoto H, Takeji Y, Domei T, Tada T, Taniguchi R, Uegaito T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Sakai H, Ishii K, Toyofuku M, Miki S, Onodera T, Furukawa Y, Inada T, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators. Polypharmacy and Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2024 May 24;88(6):888-899.
16. Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tamura T, Kawahatsu K, Hayashi F, Akao M, Serikawa T, Mori H, Kawamura T, Hagikura A, Shibata N, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators. An Aspirin-Free Strategy for Immediate Treatment Following Complex Percutaneous Coronary Intervention. *JACC Cardiovasc Interv*. 2024 May 13;17(9):1119-1130.
17. Akita K, Kageyama S, Suzuki S, Ohno K, Kamakura M, Nawada R, Takanaka C, Wakabayashi Y, Kanda T, Tawarahara K, Mutoh M, Matsunaga M, Suwa S, Takeuchi Y, Sakamoto H, Saito H, Hayashi K, Wakahara N, Unno K, Ikoma T, Sato R, Iguchi K, Satoh T, Sano M, Suwa K, Naruse Y, Ohtani H, Saotome M, Maekawa Y; Searching for Atrial Fibrillation and Early Recruitment of Heart Failure in HCM (SAFER-HCM) Registry Investigators. Machine learning-based detection of sleep-disordered breathing in hypertrophic cardiomyopathy. *Heart*. 2024 Jun 25;110(14):954-962.

18. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Nakamura S, Suwa S, Fujita T, Kurita T, Sugawara S, Fujii K, Suematsu N, Isawa T, Matsuo H, Tanaka H, Shirota K, Hibi K, Kadota K, Ando K, Ono K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI investigators. Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Multivessel Disease and Diabetes. *Am J Cardiol.* 2024 Jul 15;223:18-28.
19. Singh YS, Wada H, Ogita M, Takamura Y, Onozato T, Fujita W, Abe K, Shitara J, Endo H, Tsuboi S, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T. Clinical outcomes of ST elevation myocardial infarction patients without standard modifiable risk factors. *J Cardiol.* 2024 Jul;84(1):41-46.
20. Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Shiraishi J, Harada K, Isogai H, Anai R, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Dohi K; J-CONFIRM Investigators. Impact of Antiplatelet Therapy on 5-Year Outcomes After Fractional Flow Reserve-Guided Deferral of Revascularization in Nonsignificant Obstructive Coronary Artery Disease. *Circ Rep.* 2024 Jul 20;6(8):313-321.
21. Kurita T, Kuramitsu S, Ishii M, Takasaki A, Domei T, Matsuo H, Horie K, Ando H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Shiraishi J, Harada K, Isogai H, Anai R, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Dohi K; J-CONFIRM Investigators. Impact of Antiplatelet Therapy on 5-Year Outcomes After Fractional Flow Reserve-Guided Deferral of Revascularization in Nonsignificant Obstructive Coronary Artery Disease. *Circ Rep.* 2024 Jul 20;6(8):313-321.
22. Wada H, Singh YS, Ogita M, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T. Author's reply. *J Cardiol.* 2024 Jul;84(1):72
23. Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Yamada M, Wakatsuki T, Nozaki Y, Kitahara H, Kato R, Kawai R, Kobayashi Y, Ishii M, Goto Y, Ono K, Kimura T. Aspirin-Free Strategy for Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Oral Anticoagulation: Prespecified Subgroup Analysis From the STOPDAPT-3 Trial. *J Am Heart Assoc.* 2024 Aug 6;13(15): e034201.
24. Watanabe H, Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T. Aspirin versus Clopidogrel Monotherapy After Percutaneous Coronary Intervention: 1-Year Follow-up of the STOPDAPT-3 Trial. *Eur Heart J.* 2024 Aug 31: Online ahead of print. PMID: 39215959.

25. Obayashi Y, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tokuyama H, Sakamoto H, Fujita T, Nanasato M, Okayama H, Nishikura T, Kirigaya H, Nishida K, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators. Effects of peripheral artery disease on long-term outcomes after percutaneous coronary intervention versus coronary artery bypass grafting in patients with severe coronary artery disease. *Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother*. 2024 Aug 14;10(5):374-390.
26. Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Nishizaki Y, Yanagisawa N, Yokoyama K, Murata N, Saito Y, Nagashima K, Matsumoto N, Okumura Y, Minamino T, Daida H. Major bleeding increases the risk of subsequent cardiovascular events in patients with atrial fibrillation: insights from the SAKURA AF registry and RAFFINE registry. *Heart Vessels*. 2024 Aug 6. Online ahead of print. PMID: 39107635
27. Horvath CM, Fisser C, Floras JS, Sossalla S, Wang S, Tomlinson G, Rankin F, Yatsu S, Ryan CM, Bradley TD, Arzt M; ADVENT-HF Investigators. Nocturnal Cardiac Arrhythmias in Heart Failure with Obstructive and Central Sleep Apnea. *Chest*. 2024 Aug 19:S0012-3692(24)04913-4.
28. Nozaki YO, Yatsu S, Ogita M, Wada H, Takahashi D, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Takahashi N, Sonoda T, Shitara J, Tsuboi S, Dohi T, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T. Outcome after primary percutaneous coronary intervention for ST-segment-elevation myocardial infarction complicated by cardiogenic shock. *J Cardiol*. 2024 Sep;84(3):189-194.
29. Watanabe H, Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Hamatani Y, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators. Post-procedural Anticoagulation With Unfractionated Heparin in Acute Coronary Syndrome: Insight from the STOPDAPT-3 Trial. *Am J Cardiol*. 2024 Sep 1;226:83-96. D
30. Sato A, Matsumoto H, Kasai T, Shiroshita N, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Naito R, Tabuchi H, Miyazaki S, Hayashi H, Daida H, Minamino T. Correlates of sleep-disordered breathing and Cheyne-Stokes respiration in patients with atrial fibrillation who have undergone pulmonary vein isolation. *Heart Vessels*. 2024 Sep 4.

31. Nishikawa R, Shiomi H, Morimoto T, Yamamoto K, Sakamoto H, Tada T, Kaneda K, Nagao K, Nakatsuma K, Tazaki J, Suwa S, Inoko M, Yamazaki K, Tsuneyoshi H, Komiya T, Ando K, Minatoya K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 investigators. Effects of peripheral artery disease on long-term outcomes after percutaneous coronary intervention versus coronary artery bypass grafting in patients with severe coronary artery disease. *J Cardiol.* 2024 Oct;84(4):279-286.
32. Kanenawa K, Yamaji K, Morimoto T, Yamamoto K, Domei T, Hyodo M, Shiomi H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Watanabe H, Yoshikawa Y, Tada T, Tazaki J, Ehara N, Taniguchi R, Tamura T, Iwakura A, Tada T, Suwa S, Toyofuku M, Inada T, Kaneda K, Ogawa T, Takeda T, Sakai H, Yamamoto T, Tambara K, Esaki J, Eizawa H, Yamada M, Shinoda E, Nishizawa J, Mabuchi H, Tamura N, Shirotani M, Nakayama S, Uegaito T, Matsuda M, Takahashi M, Inoko M, Kanemitsu N, Tamura T, Ishii K, Nawada R, Onodera T, Ohno N, Koyama T, Tsuneyoshi H, Sakamoto H, Aoyama T, Miki S, Tanaka M, Sato Y, Yamazaki F, Hanyu M, Soga Y, Komiya T, Minatoya K, Ando K, Kimura T.
Prognostic significance of baseline low-density lipoprotein cholesterol in patients undergoing coronary revascularization: a report from the CREDO-Kyoto registry.
J Cardiol. 2024 Oct;84(4):300-310.
33. Sugiyama T, Kakuta T, Hoshino M, Hada M, Yonetsu T, Usui E, Hanyu Y, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sayama K, Sakamoto T, Kobayashi N, Takano M, Kondo S, Wakabayashi K, Suwa S, Dohi T, Mori H, Kimura S, Mitomo S, Nakamura S, Higuma T, Yamaguchi J, Natsumeda M, Ikari Y, Yamashita J, Sambe T, Yasuhara S, Mizukami T, Yamamoto MH, Sasano T, Shinke T; TACTICS Investigators. Predictors of Optical Coherence Tomography-Defined Calcified Nodules in Patients With Acute Coronary Syndrome - A Substudy From the TACTICS Registry. *Circ J.* 2024 Oct 25;88(11):1853-1861.
34. Yamamoto K, Yamamoto E, Morimoto T, Shiomi H, Domei T, Taniguchi R, Sakai H, Toyofuku M, Kaji S, Nawada R, Yokomatsu T, Suwa S, Furukawa Y, Ando K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Investigators.
Long-Term Effects of Proton Pump Inhibitors in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention in High-Risk Subgroups.
Circ J. 2024 Oct 25;88(11):1778-1787.
35. Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Ikari Y, Kurita T, Kaitani K, Sugimoto A, Ogata N, Ikuta A, Hashimoto K, Ishibashi Y, Masuda K, Miyabe T, Ono K, Kimura T. An aspirin-free strategy for percutaneous coronary intervention in patients with diabetes: a pre-specified subgroup analysis of the STOPDAPT-3 trial. *Eur Heart J Cardiovasc pharma other.* 2024 Oct 23: Online ahead of print. PMID: 39444052

36. Obayashi Y, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Nishikawa R, Miyazawa A, Suzuki N, Suwa S, Kirigaya H, Wakabayashi K, Kawai K, Onishi Y, Morishima I, Okayama H, Uehara H, Hibi K, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators.
An aspirin-free strategy and optical coherence tomography observations after percutaneous coronary intervention: Insights from the STOPDAPT-3 trial.
J Cardiol. 2024 Nov;84(5):342-344.
37. Hada M, Kakuta T, Sugiyama T, Hoshino M, Yonetsu T, Usui E, Hanyu Y, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sayama K, Setoguchi M, Tahara T, Sakamoto T, Mineo T, Kobayashi N, Takano M, Kondo S, Wakabayashi K, Suwa S, Dohi T, Mori H, Kimura S, Mitomo S, Nakamura S, Higuma T, Yamaguchi J, Natsumeda M, Ikari Y, Yamashita J, Mizukami T, Yamamoto MH, Sasano T, Shinke T; TACTICS Investigators.
Prognostic Impact of Culprit Lesion Calcified Nodule After Emergency Coronary Intervention: A TACTICS Registry Sub analysis.
JACC Cardiovasc Imaging. 2024 Nov;17(11):1384-1386.
38. Tanaka A, Kida K, Matsue Y, Imai T, Suwa S, Taguchi I, Hisauchi I, Teragawa H, Yazaki Y, Moroi M, Ohashi K, Nagatomo D, Kubota T, Ijichi T, Ikari Y, Yonezu K, Takahashi N, Toyoda S, Toshida T, Suzuki H, Minamino T, Nogi K, Shiina K, Horiuchi Y, Tanabe K, Hachinohe D, Kiuchi S, Kusunose K, Shimabukuro M, Node K.
In-hospital initiation of angiotensin receptor-neprilysin inhibition in acute heart failure: the PREMIER trial. *Eur Heart J.* 2024 Nov 8;45(42):4482-4493.
39. Ishiwata S, Kasai T, Sato A, Suda S, Matsumoto H, Shitara J, Yatsu S, Murata A, Shimizu M, Kato T, Hiki M, Nanako S, Kato M, Kawana F, Naito R, Miyauchi K, Daida H, Minamino T. Tofogliflozin reduces sleep apnea severity in patients with type 2 diabetes mellitus and heart failure: a prospective study. *Hypertens Res.* 2024 Nov 12. 11月
40. Dotare T, Daichi M, Matsue Y, Fujimoto Y, Sunayama T, Iso T, Nakade T, Yatsu S, Ishiwata S, Nakamura Y, Akama Y, Suda S, Kato T, Hiki M, Kasai T, Minamino T. Estimated protein intake and prognosis in hospitalised heart failure: A focus on patients with and without chronic kidney disease. *Clin Nutr ESPEN.* 2024 Nov 15:S2405-4577(24)01515-8 11月

受賞

1. 2024年第6回 臨床血管健康研究会 最優秀演題賞 「急性心不全患者における睡眠呼吸障害が夜間の動脈スティフネス変化に与える影響」 谷津翔一朗

国際学会（発表）

1. The insight of focal atrial tachycardia from right atrial appendage in a case of resistant to catheter ablation: immunobiological assessment of the excised specimen Shintaro Inaba,

Shunsuke Kuroda, Norihito Takahashi, Minoru Tabata, Tohru Minamino. 2024.9.1 ESC AHA 4140089: Lower low-lipoprotein cholesterol level at the time of acute myocardial infarction is associated with increased cardiovascular events

2. Onozato T, Wada H, Ogita M, Takamura Y, Fujita W, Abe K, Singh YS, Shitara J, Endo H, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T. Lower low-density-lipoprotein cholesterol level at the time of acute myocardial infarction is associated with increased cardiovascular events. American Heart Association's Scientific Sessions 2024, Chicago, 2024/11/18
3. Yatsu S, Ogita M, Singh YS, Onozato T, Abe K, Shitara J, Endo H, Wada H, Miyauchi K, Suwa S. Long-term outcome after unprotected left main percutaneous coronary intervention in patients with acute myocardial infarction complicated by cardiogenic shock. ESC Acute Cardiovascular Care 2024 Athen, Mar 8-10, 2024
4. Yatsu S, Woo A, Horvath CM, Tobushi T, Logan AG, Floras JS, Bradley TD. Impact of sleep-disordered breathing and its treatment with ASV on left ventricular structure and function in heart failure. European Respiratory Society 2024. September 7-11, Vienna, Austria

国内学会（発表）

1. 久保田京子、塩澤知之、影山和瑚、渡邊大貴、稻葉英也、磯部裕紀、久保田真司、設樂美奈子、尾藤史康、高野信太郎、関田学、諏訪哲スクリュー型リード固定直後の障害電流と刺激閾値の関係について。障害電流の至適カットオフ値の検討。第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 2024/2/9-2/10 広島
2. 塩澤知之、高野信太郎、関田学、影山和瑚、渡邊大貴、稻葉英也、磯部裕紀、久保田真司、久保田京子、尾藤史康、諏訪哲、南野徹。リードレスペースメーカー AVEIR® の初期使用経験と植込み時の障害電流特性の検討。第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 2024/2/9-2/10 広島
Onozato T, Wada H ら、Predictive impact of decreased low-lipoprotein cholesterol level at the time of acute myocardial infarction. 第 88 回日本循環器学会学術集会・神戸・2024/3/10
3. Shiozawa T, Takano S, Sekita G, Takamura Y, Onozato T, Abe K, Fujita W, Singh YS, Yatsu S, Shitara J, Endo H, Wada H, Ogita M, Suwa S, Minamino T. Additional Linear Carina Ablation of the Pulmonary Veins for Reliable Pulmonary Vein Isolation in Radiofrequency Atrial Fibrillation Catheter Ablation. 第 85 回日本循環器学会・学術集会 2024/3/8-3/10 神戸
4. 阿部圭希、和田英樹ら、大動脈弁置換術後の PCI においてガイディングカテーテルのエンゲージに難渋した一例、日本心血管インターベンション治療学会第 50 回東海北陸地方会・静岡・2024/4/26

5. 谷津翔一朗、真優スレーシュワル、荻田学、和田英樹、阿部圭希、藤田航、設樂準、金子智洋、土井信一郎、諏訪哲. TAVI 弁留置時の左主幹部閉塞を経食道超音波で診断して治療を行った一例. 2024年5月31日-6月2日第97回日本超音波医学会学術集会
6. TAVI 弁留置時の左主幹部閉塞を経食道超音波で診断した一例 S699 谷津翔一朗 1, 真優スレーシュワル 1, 荻田 学 1, 和田英樹 1, 金子智洋 2, 阿部圭希 1, 設樂 準 1, 土井信一郎 2, 諏訪哲 1 2024.6.1 日本超音波医学会第97回学術集会
7. 秋山翔、設樂準、遠藤裕久、和田英樹ら、大動脈弓部血栓症に対して抗凝固療法のみで改善が得られた一例、日本循環器学会第163回東地方会・浜松・2024/6/29
8. 大塚隆弘、設樂準、遠藤裕久、和田英樹ら、急性大動脈解離による下肢動脈閉塞に対して緊急末梢血管内治療（EVT）で救済できた一例、日本循環器学会第163回東地方会・浜松・2024/6/29
9. ^{99m}Tc ピロリン酸シンチグラフィによる慢性心不全患者の心イベントリスク 層別化 安島 鵬飛 (順天堂大学 循環器内科) 第34回日本心臓核医学会総会・学術大会 2024.6.29
10. 原晴彦、塩澤知之、阿部圭希、関田学、荻田学、諏訪哲、住吉正孝. 心外膜単極誘導ペースメーカー植込後の心室細動に対してS-ICDとリードレスペースメーカーを併用した1例. 第14回失神研究会 2024/7/6 web
11. 荒井瑠美、塩澤知之、石川有理湖、真優スレーシュワル、谷津翔一朗、設樂準、荻田学、諏訪哲、森明彦. 簡易塩分チェックシートを用いた栄養指導による心不全患者の食行動改善への取り組み. 第30回日本心臓リハビリテーション学術集会 2024/7/13-7/14 神戸
12. 小宮山正広、鳥屋優太、渡邊大輔、小林敦郎、塩澤知之、田沼明. 修正大血管転位症による心不全発症例の社会復帰に向けた理学療法介入の経験～運動耐容能に着目して～. 第30回日本心臓リハビリテーション学術集会. 2024/7/13-7/14 神戸
13. 和田英樹 若手育成におけるCVITレジストリーの実績 若手育成におけるレジストリーの役割を考える 第32回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・札幌・2024/7/25
14. 心原性ショックを合併した急性心筋梗塞患者における非保護左冠動脈主幹部に対する経皮的冠動脈インターベンション後の長期予後順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科 小野里 匠也 2024.07.25 第32回日本心血管インターベンション治療学会学術集会；CVIT2024
15. 谷津翔一朗、葛西隆敏、村田梓、松本紘毅、設樂準、加藤隆生、須田翔子、南野徹. 大動脈弁狭窄症患者における睡眠呼吸障害と気道陽圧による血行動態への影響. 2024年7月 第48回日本睡眠学会定期学術集会(横浜)

16. T. Onozato, S. Yatsu, M. Ogita, K. Abe, W. FUJITA, YS. Singh, J. Shitara, H. Endo, H. Wada, K. Miyauchi, S. Suwa, T. MINAMINO Long-term outcome in patients with acute myocardial infarction complicated by cardiogenic shock after unprotected left main percutaneous coronary intervention. 2024年7月 第32回日本心血管インターベンション学会(札幌)
17. 谷津翔一朗,葛西隆敏,内藤亮,松本紘毅,村田梓,設樂準, 城下那奈子,加藤光恵,川名ふさ江,佐藤彰洋,石綿清樹,清水めぐみ,加藤隆生,須田翔子,比企優,南野徹. 急性心不全患者における睡眠呼吸障害が夜間の動脈スティフネス変化に与える影響. 2024年9月14日第6回臨床血管健康研究会
18. 岩田秀, 谷津翔一朗, 遠藤裕久, 小野里匠也, 阿部圭希, 真優スレーシュワル, 設樂準, 和田英樹, 萩田学, 諏訪哲. 緊急冠動脈造影中に心破裂による死亡に至ったたこつぼ型心筋症の一例. 2024年9月27日第72回日本心臓病学会.
19. Shiozawa T, Sekita G, Takano S, Inaba H, Kubota S, Kubota K, Bitou F, Hayashi H, Ogita M, Suwa S, Minamino T. Pericarditis due to Cryoablation with Slow Pathway Ablation for AVNRT. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024. 2024/10/10-10/12. 大阪
20. 大塚隆弘, 和田英樹ら、膝窩動脈の狭窄病変に対する血管内治療後に巨大仮性動脈瘤形成をきたしステントグラフトで治療を行った一例、日本心血管インターベンション治療学会第51回東海北陸地方会・名古屋・2024/10/19
21. 膝窩動脈の狭窄病変に対する血管内治療後に巨大仮性動脈瘤形成をきたし ステントグラフトで治療を行った一例順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科 大塚 隆弘、和田 英樹、谷津翔一朗、設樂 準、遠藤 裕久、萩田 学、諏訪 哲 2024.10.19 CVIT 第51回東海北陸地方会
22. Mitra Clip 術後にたこつぼ症候群を発症した一例 1 順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科・2 順天堂医学部付属順天堂医院○延島 優香 1、遠藤 裕久 1、谷津翔一朗 1、金子 智洋 2、原 晴彦 1、大塚 隆弘 1、稲葉慎太郎 1、安島 鵬飛 1、阿部 圭希 1、設樂 準 1、和田 英樹 1、塩澤 知之 1、諏訪 哲 1、萩田 学 2024.10.19 CVIT 第51回東海北陸地方会

招待講演・学会講演

1. ADVENT-HF 試験の背景と結果を読み解く谷津翔一朗 (順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科) 2024.3.8 第88回日本循環器学会学術集会 Fireside Seminar 3 株式会社フィリップス・ジャパン
2. Shoichiro Yatsu. Relationship between Heart Failure and Sleep-Related Movement Disorder. 第88回日本循環器学会 JCS ESC Joint Symposium.(神戸) 2024/3/8-10
3. 谷津翔一朗.動脈硬化と睡眠時無呼吸. 冠動脈疾患と睡眠時無呼吸. 第48回日本睡眠学会ワークショッピング 1. 2024/7/18

4. 谷津翔一朗. 令和の睡眠呼吸障害治療 HFrEF に対する睡眠呼吸障害治療～ADVENT-HF 試験の結果を受けて～ 第 72 回日本心臓病学会シンポジウム 11. 2024/9/27
5. ADVENT-HF 試験を受けて陽圧治療の現状と今後を考える谷津 翔一朗 (順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科) 2024.10.5 第 28 回日本心不全学会学術集会 フィリップス・ジャパン
6. 谷津翔一朗.最新トレンドをエキスパートから学ぶ！心不全患者における睡眠呼吸障害診療の重要性. 第 28 回日本心不全学会 共催セミナー. 2024 年 10 月 6 日

研究費（受託・共同研究）

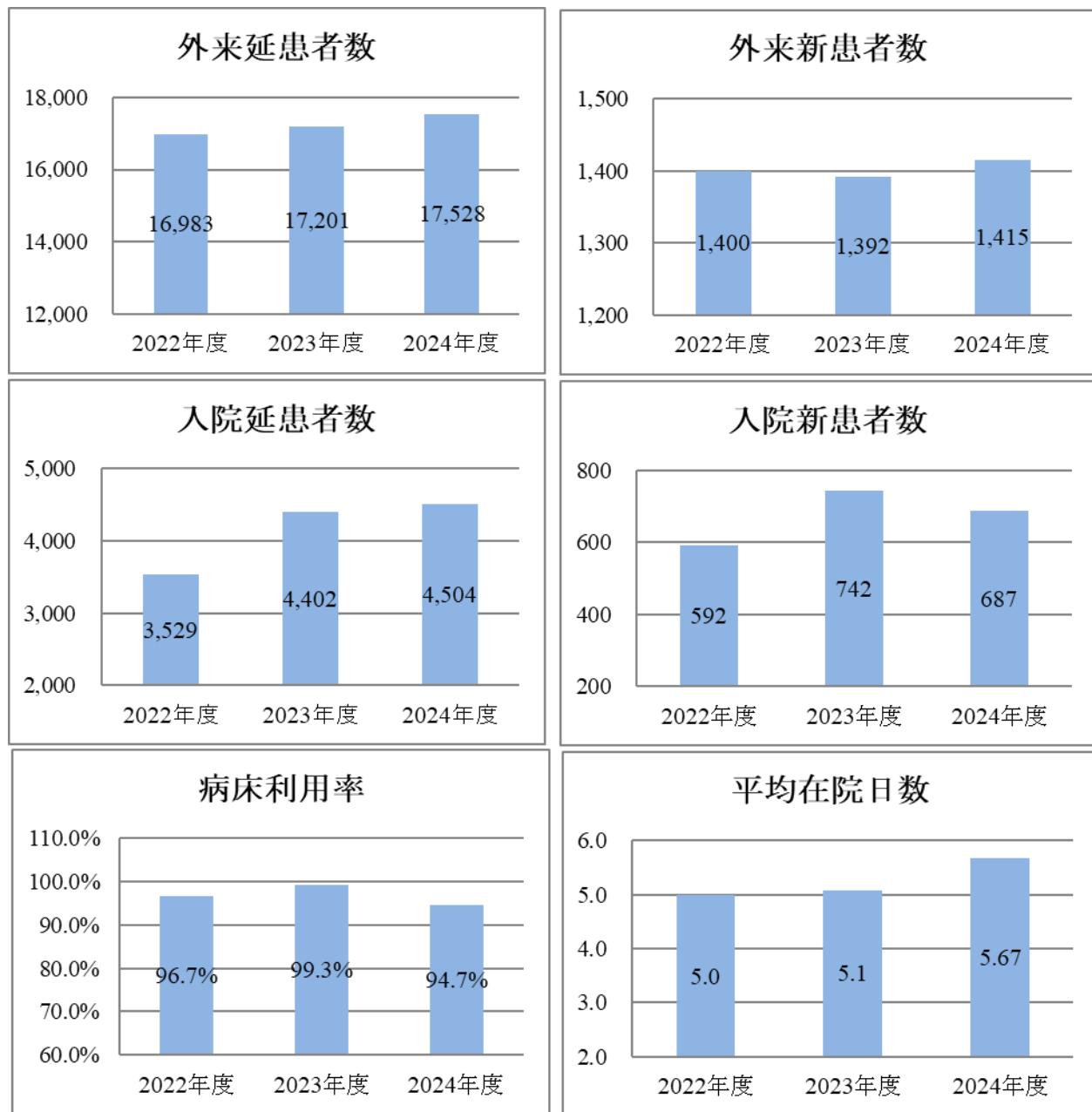
1. 公立大学法人 奈良県立医科大学 Registry of contemporary medical management of chronic heart failure with non-reduced ejection fraction in Japan 【The PARACLETE study】
2. エイツーヘルスケア(株) 慢性腎疾患・心不全患者における高カリウム血症の長期管理に対する疾患負担と治療の負担を評価するための前向きコホート研究【HK registry main study】
3. 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラーの冠動脈plaquesの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験【PEMA-CORE】
4. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性を評価する研究【STOPDAPT-3】
5. 学校法人東海大学 Single Catheter Primary PCI 法による ST 上昇型急性心筋梗塞に対する虚血時間短縮の研究【SPEEDY PCI study】
6. 一般財団法人 生産開発科学研究所 うつ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究【GOREISAN-HF Trial】
7. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性プラチナクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性と有効性を評価する研究 [PRasugrel Monotherapy following primary percutaneous coronary intervention for ST-elevation myocardial infarction (PREMIUM Trial)]
8. 佐賀大学医学部附属病院 2 型糖尿病を合併する慢性腎臓病におけるフィネレノンの血管スティフネスと心腎バイオマーカーに対する効果【FIVE-STAR】

研究費（治験）モニタリング・監査・審査料・手数料等・製造販売後調査を含む

1. CSL ベーリング^(株) 急性冠症候群患者を対象とした CSL112 の有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化プラセボ対照並行群間比較第 3 相臨床試験
2. Fortrea Japan 株式会社 EMPACT-MI : 急性心筋梗塞患者の心不全による入院及び死亡に対するエンパグリフロジンの効果を評価する効率化、多施設共同、ランダム化、並行群間、二重盲検、プラセボ対照、優越性試験
3. IQIVA サービスジャパン合同会社 発症後間もない急性冠症候群患者を対象に経口第 XIa 因子阻害剤 Milvexian の有効性及び安全性を評価する第 3 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、event-driven 試験
4. ノボノルディスクファーマ^(株) ARTEMIS 急性心筋梗塞患者を対象とした、心血管アウトカムに対するプラセボと比較した ziltivekimab の効果
5. バイエル薬品工業^(株) ベリキュー[®]錠使用成績比較調査（慢性心不全）
6. ファイザーR&D 合同会社 ピンダケルカプセル特定使用成績調査
7. 日本ベーリンガーインゲルハイム^(株) 【ジャディアンス錠 特定使用成績調査（慢性心不全患者を対象とした長期使用に関する調査）】

2-8 小児科

診療実績



研究・教育活動

原著

1. Machimoto N, Baba Y, Takaoka Y, Shoji H, Shimizu T. A Case of Omphalitis Revealing Alloimmune Neonatal Neutropenia Cureus 15: e44409 2023

学会発表

1. Baba Y, Takaoka Y, Kudo T, Ohtsuka Y, Shimizu T. Antigen-Specific IgA and Secretory IgA Play Key Roles in Mucosal Immune Responses in Food-Allergic Children. European Association of Allergy & Immunology Congress 2024, Valencia, Spain, 2024.5.31.
2. 馬場洋介, 高岡優里, 石田翔二, 宮林和紀, 大石賢司, 大塚宜一. 小児アトピー性皮膚炎患者におけるデルゴシチニブ軟膏の部位別効果の評価—臨床スコアと TEWL を用いた観察研究—. 第 84 回静岡小児アレルギー研究会, 静岡, 2024.6.22.
3. 馬場洋介, 羽根将之, 高岡優里, 宮林和紀, 稲毛英介, 工藤孝広, 大塚宜一, 藤澤隆夫, 清水俊明. 静岡県東部地域における小児気管支喘息の学校生活管理指導表の運用実態とその役割. 第 5 回日本喘息学会総会学術大会, 大阪, 2024.7.13.
4. 馬場洋介, 羽根将之, 高岡優里, 大石賢司, 宮林和紀, 東海林宏道, 藤澤隆夫. 静岡県における小児気管支喘息の学校生活管理指導表の運用実態とその課題. 第 86 回東海小児アレルギー談話会, 名古屋, 2024.9.28.
5. 松田慎平, 島田姿野, 高岡優里, 秋庭崇人, 馬場洋介, 池野充, 佐久間啓, 安部信平. 抗神経抗体が同定されなかった自己免疫性脳炎疑いの 14 歳女児例. 第 81 回静岡小児神経研究会, 静岡, 2024.7.20.
6. 秋庭崇人, 島田姿野, 石田翔二, 松田慎平, 大川夏紀, 馬場洋介, 池野充, 安部信平, 清水俊明, 岡崎康司, 村山圭. 致死性劇症肺炎を示した FBXL4 遺伝子関連ミトコンドリア DNA 枯渇症候群の兄弟例. 第 66 回日本小児神経学会学術集会, 名古屋, 2024.5.30.
7. 秋庭崇人, 島田姿野, 木村寛太郎, 馬場洋介, 福永英生, 芳本潤. てんかん発作と失神の鑑別に難渋したカテコラミン誘発性多形性心室頻拍の 1 例. 第 18 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 東京, 2024.7.6.
8. 秋庭崇人, 島田姿野, 石田翔二, 松田慎平, 大川夏紀, 馬場洋介, 岡崎康司, 村山圭. 致死性劇症肺炎を示した FBXL4 遺伝子関連ミトコンドリア DNA 枯渇症候群の兄弟例. 第 23 回日本ミトコンドリア学会年会, 東京, 2024.11.21.
9. 秋庭崇人, 島田姿野, 石田翔二, 松田慎平, 大川夏紀, 馬場洋介, 岡崎康司, 村山圭. 致死性劇症肺炎を示した FBXL4 遺伝子関連ミトコンドリア DNA 枯渇症候群の兄弟例の表現型に対する考察. 第 82 回静岡小児神経研究会, 静岡, 2024.11.16.
10. 相原久人, 稲葉真理子, 田中寛顕, 平松直子, 富田紗也佳, 石上順平, 大石賢司, 馬場洋介. 髄液細胞数增多をみとめなかつた遅発型 B 群溶血性連鎖球菌性髄膜炎の 1 例. 第 159 回日本小児科学会静岡地方会, 静岡, 2024.10.6.
11. 平岡由衣, 馬場洋介, 江原尚弘, 高岡優里, 羽根将之, 石田翔二, 宮林和紀, 稲毛英介, 大塚宜一, 清水俊明. FPIES 患者における CMV 感染と耐性獲得遅延の関係性の検討. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2024.4.19.

特別講演

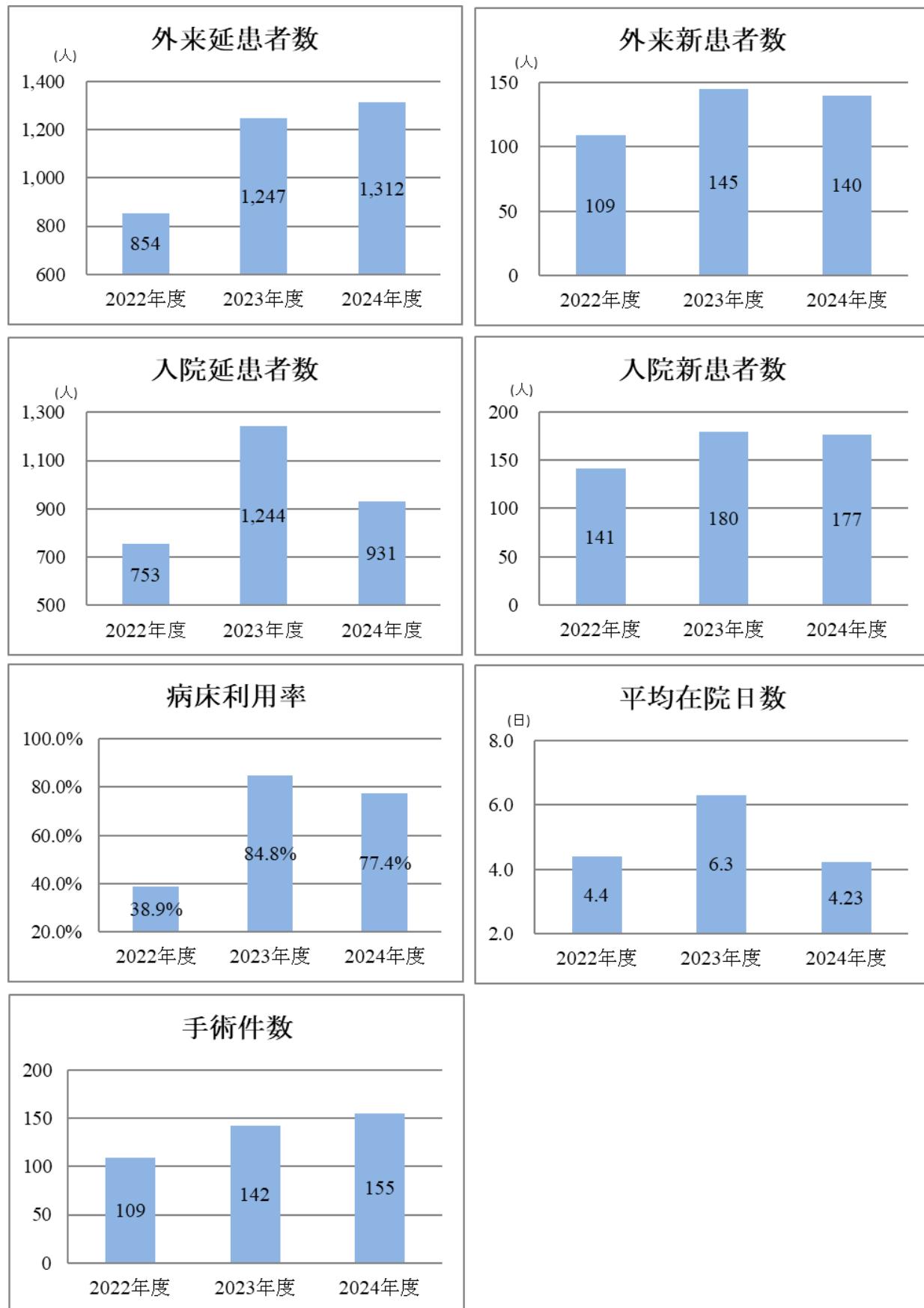
1. 馬場洋介. 当科における在宅自己注射療法と指導の変化. 静岡県東部学校健診学術講演会, Web, 2024.1.29.
2. 馬場洋介. 小児気管支喘息に対するデュピルマブ投与の臨床的効果. Type2 アレルギー疾患治療

セミナー, 東京, 2024.5.23.

3. 馬場洋介. 小児アトピー性皮膚炎治療における免疫応答と作用機序. Discussion of Atopic Dermatitis Forum, 静岡, 2024.10.25.
4. 馬場洋介. 小児アトピー性皮膚炎治療におけるデルゴシチニブ軟膏の効果. お昼に学ぼう！鳥居アトピー性皮膚炎治療セミナー, Web, 2024.11.22.
5. 馬場洋介, 大塚宜一. アレルギー児における乳幼児期の栄養と成長. JCR 小児栄養セミナー全国 Web 講演会, Web, 2024.12.14.

2-9 小児外科

診療実績



研究・教育活動

英文原著

1	Sakika Shimizu, Shogo Seo, Kotaro Kaneko, Ryoichi Abiko, Junya Ishii, Shunsuke Yamada, Hiroko Watayo, Yuta Yazaki, Kazuto Suda, Yuichiro Miyake, Takanori Ochi, Hiroyuki Koga, Geoffrey J Lane, Atsuyuki Yamataka	Advantages of Urethroplasty Terminating at the Corona for Severe Hypospadias: Complications, Uroflowmetry, and Esthetics	J Pediatr Surg. 2024 Apr;59(4):610-615. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2023.11.027.
1	Hiroyuki Koga, Shunsuke Yamada, Masahiro Takeda, Takanori Ochi, Shogo Seo, Soichi Shibuy , Yuta Yazaki, Naho Fujiwara, Rumi Arii, Geoffrey J Lane, Atsuyuki Yamataka	Optical Trocar Access for Retroperitoneal Robotic-Assisted Pyeloplasty in Children with Ureteropelvic Junction Obstruction	J Laparoendosc Adv Surg Tech A . 2024 Jul;34(7):651-655. doi: 10.1089/lap.2023.0444.

英文症例報告

1	Nakajima H, Tsukui T, Koga H, Lane GJ, Yamataka A	Upper Ureteral Reconstruction with a Tapered Descending Colon after Failed Pyeloplasties in a 13-Year-Old Boy	Asian J Endosc Surg, 2025;18(1): e70002
---	---	---	---

国内学会発表

1	恵畠優、中島秀明、瀬尾尚吾	思春期早発症状を契機に発見された乳児卵巣腫瘍の1例	第57回日本小児外科学会東海北陸地方会、岐阜、2024年12月8日
2	恵畠 優, 宮野 剛, 石井惇也, 阿部江莉, 野尻宗子, 飯田寿恵, 二階公貴, 池上満智彰, 枡田理沙, 伊東成宜, 古賀寛之, 山高篤行, 岡崎任晴	小児における待機的虫垂切除術の手術難易度予想因子についての前向き研究	第61回小児外科学会学術集会、福岡、2024年5月29日-31日

3	恵畠優,瀬尾尚吾,中島秀明	腸回転異常症に対して腹腔鏡手術を行った新生児の2症例	第25回静岡内視鏡外科研究会,静岡,2024年7月6日
4	中島秀明, 恵畠優, 瀬尾尚吾, 杉山裕貴	魚鱗癬症候群の患児における陰嚢水腫の手術経験	第34回日本小児外科QOL研究会, 青森, 2024年10月12日
5	古賀寛之, 田中正史, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 武田昌寛, 濵谷聰一, 山高篤行	小児腎孟尿管移行部通過障害 ロボット支援 下後腹膜鏡下腎孟形成の有用性	第61回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024年5月29日-31日
6	清水咲花, 瀬尾尚吾, 須田一人, 金子浩太郎. 安孫子諒一, 石井惇也, 山田舜介, 濟陽寛子, 矢崎悠太, 三宅優一郎, 越智崇徳古賀寛之, 山高篤行	合併症・排尿機能・整容性にみる重度尿道 下裂に対する冠状部への尿道形成術の有用性 Advantages of urethroplast	第61回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024年5月29日-31日
7	山田舜介. 古賀寛之. 瀬尾尚吾, 越智崇徳, 濱谷聰一. 矢崎悠太, 武田昌寛, 藤原なほ, Geoffrey J Lane, 山高篤行	小児総胆管囊腫に対するロボット支援手術 と腹腔鏡手術の比較検討 Comparison of robotic-assistance and laparoscopy for pediatric chol	第61回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024年5月29日-31日
8	三宅 優一郎, 古賀 寛之, 山田 舜介, 瀬尾 尚吾, 越智 崇徳, 濱谷 聰一, 矢崎 悠太, 武田 昌寛, 藤原 なほ, Geoffrey JLane, 山高 篤行	先天性胆道拡張症に対するロボット支援手術と腹腔鏡手術の比較検討	第47回日本脾・胆管合流異常研究会、愛知、2024年9月7日
9	古賀 寛之, 瀬尾 尚吾, 越智 崇徳, 武田 昌寛, 濱谷 聰一, 石井 淳也, 田中 正史, 宮野 剛, 山高 篤行	小児腎孟尿管移行部通過障害 ロボット支援後腹膜鏡下腎孟形成の経験	第33回日本小児泌尿器科学会総会・核術集会 7月10日-12日

2-10 外科

1. はじめに

順天堂大学医学部附属静岡病院外科

教授 伊藤智彰

令和6年は、前教授であり現院長の佐藤浩一先生の後任として、私、伊藤智彰が教授・科長職を拝命いたしました。これを一つの節目として、医局員一同、より一層の研鑽を重ねてまいる所存です。

同年4月からは働き方改革が本格的に始動し、加えて医局員の退職も重なったことにより、外科医局は深刻な人員不足に直面いたしました。こうした厳しい状況下においても、本院からは肝胆膵外科高度技能専門医の派遣を受け、さらに本院外科専攻医の先生方の支援、新たに1名の新入局者を迎えることができました。医局員全員が一丸となり、臨床業務に真摯に取り組むことができた一年であったと振り返っております。

また、本院肝胆膵外科、下部消化管外科、乳腺外科の多くの先生方のご協力を賜り、手術件数を維持しつつ、その質の向上にも努めることができました。特に肝胆膵領域の症例数は増加傾向にあり、1月に導入したロボット支援下胃切除も順調に軌道に乗り始めております。

当院は緊急疾患への対応も多く、若手外科医の力がますます求められています。今後も関連病院との連携をより一層強化し、病病連携・病診連携のさらなる深化を図るとともに、地域外科医療の発展に寄与すべく、医局一同努力を続けてまいります。

本年も引き続き、皆様の変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2. スタッフ一覧



伊藤智彰 教授



佐藤浩一 特任教授



櫛田知志 先任准教授



田中顕一郎 先任准教授

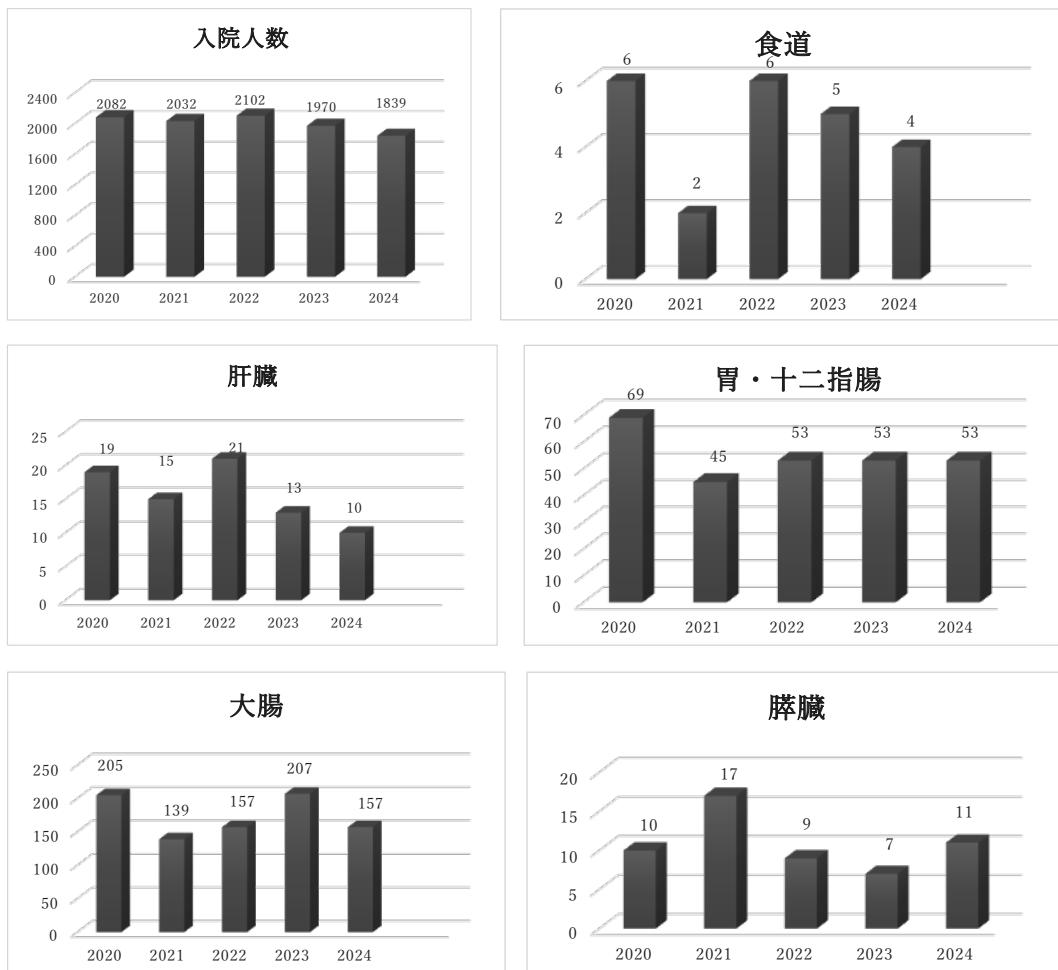
教授	伊藤 智彰	(順天堂大、	平成 12 年卒)
特任教授	佐藤 浩一	(順天堂大、	昭和 56 年卒)
先任准教授	櫛田 知志	(順天堂大、	平成 7 年卒)
	田中顕一郎	(東京医科歯科大、	平成 6 年卒)
助手	上田 健平	(順天堂大、	平成 25 年卒)
	加藤 永記	(順天堂大、	平成 26 年卒)
	山本 陸	(順天堂大、	平成 26 年卒)
	小泉 明博	(順天堂大、	平成 27 年卒)
	仁平 高朔	(順天堂大、	平成 30 年卒)
	藤崎 隆	(順天堂大、	令和 2 年卒)
	兵藤 圭泉	(順天堂大、	令和 2 年卒)
		(2024 年 10 月～2025 年 3 月)	
	吉野真理子	(順天堂大、	令和 3 年卒)
		(2024 年 5 月～9 月)	
	花川 翔太	(順天堂大、	令和 3 年卒)
大学院生	宮下真美子	(順天堂大、	平成 25 年卒)

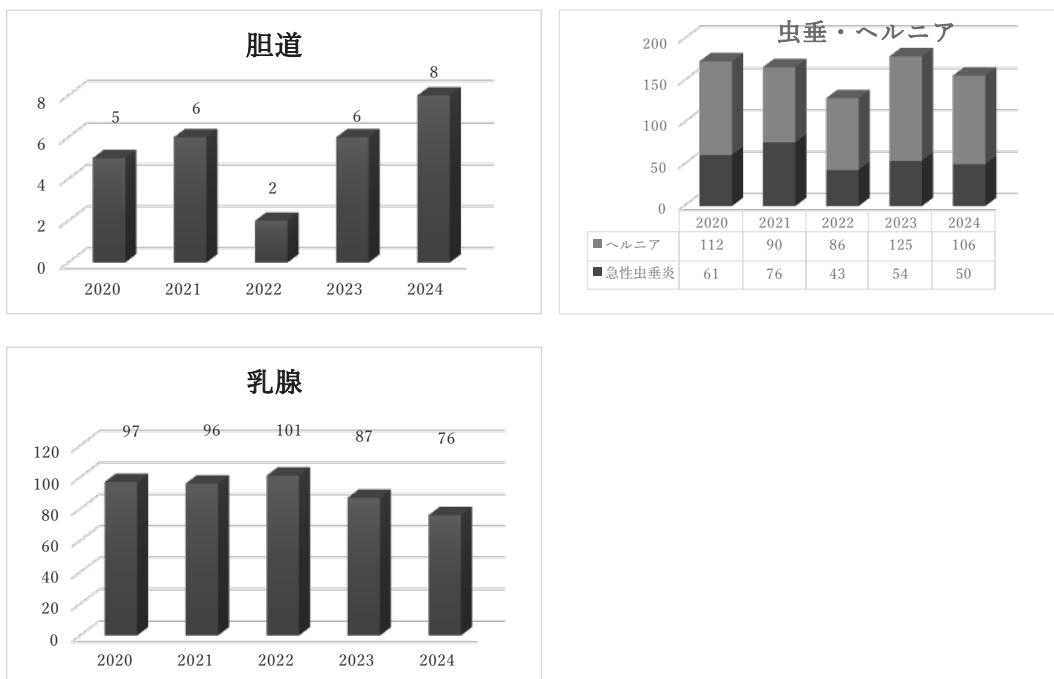
3. 臨床成績

(1) 症例・手術件数

食道癌	4 例	(胸腔鏡 4 例、開胸開腹 0 例)
胃癌	52 例	(腹腔鏡 21 例、ロボット 8 例、開腹 23 例)
結腸癌	100 例	(腹腔鏡 65 例、ロボット 4 例、開腹 31 例)
直腸癌	51 例	(腹腔鏡 15 例、ロボット 25 例、開腹 11 例)
肝癌 (転移性含む)	10 例	(腹腔鏡 1 例、開腹 9 例)
脾癌	11 例	(腹腔鏡 2 例、開腹 9 例)
胆道癌	8 例	(腹腔鏡 1 例、開腹 7 例)
胆石症	98 例	(腹腔鏡 93 例、開腹 5 例)
鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア	100 例	(腹腔鏡 34 例、前方 66 例)
虫垂炎	50 例	(腹腔鏡 47 例、開腹 3 例)
乳癌	76 例	(Bt 66 例、Bp 10 例)

(2) グラフ





4. 研究業績

(1) 英文原著

- 1) Sakuraba S, Koizumi A, Iwasawa T, Ito T, Kato K: Serum EphA2 as a Promising Biomarker for the Early Detection and Diagnosis of Colorectal Cancer Biomolecules 2024, 14(12), 1504
- 2) Tanaka K, Watanabe J, Arai M, Kushida T, Ito T, Sato K, Saito M. Real-world clinical outcomes of treatment with olaparib for BRCA1/2 mutation-positive metastatic breast cancer in Japanese patients. Cureus16: e71522. doi: 10.7759/cureus.71522

(2) 学会発表

1) 国内発表

- 1) 伊藤智彰：発表「当院での GLIM 基準による術前低栄養が胃癌患者の術後に与える影響」第 96 回日本胃癌学会 京都市勧業館みやこめっせ B1F,2,29,2024
- 2) 上田脩平：発表「当院での幽門狭窄に対する治療検討」第 96 回日本胃癌学会 京都市勧業館みやこめっせ B1F,2,29,2024
- 3) 小泉明博：発表「当院の stageIV 胃癌に対する Nivo/Chemo の使用経験」第 96 回日本胃癌学会 京都市勧業館みやこめっせ B1F,2,29,2024
- 4) 秋間龍之介：発表「IVR による保存的加療で軽快した特発性脾破裂の一例」静岡県外科医会第 249 回集談会, プラザヴェルデ沼津, 3,16,2024
- 5) 加藤永記：発表「術前虫垂出血と診断し腹腔鏡下虫垂切除術を行った 1 例」第 60 回日本腹部救急医学会 北九州国際会議場, 3,22,2024

- 6) 小泉明博：発表「COVID-19 感染症発症後 膀胱十二指腸動脈留破裂により診断された正中弓状靭帯圧迫症候群の 1 例」第 60 回日本腹部救急医学会 北九州国際会議場, 3,22,2024
- 7) 伊藤智彰：発表「リキッドバイオプシーを用いた全ゲノムメチル化解析による膀胱診断の可能性」第 124 回日本外科学会定期学術集会、4,19,2024
- 8) 上田脩平：発表「当院におけるロボット支援下直腸切除の経験と術後補助療法の選択」第 12 回御茶ノ水消化器外科フォーラム、TKP ガーデンシティ御茶ノ水カンファレンスルーム 2C, 6,22,2024
- 9) 田中顕一郎：発表「乳腺術後、骨密度が正常な患者群の臨床学的特徴について」第 32 回日本乳癌学会学術総会、7,12,2024
- 10) 小池真央（順天堂大学医学部附属静岡病院 看護部）、田中顕一郎、板倉萌「当院乳腺領域における看護師特定行為実践の取り組み（会議録）」第 32 回日本乳癌学会学術総会、7,12,2024
- 11) 伊藤智彰：発表「当院におけるロボット支援下直腸切除術の現状」第 79 回日本消化器外科学会総会、7,17,2024
- 12) 上田脩平：発表「当院での幽門狭窄に対する治療検討（胃空腸バイパス手術、内視鏡下ステント挿入術）」第 79 回日本消化器外科学会総会、7,17,2024
- 13) 山本陸：発表「大腸癌における診断・治療標的としての MDSCs の解析」第 79 回日本消化器外科学会総会、7,17,2024
- 14) 藤崎隆：発表「絞扼性腸閉塞に対して 1st port の挿入法を工夫し腹腔鏡手術で完遂し得た 1 例」第 79 回日本消化器外科学会総会、7,17,2024
- 15) Takumi Iwasawa, Suguru Yamauchi, Tomoaki Ito, Kazunori Kato
「Attempts to Enhance the Action of Immune Checkpoint Inhibitory Therapy with Lactobacillus Metabolites」第 83 回日本癌学会、福岡国際会議場 9.19、2024
- 16) Takumu Yamada, Takumi Iwasawa, Tomoaki Ito, Yuta Murai, Kazunori Kato,
「Effective utilization of ergothioneine on main and side effects of oxaliplatin」
日本癌学会、福岡国際会議場、9.19、2024
- 17) 藤崎隆：発表「当院での大腸ステント留置後化学療法の検討」第 83 回静岡県癌治療研究会、10,12,2024
- 18) 伊藤智彰：発表「地域における大学附属病院での働き方改革による診療業務の変化」、第 86 回日本臨床外科学会、ホテルマイステイズ宇都宮,11,22,2024
- 19) 田中顕一郎：発表「乳がん術後リハビリテーションの新たな試み—患肢、関節可動域リハビリのスマートウェアによるモニタリングー」第 86 回日本臨床外科学会、ホテルマイステイズ宇都宮、11,23,2024
- 20) 石塚ジュスタン正也：発表「肺癌に対して施行した CRT 及びデュルバルマブ維持療法が奏効し盲腸癌が病理学的完全奏効と診断された重複癌の一例」第 86 回日本臨床外科学会、ホテルマイステイズ宇都宮、11,23,2024
- 21) 村山倫太郎：発表「下腿浮腫を契機に発見された後腹膜脂肪肉腫の一例」第 86 回日本臨床外科学会、ホテルマイステイズ宇都宮、11,23,2024
- 22) 山本陸：発表「待機的右側結腸癌手術におけるドレーン留置の必要性」第 79 回日本大腸肛門病学会、パシフィコ横浜、11,30,2024

- 23) 山本陸：発表「結腸膀胱瘻を伴う結腸憩室炎に対する腹腔鏡手術の治療実績」第 37 回日本内視鏡外科学会, 1 福岡国際会議場、12,6,2024
- 24) 藤崎隆：発表「結腸動脈の走行異常を伴う上行結腸癌に対してロボット支援下結腸右半切切除を試行した 1 例」マリンメッセ福岡, 第 37 回日本内視鏡外科学会, 12,5,2024
- 25) 兵藤圭泉：発表「当院における悪性葉状腫瘍 13 例の臨床経験」第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 12,7,2024
- 26) 岩澤卓弥, 山内卓, 伊藤智彰, 加藤和則「Synergistic Effects of Immune Checkpoint Inhibition Therapy with Lactobacillus Metabolites」第 53 回免疫学会総 12.5.2024 長崎

2) 国際学会

- 1) Tomoaki Ito:「Whole-genome methylation analysis using liquid biopsy for pancreatic cancer diagnosis」AACR Annual meeting 2024、4,5 San Diego, USA
- 2) Akihiro Koizumi :「Soluble B7H3 has a potential of novel serum biomarker for Colorectal cancer」AACR Annual meeting 2024、4,5 San Diego, USA
- 3) Takumi Iwasawa, Suguru Yamauchi, Tetsu Fukunaga, Hajime Orita, Tomoaki Ito and. Kazunori Kato 「A novel subset of Treg-like MDSCs expressing LAG-3 found in advanced gastric cancer」 AACR, 2024,4

(3) 座長・講演

- 1) 伊藤智彰：座長：Gastric cancer Surgery Web Seminar 小野薬品工業 ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社 web 2024.1.31
- 2) 伊藤智彰：開会の辞 Gastric Cancer Memorial Web Seminar in Shizuoka, ブリストルマイアーズ・スクイブ, 2.7.2024
- 3) 櫻田睦：講師「当院の大腸癌治療の変遷」田方医師会館 2F, 消化器研究会, 2.8.2024
- 4) 上田脩平：講演「新ガイドラインに基づいた現在の便秘治療」慢性便秘症講演会 in 静岡東部, ホテルサンバレー富士見, EA ファーマー, 2.19,2024
- 5) 上田脩平：座長 静岡県外科医会第 249 回集談会, プラザヴェルデ沼津, 3.16,2024
- 6) 加藤永記：座長 静岡県外科医会第 249 回集談会, プラザヴェルデ沼津, 3.16,2024
- 7) 加藤永記：講演「第 82 回静岡県癌治療研究会」CSA 貸会議室、静岡、3,30,2024
- 8) 上田脩平：講演「第 5 回静岡県東部地区胃癌治療カンファレンス」プラザヴェルデ沼津, 4,26,2024
- 9) 伊藤智彰：講演「胃がんのはなし あれこれ」第 30 回ゆ一ゆ一健康講座, メディカル はば伊豆高原, 5,12,2024
- 10) 伊藤智彰：座長：胃がん オプジーゴ WEB Collabo セミナー in 静岡 小野薬品工業 ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社 2024.5.29
- 11) 田中顕一郎：講師「当院での T-DXd の使用経験」Breast Cancer Web Seminar 第一三共株式会社、三島営業所, 6,7,2024
- 12) 田中顕一郎：講師 Breast Cancer Web Seminar～Treatment of Brain Metastasis～, 第一三共株式会社、三島営業所, 6,21,2024

- 13) 伊藤智彰：座長，第 12 回御茶ノ水消化器外科フォーラム、TKP ガーデンシティ御茶ノ水カンファレンスルーム 2C, 6,22,2024
- 14) 小泉明博：発表 胃癌の郭清 LG 有志の会 6,29,2024
- 15) 上田脩平：ディスカッサント 胃癌の郭清 LG 有志の会 6,29,2024
- 16) 伊藤智彰 座長：一タ二聴セミナー～エキスパートに聞く胃癌/乳癌治療の現在地～イーライリリー 三島商工会議所 2024.7.31
- 17) 伊藤智彰 座長：食道癌 オプジーボ WEB Collabo セミナー in 静岡 小野薬品工業 ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社 2024.9.11
- 18) 小泉明博：演者 「食道癌 1 次治療のオプチーボ+ヤーボイの使いところ」 食道がんオプチジーボ WEB ライブ Collabo セミナー in 静岡，ブリストルマイアーズスクイブ株式会社，9,11,2024
- 19) 伊藤智彰：講師「最新の胃癌治療」田方医師会 2F 9,12,2024
- 20) 伊藤智彰：講演「胃がんのはなしあれこれ」市民公開講座、順天堂大学静岡病院 9,19,2024
- 21) 伊藤智彰：講演 大塚製薬工場社員に求められる医薬品に関する医学薬的知識の向上、(株)大塚製薬工業、プラザヴェルデ沼津，9,25,2024
- 22) 伊藤智彰：講演「当院での腹部外傷症例治療の現状～労災患者を含めて～」令和 6 年度 災害医学講習会、三島労災指定医協会 三島プラザホテル，10,24,2024
- 23) 伊藤智彰：講演 高大連携 晓星学園 本院 小川講堂，11.15.2024
- 24) 伊藤智彰 座長：オプジーボ胃癌ワンポイント WEB レクチャー 小野薬品工業 ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社 2024.11.27 三島プラザホテル
- 25) 伊藤智彰：コメンテーター 静岡食道がん web セミナー，12,2,2024
- 26) 上田脩平：パネリスト、静岡食道がん web セミナー，12,2,2024
- 27) 小泉明博：パネリスト、Gastric Cancer Clinical Seminar, 12,11,2024

5. 人事異動

異動

村井勇太 大学院 順天堂大学本院
 秋間龍之介 助手 静岡県立総合病院
 林睦実 助手 順天堂大学医学部附属練馬病院

退職

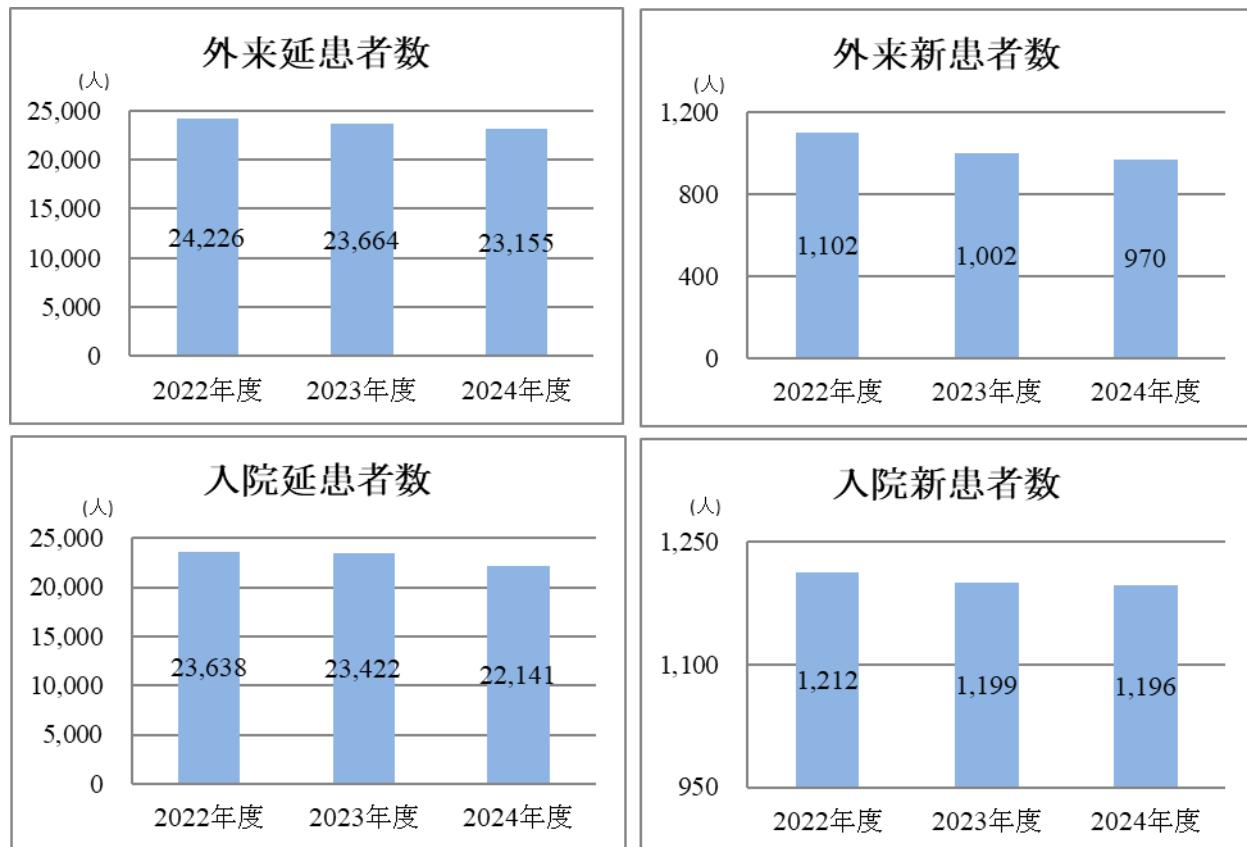
櫻田 瞳

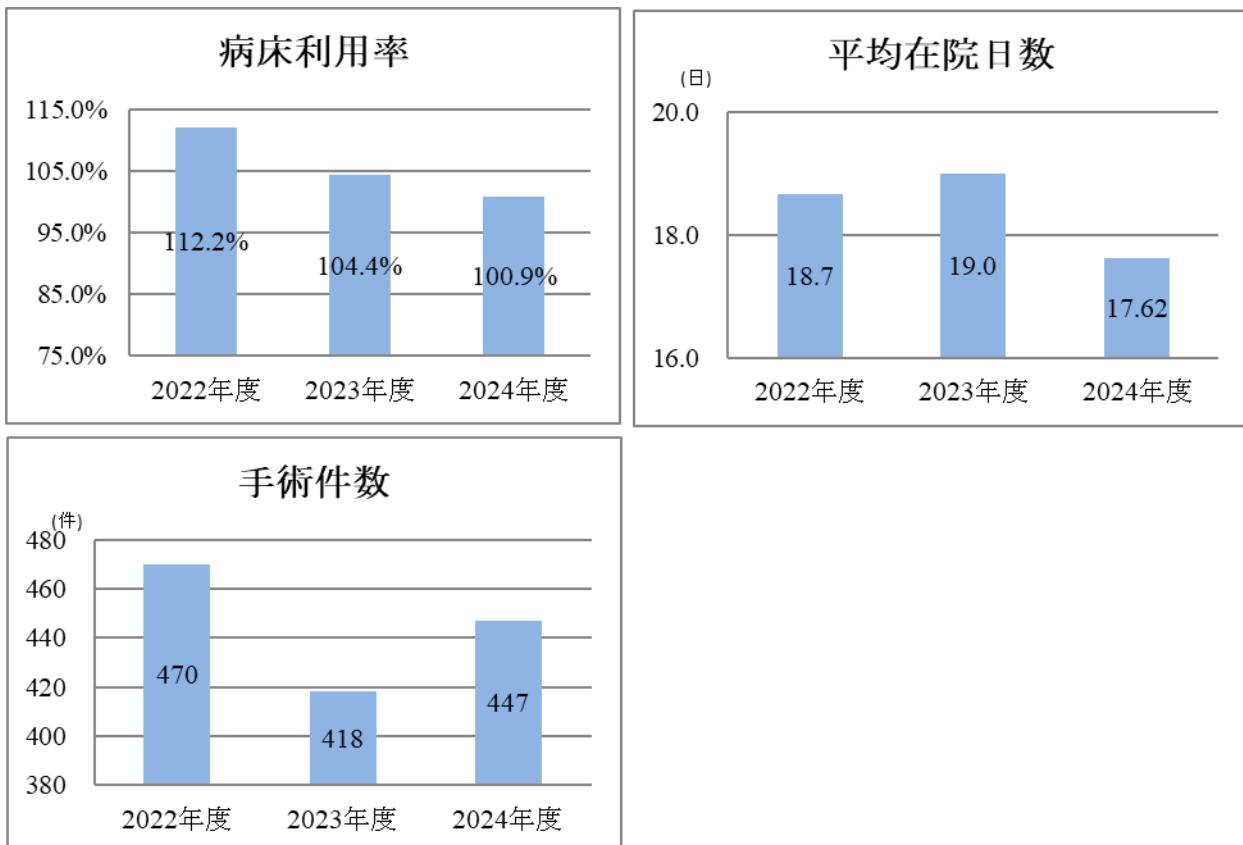
2-11 脳神経外科

診療実績

病床数	61 床
外来新患者数	979 人
年間入院数	1,185 人
手術総数	590 件
腫瘍（脳、脊髄、眼窩）	48
動脈瘤（開頭術/血管内治療）	53
AVM	3
血行再建術（CEA/CAS/バイパス術）	26
外傷	148
感染症	16
脊髄・脊椎疾患	11
機能外科	7
血栓溶解/血栓回収術	51
緊急手術数	377 (63.9%)
集光照射	28

(グラフ：年度（4月～翌3月）集計)





研究実績

英文原著

- Murai H, Yamamoto T, Nagasaka T : Purely Endoscopic Evacuation of Intracranial Hematomas. PubMed, 52 : 119-128, 2024

症例報告

- 室伏敬介, 中嶋伸太郎, 高木悠輝, 藤田修英, 足立知司, 眞上俊亮, 中尾保秋, 山本拓史 : 大型血栓化椎骨動脈瘤に対する直達手術と血管内手術併用療法の 1 例. 脳卒中の外科, 52 (6) : 459-463, 2024
- 赤崎安俊, 鬼木蘭丸, 中嶋伸太郎, 藤田修英, 足立知司, 春日千夏, 中尾保秋, 山本拓史 : 対側味覚障害を呈した左視床出血の一例. 脳卒中, 47:184-188, 2025

和文著書

- 山本拓史 : 神経内視鏡手術. 改訂 3 版 脳神経外科救急ハンドブック, MC メディカ出版, 195-198, 2024

学会発表

1. 檀 聰：内頸動脈内膜剥離術が奏功した hemichorea の 2 例. 第 105 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 福井, Apl. 13, 2024
2. 黒田清隆：高齢化地域における脳卒中の現状と課題. 第 37 回日本老年脳神経外科学会, 埼玉, Apl. 13, 2024
3. 山本拓史：健康寿命延伸につながる抗凝固療法～脳卒中 2 次予防への対策～. 第 44 回日本脳神経外科コングレス総会 ランチョンセミナー, May. 12, 2024
4. 西岡和輝：難治性てんかんに対する Vagus nerve stimulation の治療成績－小児例での検討－. 第 66 回日本小児神経学会学術集会, 愛知, May. 30, 2024
5. 西岡和輝：Vagus nerve stimulation の治療成績－小児例への検討－. 第 52 回日本小児神経外科学会, 富山, Jun. 8, 2024
6. 牧野健作：小脳血管芽腫の術後 12 年で髄液播種をきたした一例. 第 39 回日本脊髄外科学会, 大阪, Jun. 13, 2024
7. 藤田修英：SLE 患者に発症した腫瘍内膿瘍を伴う大脳錫錫膜腫の手術例. 第 15 回東海脳腫瘍手術手技研究会, 愛知, Jun. 15, 2024
8. 山本拓史：脳卒中急性期における血糖変動と栄養療法. 一般社団法人日本栄養治療学会 中部支部第 18 回支部学術集会, 愛知, Aug. 24, 2024
9. 山本拓史：脳卒中地域連携における急性期の栄養療法～GLIM 基準の現状と課題～. 一般社団法人日本栄養治療学会 中国四国支部第 16 回支部学術集会, Aug. 31, 2024
10. 西岡和輝：発作時 Modulation index 解析は発作起始領域の推定に有用である. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 福岡, Sep. 13, 2024
11. 藤田修英：The in vitro experiments of combination treatment with pyroxamide and SLC-0111 for diffuse intrinsic pontine glioma. 50th annual Meeting of the ISPN, Canada, Oct. 2024
12. 牧野健作：後頭葉に発生した乳頭状グリア神経細胞腫の 1 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 83 回学術総会, 神奈川, Oct. 17, 2024
13. 檀 聰：内頸動脈内膜剥離術が奏功した hemichorea の 2 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 83 回学術総会, 神奈川, Oct. 17, 2024
14. 山本拓史：Rich-trend trial における内視鏡下血腫除去術の病型別治療成績. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会, 東京, Nov. 8, 2024
15. 藤田修英：外傷性テント面急性硬膜下血腫に対する内視鏡下血腫除去術の一例. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会, 東京, Nov. 7, 2024
16. 黒田清隆：後頭蓋窩くも膜囊胞に伴う先天性水頭症に対する内視鏡手術. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会, 東京, Nov. 8, 2024
17. 中嶋伸太郎：小型未破裂脳底動脈ー上小脳動脈分岐部瘤に対して Neuroform Atlas stent が奏功した一例. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 熊本, Nov. 21
18. 池村涼吾：急性硬膜下血腫における減圧開頭術に関わる適応因子. 第 30 回日本脳神経外科救急学会, 東京, Feb. 6, 2025
19. 鬼木蘭丸：肺原性脳塞栓症に対して血栓回収による急性期血行再建を試みた中大脳動脈有窓形成の一例. 第 30 回日本脳神経外科救急学会, 東京, Feb. 6, 2025
20. 檀 聰：外傷性テント面急性硬膜下血腫に対する内視鏡下血腫除去の一例. 第 48 回日本脳神経外傷

学会, 東京, Feb. 22, 2025

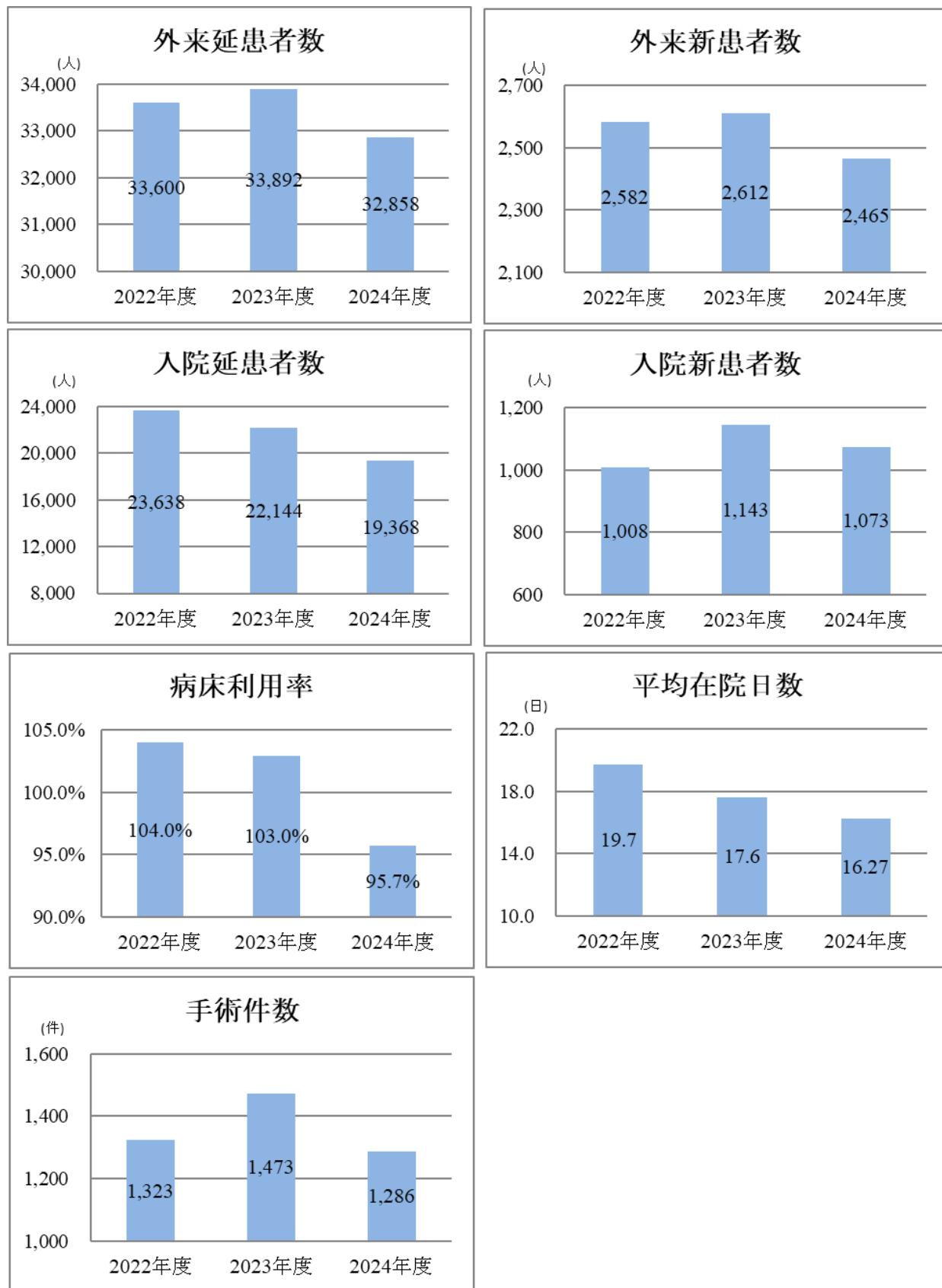
21. 山本拓史 : 脳卒中急性期における栄養療法の現状と課題. STROKE2025 ランチョンセミナー, 大阪, Mar. 6, 2025
22. 山本拓史 : 内視鏡下血腫除去術の適応と手術手技. STROKE2025 教育講演, 大阪, Mar. 7, 2025
23. 山本拓史 : 急性期脳内出血に対する低侵襲外科治療の新展開. STROKE2025 シンポジウム, 大阪, Mar. 8, 2025
24. 山本拓史 : 多施設共同登録研究 (RICH-trend) における出血病型と手術成績の検討. STROKE2025, 大阪, Mar. 8, 2025
25. 牧野健作 : 肺動静脈瘻による奇異性脳塞栓症の1例. STROKE2025, 大阪, Mar. 6, 2025
26. 渡邊碧音 : 内頸動脈内膜剥離術が奏功した hemichorea の2例. STROKE2025, 大阪, Mar. 6, 2025

講演会

1. 山本拓史 : 直接作用型第 Xa 因子阻害薬中和剤 アンデキサネットアルファの臨床的意義. Experience Sharing Symposium in Shizuoka, Sep. 25, 2024
2. 西岡和輝 : 地域連携と脳卒中診療. 脳卒中連携 Web セミナー, Sep. 27, 2024
3. 中尾保秋 : 抗血栓療法と頭蓋内出血. 脳卒中連携 Web セミナー, Sep. 27, 2024
4. 山本拓史 : 超高齢者時代における脳虚血性疾患に対する抗血栓療法. 脳卒中治療 up to date, Dec. 9, 2024
5. 山本拓史 : てんかんと認知症の最近の話題～周術期管理における抗てんかん薬の割合と MCI (レカネマブ) 外来の現状と課題～. 第 338 回東部 NS 会, Dec. 11, 2024
6. 山本拓史 : 出血性脳卒中における Seizure マネージメントとてんかんリスク. ISCVD2025, Feb. 15, 2025
7. 山本拓史 : 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳血管障害てんかん診療 WEB セミナー-in 静岡, Feb. 27, 2025

2-12 整形外科

診療実績



研究・教育活動

英文原著

- Takahiro Maeda, Osamu Obayashi , Muneaki Ishijima, Taichi Sato, Yoshiro Musha Hiroyasu Ikegami:Finite element analysis of mechanical stress in a cementless tapered-wedge short stem in the varus position. Journal of Orthopaedic Surgery and Research (2024)19:385-392
Akio Kanda, Osamu Obayashi, Atsuhiko Mogami1, Itaru Morohashi, Muneaki Ishijima Total hip arthroplasty with subtrochanteric femoral shortening osteotomy using a monoblock cylindrical cementless stem for severe developmental hip dysplasia (Crowe type III, IV) (2024)

和文原著

1. 東 浩輔, 分島 智子, 守屋 秀一, 神田 章男, 諸橋 達, 最上 敦彦, 大林 治. 肩鎖関節における Pseudodislocation の 1 例. 静岡整形外科医学雑誌 16 卷 1-2 号 Page24-27(2023.12)

和文著書

1. 2 章 2-5. 不安定型骨折に対する髓内釘③ フックピンネイル. 大腿骨近位部骨折・大腿骨頸部・転子部・転子下骨折の手術手技. 監修: 高平 尚伸, 最上 敦彦. 編集: 神田 章男, 北田 真平メディカ出版, 2024,
2. 守屋 秀一 最上 敦彦 骨折・骨折癒合症に対する RSA 関節外科 基礎と臨床 特集:リバース型人工肩関節置換術(RSA)の最前線 メジカルビュー社 2024 年 7 月 19 日 47-56
3. 守屋 秀一 上腕骨近位端骨折 上肢外傷 手術の朝に読む本 中外医学社 2024 年 6 月 1 日

国内学会発表

1. 糸井 陽
骨粗鬆症椎体骨折変形治癒に対する様々な術式～基本手技から応用手技まで～
第 25 回静岡県骨軟骨代謝・骨粗鬆症研究会 静岡 2024 年 2 月 3 日
2. 分島 智子
観血的脱臼整復を要した外傷性股関節後方脱臼の検討
第 26 回救急整形外傷シンポジウム 沖縄 2024 年 2 月 9 日-10 日
3. 最上 敦彦
骨盤輪骨折治療～Spinal Instrumentation の有効利用～
第 26 回救急整形外傷シンポジウム 沖縄 2024 年 2 月 9 日-10 日
4. 守屋 秀一
1.高齢者の上腕骨近位端骨折に対するリバース型人工肩関節全置換術(RSA)の術後成績
第 26 回救急整形外傷シンポジウム 沖縄 2024 年 2 月 9 日-10 日
5. 神田 章男
牽引台使用人工股関節全置換術における重力加速度を用いた簡易ホーリブルヒゲーション(HipAlign)の精度改善方法
第 54 回日本人工関節学会学術集会 京都 2024 年 2 月 23 日-24 日
6. 最上 敦彦
2.TKA 周囲大腿骨骨折に対する髓内釘固定-その適応と問題点-
第 54 回日本人工関節学会学術集会 京都 2024 年 2 月 23 日-24 日

7. 井上 弘章
術後 23 年でセメントレスシステムの体部が折損した人工股関節全置換術
第 54 回日本人工関節学会学術集会 京都 2024 年 2 月 23 日-24 日
8. 守屋 秀一
RSA における ARROW の術後可動域と画像評価
第 54 回日本人工関節学会学術集会 京都 2024 年 2 月 23 日-24 日
9. 糸井 陽
Fusion with C1 Posterior Arch as Bone Graft
The 6th ISMISS combined with The 16th MISS Summit Forum 愛知 2024 年 3 月 15 日-16 日
10. 森川 嵩大 最上 敦彦 諸橋 達 分島 智子 藤本 華奈 大林 治
足関節骨折術後に checkrein deformity を生じた 2 例
第 203 回静岡県整形外科医会集談会 2024 年 3 月 23 日
11. 最上 敦彦
上腕骨遠位端骨折術後に橈骨神経麻痺・偽関節・関節拘縮を併発した相談症例
第 66 回福岡整形外科外傷研究会 福岡県 2024 年 4 月 13 日
12. 守屋 秀一
肩甲下筋断裂腱サイズと上腕骨後捻角について
第 97 回日本整形外科学会学術総会 福岡 2024 年 5 月 24 日-26 日
13. 神田 章男
非吸収性人工韌帯(Broad Band ループ)における関節包韌帯縫合は仰臥位前方進入人工股関節全置換術における外旋を制動する
第 97 回日本整形外科学会学術総会 福岡 2024 年 5 月 24 日-26 日
14. 守屋 秀一
上腕骨近位端骨折に対する RSA の臨床成績:当施設におけるイプ ルト比較を通じた分析
第 50 回日本骨折治療学会学術集会 宮城 2024 年 6 月 28 日-29 日
15. 藤本 華奈, 最上 敦彦, 分島 智子, 木原 航, 森川 嵩大, 大林 治.
距骨脱臼骨折に対する staged operation.
第 50 回日本骨折治療学会 仙台 2024 年 6 月 28 日~29 日
16. 分島 智子, 最上 敦彦, 大林 治.
外傷性股関節脱臼における整復阻害因子の検討.
第 50 回日本骨折治療学会 仙台 2024 年 6 月 28 日~29 日
17. 森川 嵩大, 最上 敦彦, 諸橋 達, 分島 智子, 藤本 華奈, 大林 治.
足関節骨折術後に checkrein deformity を生じた 2 例.
第 50 回日本骨折治療学会 仙台 2024 年 6 月 28 日~29 日
18. 井上 弘章, 神田 章男, 守屋 秀一, 分島 智子, 諸橋 達, 最上 敦彦, 大林 治, 石島 旨章.
大腿骨システム周囲骨折に対する、術中安定性テストによるシステムの弛み評価.
第 50 回日本骨折治療学会 仙台 2024 年 6 月 28 日~29 日
19. 最上 敦彦
転子部骨折はすべてネイル固定が正しいのか!?-AI に対してもネイルを使うの?はい、使います!
第 50 回日本骨折治療学会学術集会 宮城 2024 年 6 月 28 日-29 日
20. 神田 章男
大腿骨システム周囲骨折に対する術中安定性テストによるシステムの弛み評価
第 50 回日本骨折治療学会学術集会 宮城 2024 年 6 月 28 日-29 日

21. 古城 智也 糸井 陽 深澤 大旭 大林 治
切除後弓を骨移植として用いる C1-2 固定術
第 14 回最小侵襲脊椎治療学会 岡山 2024 年 6 月 28 日-29 日
22. 糸井 陽
PPS のスクリューヘッド を体外で再現する プラグイン・ヤスタ-
第 14 回最小侵襲脊椎治療学会 岡山 2024 年 6 月 28 日-29 日
23. 糸井 陽
切除後弓を移植骨とした C1-2 固定術
第 31 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 栃木 2024 年 10 月 11 日-12 日
24. 守屋 秀一
Laterallization の大きいインプラントであり ARROW と術後短期成績
第 51 回日本肩関節学会 京都 2024 年 10 月 25 日-26 日
25. 守屋 秀一
鳥口突起と上腕骨後捻角の形態は肩甲下筋腱断裂と関連があるのか?
第 51 回日本肩関節学会 京都 2024 年 10 月 25 日-26 日
26. 守屋 秀一
鏡視下骨孔法に加えて筋前進法を併用した腱板修復の有用性
第 51 回日本肩関節学会 京都 2024 年 10 月 25 日-26 日
27. 渋谷 研太
鳥口鎖骨韌帯修復のための鳥口突起と鎖骨の位置関係の検証
第 51 回日本肩関節学会 京都 2024 年 10 月 25 日-26 日
28. 富澤 杏奈
高齢者に生じた肩甲骨関節窩骨折にナビを用いて RSA を行った経験
第 51 回日本肩関節学会 京都 2024 年 10 月 25 日-26 日
29. 神田 章男
非吸収性人工韌帯(Broad Band ループ)による関節包韌帯縫合は仰臥位前進進入人工股関節全置換術における外旋を制動する
第 51 回日本股関節学会学術集会 岡山 2024 年 10 月 25 日-26 日
30. 最上 敦彦
投球骨折髓内釘固定後再投球骨折の 1 例
第 67 回福岡整形外科外傷研究会 福岡 2024 年 10 月 5 日
31. 布谷 茉莉香
小児整形外科医になるために～導入編～
第 51 回日本股関節学会学術集会 岡山 2024 年 10 月 25 日-26 日
32. 渋谷 研太 守屋 秀一 最上 敦彦 大林 治 富澤 杏奈
Laterallization の大きいインプラントである ARROW の術後成績
静岡 第 205 回静岡県整形外科医会集談会 2024 年 11 月 30 日
33. 深澤大旭、古城智也、糸井陽、大林治
転移性脊椎腫瘍の病的骨折による脊椎短縮変形に対して椎間固定用ケージを用いて後方侵入椎体亜全摘をおこなった 3 例
三島 第 45 回静岡骨軟部腫瘍研究会 2024 年 3 月 2 日

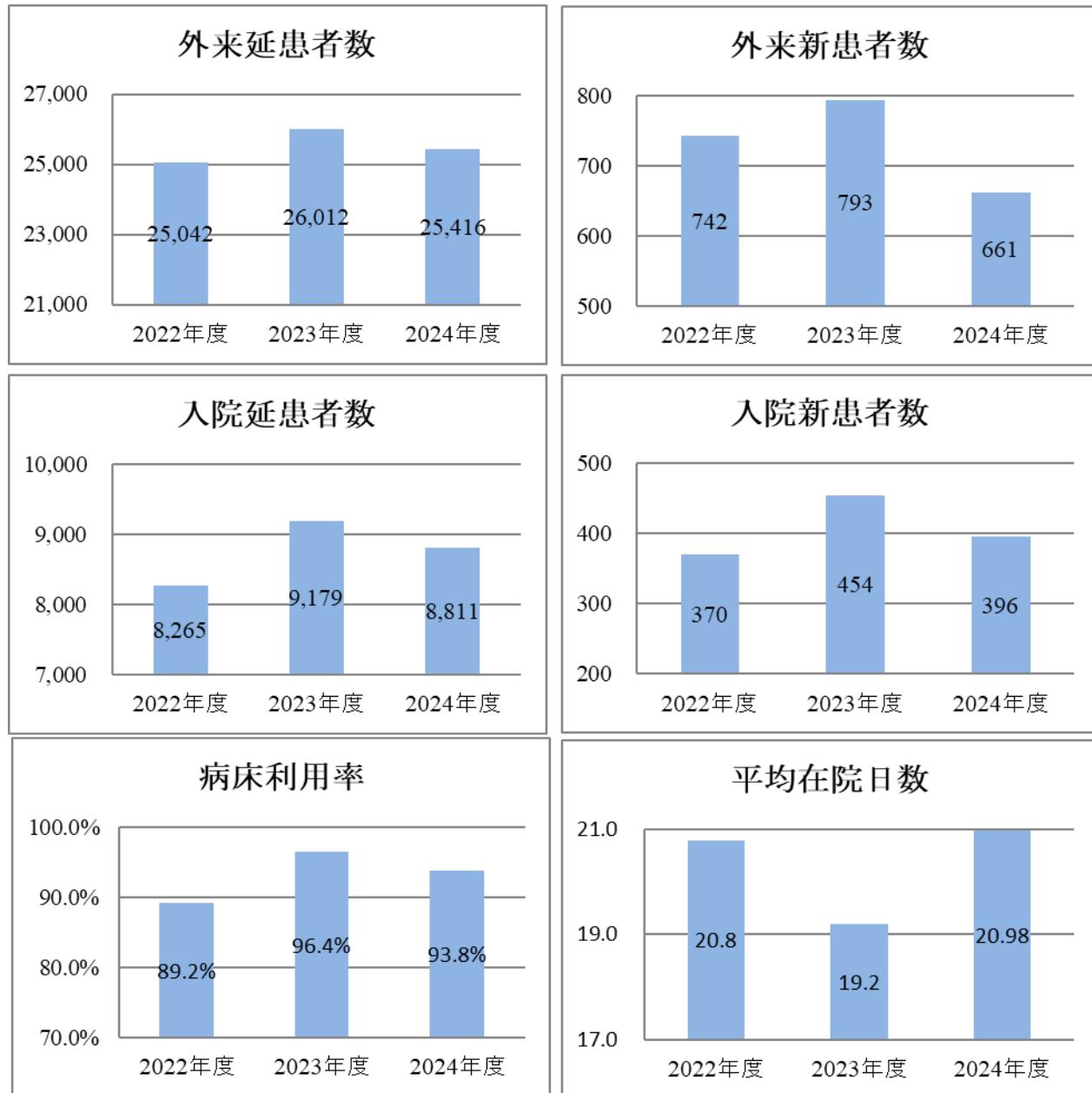
特別講演・招待講演

1. 分島 智子
Staged operation を要した横骨折成分を含む寛骨臼骨折の2例.
Total Care Seminar of Trauma 第一三共 Web. 2024年1月31日
2. 糸井 陽
牽引性脊髄損傷の概念の提唱～圧迫なし、輝度変化なし、しかも遅発性?その受傷動画と共に～
Pain Management Forum 西湘 静岡 2024年2月17日
3. 諸橋 達
若年者頸部骨折に対するTHA 50歳以下の転位型大腿骨頸部骨折の治療
静岡 2024年2月2日
4. 糸井 陽
後頸部神経因性疼痛との戦い 上位頸椎疾患から牽引性脊髄損傷まで
整形外科地域連携WEBセミナー～脊椎疾患について考える～ 静岡 2024年3月1日
5. 大林 治
骨粗鬆症治療の最近の診断と治療
清水薬剤師会研修会 静岡 2024年3月9日
6. 最上 敦彦
髓内釘を極める～至適選択と知的戦略～
第9回黒潮整形外傷カンファレンス 高知 2024年3月25日
7. 分島 智子
上肢の髓内釘固定
第9回黒潮整形外傷カンファレンス 2024年3月25日
8. 守屋 秀一
骨折症例で術前シミュレーション・ナビゲーションを使用する有用性
瀬戸内上腕骨近位端骨折セミナー 2024年4月5日
9. 最上 敦彦
髓内釘固定の適応 ゆずれないコツ
瀬戸内上腕骨近位端骨折セミナー 2024年4月5日
10. 佐藤 和生. Codinator: 土田 芳彦, 最上 敦彦. Speaker: 分島 智子, 鈴木 雅生.
外傷整形外科ラウンジ-それって、本当のところどうなんですか?
Web. 2024年5月19日
11. 分島 智子
一般演題 48 大腿骨骨折 2
第50回日本骨折治療学会 仙台 2024年6月28日～29日
12. 筒井 完明. 講 師: 入江 悠子, 小川 高志, 佐藤 俊介, 佐藤 亮, 鈴木 啓介, 鈴木 雅生, 反町 光太朗,
対比地 加奈子, 濱田 大志, 林 洋太, 林 悠太, 松井 裕帝, 松橋 美波, 松本 匡洋, 分島 智子.
骨折治療てらこや -小児上腕骨顆上骨折, 大腿骨転子下骨折(非定型), 開放骨折の初期治療, 骨盤骨折の初期治療-
第50回日本骨折治療学会 仙台 2024年6月28日～29日
13. 神田 章男
順天堂静岡病院における血友病関節症診療
血友病診療連携カンファレンス IN 静岡東部 ZOOM 2024年7月3日

14. 分島 智子
大腿骨遠位端骨折-C Type にネイルなんて不適切にもほどがある?-
Gamma 4 & T2 Alpha Storm Seminar in Fukuoka, 福岡, 2024年9月7日
15. 林 悠太. 講師: 分島 智子, 小野瀬 喜道, 佐藤 亮, 横尾 賢, 米津 大貴, 総合 coordinator: 野坂 光司,
監修: 土田 労彦.
外傷整形外科 Web シンポジウム踵骨骨折～日本の『イマ』を知る！～Web. 2023年9月30日
16. 最上 敦彦
Common Fracture の今～適応な治療の道標(神経障害性疼痛への対応を含めて)～
富士市医師会学術講演会 静岡 2024年10月4日
17. 分島 智子, 松本 匡洋.
第一部: 皮弁をアゲるための知識の底アゲ! 初級者向けレクチャー
第10回日本重度四肢外傷シンポジウム 福島 2024年11月15日～17日
18. 分島 智子
骨盤輪骨折の初期治療を学ぼう!
J-SWAT presents 整形外傷塾. ecasebook. Web. 2024年12月4日
19. 最上 敦彦
本邦における整形外傷の変遷と今後の課題
第11回九州重度四肢外傷セミナー 鹿児島 2024年12月21日

2-13 脳神経内科

診療実績



【はじめに】

2024年度の静岡病院脳神経内科では、医局員の先生方共々、忙しい日々を送ってまいりましたが、大きな問題もなく順調な運営に協力して頂き感謝申し上げます。

当科は引き続き、静岡県東部地区の数少ない神経内科専門の診療科の使命を全うすべく、以下の点に注意し診療活動を行っております。外来診療では、初診や紹介患者は来院してから待ち時間を最小限にするよう、可及的速やかな初期対応を継続しております。外来患者数も徐々に増加傾向であります。入院患者の診療でも医師同士の連携を密に行い、私も1日1回は必ず病棟を自分で回診するなどのサポートを継続し、医療安全の面でも最善を尽くして参ります。

研究面では、恵まれた環境を生かして20年の間1度も欠かさず地方会発表を継続し、発表例を含め、臨床上意義のある症例は論文として発表して参りました。少しずつ論文化を継続しております。

初期研修医の教育も重要です。静岡病院は1ヶ月ずつのローテーションなので、まず神経学のエッセンシャルを吸収していただければと思います。1年目に脳内をローテーションして興味を持ち、2年目にも選択してくれる研修医も出てきて、大変ありがたいことであると感じます。2020年は、静岡病院への学生さん(M4からM5)のローテーションがなく、残念でしたが、来年度以降のラウンドでは、教育をしっかりと行い、静岡病院の初期研修医を増やし、さらには神経学教室への入局者増加に貢献したいと考えております。

当科の人事ですが、安藤真矢と星野 泰延医師らが中核として、診療及び教育にリーダーシップを発揮してくれています。安藤医師は、准教授に昇進し静岡病院の各科と緊密に連携しリーダーシップを発揮しております。星野医師は、医局の中心として診療のみならずローテーションの医師、研修医の指導を熱心に行っております。さらには、継続して自治医大出身の下田メディカルセンター勤務の医師を週1日受け入れ、専門医として教育を行ってくれています。当科の筋電図の件数を減らすことなく継続しております。これまでの歴代教授・医局長・教室の諸先生のご理解に感謝するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜ればありがたく存じます。

【スタッフ (R7年6月現在)】

野田和幸(教授)、大熊泰之(特任教授)、松島隆史(医局長・准教授)、椎名健太(病棟医長・助教)、代田健祐(助教)、ローテーションで、卒後3-5年目の各先生が3ヶ月ごとに1-2名ずつ勤務し、病棟・救急外来等で活躍してくれました。

【診療データ】

外来患者数ですが、月平均90人で昨年とほぼ同等でした。

例年通り沼津、三島、伊豆半島全域をはじめ、熱海、湯河原、御殿場、裾野、富士、富士宮などから通院しておられます。静岡市、東京都、山梨県からもパーキンソン病や運動障害の患者さんが通院されました。富士市の池辺クリニック、静岡市の城西クリニック、富士宮市の東静脳神経センター、三島市の森本神経内科クリニックといった、当科出身の諸先生方からも随時ご紹介頂き、大変光栄に思います。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

病棟は4B病棟で眼科と脳神経内科の2科体制であります。看護師さんらスタッフも眼科は動ける患者さんが多いものの入退院が激しく、脳神経内科は介護度が高く大変だと思いますが、慣れてきたようです。入院患者の総数は500人(兼科含む)で昨年と横ばいでいた。パーキンソン病

の入院患者が最も多く、次いで脳梗塞の患者でした。その次がALS、痙攣などの運となっていました。その他、ほぼ神経学のすべての領域の症例を診療しております。平均在院日数は、ほぼ年間を通じて20日以内達成を継続できており、MSWや退院支援ナースの働きには常に感謝しています。

病病連携、病診連携の重要性も常に認識しています。また長岡リハビリテーション病院、松崎研一郎院長はじめスタッフの皆様には、患者さんだけでなく教室員が毎度お世話になっております。さらに日頃からお世話になっている病院・医院の先生方や施設の方々にも心から御礼申し上げます。

【研究】

(1) パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究 :

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とREM睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、昨年症例登録が終了しました。解析結果が楽しみです。

重度嗅覚障害をともなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べるDASH-PD試験も無事終了しました(厚生労働科学研究費補助金[現AMED臨床研究・治験推進研究事業];平成24年~28年度[分担研究者])。イベント発生率が少ない関係で1年間延長になりましたが、当院では全国で4番目に多い12例をエントリーしてフォローしています(大熊、野田)。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています(大熊)。

大熊はオランダのProf. Bas Bloemと共に、日内変動とすぐみ足を有するパーキンソン病における転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすぐみ足を客観的に評価する試みを継続しています。

野田は不随意運動を呈する例をこれまでに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続しようと考えております。

さらに、徳島大学主導での高用量E0302の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験-医師主導治験-に参加し、症例を登録いたしました。引き続き、アンケート調査への協力も参加する予定です。静岡東部地域での遠隔診療を準備中です。

(2) 脳血管障害に関する研究 :

脳血管障害グループの先生からの依頼で、心房細動の実態把握と予後調査のための患者登録研究(RAFFINE)に参画し、17例登録を行い無事終了となりました。

(3) 神経免疫学的研究 :

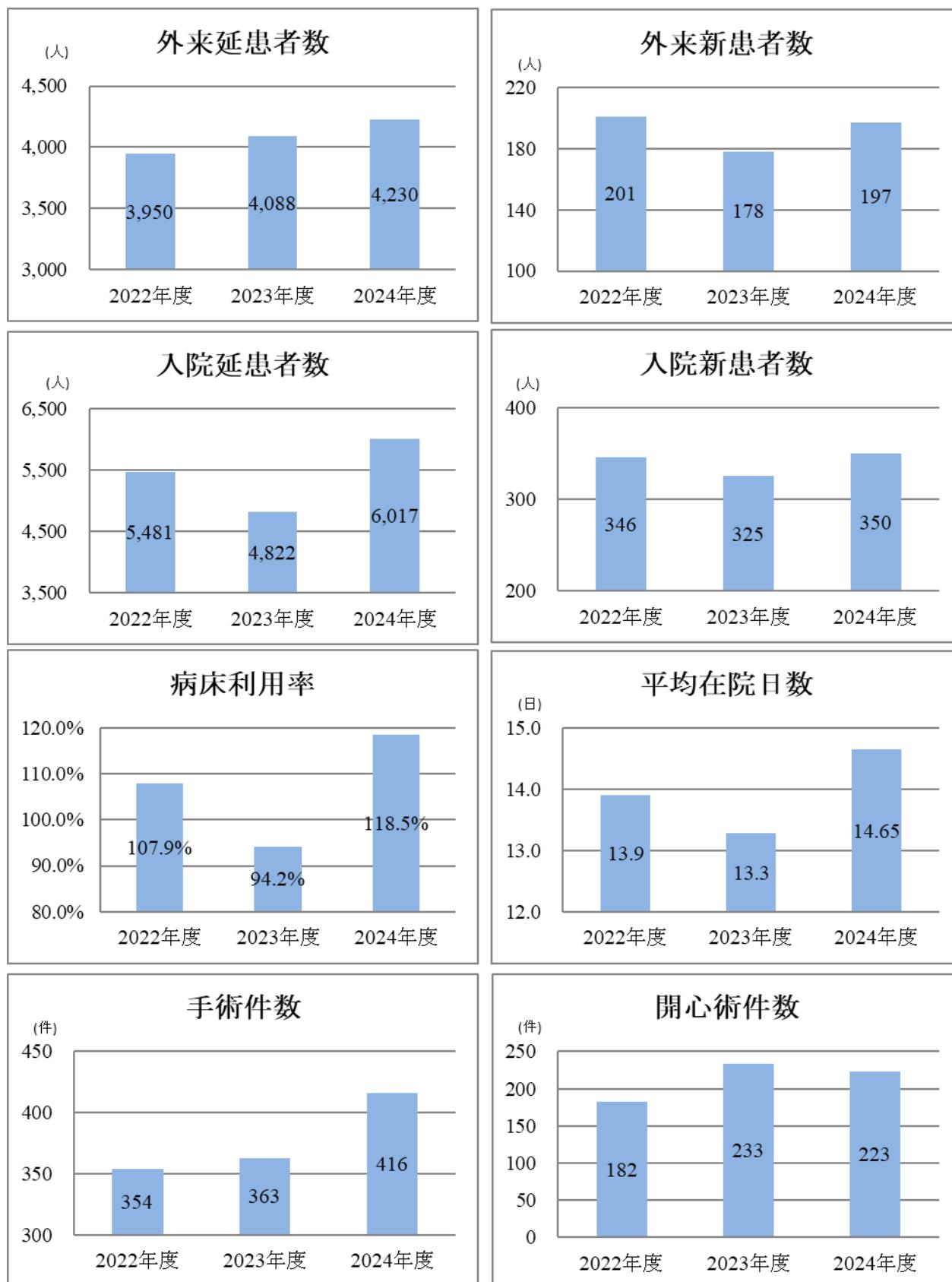
多発性硬化症に対して使用できるようになった種々のDisease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。

【研究業績、活動等】

日本神経学会関東地方会へ年4回欠かさず報告しております。

2-14 心臓血管外科

診療実績



診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在5人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域ですが、心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

平成2024年度の1年間で心臓胸部大血管手術223例(TAVIおよびTEERを含む)、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計431例の手術を実施しました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation) 循環器内科とともにハートチームとして行っています。ハートチームとしては現在3名のTAVI指導医、2名のTAVI実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者やfrail症例、また透析症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術(MICS; Minimally Invasive Cardiac Surgery)を積極的に行っております。この手術は3-6cmの小さな皮膚切開から行う弁膜症手術であり順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。さらに2024年にはロボット支援下心臓手術を開始いたしました。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する開胸手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様やfrail症例に対して行われる血管内治療ですが、従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術(CABG)ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択によるCABGは術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのために遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。大動脈疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っており、我々の取組みとその成果を学会に報告しております。

2024年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVIやロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとすることを目指といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の3分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

① 原著（英文）

1. Oda R, Kajimoto K, Yamamoto T, Endo D, Kinoshita T, Amano A, Tabata M. Long-Term Outcomes of Coronary Artery Bypass Grafting Using an Internal Thoracic Artery versus a Radial Artery as a Second Arterial Graft. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024;30(1):24-00029

② 症例報告（英文）

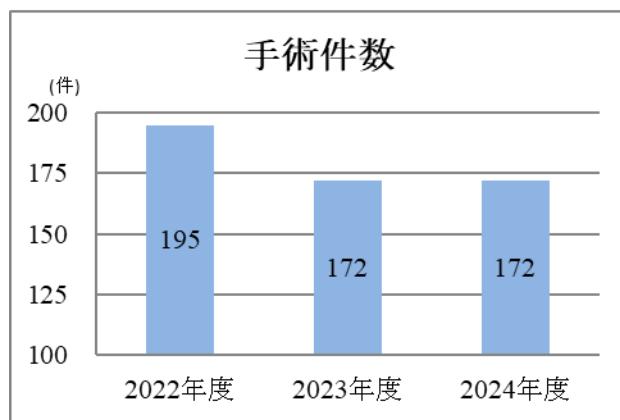
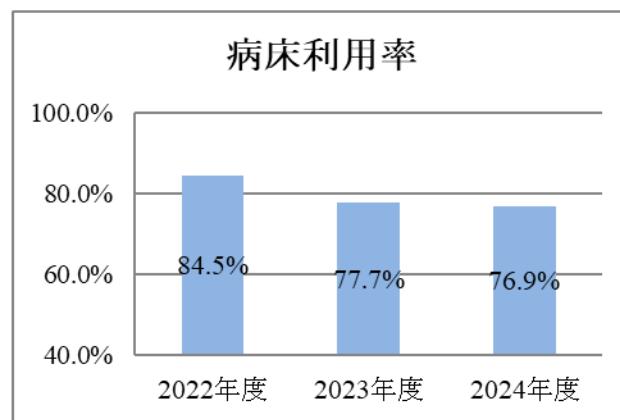
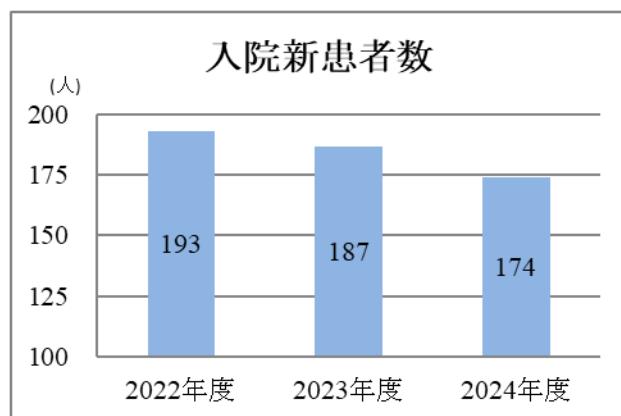
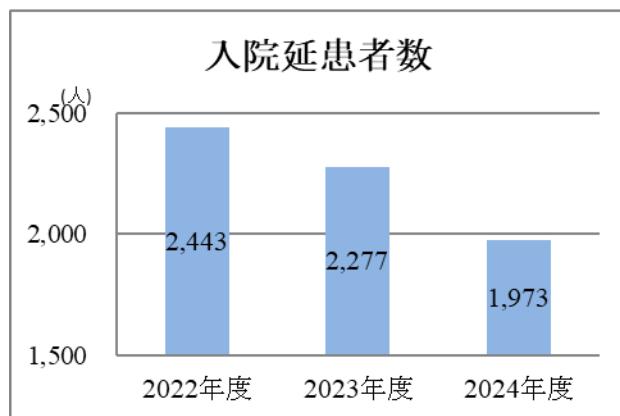
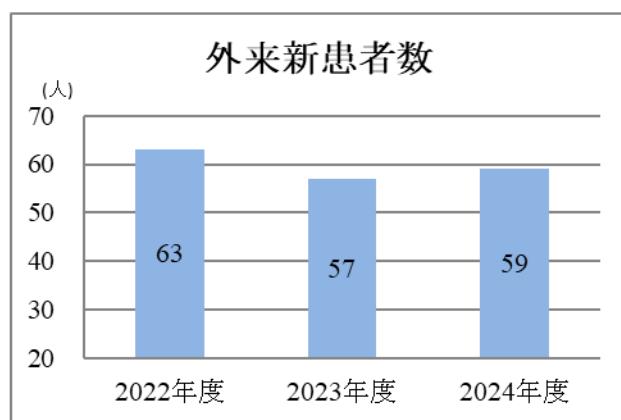
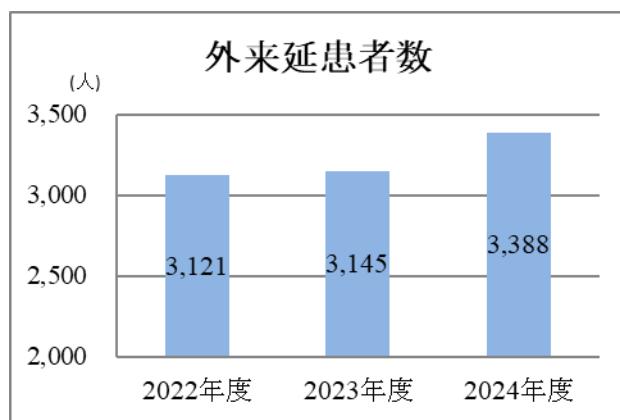
1. Tanaka T, Kinoshita T, Endo D, Tabata M. Simultaneous beating-heart mitral valve replacement and aortic repair following Bentall procedure via double right mini-thoracotomies: a case report. Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2024 Sep 20;3(1):43

③ 学会発表および講演（国内）

1. 梶本 完：心拍動下の速くきれいな冠動脈吻合を科学する. 第37回日本冠疾患学会学術集会. 11月30日
2. 梶本 完：高齢者やハイリスク患者に対する取り組み. 第16回 静岡県東部心臓血管外科循環器科連携の会. 2月9日
3. 梶本 完：座長. 第46回 静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス. 4月13日
4. 梶本 完：座長. 第68回 静岡県心臓血管外科医会. 9月13日
5. 田中利昌：拡張型心筋症に対して完全鏡視下・心拍動下に左室内血栓摘出および僧帽弁輪形成術を実施した1例. 第46回 静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス. 4月13日
6. 田中利昌：肋間動脈仮性瘤破裂および急性B型大動脈解離を同時診断し両者に対して血管内治療を施行し救命した1例. 第67回関西胸部外科学会学術集会. 6月13日
7. 田中利昌：心房性ナトリウム利尿ペプチドによる心筋線維化抑制効果の細胞生物学的検討. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 11月1日
8. 大山徹真：当院における胸部大動脈瘤に対するNajuta+C-TAGを使用した4症例. 第5回静岡県血管外科症例検討会. 7月14日
9. 大山徹真：腸骨動脈アクセス不良を伴う重複大動脈瘤に対して開腹Yグラフト置換術とTEVARを一期的に実施した1例. 第68回 静岡県心臓血管外科医会. 9月13日

2-15 呼吸器外科

診療実績



研究・教育活動

1) 英文原著

1. Hideomi Ichinokawa, Kazuya Takamochi, Mariko Fukui, Aritoshi Hattori, Takeshi Matsunaga, Kenji Suzuki. Investigating the predictive factors of thoracic aortic invasion and surgical outcomes in patients with primary lung cancer: A retrospective study. Thorac Cancer. 2024; 15: 1263-1270.
2. Takashi Yaguchi, Hideomi Ichinokawa, Eiji Kirino, Mikiko Suzuki, Kazuyuki Komori, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. Predictive factors for postoperative delirium in thoracic surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024; 72: 599-607.

2) 学会発表

国内発表

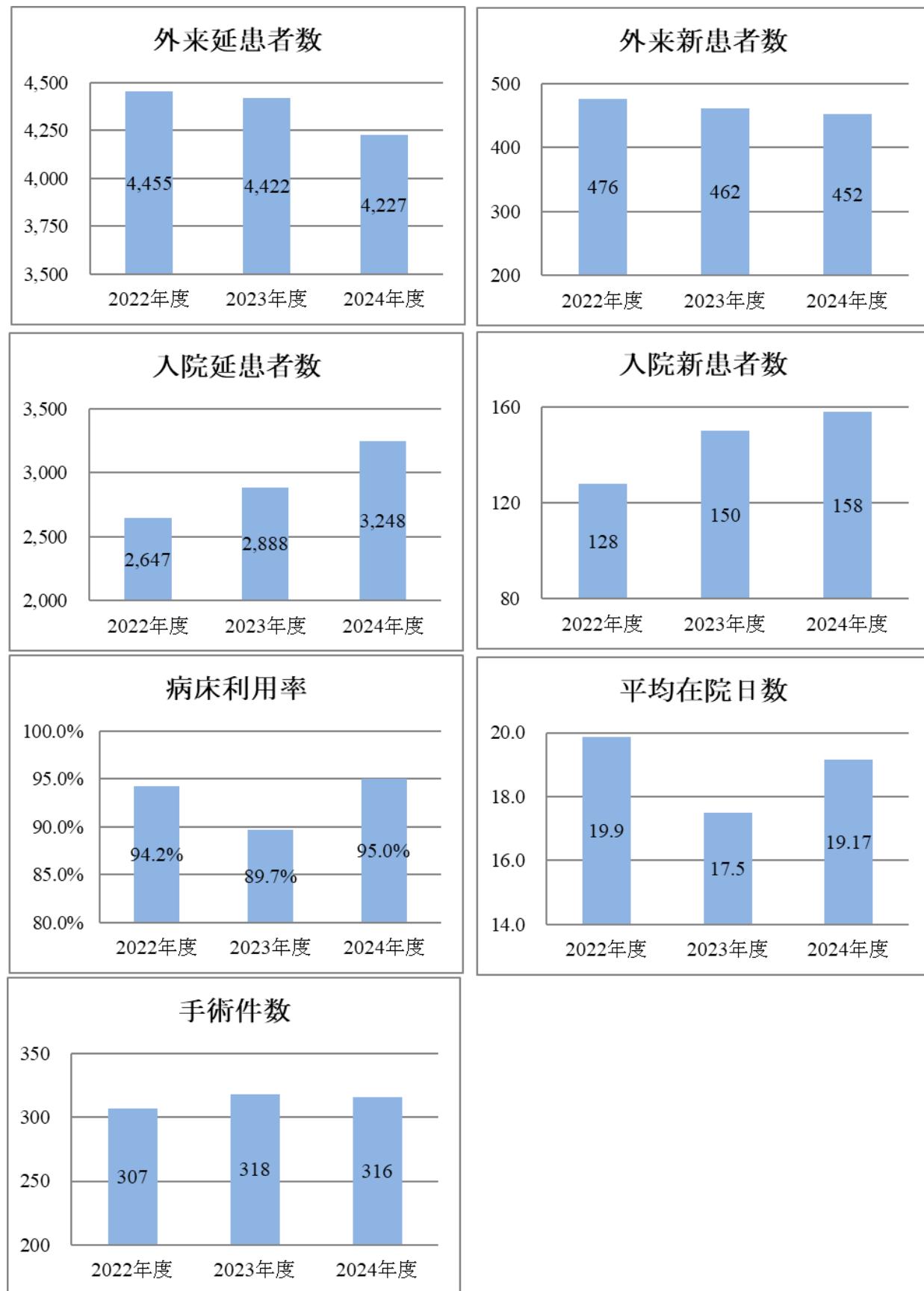
1. 左主気管支に発生した腺様囊胞癌に対し主気管支切除・再建術を施行した一例 曽和嵩、谷口敬、市之川英臣 令和6年冬季例会、浜松、2024年2月17日
2. 原発性肺癌における胸部大動脈浸潤の予測因子 市之川英臣、高持一矢、福井麻里子、服部有俊、松永健志、鈴木健司 第41回日本呼吸器外科学会総会、長野、2024年5月31日
3. 呼吸器外科領域における術後せん妄の術前予測因子と治療成績 谷口敬、市之川英臣、曾和嵩、鈴木未希子 第41回日本呼吸器外科学会総会、長野、2024年6月1日
4. 胸骨正中切開術後に発生した胸骨骨髓炎に対し腐骨除去及び有茎大網移植術を施行した一例 曽和嵩、谷口敬、市之川英臣 令和6年夏季例会、浜松、2024年8月3日
5. 気管・気管支腺様囊胞癌(ACC)の手術成績・予後についての検討 市之川英臣、曾和嵩、谷口敬、鈴木未希子 第65回日本肺癌学会学術集会、横浜、2024年10月31日

3) 人事異動

鈴木 未希子 4月から順天堂（静岡）呼吸器外科から順天堂（本郷）呼吸器外科に移動

2-16 形成外科

診療実績



研究・教育活動

和文業績

- ・和文論文（原著）

苅部綾香、東名怜、溝渕亮、池井優香、山本はる、田中里佳

下肢切断予防としての患者指導介入

日本フットケア・足病医学会誌 6(1):38-45,2025

学会発表（国内）

- ・シンポジウム

苅部綾香

シンポジウム「血行再建後の足潰瘍治療の標準化：この足どう治す？」

第1趾 MTP 関節に至る壊死を認める症例には「断端形成」を目指したい

第5回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2024年神戸）

- ・一般演題

小林弘人、諏訪健志、苅部綾香

外傷を契機に発生した浅側頭動脈瘤が破裂し緊急手術を要した一例

静岡県形成外科医会 第58回例会（2025年静岡）

- ・セミナー講師

苅部綾香

ランチョンセミナー「2つの目線から見た院内・院外連携について」

～1st view point 大学病院～

第5回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2024年神戸）

苅部綾香

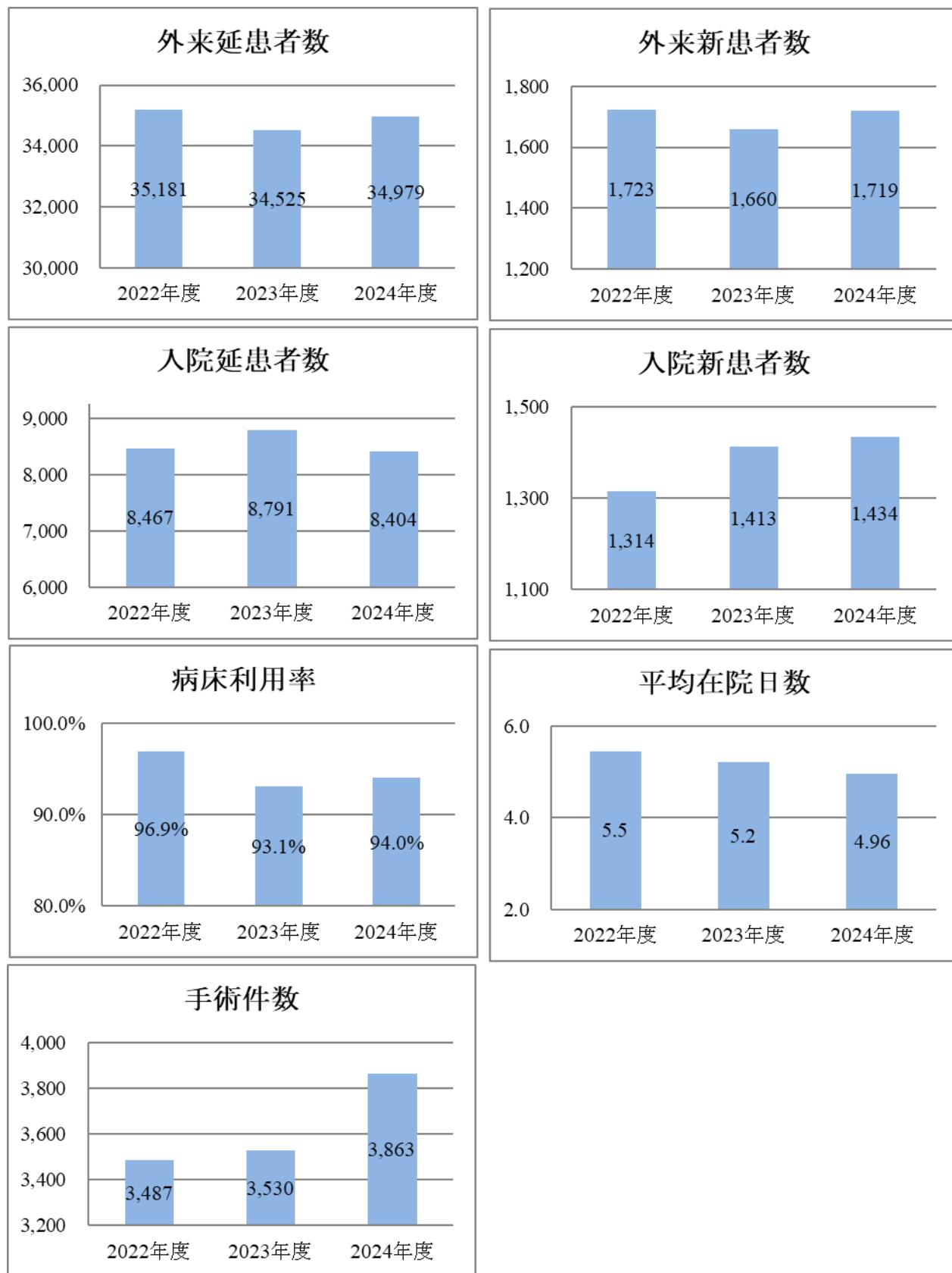
スイーツセミナー「創傷の一歩先へ、M.O.I.S.T.を活用しよう！」

実臨床における新たなコンセプト：M.O.I.S.T.の活用

第5回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2024年神戸）

2-17 眼科

診療実績



研究・教育活動

【原著和文】

1. 桐山 雅通, 土至田 宏, 小森 翼, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 中尾 新太郎 : 難治性角膜潰瘍による角膜穿孔に強膜移植術が有効であった 1 例, 臨床眼科, 2024.04 ; 78(4) : 491-497

【原著英文】

1. Hiroshi Toshida, Yusuke Matsuzaki, Masahiro Miyazaki : Experimental Study on Ocular Surface Protection by Soft Contact Lenses Due to Volcanic Ash Exposure. J Clin Med. 2024 Sep 6;13(17):5281.
2. Hiroshi Toshida : Surgical Technique for Oral Mucosa Harvesting in Autologous Cultivated Oral Mucosal Epithelial Cell Transplantation for Ocular Surface Disorders. Cureus. 2024 Sep 18;16(9):e69648.
3. Yota Kikuchi, Hiroshi Toshida, Junji Ono : A Case of Bacterial Keratitis in a Patient Using Orthokeratology and Soft Contact Lenses. Cureus. 2024 Sep 5;16(9):e68717.
4. Koichi Taguchi, Hiroshi Toshida, Saya Kimura, ○Chikako Suto : A Case of Sympathetic Ophthalmia After Corneal Perforation. Cureus. 2024 Nov 27;16(11):e74579.
5. Ken Nagino, PhD, Takenori Inomata, MD, PhD, MBA Jaemyoung Sung, MD, Toshihiko Ohta, MD, PhD, Akie Midorikawa-Inomata, RN, MPH, PhD, Gaku Ishida, MD , Keiji Inagaki, MD, PhD, Atsuko Eguchi, PhD , Masahiro Yamaguchi, MD, PhD Satoru Nakatani, MD, PhD, Kenta Fujio, MD, PhD, Hiroyuki Kobayashi, MD, PhD Shintaro Nakao, MD, PhD: Postoperative complications of intrascleral intraocular lens fixation: A systematic review and meta-analysis. Survey of Ophthalmology. 2024 Dec 12;

【総 説】

1. Hiroshi Toshida, Akiko Matsuzawa, Shizuka Koh, Yuichi Hori: History of Lens Care Products in Japan: Insights From Advertisements in the Journal of the Japan Contact Lens Society for 65 Years. Eye & Contact Lens: Science & Clinical Practice. 50(12):522-526,
2. 土至田 宏 : 【今,あらためてコンタクトレンズについて学ぼう!】新しいコンタクトレンズ 抗アレルギー剤含有コンタクトレンズについて知っておこう, 臨床眼科, 2024.01 ; 78(1) : 92-97
3. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く CLEARについて, あたらしい眼科, 2024.01 ; 41(1) : 53-54
4. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー : 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く 前眼部の解剖学と生理学, あたらしい眼科, 2024.02;41(2):67-68
5. 土至田 宏, 松澤亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く コンタクトレンズの湿潤性,洗浄,消毒および涙液との相互作用 (前編), あたらしい眼科, 2024.03 ; 41(3) : 317-318
6. 松澤 亜紀子, 土至田 宏 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く コンタクトレンズの湿潤性,洗浄,消毒および涙液との相互作用 (後編), あたらしい眼科, 2024.04;41(4) :417-418
7. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く コンタクトレンズの素材やデザインによる眼の解剖学的・生理学的影響, あたらしい眼科, 2024.05 ; 41(5) : 547-548
8. 土至田 宏 : 【押さえておきたい乱視・収差の診かた・診断のポイントと対処法-】コンタクトレンズによる乱視矯正, OCULISTA, 2024.06; 135: 36-43

9. 松澤 亜紀子, 土至田 宏 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く コンタクトレンズの光学設計(前編), あたらしい眼科, 2024.06; 41(6):683-684
10. 松澤 亜紀子, 土至田 宏 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く コンタクトレンズの光学設計(前編), あたらしい眼科, 2024.06; 41(7):815-816
11. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く オルソケラトロジー(1), あたらしい眼科, 2024.08; 41(8):965-966
12. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く オルソケラトロジー(2), あたらしい眼科, 2024.09; 41(9):1097-1098
13. 土至田 宏, 松澤 亜紀子 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く オルソケラトロジー(3), あたらしい眼科, 2024.10 ; 41(10) : 1221-1222
14. 松澤 亜紀子, 土至田 宏 : コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く 強膜レンズ(1), あたらしい眼科, 2024.11 ; 41(11) : 1321-1322

【著 書】

1. 太田 俊彦 : 白内障手術に必要な毛様体、毛様小帯の解剖, 「眼科医のための手術解剖」, 林 篤志、三木 篤也編, 南江堂, 17-21, 2024.04
2. 太田 俊彦 : 眼内レンズ強膜内固定術(鑷子法)の術後ケア「眼科オクリスタ 術者が伝えたい! 眼内レンズ挿入後のアフターフォロー」安田 明弘 編. 全日本病院出版会 26-35 2024.11
3. 太田 俊彦 : 眼球破裂・眼球穿孔、「眼科診療ガイド第2版」, 文光堂. 761, 2024.11
4. 土至田 宏 : 医薬品医療機器等法と医療機器. 「新篇眼科プラクティス 17 眼科外来ハンドブック」, 大鹿哲郎編, 文光堂, 320-325, 2024.11
5. 土至田 宏 : 不同視・不等像視. 「眼科診療ガイド 第2版」根木昭監修, 文光堂, 569, 2024.11

【その他(広報活動含む)】

1. 太田 俊彦 : 白内障治療、週刊現代、講談社、118-121, 2024, 10

【特別講演・招待講演】

1. Toshihiko Ohta: P-Fixation Technique Aiming for a Complication Free Intrascleral IOL Fixation, 第5回インド眼内レンズ学会 ウィンターカンファレンス (IIRSI 2024 Winter Conference), Amritsar (India), 2024.1.27~28(招待講演)
2. Toshihiko Ohta: P-Fixation Technique Aiming for Complication-Free Intrascleral IOL Fixation, APAO2024 (The 39th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Bali (Indonesia), 2024.2.22~2.25(招待講演)
3. 太田 俊彦 : 白内障「眼内レンズ二次固定」, 第47回日本眼科手術学会総会, 京都, 2024.2.2 ~4. (座長)
4. 太田 俊彦 : 「白内障手術2」, 第128回日本眼科学会総会, 東京, 2024.4.18~21. (座長)
5. 太田 俊彦 : 「眼内レンズ二次挿入術の基本手技と合併症」, 第39回JSCRS学術総会, 福岡, 2024.6.28(教育セミナー2・座長)
6. 市川 浩平 : 「鑷子を用いた強膜内固定術の基本手技と合併症」, 第39回JSCRS学術総会, 福岡, 2024.6.28(教育セミナー2)
7. 太田 俊彦 : 白内障手術の温故知新. 第96回筑後眼科研究会. 福岡. 2024.7.13
8. 太田 俊彦 : 白内障手術の最近の話題. 興和社内講演会. 静岡. 2024.8.8

9. 太田 俊彦：沼津ベイエリアフォーラム. 静岡. 2024.9.3 (座長)
10. 太田 俊彦：「白内障同時手術の エビデンスと最新の知見」, 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.15 (シンポジウム 9・座長)
11. 太田 俊彦：鑑子を用いた強膜内固定術の基本手技と合併症, これから始める強膜内固定術 A to Z, 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.16 (インストラクションコース、演者)
12. 太田 俊彦：前眼部術者のための破囊合併症処理. 毛様体扁平部からのアプローチ. 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.16 (インストラクションコース 40、座長、演者)

【学会発表】

1. 杉田 丈夫, 土至田 宏, 太田 俊彦：レンティスコンフォート®、テクニスアイハンス、クラレオン®の臨床成績比較, 第 47 回日本眼科手術学会総会, 京都, 2024.2.2~4. (一般講演)
2. 桐山 雅通, 土至田 宏, 岩崎 有真, 菊池 遥太, 笠原 知人, 杉田 丈夫, 市川 浩平, 太田俊彦：失明眼から僚眼へ自己角膜移植を行った 1 例, 第 47 回日本眼科手術学会総会, 京都, 2024.2.2~4. (学術展示)
3. 笠原 知人, 土至田 宏, 岩崎 有真, 桐山 雅通, 菊池 遥太, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田俊彦：重傷感染性角膜炎被覆を施行した 1 例, 第 47 回日本眼科手術学会総会, 京都, 2024.2.2~4. (学術展示)
4. 土至田 宏, 笠原 知人, 桐山 雅通, 岩崎 有真, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 宮原 克, 中尾 新太郎：ヒト自家培養口腔粘膜上皮製品 Ocural 術後の眼表面上皮幹細胞の由来に関する検討, 角膜カンファレンス 2024, 東京, 2024.2.8~10. (一般講演)
5. 土至田 宏, 笠原 知人, 桐山 雅通, 岩崎 有真, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 宮原 克, 中尾 新太郎：ヒト自家培養口腔粘膜上皮製品 Ocural 術後の眼表面上皮の特性, 第 23 回日本再生医療学会総会, 新潟, 2024.3.21~23. (一般講演)
6. 土至田 宏, 笠原 知人, 桐山 雅通, 岩崎 有真, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 宮原 克, 中尾 新太郎：ヒト自家培養口腔粘膜上皮製品 Ocural®術後の眼表面上皮の特性に関する検討. 第 128 日本眼科学会総会, 東京, 2024.4.18~21. (一般講演)
7. 杉田 丈夫, 土至田 宏 太田 俊彦 (静岡病院), 中尾 新太郎 (順天堂大学), 小野 純治 (小野 眼科クリニック)：低加入度数分節眼内レンズ挿入眼と高次非球面眼内レンズ挿入眼の瞳孔径別術後 全距離裸眼視力に関する検討, 第 39 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2024.6.29(一般講演)
8. 菊池 遥太, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾新太郎：眼内レンズ強膜内固定術における小光学部径眼内レンズの有用性に関する検討, 第 39 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2024.6.29(一般講演)
9. 土至田 宏：オルソケラトロジーとソフトコンタクトレンズ併用者にみられた細菌性角膜炎の 1 例, 第 66 回日本コンタクトレンズ学会総会, 東京, 2024.7.14(一般講演)
10. Jobu Sugita, Kunihiro Hirosawa, Kohei Ichikawa, Toshihiko Ohta, Shintaro Nakao, Amar Agarwal, Athiya Agarwal, George Beiko: Postoperative Results Of P-Fixation Technique Aiming For Complication-Free Intrascleral Iol Fixation, 第 42 回欧洲白内障屈折矯正外科学会(European Society of Cataract and Refractive Surgeons), バルセロナ(スペイン), 2024.9.7 (Free Paper)
11. Toshihiko Ohta, Kohei Ichikawa, Hiroshi Toshida, Athiya Agarwal, Amar Agarwal, George H.H. Beiko: Postoperative Results of P-Fixation Technique Aiming for Complication-FreeIntrascleral IOL Fixation, 米国眼科学会議 (American Academy of Ophthalmology : AAO), シカゴ(アメリカ), 2024.10.18~10.21(ePoster)
12. 平井 麻紀, 菊池 遥太, 尾原 祐樹, 太田 俊彦, 中尾 新太郎：抗 VEGF(vascular endothelial

growth factor)治療を施行した未熟児網膜症症例の治療成績, 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14(一般講演)

13. 菊池 遥太, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾 新太郎 : 眼内レンズ強膜内固定術における瞳孔径と IOL の選択に関する検討, 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14(一般講演)
14. 土至田宏, 渡部史郎, 岩崎有真, 菊池遥太, 小森翼, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 太田俊彦, 中尾新太郎 : 順天堂静岡病院における角膜移植術の検討, 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14~17(学術展示)
15. 岩崎 有馬, 土至田 宏, 菊池 遥太, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 中尾 新太郎 : 両側性の有茎性眼瞼腫瘍を呈した 1 例第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14~17(学術展示)
16. 廣澤 邦彦, 市川 浩平, 平井 麻紀, 太田 俊彦, 中尾 新太郎 : コーヌス内ピットにより網膜分離症を発症したと考えられた強度近視眼に対し ILM 翻転術を施行した 1 例, 第 63 回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024.12.7 (学術展示)

【症例報告】

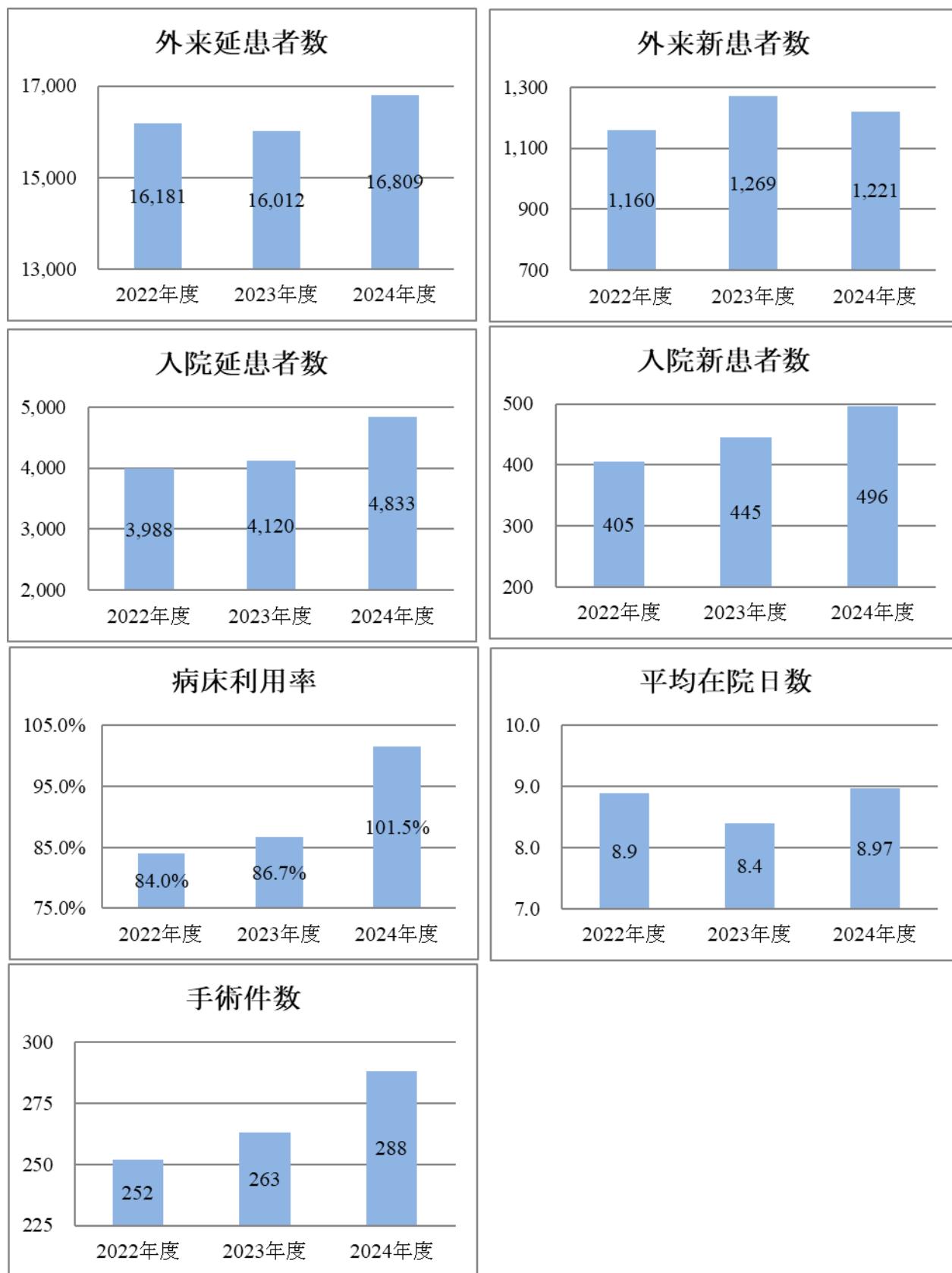
1. 桐山 雅通, 土至田 宏, 岩崎 有真, 菊池 遥太, 笠原 知人, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 太田 俊彦:失明眼から僚眼へ自己角膜移植を行った 1 例, 眼科臨床紀要, 2024.04 ; 17(4) : 357
2. 小野純治(小野眼科クリニック), 土至田 宏, 太田 俊彦:当院におけるレンティスコンフォート, テクニスアイハンス, クラレオン SY60WF の臨床成績比較, 眼科臨床紀要, 2024.04 ; 17(4) : 358-359
3. 土至田 宏, 笠原 知人, 桐山 雅通, 岩崎 有真, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦:ヒト自己口腔粘膜由来上皮細胞シート移植術の術後短期経過, 眼科臨床紀要, 2024.07 ; 17(7) : 575
4. 小野 純治(小野眼科クリニック), 土至田 宏, 太田 俊彦:瞳孔径別に比較したレンティスコンフォートとテクニスアイハンス術後全距離視力の検証, 眼科臨床紀要, 2024.07 ; 17(7) : 576
5. 廣澤 邦彦, 岩崎 有真, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦:網膜分離症を合併した朝顔症候群に対し ILM 翻転術を施行した 1 例, 第 83 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2024.08.17
6. 尾原 祐樹, 菊池 遥太, 平井 麻紀, 太田 俊彦:抗 VEGF 療法を施行した未熟児網膜症の治療成績, 第 83 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2024.08.17
7. Yota Kikuchi , Hiroshi Toshida , Junji Ono : Case of Bacterial Keratitis in a Patient Using Orthokeratology and Soft Contact Lenses, Cureus, September 05, 2024: 10.7759/cureus.68717

【受 賞】

1. ゴールドメダル, Toshihiko Ohta: P-Fixation Technique Aiming for a Complication Free Intrascleral IOL Fixation, 第 5 回インド眼内レンズ学会 ウィンターカンファレンス (IIRSI 2024 Winter Conference) , Amritsar (India) , 2024.1.27~28 (招待講演)

2-18 耳鼻咽喉科

診療実績



研究・教育活動

英文

1. Kusunoki T, Wada R. Emergency surgery for a giant laryngeal granuloma that caused dyspnea BMJ Case Rep 2024;17:e258227.doi:10.1136/bcr-2023-258227
2. Kusunoki T, Wada R. Case with translating to multiple myeloma at 8 years after radiation therapy for extramedullary plasmacytoma of the larynx BMJ Case Rep 2024; 17:e256747.doi:10.1136/bcr-2023-256747
3. Kusunoki T, Wada R. Preoperative bilateral recurrent laryngeal nerve palsy in Graves' disease BMJ Case Rep 2024;17:e262363. doi:10.1136/bcr-2024-262363
4. Kusunoki T, Wada R. Primary nasal neuroendocrine carcinoma in an older adult BMJ Case Rep 2025;18:e260917. doi:10.1136/bcr-2024-260917.
5. Kidokoro Y, Kusuoki T, Matsumoto T; Wada R, Matsumoto F. A case report of superficial solitary fibrous tumor in the right parotideomasseteric region Ear, Nose & Throat Journal 2024 DOI:10.1177/01455613241237771
6. Hara S, Kusunoki T, Nakagawa H, Kamiya K, Toyoda Y, Takata Y, Anzai T, Furukawa M, Okada H, Nakayama T, Ikeda K, Matsumoto F. Impact of Reduced Acidic Earwax pH and Earwax-Determinant Genotypes in Acquired Middle Ear Cholesteatoma. Otolaryngol Head Neck Surg 2024, Vol 00(00)1-7

和文

1. 楠 威志：災害時医療機関機能停止時における、気道系疾患に対する「自宅でできる腹式呼吸を重点に置いた音声訓練法」の有用性. 令和5年度静岡災害医学研究センター紀要 26-27 ; 2024

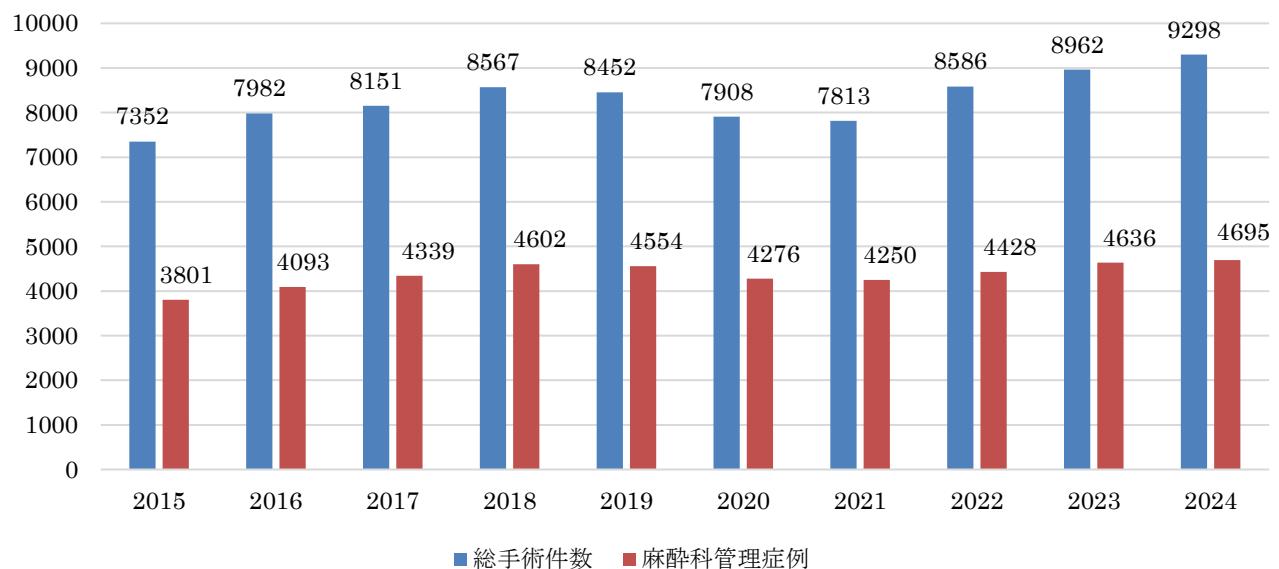
科研費

1. 楠 威志 2024 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 新規 (研究代表者)
2. 楠 威志 2021 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 継続 (研究代表者)
3. 楠 威志 2018 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 継続 (研究代表者)
4. 本間博友 2019年度科学研究費補助金 基盤研究C 継続 (研究代表者)
5. 城所淑信 2023年度科学研究費補助金 基盤研究C 継続 (研究代表者)

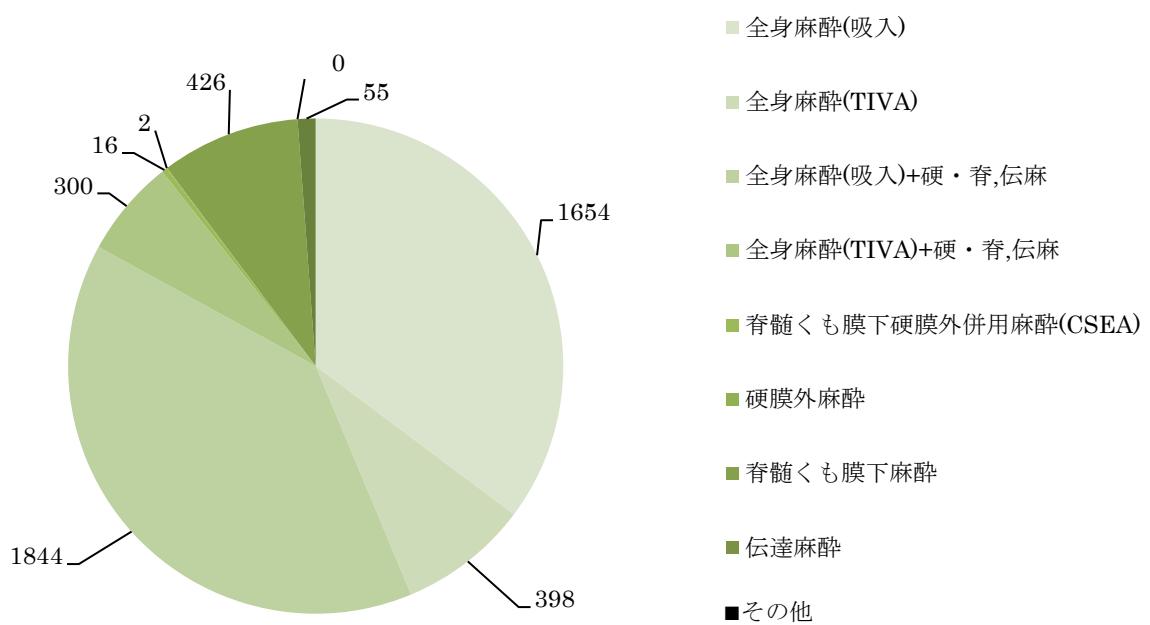
2-19 麻酔科

診療実績

総手術件数と麻酔科管理症例の推移



2024年麻酔法別手術件数(麻酔科管理症例)



教育研究活動

著書

- 尾前毅 文献紹介 循環制御 Vol.44 No2 116-117 循環制御学会 2024年1月

学会発表（国際）

- 洪景都 腹腔鏡手術で i-gel？？安全なの？？腹腔鏡手術で i-gel 使用しますか？？ アフタヌーンセミナー（共催セミナー）プロコン 安全な麻酔のための国際会議 2024 (ICAPS2024) 東京都 2024.2.9

学会発表（国内）

- 尾前毅 血行動態・循環管理（一般演題座長）第45回日本循環制御医学会総会・学術集会 2024.6.28 徳島県
- 水川結貴、中村萌、櫻庭園子、八子一、洪景都、尾前毅 輸血関連循環負荷を呈した特発性血小板減少性紫斑病合併双胎妊娠の1症例 日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 名古屋市 2024.9.7
- 須田汐織、山崎翔 Netherton 症候群の全身麻酔 日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 名古屋市 2024.9.7
- 青野光太、八子一、山崎翔、櫻庭園子、洪景都、尾前毅 抜管後の両側声帯麻痺に経鼻骨管症候群の関与が疑われた一例 日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 名古屋市 2024.9.7
- 尾前毅 デジタルポスター7 術中出血（座長）日本心臓血管麻酔学会第29回学術集会 広島市 2024.9.20
- 櫻井志奈、櫻庭園子、八子一、尾前毅 巨大卵巣腫瘍摘出の術中に腹膜炎によるショックが疑われた一例 日本臨床麻酔学会第44回大会 東京都 2024.11.21

広報活動（講師等）

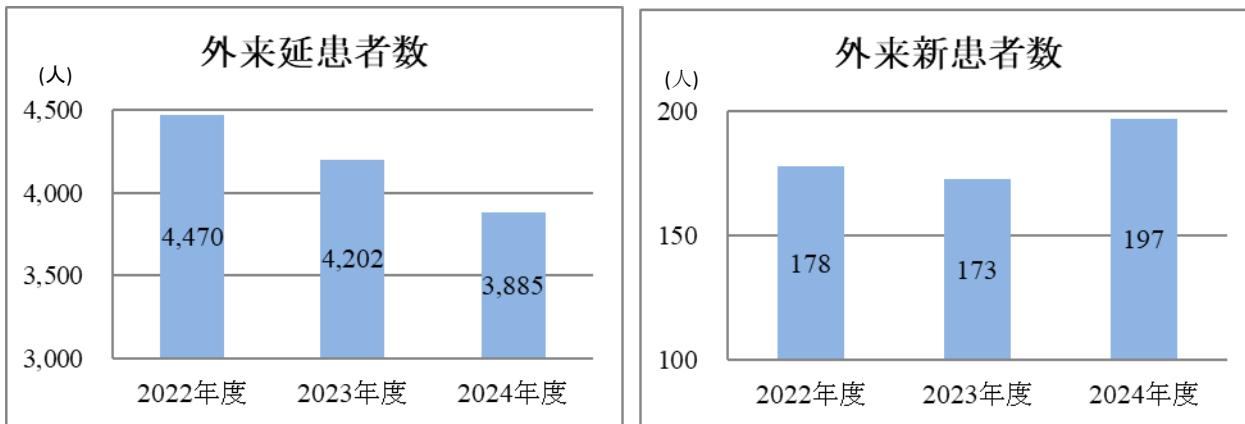
- 山崎翔 超音波ガイド下神経ブロックハンズオンセミナー ブース①「上肢」実技実習 第3回静岡県東部地区 神経ブロックハンズオンセミナー 伊豆の国市 2024.11.30
- 櫻庭園子 超音波ガイド下神経ブロックハンズオンセミナー ブース③「体幹」実技実習 第3回静岡県東部地区 神経ブロックハンズオンセミナー 伊豆の国市 2024.11.30

表彰

- 尾前毅 最優秀査読委員賞受賞 日本臨床麻酔学会第44回大会 東京都 2024.11.21

2-20 放射線科

診療実績



研究活動

【臨床研究課題】

- 順天堂大学における Real World Data 活用促進を目的とした、Feasibility 検証用の集計データ供覧の枠組み構築と基盤となるデータウェアハウス整備：後ろ向き非介入研究（研究課題番号：E21-0182、研究実施期間 2021 年 11 月 26 日～2025 年 10 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
- 日本インターベンショナルラジオロジー学会における症例登録データベース事業(H17-0115 繼続)（研究課題番号: E24-0124 研究実施期間 2024 年 07 月 18 日～西暦 2033 年 07 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
- 乳癌部分切除術後超短期全乳房照射の短期有害事象に関する検討：前向き非介入研究（研究課題番号：E24-0121、研究実施期間 2024 年 6 月 11 日～2026 年 12 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）

【論文発表】

- Youichi Yanagawa, Hiroki Nagasawa, Hiroaki Taniguchi, Atsumi Oishi, Munehiro Sugiyama, Abdominal Compartment Syndrome Complicating Emergency Endovascular Aneurysm Repair for Ruptured Common Iliac Artery Aneurysm, American Journal of Medical Case Reports 12(8) 114-116 2024 年 8 月 8 日 <https://doi.org/10.12691/ajmcr-12-8-2>
- Kaito Fujitani, Mitsuyoshi Kishihara, Munehiro Sugiyama, Yuichi Utsumi, Continuous On - Chip Synthesis of Ag Nanoparticles Assisted by Resonant Microwave Heating Using a Post - Wall Waveguide, IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering 2024 年 7 月 18 日 <https://doi.org/10.1002/tee.24169>
- Takashi Maki, Akira Uchino, Munehiro Sugiyama, Kimiyoshi Mizunuma, Yasutaka Baba, Combined lie's type D and type A agenesis of the left internal carotid artery diagnosed by magnetic resonance angiography, Surgical and Radiologic Anatomy 46(6) 871-875 2024 年 4 月 29 日 <https://doi.org/10.1007/s00276-024-03366-1>

4. Kosugi, Y., Murakami, N., Muramoto, Y., Karino, T., Oshima, M., Kawamoto, T., Motomura, H., Nakazawa, S., Koinuma, Y., Ohba, S., Matsumoto, F., & Shikama, N. (2025). Two Cases and a Review of the Literature Regarding Severe Interstitial Lung Disease Induced by Hangeshashinto. *Internal medicine* (Tokyo, Japan), 64(6), 905–910. <https://doi.org/10.2169/internalmedicine.4067-24>
5. Kawamoto, T., Oshima, M., Murakami, N., Okonogi, N., Muramoto, Y., Karino, T., Iijima, K., Takatsu, J., Inoue, T., & Shikama, N. (2024). Development and promotion of a 3D-printed phantom model for ultrasound-guided caudal block followed by intracavitary/intersitial brachytherapy for gynecological cancer. *Brachytherapy*, 23(5), 590–594. <https://doi.org/10.1016/j.brachy.2024.05.006>
6. Muramoto, Y., Murakami, N., Okonogi, N., Takatsu, J., Iijima, K., Inoue, T., Kato, K., Karino, T., Kojima, K., Oshima, M., Kosugi, Y., Kawamoto, T., Hirayama, T., Fujino, K., Terao, Y., & Shikama, N. (2024). Dose Contribution to the Regional Lymph-Node Metastases and Point B from Intracavity and Interstitial Hybrid Brachytherapy in Locally Advanced Cervical Cancer. *Cancers*, 16(13), 2384. <https://doi.org/10.3390/cancers16132384>

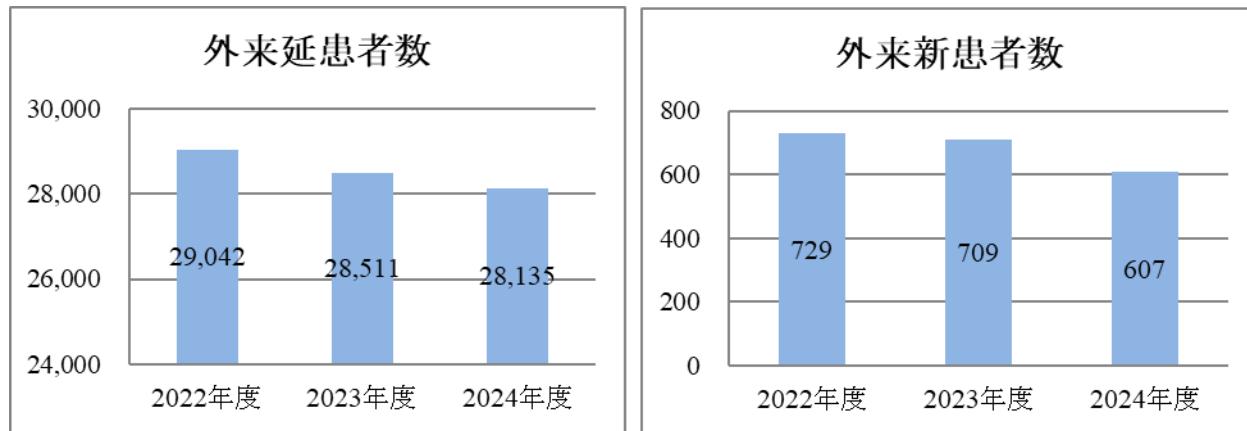
【講演・学会発表】

1. 中野響己、入江隆介、藤田修英、山本拓史：髄膜腫に合併した腫瘍内及び腫瘍周囲脳膿瘍の一例 第54回神経放射線学会 2025年2月22日 京都
2. 見上 達、杉山宗弘、藤本 肇：C6/7 右椎間孔腫瘍の術前に右椎骨動脈塞栓術を行った一例 第36回関東IVR研究会 2025年1月18日 東京（帝京大学）
3. 中野響己、杉山宗弘、長澤宏樹：上行結腸潰瘍による出血性ショックに対して2回のTAEによる出血コントロールを行い、その後、回盲部切除が施行された一例 第23回静岡IVR懇話会 2024年11月30日 静岡
4. 杉山宗弘、長谷川公彦、大塚隆弘：特発性肋間動脈破裂の治療例 第23回静岡IVR懇話会 2024年11月30日 静岡
5. 藤田大輔、小村祐輝、杉山宗弘、小橋昌司：胸部CT画像からの肺動脈抽出のための深層学習における各種検討 第67回自動制御連合講演会 2024年11月23日 会津
6. 杉山宗弘、大山徹真、大石淳実、中利昌、梶本 完：特発性大動脈破裂の一例 第34回日本救急放射線研究会、第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会 2024年10月19日 徳島
7. 大坂裕通、大森一彦、前川ちひろ、田中規子、廣岡志紀、河合健司、濱田通果、太田宗一郎、谷口裕亮、長澤宏樹、境 達郎、大石淳実、杉山宗弘、柳川洋一：頸部刺創による出血性ショックの対応と血管内治療の限界 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月14日 仙台
8. 大山徹真、大石淳実、田中利昌、畠 博明、梶本 完、杉山宗弘：当院における胸部大動脈瘤に対するNajuta+C-TAGを使用した4症例 第5回静岡県血管外科症例検討会 2024年7月6日 静岡
9. 小杉康夫、村上直也、小此木範之、川本晃史、大島 理規、小島佳奈子、村本 耀一、狩野 樹生、加藤 奏、小林遼太郎、陳 純妍、増田啓祐、鹿間直人：少数（オリゴ）転移を維持する症例を予測するためのMRI拡散強調像による解析 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会 2024年11月21日-23日 横浜

10. 村本耀一、小杉康夫、増田啓祐、陳 穎妍、小林遼太郎、加藤 奏、狩野樹生、小島佳奈子、高橋奈苗、大島理規、川本晃史、小此木範之、村上直也、鹿間直人：要望演題悪性腫瘍 FDG-PET/CT 検査における原発巣・転移巣 SUV 値と転移臓器数・転移個数の解析 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
11. 狩野樹生、川本晃史、大島理規、鹿間直人、村上直也、村本 耀一、小此木範之：要望演題頸部悪性リンパ腫による頸動脈洞症候群に対し放射線治療を施行した 1 例 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
12. 小林遼太郎、村本耀一、加藤 奏、狩野樹生、小島佳奈子、大島理規、小杉康夫、川本晃史、小此木範之、村上直也、鹿間直人：中枢神経再発 DLBCL の CAR-T 療法において橋渡し放射線治療を二回実施した一例 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
13. 大島理規、村上直也、小此木範之、小杉康夫、川本晃史、村本 耀一、鹿間直人：乳房部分切除術後超短期全乳房照射の初期経験 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
14. 増田啓祐、小杉康夫、村上直也、小此木範之、川本晃史、大島理規、小島佳奈子、村本耀一、狩野樹生、加藤 奏、小林遼太郎、陳 穎妍、鹿間直人：示説耳下腺癌根治治療後の頭蓋底再発に対する救済放射線治療を行った 1 例 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
15. 陳 穎妍、村上直也、小此木範之、小杉康夫、大島理規、川本晃史、村本耀一、鹿間直人：示説水疱性類天疱瘡合併早期乳癌患者に対し乳房温存術後照射を行った 1 例 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024 年 11 月 21 日—23 日 横浜
16. 大島理規、谷口真紀、小野直人、大宮 真、中村登紀子、杉山真那実：乳癌部分切除術後超短期全乳房照射の初期経験 第 5 回 山梨・静岡放射線治療研究会 2024 年 5 月 11 日 沼津

2-21 メンタルクリニック

診療実績



診療活動

患者数は県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も多く、せん妄や抑うつなどを身体科と連携して治療しています。自殺企図患者などを救急科による身体的治療と並行して、必要に応じて地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築されています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、2022年4月より「子どものこころのケアセンター」を開設し、従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設し、利用者が増えています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、臨床心理士と連携してペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。成人の発達障害患者も増加傾向にあり、成人のソーシャルスキルトレーニングはメンバーも増えています。

研究では、桐野はfunctional MRIと脳波の同時測定によるfunctional connectivityの研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

研究活動

和文総説

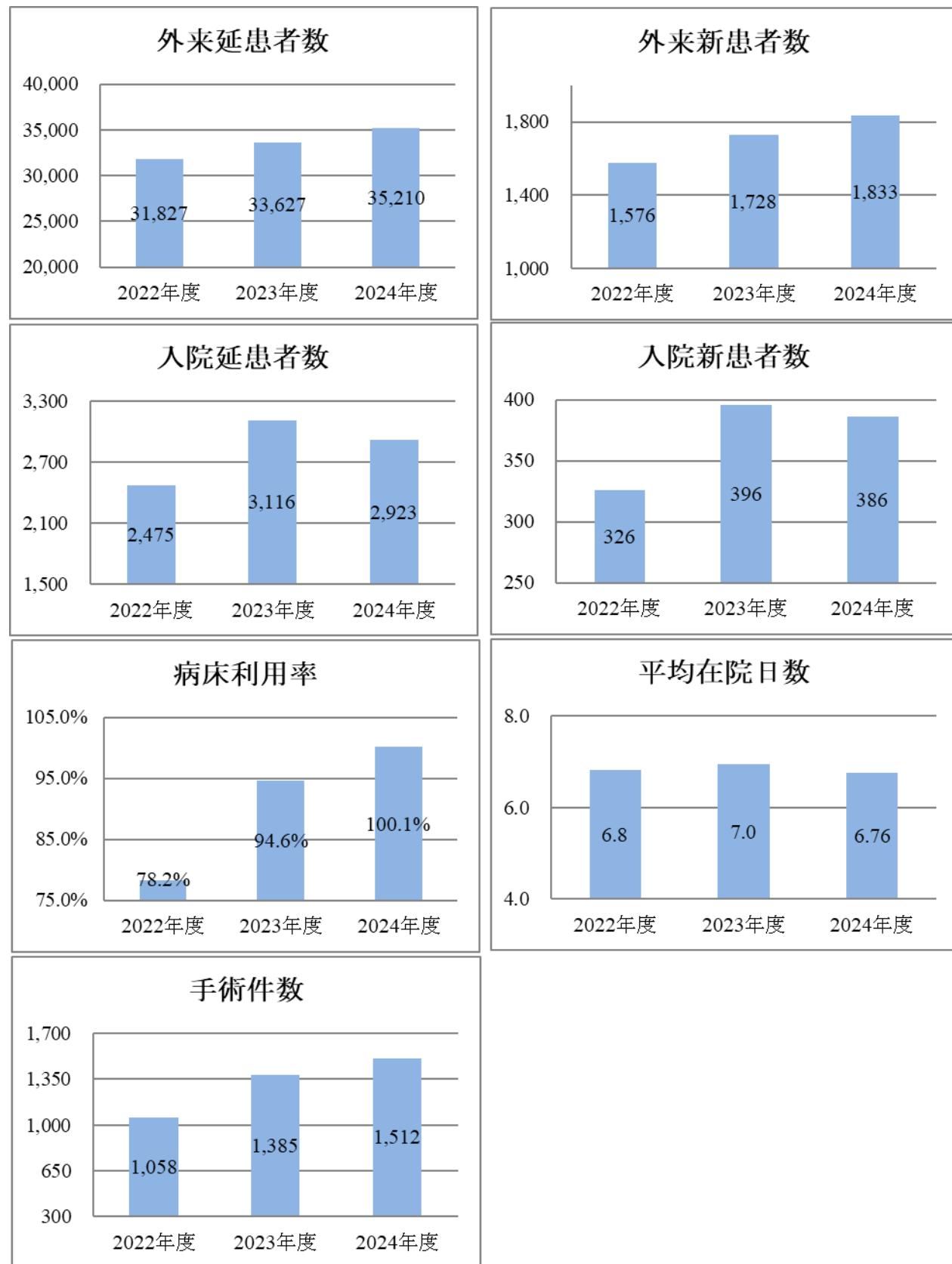
1. 桐野衛二 : COVID-19 後の適応障害. (特集 COVID-19 後の診療の工夫と心のケア). JOHNS 40 (8) 885-886, 2024
2. 桐野衛二 : 子どものこころのケアセンターを設立して (診療つれづれ). JOHNS 41 (11) 1514-1516, 2025

主な競争的資金の獲得状況

1. 令和6-令和10年度 基盤研究(C) (研究代表者 桐野衛二) 課題番号 fMRI fMRI 脳波 拡散 MRI 同時計測による自閉症スペクトラム障害の年齢継時の検討 Simultaneous fMRI-EEG-DTI Longitudinal Recording of Functional Connectivity in Patients with Autism Spectrum Disorder. ¥3,500,000
2. 令和2年度-令和8年度 基盤研究(C) (研究代表者 白井千恵 分担研究者 桐野衛二 他) モバイルヘルスとマルチオミクスの統合解析による痛覚変調性疼痛の個別化医療開発研究
3. 令和3年度-令和8年度 基盤研究(C) (研究代表者 白井千恵 分担研究者 桐野衛二 他) 携帯アプリを用いた慢性疼痛増悪因子の解明及び予防的デジタルメディシン開発の研究
4. 令和6-令和10年度 基盤研究(C) (研究代表者 川田 裕次郎 分担研究者 桐野衛二 他) fMRI と脳波の同時計測技術を用いたアスリートの「ハイパフォーマンスブレイン」の解明
5. 令和6-令和10年度 基盤研究(C) (研究代表者 須藤路子 分担研究者 桐野衛二 他) 早期英語教育の効果的指導法開発—母語獲得と社会認知・運動能力の発達の観点から—

2-22 皮膚・アレルギー科

診療実績



研究・教育活動

原著（英文）

1. Miyamoto T, Izawa K, Masui M, Yamazaki A, Yamasaki Y, Matsubayashi T, Shiraki M, Ohnishi H, Yasumura J, Kawabe T, Miyamae T, Matsubara T, Arakawa N, Ishige T, Takizawa T, Shimbo A, Shimizu M, Kimura N, Maeda Y, Maruyama Y, Shigemura T, Furuta J, Sato S, Tanaka H, Izumikawa M, Yamamura M, Hasegawa T, Kaneko H, Nakagishi Y, Nakano N, Iida Y, Nakamura T, Wakiguchi H, Hoshina T, Kawai T, Akizuki S, Ohmura K, Murakami K, Morinobu A, Eguchi K, Sonoda M, Furuno K, Kashiwado M, Mori M, Hayama K, Shimoyama K, Sasaki N, Ito T, Umebayashi H, Omori T, Nakamichi S, Dohmoto T, Hasegawa Y, Kawashima K, Watanabe S, Taguchi Y, Nakaseko H, Iwata N, Kohno H, Ando T, Ito Y, Kataoka Y, Saeki T, Kaneko U, Murase A, Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Nakano R, Watanabe M, Yashiro M, Nakamura T, Komai T, Honda Y, Hiejima E, Yonezawa A, Bessho K, Okada S, Ohara O, Takita J, Yasumi T, Nishikomori R, The Japan CAPS working group. Clinical characteristics of 103 cases of cryopyrin-associated periodic syndrome and real-world effectiveness and safety of canakinumab: results of a nation-wide epidemiological survey in Japan. *Arthritis Rheumatol* 76:949-962,2024
2. Ohura N, Kimura C, Ando H, Yuzuriha S, Furukawa M, Higashita R, Ayabe S, Tsuji Y, Fujii M, Terabe Y, Sakisaka M, Iwashita Y, Nakanishi A, Sasaki S, Hasegawa T, Kawauchi T, Hisamichi K: Efficacy of autologous platelet-rich plasma gel in patients with hard-to-heal diabetic foot ulcers: a multicenter study in Japan. *J Wound Care* 33:484-494,2024
3. Matsuda A, Hasegawa T, Wada A, Kim J, Ikeda Y, Ikeda S: Keratinocyte-like cells trans-differentiated from human adipose-derived stem cells, restore type VII collagen in recessive dystrophic epidermolysis bullosa in mice. *J Dermatol Sci* 115:42-50,2024
4. Muramatsu K, Ikutama R, Nagaya N, Fujita K, Hasegawa T: Intrasacrotal sclerosing lipogranuloma combined with foreign body granuloma at the injection site of leuprorelin acetate. *Indian Dermatol Online J* 15:1022-1024,2024
5. Soda K, Ikutama R, Ishihara S, Muramatsu K, Hasegawa T: A case of human seminal plasma allergy diagnosed by prick test using seminal plasma. *Indian Dermatol Online J* 15:643-645,2024
6. Nukui Y, Hasegawa T, Wada A, Ikeda Y: Adipose-derived stem cells antagonize fibrotic effect of TGF- \square on keloid-derived dermal fibroblasts. *Open Dermatol J* in press

学会発表（国内）

1. 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. アンジオテンシン変換酵素阻害薬による血管性浮腫の1例. 第123回日本皮膚科学会総会, 2024.6.6, 京都
2. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. リツキシマブ誘発性尋常性乾癬の1例. 第123回日本皮膚科学会総会, 2024.6.6, 京都
3. 北田裕樹, 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ニボルマブ・イピリムマブ併用療法により生じた乾

癬様皮膚炎の1例. 第139回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.6.15, 静岡

4. 加藤英未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 尋常性乾癬様の皮膚症状を呈した thymoma-associated multiorgan autoimmunity の1例. 第139回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.6.15, 静岡
5. Osei Abe, Risa Ikutama, Toshio Hasegawa. A case of prdiatric chronic discoid lupus erythematosus. 14th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology, 2024.6.27, Shizuoka
6. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ニボルマブ投与後に発症した水疱性類天疱瘡の1例. 第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2024.9.8, 徳島
7. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 水疱性類天疱瘡と鑑別を要した水疱性扁平苔癬の1例. 第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2024.9.14, 仙台
8. 遠藤翼, 長谷川敏男, 生玉梨紗. 皮疹から糖尿病の診断に至った発疹性黄色腫の1例. 第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2024.9.15, 仙台
9. 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 全身に血疱を生じた Wells 症候群の1例. 第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2024.9.15, 仙台
10. 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 異汗性湿疹として長期間加療されていた peripheral T cell lymphoma の1例. 第75回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2024.10.12, 仙台
11. 田代大地, 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Microsporum canis によるケルスス禿瘡の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.10.26, Web
12. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 再発性環状紅斑様乾癬の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.10.26, Web
13. 加藤英未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 外用 PUVA 療法とミノサイクリン内服の併用療法が奏功した汎発性環状肉芽腫の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024/10/26, Web
14. 宇根ちさと, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 巨大無菌性膿瘍を生じた SAPHO 症候群の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.10.26, Web
15. 太田有美, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 水疱を呈した好酸球性環状紅斑の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.10.26, Web
16. 今村菜奈, 生玉梨紗, 長谷川敏男. アセトアミノフェンによる汎発性水疱性固定葉疹の1例. 第140回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.10.26, Web
17. 長谷川敏男. Q スイッチルビーレーザーの基礎. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024.11.16, 東京
18. 太田有美, 土橋人士, 松田晃徳, 吉原渚, 長谷川敏男, 渡邊玲, 中野創. 潜性栄養障害型表皮水疱症患者の手指絞扼輪に対し解除術を施行した1例. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024.11.16, 東京
19. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 先天性無痛無汗症に合併したアトピー性皮膚炎に対してデュピュルマブが奏功した1例. 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2024.12.21, 福島
20. 生玉梨紗, 長谷川敏男. ネモリズマブを投与したアトピー性皮膚炎30例の臨床的検討. 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2024.12.21, 福島
21. 今村菜奈, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Histiocytoid Sweet syndrome の1例. 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2024.12.21, 福島
22. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 慢性拡張性血腫の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会,

2025.2.15, Web

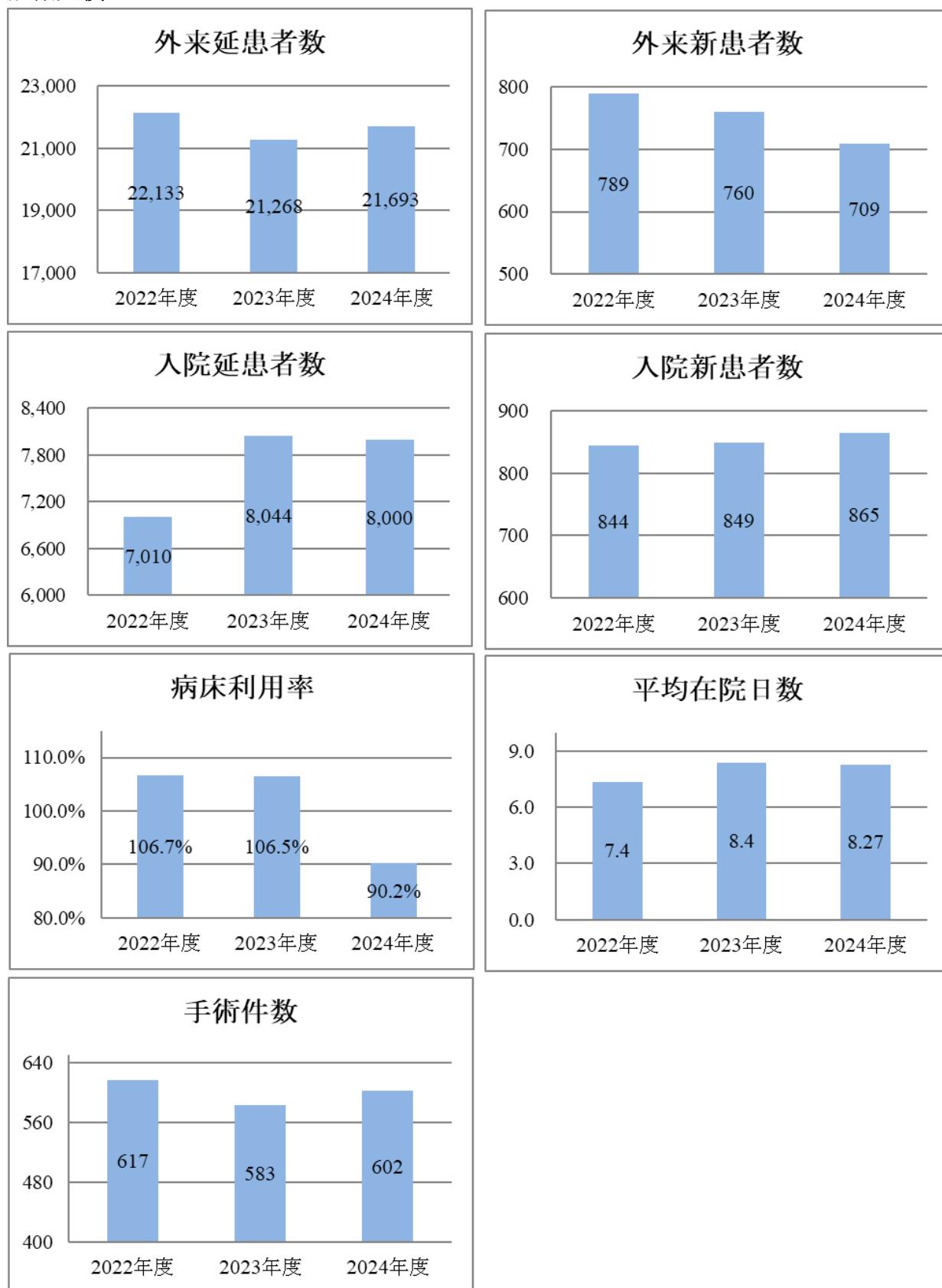
23. 加藤茉未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 繊満性水疱を生じた持久性隆起性紅斑の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web
24. 今村菜奈, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Morbihan病の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web
25. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 好酸球性血管リンパ球増殖症の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web
26. 宇根ちさと, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 先天性自然治癒性組織球症の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web
27. 太田有美, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 診断に苦慮した日本紅斑熱の1例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web
28. 田代大地, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 月経周期に関連した皮疹の2例. 第141回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025.2.15, Web

その他

1. 長谷川敏男. 当院におけるアトピー性皮膚炎の治療. 2024.11.21 お茶のくに皮膚科セミナー2024, 掛川

2-23 泌尿器科

診療実績



診療活動

入院患者数が大幅に増加した。また緊急処置を要する症例が多く他病院から紹介されてきた。腫瘍に対する、ステント留置は、国内でも極めて多い施設である。

前立腺全摘にロボット手術を導入し6年が経過した。200例以上の症例を経験した。膀胱頸部温存および膀胱—尿道吻合での連続吻合がより確実になった。術後の排尿状態も良好で、入院期間も短縮した。

ロボット支援下の膀胱全摘を20例行った。腹腔内で回腸導管（ICUD）造成が可能になった。術後の合併症が少なく、早期に退院できた。

3Dの新しい腹腔鏡装置に更新して3年がたった。腹腔鏡下に副腎腫瘍、腎癌および腎孟尿管癌の手術を行っている。腹腔鏡下腎摘出は後腹膜アプローチが多かった。3Dの腹腔鏡は視野が良好であり、合併症が少なかった。現在、3人の腹腔鏡技術認定医のもとで手術を行なっている。

大きな腎癌に対して開腹で根治的腎摘除術を行っている。4センチ以下の小径腎癌ではロボット補助下の腎部分切除を積極的に行い12例行った。

転移性腎癌、尿路上皮癌に対する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を多く行っている。

前立腺肥大症の手術はHoLEP、PVP、TURis-Pを行なっているが、新しくレジウム手術を導入した。

経尿道的尿管結石破碎術においては、細径の尿管鏡によるホルミウムヤグレーザーを用いて破碎している。硬性鏡だけでなく軟性尿管鏡も用いて腎結石の治療を行っている。手術時間の短縮および破碎率が向上した。破碎した結石も、器具で体外に取り出すようにしている。

診療実績

(1) 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下副腎摘除術 7例

腹腔鏡下腎摘除術 16例

腹腔鏡下腎尿管全摘除術 8例

ロボット補助下腎部分切除術 8例

ロボット補助下膀胱全摘除術 5例

ロボット補助下腹腔鏡下前立腺全摘除 35例

(2) 開腹手術

根治的腎摘除術 2 例
腎部分切除術 0 例
腎尿管全摘除術 4 例
膀胱全摘除術 1 例
前立腺全摘除術 0 例
高位精巣摘除 3 例
陰嚢水腫根治術 4 例
精液瘤根治術 0 例

(3) 内視鏡手術

TUR-Bt 107 例
TUR-P 4 例
HoLEP 9 例
ESWL 17 例
TUL 85 例
PNL 6 例
尿管ステント留置 655 例

次年度目標

前立腺全摘、膀胱全摘、腎部分切除のロボット手術の件数を増加させる。
ロボット補助下腎摘除を開始する。
前立腺肥大症の手術 Urolift も行う。
尿管結石のレーザー手術を増加させる。PNL 手術を増加させる。
腹腔鏡手術およびロボット手術の若手術者を指導する。

研究・教育活動

医学部 M4 授業
藤田和彦 尿路感染症、泌尿器救急、外傷

保健看護学部 授業
長屋直哉 ロボット手術
中島晶子 泌尿器総論
中島晶子 泌尿器非腫瘍性疾患
中島晶子 泌尿器腫瘍性疾患

2024年 業績

学会発表

1. Zinner Syndromに伴う感染性精囊嚢胞を経尿道的射精管開放にて治療した一例
藤田和彦、永島優生、矢内惇郎、森野純貴、中島晶子、長屋直哉、堀江重郎¹
順天堂大学医学部附属静岡病院泌尿器科、順天堂大学医学部¹
第74回日本泌尿器科学会東部総会、山形 2024. 10. 4

2. A Case of Methotrexate-Associated Primary Renal Malignant Lymphoma with Pulmonary Metastasis
中島晶子、鉢田賢人、廣瀬華穂、矢内惇郎、森野純貴、永島優生、長屋直哉、藤田和彦、堀江重郎¹
順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部¹
第 74 回日本泌尿器科学会東部総会、山形 2024. 10. 5

3. 気腫性腎盂腎炎の治療方針
藤田和彦、中島晶子、長屋直哉、永島優生、森野純貴、矢内惇郎、堀江重郎¹
順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部¹
第 89 回日本泌尿器科学会中部会総会、金沢 2024. 11. 21

4. 異所性前立腺を膀胱前壁に発生した一例
森野純貴、鉢田賢人、廣瀬華穂、矢内惇郎、永島優生、中島晶子、長屋直哉、藤田和彦
順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部
第 89 回日本泌尿器科学会中部総会、金沢 2024. 11. 21

5. SLGT2 阻害薬投与群と非投与群における尿路感染症の症状の比較
中島晶子、鉢田賢人、廣瀬華穂、矢内惇郎、森野純貴、永島優生、長屋直哉、藤田和彦、堀江重郎¹
順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部¹
第 89 回日本泌尿器科学会中部総会、金沢 2024. 11. 22

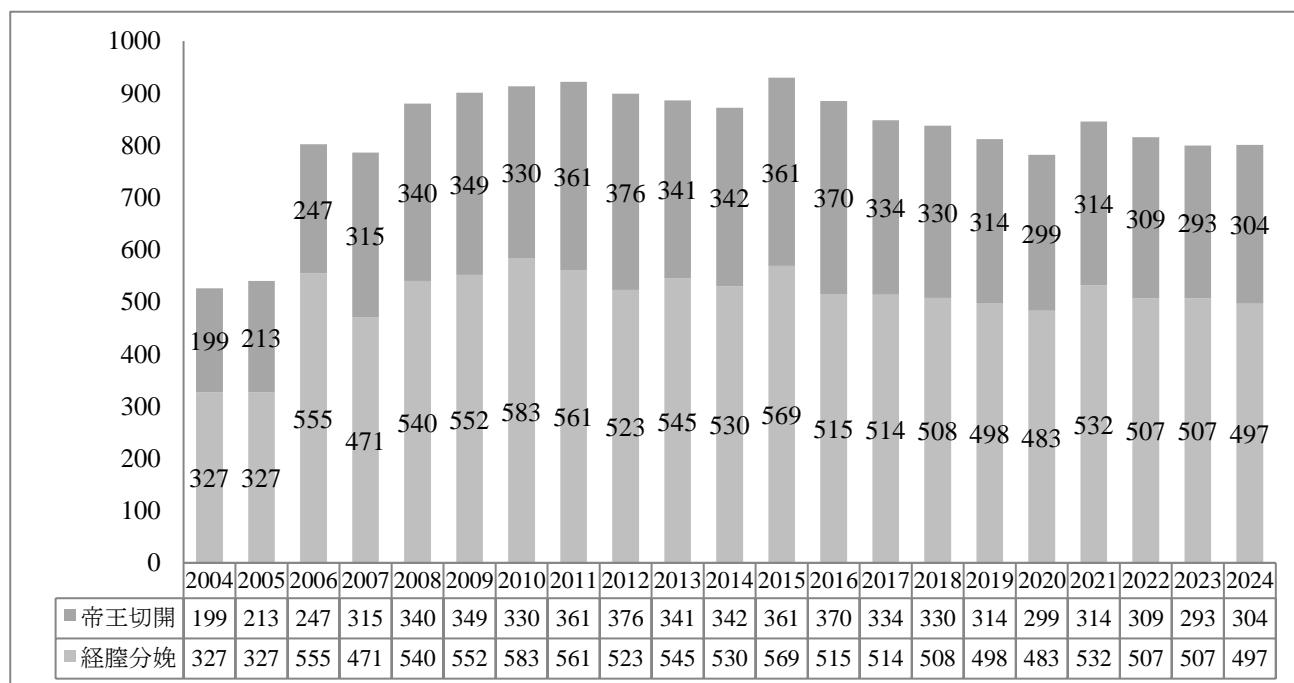
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター

診療実績

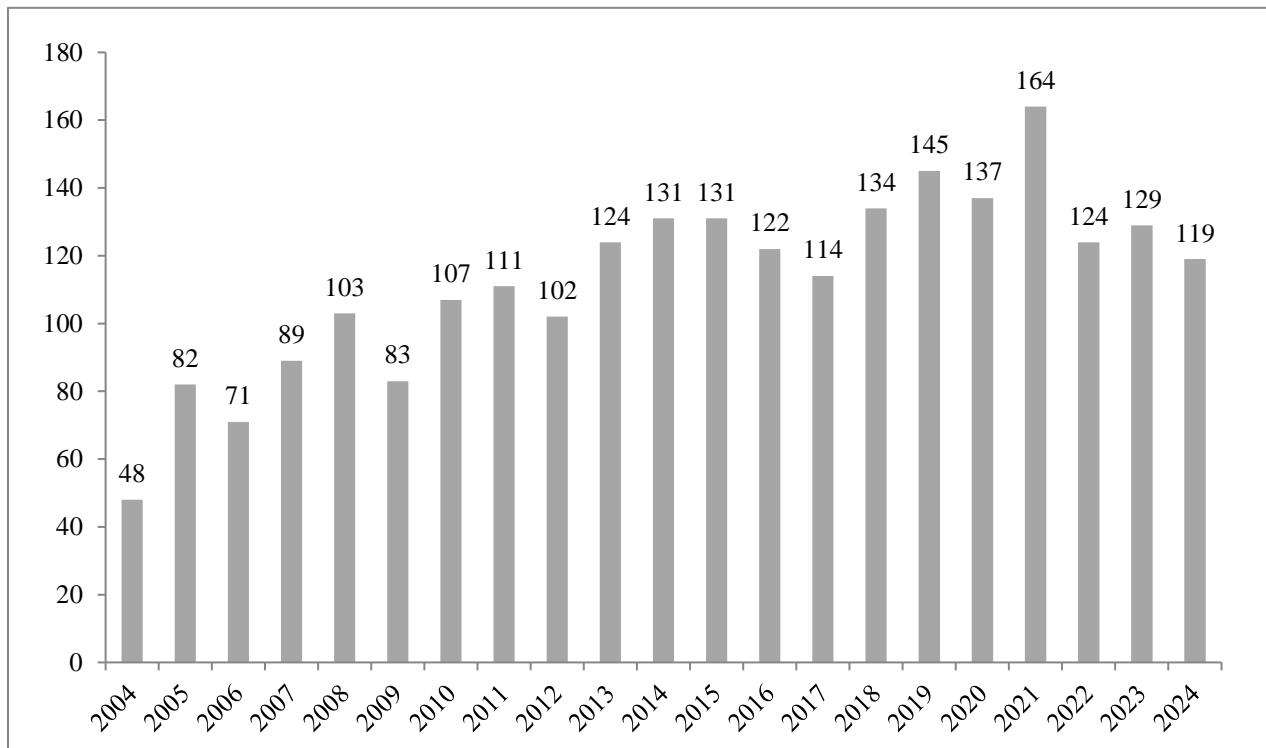
【手術件数】 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

腹腔鏡	卵巣	59	65	83	79	80	90	100	79	96	121
	子宮	1	0	1	1	0	0	0	0	9	20
	異所性妊娠	12	21	15	26	11	16	16	24	20	30
	その他	1	0	0	0	2	3	0	0	1	2
開腹手術	帝王切開術	361	370	334	330	314	299	314	309	293	304
	良性	199	309	341	265	229	172	141	198	177	152
	悪性	88	78	72	70	68	72	73	63	62	63
悪性手術	子宮頸癌	20	15	5	12	6	7	11	18	10	14
	子宮体癌	39	36	39	32	29	26	27	19	27	30
	卵巣癌	20	25	23	25	28	37	29	23	17	16
	その他	9	2	5	1	5	2	6	3	8	3
腔式手術	円錐切除	16	36	34	30	30	24	41	37	31	32
	頸管縫縮術	13	14	16	21	8	3	14	13	14	6
	子宮脱根治術	5	13	9	9	6	7	9	13	12	11
	膣閉鎖術	14	24	10	9	4	1	5	3	6	2
	その他	9	8	13	8	9	13	20	9	9	11
合計		859	937	928	848	753	695	733	748	730	752

【分娩件数推移】



【母体搬送数推移】



研究活動

原著（和文）

- 菅原 茉佑, 村瀬 佳子, 城戸 優花, 笠原 太郎, 秋葉 純也, 保田 歩, 田中 里美, 矢田 昌太郎, 金田 容秀, 田中 利隆. 当院における NIPT (non-invasive prenatal genetic testing) の導入が羊水検査に与えた影響. 関東連合産科婦人科学会誌 2024 61: 28-33
- 熊谷麻子、大島直紀、平山雄一郎、岩垣杏奈、星野将輝、杉村有泉、九鬼紗葵、武内詩織、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆. 関節リウマチを合併した卵巣子宮内膜症性囊胞患者が卵巣膿瘍を契機に敗血症性ショックを発症した1例. 日本女性医学学会誌 2024 31:682-6874
- 平井みづ子、平山貴士、柳原康穂、石井純麗、平沼賢悟、藤原里紗、吉田恵美子、藤野一成、金田容秀、田中利隆、寺尾泰久、板倉敦夫. 当院におけるリスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)を行った症例の検討. 静岡県産科婦人科学会雑誌 2024 12:2-7
- 平山雄一郎、金田容秀、大島直紀、星野将輝、岩垣杏奈、伊地知航司、九鬼紗葵、瀬山理恵、熊谷麻子、矢田昌太郎、田中里美、田中利隆. 子宮頸部腺癌 IVB 期に対してパクリタキセル/シスプラチン+ベバシズマブ+ペムブロリズマブ療法が著効した一例. 静岡県産科婦人科学会雑誌 2024 12:8-16
- 大島直紀、矢田昌太郎、平山雄一郎、星野将輝、岩垣杏奈、伊地知航司、九鬼紗葵、瀬山理恵、熊谷麻子、田中里美、金田容秀、田中利隆. 重症妊娠悪阻を契機に発症したリフィーディング症候群の1例 静岡県産科婦人科学会雑誌 2024 12:17-22
- 田中利隆、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀. 後天性子宮動静脈奇形に対して下大静脈フィルターと内腸骨動脈バルーンオクルージョンカテーテルを使用し子宮動脈塞栓術後に生児を得た1例. 静岡県産科婦人科学会雑誌 2024 12:23-31

著書（和文）

1. 今日の治療指針 2025
合併症妊娠（外科疾患）
田中利隆
医学書院、東京、1357-1359, 2024

学会発表（国内）

1. 子宮内膜症性卵巣嚢胞・子宮腺筋症合併妊娠の予後検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
武内詩織、岩垣杏奈、平山雄一郎、星野将暉、田嶋俊彬、杉村有泉、熊谷麻子、矢田昌太郎
田中里美、金田容秀、田中利隆
第2回 Shizuoka gynecological research conference for pharmacotherapy and surgical treatment, 静岡, 2024.4.14
2. Below or above the limit of weight gain during pregnancy and delivery outcome
Juntendo University Shizuoka Hospital
Asako Kumagai, Naoki Oshima, Yuichiro Hirayama, Anna Iwagaki, Masaki Hoshino, Kouji Ijichi, Saki Kuki, Satomi Tanaka, Shotaro Yata, Hiroshi Kaneda, Toshitaka Tanaka
第76回日本産科婦人科学会学術講演会、横浜、2024.4.19～4.21
3. 当院で経験した帝王切開後瘢痕部妊娠に対してメソトレキセートの全身投与を行った9症例についての検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
星野将暉、熊谷麻子、平山雄一朗、大島直紀、岩垣杏奈、伊地知航司、九鬼紗葵、矢田昌太郎、
田中里美、金田容秀、田中利隆
矢田昌太郎、精きぐな、金田容秀
第76回日本産科婦人科学会学術講演会、横浜、2024.4.19～4.21
4. 術前に卵巣腫瘍が疑われた腹腔内腫瘍の4症例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田嶋俊彬、田中里美、佐々木徹、岩井志満、切替麻衣子、平山雄一郎、杉村有泉、塚本博幸
熊谷麻子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
令和6年度静岡産婦人科学会春季学術集会、静岡、2024.5.26
5. 術前に卵巣腫瘍が疑われた腹腔内腫瘍の3症例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田嶋俊彬、田中里美、佐々木徹、岩井志満、切替麻衣子、平山雄一郎、杉村有泉、塚本博幸
熊谷麻子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
第147回関東連合産科婦人科学会 学術集会、東京、2024.6.15～6.16
6. 尿崩症を併発し体液コントロールに難渋した褐色細胞腫合併妊娠の一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
杉村有泉、田中里美、平山雄一郎、大島直紀、田嶋俊彬、星野将輝、岩垣杏奈、武内詩織、熊谷麻子
矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆。
第60回日本周産期・新生児医学会学術集会、大阪、2024.7.13～15

7. β 2 受容体作動薬投与母体から生まれた仔マウスの β 2 受容体発現の検討 β 2 受容体作動薬投与母体から生まれた仔マウスの β 2 受容体発現の検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中里美、岩澤卓弥、武田聰、宮崎正弘、岡本千香子、來栖亜弓、本橋智子、田中利隆
第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会、大阪、2024.7.13～15
8. 当院で経験した筋強直性ジストロフィー1型合併妊娠の 3 例。
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
熊谷麻子、大島直紀、平山雄一朗、岩垣杏奈、田嶋俊彬、星野将輝、杉村有泉、武内詩織、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会、大阪、2024.7.13～15
9. 当院で手術を行った卵巣妊娠 14 例の検討（卵管妊娠 155 例との比較）
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆、佐々木徹、岩井志満、切替麻衣子、平山雄一朗、田嶋俊彬、杉村有泉、塚本博幸、熊谷麻子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀
第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、東京、2024.9.12～14
10. 腹腔鏡手術で治療した腹膜妊娠の二例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
金田容秀、佐々木徹、岩井志満、切替麻衣子、平山雄一朗、田嶋俊彬、杉村有泉、塚本博幸、熊谷麻子、矢田昌太郎、田中里美、田中利隆
第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、東京、2024.9.12～14
11. 妊娠初期未受診妊婦における分娩予定日予測と周産期予後の検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
佐々木徹、田中里美、岩井志満、切替麻以子、平山雄一郎、田嶋俊彬、杉村有泉、塚本博幸、熊谷麻子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
第 148 回関東連合産科婦人科学会 学術集会、長野、2024.10.19
12. 当院における過去 6 年間の飛び込み分娩の現状
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
塚本博幸、田中里美、佐々木徹、岩井志満、切替麻以子、大塚早織、田嶋俊彬、杉村泉、平沼賢悟、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
第 20 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会、東京、2024.10.27
13. 産科危機的出血後、産褥早期に発症した Sheehan 症候群の一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
岩井志満、田中里美、佐々木徹、大塚早織、田嶋俊彬、塚本博幸、柳原康穂、平沼賢悟、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆
令和 6 年度静岡産婦人科学会秋季学術集会、静岡、2024.11.24
14. 妊娠中からできる RS ウィルス感染予防（RS ウィルス母子免疫ワクチン）
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
切替麻以子、田中利隆
第 52 回東部周産期研究会、静岡、2025.2.27

【講演】

1. 当院でのプロウペスの使用実績

～証拠から考えるプロウペスの使い方～

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

熊谷麻子

フジ周産期アップデートウェビナーVol.4, 2024.6.20

2. 分娩期の多事心拍数陣痛図（CTG）について知ろう

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

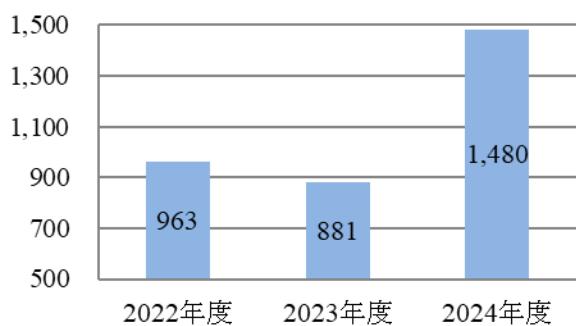
田中利隆

令和6年度助産実践能力強化研修会, 静岡, 2024.7.13

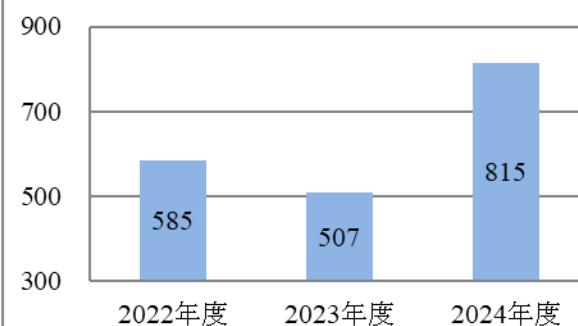
2-25 救急診療科

診療実績

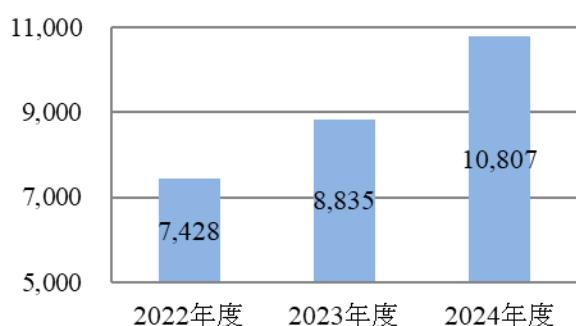
外来延患者数



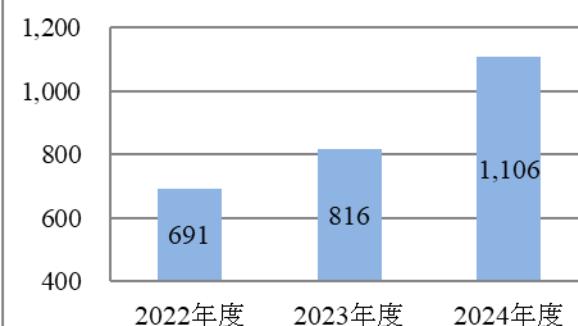
外来新患者数



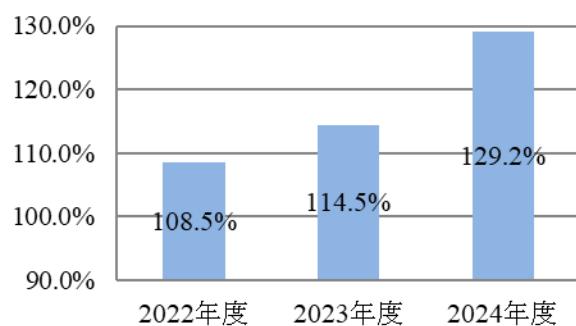
入院延患者数



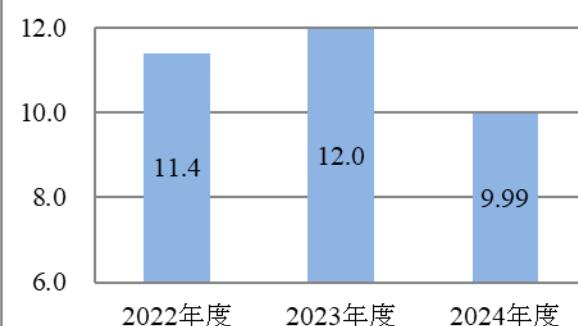
入院新患者数



病床利用率



平均在院日数



研究・教育活動等

英文誌発表

1. Tamura T, Narumiya H, Homma K, Suzuki N; Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During PostCardiac Arrest Care (HYBRID II) Study Group. Combination of Hydrogen Inhalation and Hypothermic Temperature Control After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Post hoc Analysis of the Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During PostCardiac Arrest Care II Trial. *Crit Care Med.* 2024 Aug 12. doi: 10.1097/CCM.0000000000006395. Online ahead of print.
2. Yanagawa Y, Nagasawa H, Ota S, Hamada M, Kawai K, Taniguchi H, Sakai T, Ohsaka H, Omori K. The Factors Associated With Decreasing Hemoglobin Levels and Platelet Counts After Trauma. *Cureus.* 2024 Feb 27;16(2):e55104.
3. Yanagawa Y, Maekawa C, Tanaka N, Hamada M, Ota S, Taniguchi H, Kawai K, Sakai T, Ishihara T, Nagasawa H. Outcomes of patients with head injuries transported by a physician-staffed helicopter using the keyword method in Japan. *Surg Neurol Int.* 2024 Feb 16;15:52.
4. Taniguchi H, Nagasawa H, Sakai T, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Keyword-Based Early Request for Helicopter Emergency Medical Services in Acute Aortic Dissection: A Registry-Based Study. *Air Med J.* 2024 Nov-Dec;43(6):544-547.
5. Kawai K, Nagasawa H, Nomura T, Sugita M, Yanagawa Y. Convulsive Patients Transported by a Physician-staffed Helicopter in Japan Had Better Outcomes in the Keyword-triggered Dispatch Compared to Postcontact Emergency Medical Technician-triggered Dispatch. *J Emerg Trauma Shock.* 2024 Jul-Sep;17(3):142-145.
6. Yanagawa Y, Kanda A, Nagasawa H, Ohsaka H, Omori K. Comparison of the utilization of disaster medical assistance teams and multiple physician-staffed helicopters in mass casualty responses. *J Rural Med.* 2024 Oct;19(4):300-304.
7. Nagasawa H, Omori K, Ota S, Muramatsu KI, Takeuchi I, Ohsaka H, Yanagawa Y. Carbazochrome sodium sulfonate and tranexamic acid combination therapy to reduce blood transfusions after 24 h of injury: A retrospective study. *Acute Med Surg.* 2024 May 6;11(1):e961.
8. Yanagawa Y, Nagasawa H, Tada S, Nakamura S, Onitsuka M, SuzukiE, Sasaki S. Significance of a Simulation for the Relocation of an Intensive Care Unit. *Crit Care Nurs Q* 2024; 47(4):400–407.
9. Yanagawa Y, Nagasawa H, Taniguchi H, Sakai T, Omori K, Ohsaka H. Issues in the Acute Phase of the Noto Peninsula Earthquake in Reiwa 6 (2024). *Am J Med Case Rep* 2024;12(5):68-72.
10. Yanagawa Y, Takeuchi I, Nagasawa Y, Horii K, Ishibashi M, Asaka T, Tada S, Sakurai M, Kato H, Nozawa Y, Kanda A, Ohsaka H. Activity of a Medical Relief Team from Shizuoka Hospital that was Dispatched to the Noto Peninsula Earthquake in Reiwa 6 (2024). *Juntendo Iji Zasshi.* 2024 May 10;70(3):221-229.
11. Yanagawa Y, Ohsaka H, Ishikawa K. Ukrainian Medical Students Visited Juntendo Shizuoka

- Hospital to Learn Emergency Medicine. Am J Edu Res 2024;12(2):35-37.
12. Yanagawa Y, Ohsaka H, Yatsu S, Suwa S. Acute aortic dissection during scuba diving. Undersea Hyperb Med. 2024 Second Quarter;51(2):185-187.
 13. Yanagawa Y, Nagasawa H. Alocasia odora poisoning due to calcium oxalate needle crystals in Japan. J Rural Med. 2024 Jul;19(3):126-130.
 14. Taniguchi H, Nagasawa H, Yanagawa Y. Fatal Head Injury in a 1-Year-Old Child Secured in a Rear-Facing Child Seat by Offset Car-to-Car Collision. J Craniofac Surg. 2024 Jun 11.
 15. Yanagawa Y, Nagasawa H, Nunotani M, Takeuchi I. Status Epilepticus Complicated by Pneumatosis Intestinalis. J Emerg Trauma Shock. 2024 Jan-Mar;17(1):47-48.
 16. Yanagawa Y, Takeuchi I, Nagasawa H, Kajimoto K. Fatal Delayed Aortic Perforation Resulting from a Sternal Fracture. J Emerg Trauma Shock. 2024 Jan-Mar;17(1):49-50.
 17. Yanagawa Y, Nagasawa H, Torizawa N, Takeuchi I. Mild Encephalopathy/Encephalitis with Reversible Splenial Lesions after Amphetamine and Opioid Use. Intern Med. 2024 Mar 11.
 18. Yanagawa Y, Taniguchi H, Sakai T, Mori Y, Sato M, Takeuchi I, Nagasawa H. A case of cervical malignant lymphoma with carotid sinus syndrome resolved by lymph node dissection and subsequent treatment. Am J Med Case Rep 2024;12(3):9-32.
 19. Maekawa C, Sakai T, Taniguchi H, Tanaka N, Yanagawa Y. A case of pulmonary edema induced by acute alcoholic intoxication. Am J Med Case Rep 2024;12(7): 101-102.
 20. Nagasawa H, Yanagawa Y. Non-aneurysmal Gastroepiploic Arterial Hemorrhage With Median Arcuate Ligament Syndrome. Cureus 2024;16(10): e70692. DOI 10.7759/cureus.70692
 21. Torizawa N, Nagasawa H, Takeuchi I, Yanagawa Y. Subarachnoid Hemorrhaging Occurring during Drowning. J Emerg Trauma Shock. 2024 Apr-Jun;17(2):118-119.
 22. Yanagawa Y, Taniguchi H, Sakai T, Kawai K, Mori Y, Nagasawa H. Multiple Cerebral Infarctions after Treatment of Acquired Factor XIII Deficiency with Retroperitoneal Hematoma. J Emerg Trauma Shock. 2024 Apr-Jun;17(2):124-125.
 23. Ohsaka H, Nagasawa H, Isogai R, Taniguchi H, Ota S, Hamada M, Sakai T, Yanagawa Y. A Case of Spastic Quadriplegia Remaining after Multiple Traumatic Injuries Complicated by Sepsis and Reversible Posterior Leukoencephalopathy Syndrome, as well as Delayed Multifocal Microbleeds. J Emerg Trauma Shock. 2024 Apr-Jun;17(2):121-122.
 24. Yanagawa Y, Taniguchi H, Kawai K, Nagasawa H. Patients With Near Arrest Induced by Foreign Body Airway Obstructions Treated by a Physician-Staffed Helicopter. Air Med J. 2024 Sep-Oct;43(5):454-456.
 25. Hirooka Y, Ota S, Torizawa N, Maekawa C, Yanagawa Y. A Case of Acute Respiratory Distress Syndrome Following Non-thoracic Trauma in a Patient With Idiopathic Pulmonary Fibrosis. Cureus. 2024 Jun 29;16(6):e63467.
 26. Yanagawa Y, Nagasawa H, Taniguchi H, Oishi A, Sugiyama M. Abdominal Compartment Syndrome Complicating Emergency Endovascular Aneurysm Repair for Ruptured Common Iliac Artery Aneurysm. Am J Med Case Rep. 2024; 12(8):114-116.

和文誌発表

1. 大森 一彦. 外傷性凝固障害 病態生理と治療戦略から診断への可能性 (総説) 日本血栓止血学会誌(0915-7441)35巻4号 Page473-479(2024.08)
2. 大森 一彦. 外傷患者に対するトラネキサム酸投与の有効性：本邦での現状と病院前投与への展望 (総説) 日本外傷学会雑誌 2024年 38巻 4号 p. 510-520

国内発表

1. 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. DKA と TTP を同時に合併し敗血症性 DIC との鑑別に難渋した一例. 日本集中治療医学会雑誌 2024;31: S891.
2. 鳥沢 規子, 竹内 郁人, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. ラモトリギン過量内服で錯乱状態となった1例. 中毒研究 2024;37(3):347.
3. 柳川洋一. 医療過疎地域(静岡県東部)の脳外科救急. ドクターヘリ・ドクターカー. 第29回日本脳神経外科救急学会 2024年2月2日(金)ステーションコンファレンス東京
4. 柳川洋一, 前川ちひろ, 田中規子, 濱田通果, 太田宗一郎, 河合健司, 谷口裕亮, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 石原唯史, 境達郎, 大坂裕通, 大森一彦. ドクターヘリレジストリーを用いた頭部外傷に対する病院前診療の現状. 第47回日本脳神経外傷学会 2024年3月1-2日 九段会館テラス
5. 大坂 裕通, 竹内 郁人, 多田 真也, 野澤 陽子, 山田 幸弘, 小池 直樹, 柳川 洋一. 災害教育の一環として、病院内ネット配信講習後の課題. Japanese Journal of Disaster Medicine 2024;28:S427.
6. 柳川 洋一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 大森 一彦, 土至田 宏, 佐藤 浩一. 静岡災害医学研究センター事業の紹介. Japanese Journal of Disaster Medicine 2024;28:S393.
7. 柳川 洋一, 神田 章男, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 博通, 大森 一彦. 多数傷病者対応におけるDMATとドクターヘリ複数機対応の使い分. Japanese Journal of Disaster Medicine 2024;28:S198.
8. 大森 一彦、Ian Roberts. 外傷患者に対するトラネキサム酸の病院前投与の臨床的有効性と展望. 第38回日本外傷学会総会・学術集会 2024年4月25日 大阪市中央公会堂(大阪)
9. 大森 一彦. 重症外傷患者における凝固線溶マーカーの動態と予後との関連. 第46回日本血栓止血学会学術集会 2024年6月15日 ANAクラウンプラザホテル金沢(金沢)
10. 柳川 洋一, 前川 ちひろ, 田中 規子, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 河合 健司, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 石原 唯史, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦. 洋上救急の実態 伊豆半島周辺航行船舶で発生した急患に対する静岡県東部ドクターヘリ介入の実態. 日本臨床救急医学会雑誌 2024;27(3):252.
11. 柳川 洋一, 柳川 良子. 紛争と医療 過去の海外紛争地域での医療活動(1994年ルワンダ難民救援国際平和協力業務)を振り返る. 日本臨床救急医学会雑誌 2024;27(3): 251.
12. 三島 修治, 清水 公裕, 井貝 仁, 岡田 一郎, 瀧口 徹, 青木 誠, 柳川 洋一, 斎藤 大蔵, 鈴木 健司, 岡田 守人, 千田 雅之, 吉野 一郎. 胸部外傷を考える JTDBを活用した、呼吸器外科医の積極的治療介入を要する胸部単独外傷の疫学的特徴. 日本呼吸器外科学会雑誌 2024;38(3):2-3.
13. 井貝 仁, 清水 公裕, 三島 修治, 岡田 一郎, 瀧口 徹, 柳川 洋一, 斎藤 大蔵, 鈴木 健司, 岡田 守人, 千田 雅之, 吉野 一郎. 胸部外傷を考える Japan Trauma Data Bank を用いた本邦における胸部単独外傷の実態調査. 日本呼吸器外科学会雑誌 2024;38(3):2-2.
14. 柳川 洋一, 田中 規子, 前川 ちひろ, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦. 当院で経験したクワズイモの検討. 中毒研究 2024;37():245.
15. 柳川洋一, 大坂裕通, 石川浩平. Ukrainian medical students visited Juntendo Shizuoka Hospital to learn emergency medicine 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2024年6月7日 アクトシティ浜松
16. 柳川洋一、長澤宏樹、前川ちひろ、田中規子、谷口裕亮、河合健司、濱田通果、太田宗一郎、境達郎、大坂裕通、大森一彦. 妊婦に対する高気圧酸素療法の現状. 第58回日本高気圧環境医学会 2024年6月28-29日. ヴィラルーチェ中津(大分県中津市)
17. 柳川 洋一, 前川ちひろ, 田中規子, 廣岡志紀, 河合健司, 濱田通果, 太田宗一郎, 谷口裕亮, 長

- 澤宏樹, 境達郎, 大坂裕通, 大森一彦. ドクターへリレジストリーに登録された軽症頭部外傷の解析. 日本脳神経外科学会学術総会 2024年10月16-18日. パシフィコ横浜
18. 柳川 洋一, 長澤 宏樹 前川 ちひろ, 田中 規子, 太田 宗一郎, 廣岡 志紀, 濱田 通果, 河合 健司, 谷口 裕亮, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦. 外傷後の血色素量および血小板数低下に関する要因の検討. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
19. 廣岡 志紀, 月原 知輝, 太田 宗一郎, 境 達郎, 谷口 裕亮, 大森 一彦, 田中 規子, 前川 ちひろ, 河合 健司, 濱田 通果, 長澤 宏樹, 大坂 裕通, 柳川 洋一. 特発性肺線維症を背景に非胸部外傷後にARDSを生じた一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
20. 河合 健司, 前川 ちひろ, 田中 規子, 廣岡 志紀, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. 亀頭包皮炎から波及した敗血症性ショックの一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
21. 濱田 通果, 大森 一彦, 谷口 裕亮, 田中 規子, 前川 ちひろ, 河合 健司, 廣岡 志紀, 長澤 宏樹, 境 達郎, 大坂 裕通, 柳川 洋一. 頸椎骨折で咽頭後壁血腫を合併した一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
22. 大坂 裕通, 大森 一彦, 前川 ちひろ, 田中 規子, 廣岡 志紀, 河合 健司, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 柳川 洋一. 頸部刺創による出血性ショックの対応と血管内治療の限界. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
23. 岩田 秀, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一 鈴木 美沙子, 上原 由紀, 鈴木 匠宏. String test 陽性 Klebsiella pneumoniae K2 クローンによる肝膿瘍に伴う敗血症性ショックで死亡に至った一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
24. 安齊 正敏, 柳川 洋一, 大森 一彦, 大坂 裕通, 境 達郎, 長澤 宏樹, 谷口 裕亮, 太田 宗一郎, 河合 健司, 濱田 通果, 廣岡 志紀, 田中 規子, 前川 ちひろ. 総腸骨動脈瘤破裂に対する緊急 EVAR 後に腹部コンパートメント症候群を合併し死亡した一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
25. 前川 ちひろ, 長澤 宏樹, 田中 規子, 河合 健司, 廣岡 志紀, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 境 達郎, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. アナフィラキシー患者に対するドクターへリ要請タイミングによる患者予後への影響. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
26. 大森 一彦, 柳川 洋一. イギリス留学による救急医としての多様性とグローバルな視点の獲得. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
27. 長澤 宏樹, 前川 ちひろ, 田中 規子, 濱田 通果, 廣岡 志紀, 谷口 裕亮, 河合 健司, 太田 宗一郎, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. 正中弓状靭帯圧迫症候群を伴う胃大網動脈出血の一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
28. 谷口 裕亮, 大森 一彦, 長澤 宏樹, 田中 規子, 前川 ちひろ, 河合 健司, 廣岡 志紀, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 境 達郎, 大坂 裕通, 柳川 洋一. ドクターへリによる窒息患者搬送の臨床的分析. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日. 仙台国際センター(宮城)
29. 大坂 裕通, 大森 一彦, 前川 ちひろ, 田中 規子, 廣岡 志紀, 河合 健司, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 柳川 洋一. 転落による頸部刺創初期対応の選択 第52回日本

救急医学会総会・学術集会 2024年10月13-15日 仙台国際センター（宮城）

30. 大森 一彦. ランチョンセミナー17『外傷性 DIC の病態を知ろう』. 第52回日本救急医学会総会・学術集会 2024年10月15日 仙台国際センター（宮城）
31. 大森 一彦. 《共催シンポジウム1》「POCTと緊急大量輸血」外傷性大量出血におけるPOCT. 第31回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム 2024年10月18日 ソニックシティ（埼玉）
32. 大森 一彦. ランチョンセミナー IP 無線機による情報共有（データ通信・画像伝送）. 第31回日本航空医療学会 2024年11月14日 アイムユニバース てだこホール（沖縄）
33. 柳川 洋一, 田中 規子, 前川 ちひろ, 廣岡 志紀, 濱田 通果, 河合 健司, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 境 達郎, 神田章男, 石原唯一史, 大坂 裕通, 大森 一彦. ドクターヘリコプターによって搬送された中毒患者の現状. 第31回 日本航空医療学会総会 2024年11月15-16日 アイムユニバース てだこホール（沖縄）
34. 長澤 宏樹, 大森 一彦, 太田 宗一郎, 河合 健司, 谷口 裕亮, 境 達郎, 大坂 裕通, 柳川 洋一. JSAS-R を用いた病院前外傷性CPA患者の予後解析. 第31回 日本航空医療学会総会 2024年11月 15-16日 アイムユニバース てだこホール（沖縄）
35. 大森 一彦,長澤 宏樹, 大坂 裕通, 柳川 洋一. イギリス・ドイツのHEMSから学ぶ日本のドクターヘリへの応用. 第31回 日本航空医療学会総会 2024年11月 15-16日 アイムユニバース てだこホール（沖縄）
36. 大坂 裕通, 大森 一彦, 河合 健司, 太田 宗一郎, 谷口 裕亮, 長澤 宏樹, 柳川洋一. 静岡県東部ドクターヘリにおける肥満患者の検討. 第31回 日本航空医療学会総会 2024年11月 15-16日 アイムユニバース てだこホール（沖縄）
37. 濱田 通果、境 達郎、前川 ちひろ、田中 規子、廣岡 志紀、河合 健司、柳川 洋一. 膨氣胸により心停止に至った一例. 第27回日本救急医学会中部地方会 2024年12月 6-7日 AOSSA(福井市)
38. 田中 千裕、大坂 裕通、前川 ちひろ、田中 規子、太田 宗一郎、廣岡 志紀、濱田 通果、河合 健司、谷口 裕亮、境 達郎、長澤 宏樹、大森 一彦、柳川 洋一. Kounis syndrome の合併を疑われた蜂刺症の一例. 第27回日本救急医学会中部地方会 2024年12月 6-7日 AOSSA(福井市)
39. 河合 健司、田中 規子、前川 ちひろ、濱田 通果、廣岡 志紀、太田 宗一郎、谷口 裕亮、長澤 宏樹、境 達郎、大森 一彦、大坂 裕通、柳川 洋一. 独歩で受診した、側溝への転落外傷でIIIb型の肝損傷を生じた小児の1例. 第27回日本救急医学会中部地方会 2024年12月 6-7日 AOSSA(福井市)
40. 大森 一彦. 外傷患者に対するトラネキサム酸の病院前投与の臨床的有効性と日本での実現に向けて. 第19回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 2024年12月 15日 ニューウエルシティ 宮崎（宮崎）

海外発表

1. Yanagawa Y, Tanaka N, Nagasawa H, Maekawa C, Hirooka Y, Kawai K, Hamada M, Ota S, Taniguchi H, Sakai T, Ohsaka H, Omori K. Intervention by a Physician Staffed Helicopter in Cases of Sudden Illness on Vessels Navigating around the Izu Peninsula. 14th Asia Pacific Travel Health Conference, 18-21 September 2024, Kathmandu, Nepal
2. Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I. The pitfalls of chest trauma. American Academy of Emergency Medicine's 30th Annual Scientific Assembly (AAEM24) April 27-May 1, 2024. Austin (TX)
3. Taniguchi T, Nagasawa H, Muramatsu K, Takeuchi I, Sakai T, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Optimizing Mass Casualty: An Incident Report of Consolidating Patient Transport and Its Impact on Triage Efficiency. The 23rd International Conference on Emergency Medicine (ICEM 2024). June 19-23, 2024. Taipei International Convention Center.
4. Omori K. The Journey of Doctor-Helicopters in Japan: Past, Present and Future. International Conference on Emergency Medicine (ICEM 2024). June 19-23, 2024. Taipei International Convention Center.

和文著書

- 柳川洋一 脳神経外科救急ハンドブック 株式会社メディカ出版 2024年8月
- 柳川洋一 自然毒中毒 『今日の診断指針 第9版』医学書院 2024年12月

社会貢献

能登半島地震 (2024 年) DMAT 派遣 竹内郁人, 大坂裕通, 柳川洋一

講演

1. 柳川洋一 画像診断上の vacuum phenomena に関して. 第 16 回 Medical Imaging Conference. 2024 年 6 月 29 日 プラサヴェルデ沼津
2. 柳川洋一 意識障害患者へのアプローチ. 第 27 回 東京女子医大総合診療セミナー 2024 年 9 月 11 日 Web
3. 柳川洋一 MCLS-CBRNE 災害医師会・MC 合同研修会 2024 年 11 月 29 日御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
4. 大森一彦 「自分は何をしたいのか」: ロンドン留学から見た日本の救急医療とドクターへリの未来 令和 5 年度第 2 回 3 地域 MC 協議会合同「救急隊員等研修会」2024 年 1 月 30 日 田方中署
5. 大森一彦 共に命を救う: ドクターへリと地域の連携による救急医療最前線 第 86 回順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座 2024 年 2 月 21 日
6. 大坂裕通 2024 伊豆健康フォーラム 「令和 6 年能登半島地震における DMAT 活動報告とフェーズフリーという考え方」 2024 年 10 月 26 日 長岡総合会館 アクシスかつらぎ大ホール
伊豆新聞掲載

2-26 病理診断科

診療実績

2024 年度

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

組織診断：7967 例

細胞診断：8125 例

病理解剖断：5 例

研究・教育活動

【英文原著】

1. Kusunoki T, Wada R : Emergency surgery for a giant laryngeal granuloma that caused dyspnoea. BMJ Case Rep 9;17(1):e258227. , 2024.
2. Kidokoro Y, Kusunoki, T, Matsumoto T, Kidokoro Y, Wada R, Matsumoto F : A case report of superficial solitary fibrous tumor in the right parotidomasseteric region. Ear, Nose & Throat Journal, 1-4, 2024
3. Kusunoki T, Wada R : Case with translating to multiple myeloma at 8 years after radiation therapy for extramedullary plasmacytoma of the larynx. BMJ Case Rep, 2024.
4. Kusunoki T, Wada R : Preoperative bilateral recurrent laryngeal nerve palsy in Graves'disease BMJ Case Rep 2024;17:e262363.
5. Kusunoki T, Wada R : Primary nasal neuroendocrine carcinoma in an adult. BMJ Case Rep, 2024.
6. Tanaka S, Orita H, Kataoka T, Miyazaki M, Saeki H, Wada R, Brock MV, Fukunaga T, Amano T, Shiroishi T : Gasdermin D represses inflammation-induced colon cancer development by regulating apoptosis. Carcinogenesis, 24;44(4):341-349, 2023.
7. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S : A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia. Ann Vasc Dis, 25;16(3) : 219-222, 2023.
8. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y. Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory Myofibroblastic Tumor. Intern Med. Oct 1;61(19):2891-2894, 2022.
9. Kusunoki T, Wada R : Case of anterior glottic web with bilateral vocal

cord cancers BMJ Case Rep 2022;15

10. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y. Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory Myofibroblastic Tumor. Intern Med. 2022 Oct 1;61(19):2891-2894.
11. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R, Ikeda K : A Case of Nasopharyngeal Tuberculosis with Cervical Lymph Node Tuberculosis Suspected of Cervical Malignant Disease at the First Examination. Clin Pract. 2021 : 21.
12. Ogawa T, Ogaki K, Daida K, Nishimaki T, Ando M, Kawajiri S, Wada R, Noda K, Hattori N, Okuma Y : Progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus and myasthenia gravis comorbid status with thymoma. Movement Disorders Clinical Practice, 2021.
13. Kusunoki, T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R : Mediastinum Lymph Node Metastasis with Superior Vena Cava Syndrome. Journal of Clinical Case Studies (Open Access). 6, 2021.
14. Kusunoki T, Wada R : Thyroid Follicular Adenoma with Tracheal Stenosis. J Clin Case Stu 6(4), 2021.
15. Shimizu Y, Wakabayashi K, Iwasaki H, Kishida C, Seki S, Okuma T, Iwakami N, Iwasawa T, Maekawa H, Tomino Y, Wada R, Suzuki Y : Immunotactoid Glomerulopathy with Nontuberculous Mycobacterial Infection: A Novel Association. Case Rep Nephrol Dial 11:136–46, 2021.

【和文・英文総説】

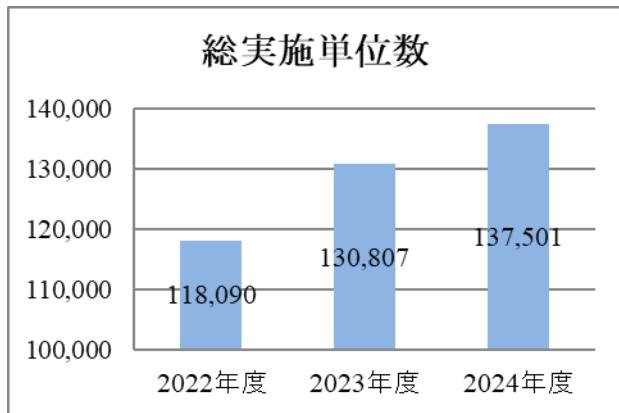
1. 八尾隆史、和田 了、岡野 荘：内視鏡的粘膜切除が確定診断に有用な消化管疾患の病理学的特徴。消化器内科 3:57-63, 2021
2. Wada R : Histogenesis of colorectal carcinoma considering from clinicopathological examinations for colorectal adenoma with Paneth cell. Juntendo Medical Journal. 2021

【和文著書】

1. 和田 了：転移性腫瘍。腫瘍病理鑑別アトラス、大腸癌第2版。文光堂、東京、p204-207, 2021

2-27 リハビリテーション科

業務実績



研究・教育活動

論文

1. Hayashi Y, Yamazaki K, Komatsu S, Yamamoto N, Ueda S, Sato K, Yamaguchi T, Hatori K, Honaga K, Takakura T, Wada F, Tanuma A, Fujiwara T: Quadriceps muscle activity during walking with a knee ankle foot orthosis is associated with improved gait ability in acute hemiplegic stroke patients with severe gait disturbance. *Front Neurol* 15; 1387607, 2024.
2. Ase H, Honaga K, Tani M, Takakura T, Wada F, Murakami Y, Isayama R, Tanuma A, Fujiwara T: Effects of home-based virtual reality upper extremity rehabilitation in persons with chronic stroke: a randomized controlled trial. *J Neuroeng Rehabil* 22(1); 20, 2025.

総説

1. 田沼明, 原田剛志, 越智英輔 : 超高齢社会におけるがんリハビリテーション診療. *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine* 61(8) ; 718-724, 2024.
2. 田沼明, 越智英輔 : Exercise Oncologyーがんと運動ー. *腫瘍内科* 34(6) ; 595-599, 2024.
3. 田沼明, 越智英輔 : Exercise Oncology (運動腫瘍学). *Journal of Clinical Rehabilitation* 34(2) ; 127-133, 2025.

著書

1. 田沼明 : 前立腺がん. 日本がんサポーティブケア学会 (編) : 患者さんのためのがんのリハビリテーション診療 Q&A. pp20-24, 金原出版, 2023.
2. 田沼明 : 泌尿器癌の周術期リハビリテーション. 荒井陽一, 高橋悟, 山本新吾, 古家琢也 (編) : 第3版泌尿器科周術期管理のすべて. pp53-56, メジカルビュー社, 2024.

講演

1. 田沼明：運動を始めてみませんか. 第 9 回日本がんサポーティブケア学会学術集会, さいたま、2024/5/18-19.
2. 小林敦郎：肝臓病予防に有効な運動って?. 日本肝臓学会 市民公開講座, 静岡, 2024/7/25
3. 海東健太：たかが口、されど口～3 人のスペシャリストが語る“うまい”と言わせる口づくり～. 第 64 回静岡リハビリテーション懇話会, 静岡, 2024/8/24
4. 田沼明：がんリハビリテーションと Exercise Oncology. 第 43 回日本臨床運動療法学会学術集会, 京都, 2024/9/14-15.
5. 小林敦郎：知って防ごう！脳梗塞と心筋梗塞 循環器病予防のための運動. 静岡県・静岡社会健康医学大学院大学 県民健康講演会, 静岡, 2024/10/14
6. 田沼明：Exercise Oncology: がん患者の身体活動・運動への着目. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024/10/24-26.
7. 田沼明：Exercise Oncology におけるリハビリテーションチームの役割. 第 8 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 岡山, 2024/11/1-3.

学会発表

1. 海東健太, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 田沼明：息こらえ嚥下法の習得に嚥下運動モニタ B4STM を用いた Biofeedback 効果-VZV ウィルスによる咽頭期嚥下障害の 1 例-. 第 25 回日本言語聴覚学会, 兵庫, 2024/6/21-22
2. 望月陽裕, 阿妻伸幸, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 田沼明：間質性肺炎急性増悪患者に対する早期からの吸気筋トレーニングの効果. 第 27 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2024/6/22-23
3. 櫻井駿平, 小池教文, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎：症状の変化に合わせた理学療法アプローチによりしゃがみ込み動作獲得を目指した人工膝関節全置換術後の一症例. 第 27 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2024/6/22-23
4. 石田愛莉, 平松亮二, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎：聴神経腫瘍術後に小脳出血を合併した一症例～歩行安定性獲得を目指した骨盤底筋賦活による介入～. 第 27 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2024/6/22-23
5. 内田桃花, 山田凌平, 渡邊嘉也, 小池教文, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 田沼明：人工股関節全置換術後の股関節伸展・内転制限に着目した介入が歩行能力向上に有用であった一症例. 第 27 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2024/6/22-23
6. 小宮山正広, 鳥屋優太, 渡邊嘉也, 渡邊大輔, 小林敦郎, 塩澤知之, 田沼明：修正大血管転位症による心不全発症例の社会復帰に向けた理学療法介入の経験～運動耐容能に着目して～. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 神戸, 2024/7/13-14
7. 田沼明：高齢がん患者に対する身体活動・運動処方の開発と普及に関するプロジェクト. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024/10/24-26.
8. 小林敦郎：多職種チームで担う地域・職域での健康づくり～リハ専門職の新しい役割 行政・医師会・保健師との多職種連携. 第 83 日本公衆衛生学会, 札幌, 2024/10/30
9. 山田凌平, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 梶本完, 田沼明：経カテーテル大動脈弁置換術患者の退院時日常生活動作に関連する因子の検討. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 神戸, 2024/7/13-14

10. 鈴木建宏, 松永晃奈, 保谷海斗マフラ, 田沼明, 大林治 : 短時間のスプリント装着で内反手の矯正が得られた橈骨完全欠損児への作業療法. 第 58 回日本作業療法学会, 札幌, 2024/11/9-10.
11. 鳥屋優太, 塩澤知之, 渡邊大輔, 河原一剛, 宮下春紀, 山田凌平, 白須未夏, 望月元暉, 栗原昇汰, 谷津翔一朗, 小林敦郎, 田沼明 : 急性心不全患者における退院時呼吸筋力に関連する因子の検討. 第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会, 仙台, 2024/11/23-24
12. 小田千優希 : 硬膜動脈瘻 (dAVF) により感覚性失語症を呈した一例. 2024 年度静岡県言語聴覚士会全体研修会, Zoom, 2025/2/2

2-28 臨床検査科

業務実績

1. 2024 年度 外部精度管理参加結果
 - ① 58 回日本医師会精度管理調査での点数 98.0 点 (627/640) : Ca 値～是正報告済
 - ② 41 回静岡県医師会精度管理調査 : 98.1 点 (103/105) : 微生物検査～是正報告済
 - ③ 60 回日臨技精度管理調査 : 99.6 点 (245/246) : 生理検査～是正報告済
2. 検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催（第 95～104 回）。
3. 検査結果の見方、考え方：検査の説明パンフレットを見直し
4. 外注検査項目でのパニック値の検討
5. 結果報告時間の短縮について現状調査。

研究活動；報告・発表

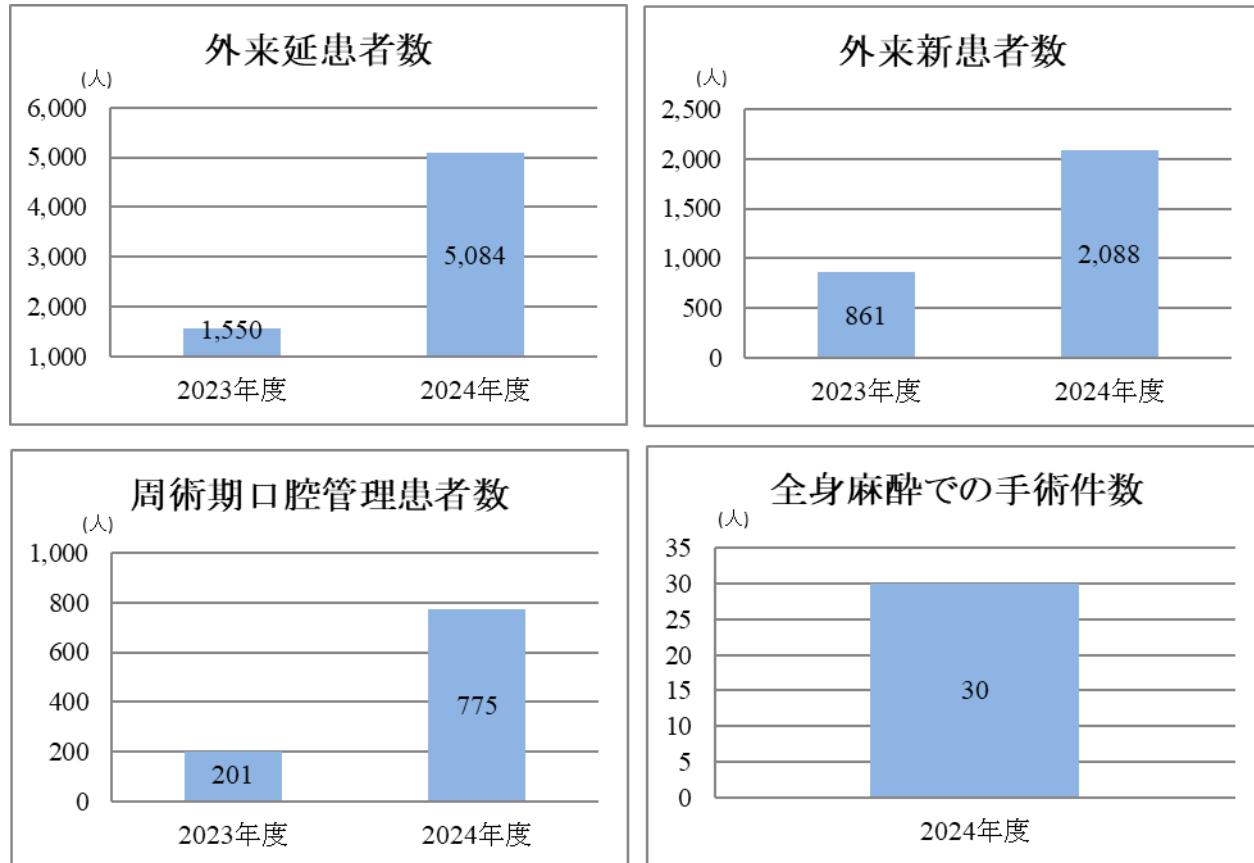
- ① 第 41 回 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、2024. 10
- ② 日本総合健診医学会第 52 年次 2024 年度 臨床検査精度管理報告書、2025. 3
- ③ 外注検査の精度管理－検体検査－：総合健診 51.2 57～59 2024

(特任教授 田内一民)

2-29 歯科口腔外科

当科は2023年9月から歯科医師1人体制で開設され、常勤の歯科衛生士や歯科技工士ならびに看護師と診療に従事していましたが、2024年4月より歯科医師2人体制となっております。日帰り抜歯などの小手術、顎関節症や睡眠時無呼吸症候群のマウスピース作製にも対応しておりますが、2024年8月から入院全身麻酔での手術も開始しました。今後は周術期口腔管理の患者も増加させ、地域の歯科医院とも連携しながら診療していくつもりです。

診療実績



※全身麻酔での手術件数は2024年8月以降のデータに基づき作成

2024年度

- 抜歯患者件数 985人
- その他の日帰り手術件数 247人

講演会

- 井染 洋 静岡県歯科医師会 「がん医科歯科連携研修会」 2025.2.9

教育活動

- 学校法人鈴木学園 歯科衛生学科 学生実習

3. 部門報告

3-1 薬剤科

業務実績

薬剤師：41名（正規職員：36名、パート：5名）うちGCPセンター（調剤業務兼務）に3名、薬剤管理指導業務担当12名、手術室業務1名 注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来および入院調剤業務21名、外来・入院化学療法2名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。（2025年3月31日現在）

業務内容

- | | |
|------------|--|
| ① 調剤 | 外来・入院調剤 |
| ② 製剤 | 約束処方・院内特殊製剤 |
| ③ 注射薬の取り揃え | 入院一般注射薬・化学療法用注射薬（外来・入院とも） |
| ④ 注射薬の無菌製剤 | 中心静脈栄養 |
| ⑤ 薬品管理 | 薬品発注・在庫管理・麻薬管理・使用期限チェック |
| ⑥ 医薬品情報提供 | 院内医薬品集(昨年度より電子化)の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の収集・提供 |
| ⑦ 薬剤管理指導業務 | 診療科ごとに薬剤師を担当させている
プレアボイド報告 |
| ⑧ 手術室業務 | 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援および麻薬管理 |
| ⑨ 化学療法 | 化学療法（外来・入院とも） |
| ⑩ その他 | 学会発表など |

1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書（あなたのおくすり）」を添付して患者への医薬品情報提供を実施している。合わせて、お薬手帳用薬剤一覧も毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。2021年度から調剤室内のレイアウトと調剤方法を変更した結果、調剤時間短縮が図られた。

● 2024年度調剤業務（処方せん枚数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月
外来	28,008	27,536	26,540	28,995	27,618	26,923	28,969	27,400	28,567	27,544	25,800	27,929
入院	16,761	15,579	15,929	16,946	16,672	15,655	18,196	18,433	19,047	17,932	16,478	17,300
合計	44,769	43,115	42,469	45,941	44,290	42,578	47,165	45,833	47,614	45,476	42,278	45,229
院外	1,260	1,253	1,206	1,296	1,194	1,195	1,215	1,162	1,209	1,217	1,155	1,288

2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製しており、無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬：前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットをしている。

●2024 年度注射薬処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
外来	3110	3156	3204	3526	3452	3161	3338	3406	3514	3507	3057	3313
入院	17817	19588	19872	21488	20845	19181	20676	20360	21163	22786	18465	21267

4. 注射薬の無菌製剤

中心静脈栄養(IVH)：当日 13:00まで（土曜及び休日は 8:00）にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している

●2024 年度無菌製剤件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
IVH	68	39	46	39	26	77	56	51	45	30	55	32

5. 薬品管理

採用薬は 2025 年 3 月 31 日時点で内服薬：1261 品目・注射薬：517 品目、合計 1,778 品目である。

6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集(電子版)の作成（毎月更新）・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて、必要に応じて院内配布（電子版あり）。

7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科及び皮膚科に、科ごとに配置している。持参薬の報告、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管理を行っている。2024 年 6 月より新たに救急診療科を開始している。

医療安全対策のひとつとしてプレアボイド報告（薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告）を行っており 2024 年度は 1,347 件の報告を行った。

●2024年度薬剤管理指導算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
算定件数	1159	1194	1115	1305	1178	1144	1258	1278	1192	1219	1039	1340

8. 手術室業務

麻酔科外勤医師が術中に使用する薬剤（麻薬、鎮静薬、筋弛緩薬、昇圧剤等）の準備・調製、また整形外科の股関節人工関節置換術で使用するカクテル注射の調製等を行っている。

麻薬担当者と共同で手術室の麻薬、毒薬・向精神薬の管理を行っている。

9. 化学療法

前日準備：前日までにオーダーされている化学療法の注射薬を個別セットする。また、化学療法担当者を含む2名以上でオーダーされている内容の投与量、治療スケジュール等の必要事項を鑑査する。

当日：化学療法の実施指示に伴い、がん治療センター調製室の安全キャビネット内にて2名以上で混注業務・鑑査を行い各関連部署へ払出す。

●2024年度調整件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
外来化学 療法	655	641	619	687	684	623	674	637	623	630	622	598
入院化学 療法	289	281	240	350	289	298	361	249	231	246	253	232

9. その他

学会発表（ポスター発表）

1. 木下 史一 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

ナルデメジン併用により、オキシコドンの鎮痛効果減弱を生じた肺癌脳転移の一症例

第17回 緩和医療薬学会年会 2024

2. 星野 剛史 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

オピオイド鎮痛薬使用患者における自動車運転に関するアンケート調査

第17回 緩和医療薬学会年会 2024

3. 垣沼 智之 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

くも膜下出血後の頭痛コントロールに難渋した一例

第27回 日本臨床救急医学会総会・学術集会

4. 磯 知輝 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

ダラツムマブ皮下投与時の注入反応に対するビラスチンの予防効果の調査

第34回 医療薬学会 2024

5. 芹澤 健一 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

注射薬配合変化ルート選択システムの構築

第34回 医療薬学会 2024

6. 中島 隆良 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

デュラグルチドからの薬剤変更を伴うHbA1cの変化

第34回 医療薬学会 2024

7. 堀井 一輝 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

整形外科領域術後のNSAIDs使用患者における、RAS阻害薬、利尿薬との3剤併用と、RAS阻害薬との2剤併用による腎機能への影響の評価

第34回 医療薬学会 2024

学会発表（口頭発表）

1. 植松 卓也 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

我が国のCovid-19 Pandemic前後における疾患構造および処方薬剤構成の推移

第34回 医療薬学会 2024

2. 芹澤 健一 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

注射薬配合変化回避システムの構築とその有用性の検討 (<https://ssdi.info/routes/>)

第35回 静岡県病院薬剤師会学術大会 2024

3. 垣沼 智之 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

当院における手術室業務と今後の課題について

第35回 静岡県病院薬剤師会学術大会 2024

4. 徳山 裕人 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

当院における論文抄読会の取り組みについて

第35回 静岡県病院薬剤師会学術大会 2024

5. 堀井 一輝 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

カフェイン中毒に対しCHDFを行い、テオフィリン血中濃度をモニタリングした1例

第38回 日本中毒学会東日本地方会 2024

6. 南雲 昭人 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

高用量メトトレキサートの排泄遅延にエロビキシバットが関与した可能性がある1例

第14回 日本臨床腫瘍学会 学術大会 2025

受賞

1. 芹澤健一 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

注射薬配合変化回避システムの構築とその有用性の検討(<https://ssdi.info/routes/>)

第35回 静岡県病院薬剤師会学術大会 最優秀演題賞

2025年度の目標

① 研究活動の充実と臨床スキル（薬学的管理）の向上

- 6病院横断型の研究チームを推進
- 人事交流の促進とキャリアパスの構築

- 学位取得に向けた取り組みの強化
- ② 改正薬剤師法に準拠した医薬品の適正使用および医療安全への継続的貢献
- ③ 業務の効率化および安全性向上のためのロボット化・AI の導入（継続）
- ロボピックや医薬品情報提供業務支援ソフトの導入検討開始
 - 調剤支援システムおよび薬剤管理指導業務支援システムの更新
- ④ 薬学部実習生の受け入れおよび病床増床に向けた体制づくり
- 学生実習の継続的受け入れ
 - 実務と教育を兼務できる教員の育成
 - 医師のタスクシフトの推進
- ⑤ 薬剤師の増員と臨床業務の充実
- 薬剤師数の拡充を図り、病棟薬剤業務の強化および病棟薬剤業務実施加算の取得体制の整備
 - チーム医療への積極的な貢献

3-2 栄養科

業務実績

(1) 栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者への栄養食事指導を実施した。

糖尿病の教育入院(2週間)が毎週定期的にあり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導

を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の習得は3名である。

栄養指導実施件数は2022年度4,034件、2023年度4,204件、2024年度4,259件であった。

早期栄養介入管理加算算定件数は2022年度445件、2023年度462件、2024年度598件であった。

- ② 栄養サポートチーム(NST)を中心に患者の栄養状態改善を図る為、毎週木曜日にNST回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中で NST リンクナースに指導を行い、低栄養患者に対してNST 介入できるよう見直しを行った。NST 専任要件を満たす医師2名、NST専門療法士習得者は、管理栄養士3名、看護師4名、薬剤師3名となり、それぞれの立場から専門性を發揮し連携を深めた。

- ③ 摂食嚥下支援チーム活動として、摂食嚥下機能回復体制加算取得に向けて取り組んでいる。

(2) 給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心で安全な食事の提供を行なった。

- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。

- ③ 年4回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。

- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度向上に努めた。

①給食実施状況

(単位:食)

区分	食種名	食数
一般食	常食	180,462
	授乳食	8,602
	お祝い膳	785
	学童食	2,202
	小児食	3,758
	離乳食	797
	軟食	69,651
	流動食	5,663
	小計	271,920
特別食	エネルギー塩分食	74,968
	糖質調整食	42,593
	蛋白コントロール食	26,052
	胃腸病食	23,203
	脂質制限食	8,695
	低残渣食	4,117
	無菌食	63
	濃厚流動食	40,337
	ミルク	29,112
	小計	249,140
患者合計		521,060
職員合計		128,739
付添い合計		2,189
おやつ合計		3,907
5回食合計		1,947

③NST介入延べ人数(各科別)

診療科	延べ人数
膠原病・リウマチ内科	14
消化器内科	28
呼吸器内科	52
血液内科	24
腎臓内科	55
糖尿病・内分泌内科	9
外科	183
脳神経外科	41
循環器内科	78
心臓血管外科	29
呼吸器外科	0
脳神経内科	41
整形外科	21
形成外科	33
救急診療科	98
小児科	1
小児外科	0
眼科	0
耳鼻咽喉科	23
産婦人科	32
皮膚・アレルギー科	9
泌尿器科	56
合計	827

②栄養食事指導実施状況

(単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計
個人指導	糖尿病食	504	1073	1577
	腎臓病食	162	139	301
	減塩食	1030	96	1126
	肝臓病食	17	24	41
	胃腸病食	297	14	311
	肥満食	2	61	63
	脂質異常食	32	50	82
	痛風食	1	0	1
	貧血食	2	0	2
	高血圧食	2	0	2
集団指導	その他	465	153	618
	小計	2514	1610	4124
	指導名	回数	人数	
	糖尿病教室	22	67	
	心臓病教室	20	68	
糖尿病会食		0	0	
母親教室		0	0	

3-3 放射線室

放射線室は、診療放射線技師 40 名(男性 32 名、女性 8 名)、事務員 5 名にて構成されている。診療放射線技師の勤務シフトは、早出 5 名、遅出 4 名、準夜 2 名、深夜 2 名、更に ON CALL 1 名で行い、24 時間、業務が滞らないよう努めている。

業務実績

機器構成 : 2024 年度

機器名	台数
一般撮影装置	5
移動型 X 線装置	6
骨密度測定器	1
乳房撮影装置	1
X 線 TV 装置	3
血管撮影装置 (Hybrid 含)	4
CT 装置	4
MRI 装置	4
ガンマカメラ(SPECT)	1
P E T - C T	1
放射線治療装置 (リニアック)	1
放射線治療計画用 C T 装置	1
口腔撮影装置	1

業務実績 (検査数)

年度	2023	2024
一般撮影	82,511	82,960
ポータブル	31,446	30,838
骨密度検査	2,031	1,994
マンモグラフィー	1,359	1,392
X 線 TV	3,023	2,746
血管撮影	2,304	2,545
CT 検査	46,298	47,955
MRI 検査	15,363	16,442
RI 検査	1,003	881
PET-CT	737	884
放射線治療	5,432	5,328
口腔撮影	411	1,912
合計	191,918	195,877

前年度と比較し、総件数で約 102% の業務量であった。12 部門の内、7 部門において検査数が増加した。

教育活動

(診療放射線技師を目指す学生への取り組み)

順天堂大学保健医療学部診療放射線学科の実習病院として、学生を受け入れている。

(救急撮影認定技師育成への取り組み)

救急撮影認定技師機構の研修施設として、実習生を受け入れている。

資格取得実績

医学物理士	1 名
第一種放射線取扱主任者	7 名
日本血管撮影 IVR 専門診療放射線技師	6 名
磁気共鳴専門技術者	3 名

放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理師	1名
救急撮影認定技師	5名
マンモグラフィー技術認定資格者	6名
X線 CT 専門技師	1名
X線 CT 認定技師	6名
第一種作業環境測定士	2名
臨床実習指導者	11名
放射線機器管理士	7名
放射線管理士	8名
災害支援認定診療放射線技師	1名
医療画像情報精度管理士	4名
画像等手術支援認定放射線技師	3名
修士課程 修了者	1名
博士課程 修了者	1名

発表・講演実績（2023.4～2024.3）

タイトル	学会名	場所	発表年月日	発表者・共同演者
当院のCT検査における造影剤副作用発生時の診療放射線の対応	第28回 静岡県放射線技師学術大会	静岡県富士市交流プラザ 多目的ホール	2024/5/26	柏葉大河.杉山巧也
寝台辺縁部上肢CT撮影における寝台横移動機能が被ばく線量と画質に及ぼす影響	第28回 静岡県放射線技師学術大会	静岡県富士市交流プラザ 多目的ホール	2024/5/26	黒坂勇貴.平入哲也
デジタルプレストトモシンセシスを用いた横刺しステレオガイド下マンモトーム生検におけるスペーサーの検討	第28回 静岡県放射線技師学術大会	静岡県富士市交流プラザ多目的ホール	2024/5/26	廣瀬知世.伊藤周子
第23回静岡県MAGNETOM研究会『腹部のMRI撮像技術』	静岡県MAGNETOM研究会	静岡市立静岡病院	2024/6/29	清水匡大
順天堂大学医学部附属静岡病院の肩関節撮影法	第1回 整形撮影ミーティング	順天堂大学医学部附属静岡病院	2024/7/6	杉山巧也
エチケット・マナー、医療コミュニケーション講座	静岡県放射線技師会	静岡県放射線技師会事務所	2024/9/8	七尾光広
タスクシフト/シェアによるメディカルスタッフの役割と取り組み	第6回 SING Live研究会	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	2024/10/4	平入 哲也
ビデオライブ EVT(R2Pシステム)	第6回 SING Live研究会	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	2024/10/5	落合 史朗
球体ファントムを用いた多断面再構成画像の空間分解能評価	第1回 日本放射線医療技術学術大会	沖縄コンベンションセンター	2024/10/31	平入 哲也
放射線部門におけるインシデントレポートの事例・要因分析	第1回 日本放射線医療技術学術大会	沖縄コンベンションセンター	2024/10/31	杉山巧也.愛甲泰久.清水匡大.篠田雅弘

Digital breast tomosynthesis 専用 Phantom と解析ソフトを使用した 模擬纖維検出能の定量評価	第 16 回中部放射線医 療技術学術大会	じゅうろくプラザ (岐阜市文化産業 交流センター)	2024/12/7	伊藤周子
磁気共鳴(MR)専門技術者認定取得に むけて	第 2 回胃がん講習 会・放射線セミナー	富士市交流プラ ザ多目的ホール	2025/1/25	清水匡大
CT 検査における疾患の発見から治 療まで・救急症例を中心に・	第 65 回 東海四県診 療放射線技師学術大 会	じゅうろくプラザ (岐阜市文化産業 交流センター)	2025/2/16	杉山巧也
順天堂大学医学部附属静岡病院の膝 関節撮影法	第 2 回静岡整形撮影 ミーティング	静岡県立総合病 院	2025/3/1	杉山巧也

院外活動

- ・ 静岡県放射線技師会 副会長
- ・ 静岡 CT 研究会 代表世話人
- ・ 静岡県核医学談話会 世話人
- ・ 静岡 IVR 懇話会 世話人
- ・ 日本放射線技師会 倫理委員会 委員
- ・ Medical Imaging conference in Shizuoka 世話人
- ・ 救急画像のトレセン 世話人
- ・ 静岡整形撮影ミーティング 代表世話人
- ・ 静岡 MRI 技術研究会 役員
- ・ 静岡 MRI 研究会 役員
- ・ 富士山 QQ 災害撮影研究会 世話人

3-4 検査室

業務実績

2024年度検査件数

	検体検査数	病理検査数	生理検査数	採血件数	委託検査数	総検査数
4月	417,981	1,324	5,561	10,784	15,268	450,918
5月	411,748	1,373	4,843	10,243	14,131	442,338
6月	432,329	1,352	5,175	10,206	15,661	464,723
7月	456,971	1,435	5,551	11,051	17,009	492,017
8月	428,869	1,397	4,939	10,487	16,836	462,528
9月	418,344	1,314	5,080	10,233	15,628	450,599
10月	447,930	1,492	5,639	11,487	15,934	482,482
11月	426,587	1,349	5,037	10,631	15,230	458,834
12月	457,431	1,375	5,137	10,587	15,730	490,260
1月	443,725	1,183	4,986	10,523	14,115	474,532
2月	395,364	1,160	4,660	9,920	13,663	424,767
3月	441,577	1,343	5,258	11,198	16,637	476,013
計	5,178,856	16,097	61,866	127,350	185,842	5,570,011
平均	431,571	1,341	5,156	10,613	15,487	464,168

検体検査数の内訳

	生化学	血清	一般	輸血検査 血液型	血液 凝固	細菌 遺伝子	計
4月	304,075	40,887	13,370	3,936	55,161	6,459	423,888
5月	296,721	40,967	14,388	4,264	54,941	7,216	418,497
6月	301,501	41,640	14,538	5,118	69,006	7,173	438,976
7月	328,247	46,065	15,522	4,621	61,891	7,833	464,179
8月	308,834	43,513	15,119	4,139	56,533	6,966	435,104
9月	301,357	41,772	14,513	3,566	56,626	6,045	423,879
10月	321,889	45,270	15,616	4,507	60,161	6,621	454,064
11月	306,980	43,022	14,607	4,393	56,963	7,492	433,457
12月	329,421	44,098	17,096	4,704	61,059	8,393	464,771
1月	318,322	44,248	14,783	4,710	60,552	8,807	451,422
2月	284,308	39,204	14,253	3,900	53,045	6,977	401,687
3月	318,370	43,848	15,817	4,153	58,895	7,738	448,821
計	3,720,025	514,534	179,622	52,011	704,833	87,720	5,258,745
平均	310,002	42,878	14,969	4,334	58,736	7,310	438,229

研究活動

- 順天堂6病院技師長会、各分科会において業務の標準化、情報共有を行う
- 毎月1回の検査室内勉強会（知得会）を開催し若手技師のプレゼンテーションの場とする
- 日本臨床検査技師会や各種専門学会の学会・研修会に参加し知識向上を図る

資格取得状況 2025年4月現在

細胞検査士 (JSCC)	5名
細胞検査士 (IAC)	5名
認定医療技術部門管理資格	1名
認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師	1名
認定輸血検査技師	1名
認定血液検査技師	2名
認定病理検査技師	1名
認定一般検査技師	1名
認定心電検査技師	1名
認定心電図専門士	1名
認定超音波検査士（循環器領域）	2名
認定超音波検査士（体表臓器領域）	1名
認定POCコーディネーター	1名
POCT測定認定士	1名
遺伝子分析科学認定士（初級）	4名
緊急検査士	11名
二級臨床検査士 免疫血清学	6名
二級臨床検査士 血液学	7名
二級臨床検査士 病理学	6名
二級臨床検査士 循環生理学	3名
二級臨床検査士 微生物学	2名
心電図検定	1級2名 2級5名
静岡県肝炎医療コーディネーター	5名
衛生工学衛生管理者	1名
医療安全管理者	2名
毒物劇物取扱者	1名
有機溶剤作業主任者	2名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	2名
健康食品管理士	2名
医用質量分析測定士	1名
臨床検査技師臨地実習指導者	1名
厚生労働大臣指定タスクシフト講習会終了	16名（対象者29名）

3-5 手術室

業務実績

1. 手術件数の推移

2024年の年間手術件数9330件、定時外も含む稼働率は、68.9%であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年	683	671	759	720	635	697	782	756	797	717	745	836	8798
2023年	760	695	789	720	778	705	756	747	758	755	755	800	9018
2024年	773	746	756	805	778	737	839	776	801	775	758	786	9330

2. 手術室の有効利用

手術のインターバルは30分であった。今後も各部門と連携し、A棟手術室を含め有効利用に努める。

3. 手術室看護師の業務効率化

キット内容を修正、介護福祉士と協働することで、術前準備の短縮ができた。予定手術件数が増加したことにより術前・術後訪問件数も増加したが、手術室全室を有効活用したことにより、術間や勤務時間が延長することは無かった。さらに衛生材料を一部既製品での運用に変更したことで業務の短縮、人員の確保、在庫管理がスムーズかつ簡素化ができ、効率的に業務が行えている。今後も、業務効率化のために業務の評価、修正や手術キットの見直しを適宜行っていく。また、定期的に手術室マニュアルの見直し、修正を継続する。

4. 手術室看護師の知識と技術向上

手術室では、術前・術後訪問を予定全身麻酔手術患者に全件実施している。緊急手術時も患者の状況に合わせて訪問を行っている。術前訪問で得られた情報をもとに手術室環境の整備、周手術期の看護に活用している。また、術後訪問を実施することにより看護の振り返りを行い、手術看護の質向上を目指している。術前外来で早期介入を行うことにより、患者自身が手術に向けて心身の準備ができ、行動変容に繋がるよう教育的な関わりを行っている。これらを継続し、周手術期の安全と術後早期回復に向けて、より安全に安心な手術を受けてもらえる体制作りをしていく。また、サインイン・タイムアウト実施率100%継続し、安全の確保に努める。術中麻酔管理の特定看護師が3名在籍している。手術室看護の専門性を高めるとともに医師のタスクシェア・シフトに貢献していく。

5. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。

3-6 血液浄化センター

業務内容

透析専門医師 2 名・常勤医師 3 名・看護師 13 名・臨床工学技士 14 名、看護助手 1 名により運営された。今年度途中で、血液浄化センターが 2 階から 3 階へ移動し、ベッド数も 2 床増床し、12 床となつた。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行つた。近年、外科領域・神経内科・膠原病内科などにおけるエンドトキシン吸着・二重濾過膜血漿交換・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大している。また、悪性腫瘍の治療中に発症する急性腎障害や末期腎不全へなど Onconeurology 分野の業務が増加している。近年、血液透析導入患者の年齢が高くなるに従い、透析を安定して行えるようになっても、退院後の通院透析が困難な患者さんが増えており、リハビリテーション目的の転院が増加している。また、バスキュラーアクセスのトラブルが頻発しており、対応困難症例が増加している。

診療実績

	HD	ECUM	PMX	PE	DFP P	血漿吸 着	血液吸 着	CHDF	CART	合計
R1 年度	5,804	123	113	63	40	124	96	1,071	103	7,537
R2 年度	5,451	145	126	39	43	64	109	909	71	6,957
R3 年度	5,930	44	57	12	38	46	78	876	122	7,203
R4 年度	6,422	59	48	25	89	12	98	927	55	7,735
R5 年度	6316	83	51	37	112	4	82	733	71	7,489
R6 年度	5791	161	27	83	92	30	76	824	71	7,155

研究・教育活動

【研究業績】

論文 英文・原著

1. Nagasawa H, Suzuki S, Kobayashi T, Otsuka T, Okuma T, Matsushita S, Amano A, Shimizu Y, Suzuki Y, Ueda S. Effect of fruits granola (Frugra®) consumption on blood pressure reduction and intestinal microbiome in patients undergoing hemodialysis. Hypertens Res. 2024 Nov;47(11):3214-3224.

学会発表・国内

1. 清水 芳男、中井 公美、田中 翔大、若林 啓一、鈴木 祐介. 伊豆半島・賀茂地域の CKD 対策に対する重点的対象者の抽出. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会. 2024 年 6 月 7 日. パシフィコ横浜
2. 若林 啓一、中井 公美、田中 翔大、長澤 肇、清水 芳男、鈴木 祐介、若林 正則、今泉 健太郎、若林 良則. 生検鉗子やロングシーズを用いた内シャント閉塞に対する治療戦略. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会. 2024 年 6 月 8 日. パシフィコ横浜
3. 吉武 由莉、田中 新、中井 公美、若林 啓一、清水 芳男. Fanconi 症候群の誘因として紅麹サプリメントの影響が考えられた一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術集会. 2024 年 9 月 28 日. ライトキューブ宇都宮
4. 高山 卓也、荒井 瑠美、若林 啓一、清水 芳男. 透析患者における低栄養の実態と課題 - 管理栄養士の立場として - 第 64 回静岡腎不全研究会. 2024 年 10 月 6 日. グランシップ
5. 吉武 由莉、田中 新、中井 公美、若林 啓一、清水 芳男. Fanconi 症候群の誘因として紅麹サプリメントの影響が考えられた一例. 第 69 回静岡腎セミナー. 2024 年 8 月 31 日. グランシップ
6. 矢ヶ崎 元洋、野村 理奈、秋元 麻衣、田中 新、若林 啓一、清水 芳男、鈴木 祐介. IVR および手術による治療が困難な医原性椎骨動脈仮性動脈瘤に対して用手的圧迫により止血した一例. 第 65 回 静岡県腎不全研究会. 2025 年 3 月 2 日. グランシップ
7. 秋元 麻衣、矢ヶ崎 元洋、五十畠 理奈、若林 啓一、清水 芳男. 粗大化した右腎に著明な石灰化がみとめられた慢性腎臓病の一例. 第 70 回静岡腎セミナー. 2025 年 3 月 1 日. 静岡第一ホテル.

講演会

1. 清水 芳男. CKD の成り立ちとこれから. 田方エリア CKD 学術講演会. 2025 年 2 月 3 日. ホテルサンバレー富士見

著書

1. 清水 芳男、富野 康日己. 頻尿. 内科診断学 第 4 版. 医学書院, 東京 2024 年 3 月 31 日 pp656-60.

3-7 臨床工学室

業務実績

人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	6	7	10	14	4	6	10	9	12	11	9	12	110

血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	519	481	483	458	466	425	497	530	487	480	503	462	5791
ECUM	10	8	18	9	10	5	10	17	11	27	26	10	161
PMX	4	0	0	0	1	2	1	1	5	5	4	4	27
PE	14	9	13	0	6	14	1	4	3	10	5	4	83
DFPP	3	9	20	1	12	22	5	0	2	1	6	11	92
PA	9	0	0	2	17	0	0	0	0	2	0	0	30
HA	11	4	0	6	4	12	10	11	5	13	0	0	76
CHDF	59	29	85	62	60	78	35	85	81	146	60	44	824
CART	5	5	2	2	9	5	9	6	9	8	4	7	71
合計	634	545	621	540	588	567	568	654	603	692	608	543	7163

高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	28	13	30	26	20	20	16	19	17	13	4	32	238

心臓カテーテル室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CAG	33	31	19	22	27	13	14	24	16	12	20	48	279
PCI	49	39	57	51	44	40	46	35	67	52	42	6	528
PPI	9	6	5	10	2	2	3	2	7	8	2	6	62
右心カテ	17	0	9	12	8	9	9	11	10	7	9	1	102
左心カテ	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	2	6
両心カテ	1	1	4	0	1	2	5	0	1	1	2	0	18
圧測定	1	3	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	9
EPS	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	3	7
Abraction	18	16	19	18	17	23	18	22	23	18	16	15	223
IVUS	50	37	49	53	39	34	39	31	62	55	38	8	495
FFR	17	21	12	14	19	11	10	16	11	8	17	4	160

OCT	5	6	10	8	7	7	12	6	15	5	5	12	98	
Rota	2	2	0	1	1	0	3	7	2	1	1	2	22	
CROSSER	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
IABP	7	4	7	1	6	5	3	3	5	6	5	2	54	
ELCA	4	2	3	5	3	10	3	2	6	5	5	0	48	
Pacemaker	植え込み	5	4	4	15	7	2	0	4	5	5	6	3	60
	交換	2	2	3	6	2	5	5	3	3	1	2	2	36
	リードレス	6	3	6	6	2	5	5	3	3	1	2	2	44
ICD	植え込み	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	1	7	
	交換	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	10
CRT	植え込み	1	2	1	0	2	0	1	0	0	1	0	1	9
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SICD	植え込み	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ILR	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5	
V-A ECMO	3	1	5	0	0	0	3	0	1	4	2	0	19	
V-V ECMO	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
Impella	1	0	5	0	0	0	1	0	0	2	1	2	12	

手術室業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
圧ライン作成		9	9	13	15	7	9	11	12	12	12	11	12	132
術中 CS		25	28	33	38	33	34	33	30	35	34	25	30	378
術後 CS		5	6	6	6	5	6	6	6	4	6	5	3	64
神経モニタリング	Tc-MEP	17	14	9	21	16	18	22	23	22	20	17	18	217
	SEP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	ABR	1	1	0	0	2	1	1	1	1	0	2	1	11
	AMR	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	VEP	0	1	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1	8
外視鏡		0	0	0	0	0	0	1	1	9	11	10	9	41
マイクロ		18	10	6	12	19	14	8	11	12	8	9	7	134
ナビゲーション		4	5	4	6	4	4	1	3	6	8	2	5	52
Da-Vinch		8	6	6	7	11	8	10	8	9	9	6	13	101
TAVI		3	7	6	5	4	2	5	3	8	6	4	6	59
Impella		0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
IABP		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ECMO		1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5
MitraClip		1	1	0	1	2	0	1	1	1	1	0	1	10

3-8 輸血室

業務実績(2024年度)

年間輸血検査件

- ・血液型検査 (ABO、Rh) 14,585 件 (時間外 4,982 件)
- ・不規則抗体検査 12,780 件 (時間外 3,951 件)
- ・交差適合試験 9,803 件 (時間外 2,599 件)
- ・クリオプレシピテート調製 285 件
- ・新生児用輸血小分け調製 32 件
- ・緊急 O 型赤血球輸血対応 65 件

年間輸血使用量

赤血球製剤 14,316 単位、自己血 510 単位、新鮮凍結血漿 4,266 単位、
血小板製剤 18,170 単位 洗浄血小板製剤 350 単位 HLA 血小板製剤 0 単位
クリオプレシピテート 756 単位

診療科別輸血使用量

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤	クリオプレシピテート
血液内科	3,682	0	590	13,130	0
心臓血管外科	2,037	6	1,130	2,390	268
循環器科	1,260	0	204	200	28
外科	1,174	0	240	540	12
救急診療科	1,071	0	490	320	180
整形外科	532	477	58	20	0
消化器内科	1,378	0	110	100	0
産婦人科	790	27	282	250	36
脳神経外科	512	0	56	90	62
泌尿器科	342	0	20	610	0
腎臓内科	400	0	306	100	0
呼吸器外科	54	0	8	0	0
呼吸器内科	282	0	20	210	0
新生児科	10	0	22	50	4
形成外科	110	0	6	0	0
麻酔科	356	0	234	140	166

膠原病内科	144	0	334	300	0
皮膚科	16	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0
小児科	30	0	26	50	0
糖尿病・内分泌内科	72	0	4	10	0
脳神経内科	64	0	126	0	0
眼科	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0
メンタルクリニック	0	0	0	0	0
計	14,316	510	4,266	18,510	756

廃棄（有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備）

赤血球製剤 20 単位 (廃棄率 0.069 %)
 新鮮凍結血漿 44 単位 (廃棄率 0.83%)
 血小板製剤 20 単位 (廃棄率 0.010 %)

看護部

I. 年間目標

- 1) 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する
- 2) 地域と連携し、暮らしに視点をおいた切れ目のない看護を提供する
- 3) 働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全な職場環境をつくる

II. 目標に対する改善計画

看護総務課、看護外来業務課・看護入院業務課、看護安全管理課、看護教育課の計画に準じる。

III. 教育・研修計画

看護部各課の委員会活動、看護教育課の計画に準じる。

IV. 業務内容（主なもの）

1. 日常業務

- 1) 職員一人ひとりが、目標達成のための活動が出来るように環境を調整する。
- 2) 職員一人ひとりの能力特性の開発を行い、教育に関する調整を行う。
- 3) 患者の治療・看護がスムーズに実施できるように環境を調整する。
- 4) 患者の快適な環境を提供でき、施設・設備・備品を整える。 7) 患者及び職員の安全に関する事項。
- 5) チーム医療推進のため他部門と連携する。 8) 院内・部内の会議に関する事項。
- 6) 各課からの報告事項に関する指導・監督。 9) 6病院看護部及び看護学部との教育体制の推進、FDの推進。

2. 月間・年間業務

- 1) 日常業務・月間業務計画に基づき実施
- 2) 年間目標・計画作成と評価（SWOT分析より業務課題を整理しBSC作成。戦略達成の評価とアクション）次年度計画立案

3. その他

- 1) 順天堂6病院看護責任者会（年7回）、及び師長・主任研修会（年1回開催）
- 2) 東部看護管理者会、研修会（年3回）
- 3) 県看護管理者会（年2回）
- 4) ここいきサポートネットワーク会議（地域包括ケア推進事業）（年3回）

V. 学会・研修会など（外部）

- 1) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100分3回）4月
- 2) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100分2回）10月
- 3) 関連看護系学会参加

	業務内容	業務改善計画・教育計画
2024年 4月	年度目標計画開始、看護職員新採用オリエンテーション 看護管理会議開催、教授会、6病院責任者会 部内・拡大会議	各委員会の開催、昇格師長・主任オリエンテーション、中間管理者研修計画発表、看護師特定行為研修開講
5月	休日体制の運営、看護管理会議開催、部内・拡大会議、 6病院責任者会、教授会	看護師特定行為研修の進捗確認 保健看護学部実習開始
6月	新入職員正規採用の勤務評価、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、師長面接（入院・外来業務課）、教授会、職員実態調査、師長・主任面接	順天堂大学看護部門内部監査の準備 中間管理研修開講
7月	就職説明会、採用試験、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）看護管理会議開催、部内会議、 6病院責任者会、教授会	内部監査、看護体制：ペア制の進捗確認
8月	就職説明会、採用試験、職員実態調査、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）	夏季休暇
9月	就職説明会、採用試験、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6病院責任者会、教授会、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）、看護補助者の業者選定	看護部中間評価
10月	就職説明会、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6病院責任者会、教授会	6病院合同師長・主任研修会
11月	就職説明会、採用試験、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6病院責任者会、教授会	看護師特定行為研修の進捗確認
12月	採用試験、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、教授会　主任・師長キャリア面接	年末の見直しと新年からの年度評価準備
2025年 1月	職員実態調査、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、6病院責任者会、教授会 次年度昇格者選定、主任・師長キャリア面接	
2月	看護管理会議・主任会の開催、6病院責任者会、部内・拡大会議、教授会、師長・主任合同会議	看護部年間評価 次年度計画
3月	看護管理会議開催、6病院責任者会、部内・拡大会議教授会、就職説明会（医療看護・保健看護学部）	看護師特定行為研修修了

【2024年度を振り返って】

	2024年度年間目標	評価	分析	2025年度に向けて
1	患者さんの尊厳を守り安全で質の高い看護を提供する	看護部の質指標として取り上げ、師長ワーキンググループの活動として取り組んだ	昨年度の現状値より改善が見られた項目（10項目/16項目中）であったが目標値までの改善はみられなかった	誤薬に関する対策を最優先に実施しするとともに、他項目に關しても目標値を掲げ継続的に取り組んでいく
2	外来・病棟が連携し地域につなげる看護を提供する	地域の医療福祉機関等との連携率の向上（多職種参加・計画内容充実）	カンファレンス件数は増加したが、看護計画への反映は昨年度と比べ横ばい。外来と地域の連携数が鈍化。	外来は情報連携シートを活用した発信の強化をはかる。全体としてはQOLを重視した支援の強化
3	働きがい・働きやすさを感じられる職場環境をつくる	離職率は5.6と昨年度より低下。WLBINDEX結果では働き方、生活満足度が昨年度より上昇。超過勤務時間と昨年度より短縮も部署により20時間超えもある	補助者へのタスクシフトシェアが部署により格差あり。WLBINDEX・職員満足度調査では生活満足度、労務環境など昨年度と満足度変化なし	補助者へのタスクシフトは次年度WGを立ち上げ取り組む。労働環境では申し送り廃止、看護記録整備に取り組む

2024 年度 看護部総括

1) 患者さんの尊厳を守り安全で質の高い看護を提供する

QI 目標達成のため WG (褥瘡・転倒転落・誤薬・身体拘束・退院支援・働きやすい環境作り)を作り活動。昨年度の現状値より改善は見られているが、今年度目標値には到達できなかった(別紙参照)。誤薬に関しては内服準備から配薬の手順のスリム化、インスリン指示システムの変更による誤薬低減に取り組んだ。システム変更による手順の理解、周知の浸透までに至らず、また診療部との指示出しの調整など医療安全対策室と協働で取り組む必要がある。

転倒転落では職員教育としては KYT の実施、患者教育では転倒予防体操の導入、外来では危険リスクの高い患者(てんとう虫シール)を使用し危険回避に取り組んだ。次年度も継続して WG による部署ラウンドや患者教育のための予防体操の指導、職員教育 KYT の継続とアセスメント力の向上を目指す。

感染については VRE 対策を含め手指衛生目標達成に向け、指導者の育成に取り組んだ。継続的な取り組みが実施できず監査の強化、夜間の監査なども次年度は感染対策室と協働で実施していく。昨年度よりおむつ交換、ポジショニング、採血、点滴作成手技の強化のためのケアマイスター制度を導入し今年度は 400 名が取得できた。院内の VRE 陽性率も低下しつつあり育成の効果もうかがえる。今後は各部署の主任、ICN、WOC と協働し質の担保確保にも務めていく。

身体拘束については診療報酬改定による低減チームの発足、人事交流を兼ねた附属病院への院外研修を実施。院内全体の意識改革の推進、多職種カンファレンスの充実、アセスメント用紙の見直しなど課題を抽出し次年度へつなげる。

褥瘡予防対策では本年度はリンクナースの他、特定行為看護師の介入、ケアマイスターの育成を図り予防と早期治癒を目指した。

誤薬対策については、電子カルテシステムの改定に伴い処方システム、インシュリンオーダーシステムを導入した。しかし 6 R 確認不足によるインシデントが多い傾向が続いている。次年度も引き続き手元確認を進めていく。

ケアマイスター制度を 2023 年にたち上げ、主任看護師からキャリアラダー目標にも取り込み屋根瓦方式で育成を開始。ケアマイスターの継続的な育成とケアマイスターを中心とした看護技術向上のための取り組みを実施したことで質の高い看護の提供について少しづつであるが成果が見えてきている。しかしマイスター取得の有無により手技達成率に差があることも確認でき、質向上にむけ次年度も継続的に育成を行う。

2) 専門職としての責任と役割遂行が發揮できる人材

ラダーアップ率は全体では 33% であった。ラダーⅢからⅣへのアップ率が昨年度に比べ低く、Ⅴへのアップが 0% となっている。院内外での研究発表等がクリアできていない状況である。管理ラダーにおいては自己研鑽のポイントについて 2 極化が見られた。

院外教育活動に関しては、学会発表 43 件 (41 件 : 2023) 、講師・講演が 102 件 (0:2023) など昨年度比べ伸びてきている。日々の看護介入や委員会活動などの実践を発表につなげる管理者の働きが大きい。

特定行為看護師も今年度は 37 名が在籍。行為実施件数も 871 件 (555 件 : 2023) と増加、クリティカル領域での特定行為が多い。褥瘡のデブリードメントも増加傾向であり、褥瘡早期治癒に貢献できている。

3) 他職種との連携・チーム医療地域貢献

病棟での多職種カンファレンス件数は伸びてきているが、今後は QOL を重視した質の向上が求められる。

外来でのスクリーニング件数は増加、指導件数も伸びてきているがケアプランなど記録に反映をしていくことが課題となっている。また介入ありの対象者へのカンファレンス件数が伸びず、地域への発信においては連携の質強化を図るための体制作りの必要がある。

4) 健康で安全な職場環境作り

WLBINDWX・職員満足度調査では、超過勤務、人材の適正配置などについて不満足傾向が高い傾向であった。また心理的安全性については、リスクが起きた際の CF 内容、外来患者からの待ち時間に対してのクレームから安全性への対策が必要であるという調査結果であった。

引き続き、働きがい・上司の関わり・キャリア開発についての項目は満足度が高かった。

次年度は安全で効率的なタスクシフトシェア、看護業務の効率化に向け、働きやすい職場環境作りを推進していく。

5) 健全な病院運営

電子カルテの更新については計画通りに進めることができた。操作方法について周知が今後の課題である。

6) 災害に対する危機管理強化

年間を通じて、動画聴講による訓練を実施。また、今年度は DMTA のメンバーにも協力してもらい全部署で机上シミュレーションを実施。しかし看護部の災害運用規約に対する理解が低い状況があり、今後の規約の見直し・周知が課題となる。また、近年の傾向から、風水害や局地災害についても検討していく必要がある。

2024年度 看護部目標と指標(QI:Quality Indicator)

2025.3.31看護部

目標1)患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する

① 褥瘡発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値
	①新規褥瘡発生割合(月間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	新規褥瘡発生患者数	0.80%	0.75% 0.70%
	分母	入院患者数		
	②新規MDRPU発生割合(月間)		1.10%	0.95% 0.80%
	分子	新規MDRPU発生患者数		
	分母	入院患者数		
	2. 副次評価項目		現状値	目標値
	①自立度の正しい評価割合(月間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	新規褥瘡発生時の日常生活自立度評価が患者状態と一致した数	83.0%	90.0% 100.0%
分子	新規褥瘡発生患者数			

② 転倒転落発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値
	①損傷レベル2の転倒転落発生率(年間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	損傷レベル2の転倒転落発生件数	0.33‰	0.33‰ 0.32‰
	分母	転倒転落インシデント・アクシデント報告件数		
	2. 副次評価項目		現状値	目標値
	①病棟の危険度Ⅱ以上患者の転倒転落割合(年間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	危険度Ⅱ以上の転倒転落患者数	0.28%	0.28% 0.27%
	分母	危険度Ⅱ以上の入院患者数		
	②病棟の再転倒転落患者割合(年間)		16.30%	16.30% 16.00%
	分子	転倒転落歴のある患者数		
分子	転倒転落発生患者数			

③ 誤薬発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値
	①薬剤に関連する事故発生率(年間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	薬剤に関連する事故発生件数	27.0%	21.9% 16.8%
	分母	インシデント・アクシデント報告総件数		
	2. 副次評価項目		現状値	目標値
	①注射薬に関連する誤薬事故発生件率(年間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	注射薬に関連する誤薬事故発生件数	61.8%	55.6% 49.4%
	分母	薬剤に関する誤薬事故発生件数		

④ 身体拘束割合を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値
	①身体拘束患者割合(月間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	身体拘束実施患者数	一般: 13% 特定: 52%	一般: 13% 特定: 50% 一般: 12% 特定: 45%
	分母	入院患者数		
	2. 副次評価項目		現状値	目標値
	①身体拘束実施日数割合(月間)		2023年度	6か月後 1年後
	分子	患者一人あたり身体拘束平均実施日数	一般: 14% 特定: 60%	一般: 12% 特定: 55% 一般: 10% 特定: 50%
	分母	平均在院日数		
	② 認知症ケア加算減算率		51%	50% 50%
	分子	認知症ケア加算取得者の内の身体拘束実施患者数		
分子	認知症ケア加算取得者数			

目標2)他職種と連携・協働し、チーム医療・地域貢献を推進

⑤ 多 し 職 続 的 な 連 看 携 護 ・ 情 提 報 供 共 す 有 る を 強 化	1. 主要評価項目	現状値	目標値	
		2023年度	6か月後	1年後
①地域支援事業者との連携率(病棟)				
分子 地域支援事業者との面談数(介護連携+共同指導)		78.6%	81%	83%
分母 介護保険認定患者数(介入有の患者)				
②医療機関と地域の情報連携シート活用件数(地域→外来)	243件	140件	255件	
③医療機関と地域の情報連携シート活用件数(外来→地域)	264件	150件	280件	
2. 副次評価項目		現状値	目標値	
		2023年度	6か月後	1年後
①退院支援計画書再立案率(病棟)				
分子 退院支援スクリーニングシートの再評価数(計画書あり)		77.6%	80%	82%
分母 院内多職種退院支援カンファレンス実施件数				
②在宅療養困難な患者の支援率(外来)	2022年度	6か月後	1年後	
分子 地域や支援室・相談室へ繋いだ件数(介入ありの中で)	19.1%	20%	21%	
分母 外来支援スクリーニングで介入ありの件数				

目標3)健康で安全な職場環境をつくる

⑥ 超 過 勤 務 の 削 減	1. 主要評価項目	現状値	目標値	
		2023年度	6か月後	1年後
①申し送りの実態調査		なし	実態把握	
2. 副次評価項目		現状値	目標値	
		2023年度	6か月後	1年後
①申し送り削減に向けトライアル病棟での実施		なし	トライアルの実施	

2024年度 看護部委員年間評価

2025年 3月 看護部

	成果指標	目標値	結果	年間評価
医療安全	損傷レベル2の転倒転落発生率	0.32%以下	0.32%	転倒転落損傷レベル2の転倒転落発生率の明かな低減はみられなかつたが、日々の環境整備やKYTを活用しながら各部署で対策を講じることはできていた。転倒転落予防体操については初回の説明と実施に留まることが多いため、継続的な実施を課題とし策を検討していく。発生要因で多かったのがトイレへの移動・移乗介助の場面である。看護師だけでなく看護助手・介護福祉士に対しても教育が必要となるためリハビリと協働で教材づくりを行っていく。薬剤関連事故の発生件数の減少はみられなかった。その背景の一つとして今年度は、処方システム・インスリンシステムの導入があった。システムに対応し安全な与薬ができるよう手順書や動画を作成した。更には手元確認のためのラウンドを行い、配薬・服薬の手順が遵守できているか、遵守するために必要となる業務改善は何かと共に検討したが、改善に至っていない部署もある。次年度は全部署が正しい手順で実施できるよう取り組む必要がある。インスリンシステムも現在、調整中であるため、手順周知後に手元確認を強化し安全は投与を目指していく。また、基本的な6Rの確認・PDA(患者認証)使用が出来ずリスクも発生しているため、部署内での手元確認を継続し、ルールを守らないことでの誤薬事故ゼロを目指していく必要がある。
	薬剤事故発生件数	324件以下	465件	
	KYTトレーニング	全部署2回100%	全部署2回実施100%	
	環境整備実施率	99%以上	99.2%	
	内服準備時の確認回数の削減	確認回数2回	全部署2回へ削減完了	
	内服の基準手順の作成と使用	前期:作成 後期:使用	・手順書作成 ・ナーシングスキルに動画をアップし視聴完了	
	正しい手順で血糖・インスリンのダブルチェック実施率	90%以上	91%	
	正しい手順での注射薬の準備から投与までの実施率	90%以上	・シングルチェック 92.3% ・ダブルチェック 92.8%	
	KYTトレーニング実施の活動報告	全部署	全部署	
感染対策	VRE感染症発生件数	0件	3件	今年度は、VRE発症ゼロを目指し、看護ケアの均一化を目標に活動した。知識・技術の均一化を図るため、ケアマイスターの育成を行った。結果、246名のケアマイスターが誕生した。ケアマイスターのおむつ交換達成率は90%であり、今後はケアマイスターの質の担保を目標に活動していく。アルコール使用回数、実施率・遵守率は約半分の部署しか達成できていない。目標値が部署の状況に合っているのか業務量調査で再考していく。また、部署の現状分析をもとにPDCAを円滑に回せるように関わっていく。知識と技術は習得できているが、実践の場では業務を優先し、手指衛生の優先順位が下がってしまう。手指衛生の重要性に関して倫理的な関わりも必要であると考える。
	環境監査80%以上達成	26部署達成	26部署達成	
	「患者に触れる前」に「何もせぬ」を1回/年を達成	26部署達成	18部署達成	
	実施率・遵守率の達成度	実施率90%、遵守率70%	13部署達成	
	アルコール使用回数の部署目標達成	26部署達成	17部署達成	
	2割の看護師のケアマイスター取得	160名	246名	
褥瘡予防対策	自重褥瘡発生件数	130件以下	188件	自重新規褥瘡、MDR-PU発生件数に対して、目標達成できなかつた。自重褥瘡発生件数は高いものの、発見時の深達度は浅くなっている。その背景には、早期発見・報告ができるようになってきたことがあると考えられる。また、リンクナースにポジショニングを体験しながら学べる機会を作ったことで、日々のケアにも活かせるようになってきたと考えられる。 褥瘡回診に同行し、部署内での情報共有の課題が見えてきたため、情報共有シートを作成した。回診時のコメントや処置方法を共有し、統一したケアができるようにした。更に、特定看護師もラウンドを行い、ケア内容の確認や提案を行った。結果、褥瘡の早期治療に繋げられたと考える。新たな取り組みとして、褥瘡対策チームとともに褥瘡ケアに関する強化項目を設定し、ポスターによる周知、スタッフ指導を行った。強化月間にはリンクナースがテーマを設定して取り組みを行ったが、その内容は部署により差が見られたため、リンクナースへの教育的な関わりも必要であったと考える。次年度は患者のADLに合わせた日々のケアができるかをリンクナースとともに考える機会も作りながら、広い視野で褥瘡予防に取り組んでいきたい。
	MDR-PU発生件数	136件以下	162件	
	褥瘡保有者の自立度評価の乖離割合	30%以下	14%	
	褥瘡ハイリスク取得件数	前年度1,131件以上	898件	
	新規褥瘡発生時のカンファレンス開催件数	指定した症例数	22症例	
	リンクナースのケアマイスター取得	19人	18人	
	医療関連機器圧迫創傷予防ケアの学習会	各部署1回以上(対象8部署)	8部署	
災害対策	アンケートによるリンクナースの自己評価	75点以上	74点	年を通じて、動画講義による訓練を実施した。また、今年度はDMTAのメンバーにも協力してもらい全部署で机上シミュレーションを実施した。結果は、訓練への参加率に病棟間でばらつきは大きかつたが、参加したスタッフからは理解できたという回答が多かつた。参考基準はカードを配布したことによりカードを見れば参考できると回答したスタッフも含め、自分の参考基準を理解したスタッフが増加した。一方で、看護部の規約に対する理解は他と比較しても顕著に低値であり、今後の看護部規約の見直し・周知が課題となる。また、近年の傾向から、風水害や局地災害についても検討していく必要がある。
	動画講回数	1クール一人1回以上(年3回/人以上)	total2382回(アンケート回答者(回答率78%)のうち96.6%が視聴)	
	看護師の具体的な参集人数・生活圈マッピングの把握が毎月できる	名簿更新5日まで100%	81%	
	カード携帯状況	100%	92%	
	自分自身の参集基準を理解できた看護師割合	100%	96% (アンケート回答者の参集できるカードを見てできる数)	
	参集基準・場所の正答率	それぞれ100%	91.9% 83% 看護部内規12%	
	緊急連絡網での職員把握	77%	83% (職員数誤差あり)	
クリニカルパス委員会	クリニカルパス使用率	48.5%	45.6%	クリニカルパス使用率に関しては、目標達成できなかつた。年間を通して、使用率が0%の診療科もあるため、看護部だけではなく各診療科医師との連携も必要と考える。既存バスの見直しに関しては、目標値を大きく上回り達成できた。各月の委員会において、患者にとっても医療者にとってもより使いやすいという観点で見直してもらうよう呼びかけていた。次年度は、バス内容が看護計画、看護ケアの観点で見直しが出来るよう呼びかけていく。また、リンクナースの経験に応じたクリニカルバスに対する知識の向上に向けて取り組みたい。
	患者バス見直し件数	30件以上	84件	
	新規バス作成件数	10件以上	10件	
	既存バス見直し件数	30件以上	147件	
	バス検証会実施件数	5診療科	4診療科	

成果指標		目標値	結果	年間評価
記録検討委員会	入院診療計画書と看護計画の連動率	95%以上	91%	<p>今年度は、病院機能評価を見据えて監査項目を見直し、診療報酬算定の根拠に基づいて記録を実施できることを重点的に取り組んだ。監査結果では目標値は達成できなかったが、当院の課題であるICU同席時の記録や身体拘束関連の記録を監査項目に追加したことを考慮すると、前年度の結果と単純に比較はできない。前期より後期の結果は上回っているので、スタッフに看護に必要で適切な記録とは何か徐々に浸透はしてきていると思われる。次年度は、記録記載基準を見直し記録の基準を整え、看護の質向上、業務効率化を目指していく。</p> <p>また、電子カルテの更新に合わせてプロフィールの改訂を実施した。これにより、外来と病棟との連携、記録の効率化が図れると考える。地域との連携も視野に、使用状況を評価しながら適時、修正をしていく予定である。看護計画の見直しは取り組み中であり、標準看護計画の導入準備段階。次年度に改訂予定である。</p> <p>看護記録の研修に関しては、ラダー別に体系的に学ぶことができるようになったので委員会としての直接的な関わりは終了する。</p>
	監査結果による看護記録記載率	87%以上(前期<後期)	83%	
	監査件数	自部署監査2回	2回実施	
	プロフィールの改訂	プロフィール改訂	改訂済	
	標準看護計画の改訂	標準看護計画の改訂	修正中	
	略語集の統一	略語集の完成	完成	
	診療報酬算定、看護実践に基づいた看護記録・監査の研修	各ラダーで実施	各ラダーで実施	
必要度	重症度、医療・看護必要度割合 重症(ICU,CCU): 70%以上 ハイケア: ①15%以上②80%以上	一般: ①20%以上、②27%以上 重症(ICU,CCU): 70%以上 ハイケア: ①15%以上②80%以上	一般: ①26.7%、②34.6% 重症(ICU,CCU): 85.3% ハイケア: ①49.2%②91.1%	<p>今年度は、6月より診療報酬の改定があり、重症度、医療・看護必要度の割合が変更された。5月までの値でも達成出来ていたが、改定後の値でも達成が出来ている。必要度の入力漏れが毎月あり、各病棟で修正しているが、減ってはいない。変更や確認されていないこともあり、病棟内での案内周知が必要と考える。ナーシングスキルによる学習はほぼ期日内に全員受講ができていて。次年度以降重症度、医療・看護必要度の委員会が記録委員会と統合されるが、ナーシングスキルでの学習と重症度、医療・看護必要度の監査は継続されるため、伝達が必要。</p>
	重症度、医療・看護必要度	毎月実施	毎月実施	
	ナーシングスキルによる学習 (重症、ハイケア、一般病棟に所属する看護師)	対象看護師全員	100%受講	
マナー	苦情・賛辞・提言の件数 苦情・提言昨年度の80%	賛辞昨年度の120% 苦情27件(150%)	賛辞13件(92%) 苦情27件(150%)	<p>知識面としてマナーの基本となる「基本的マナーと接遇」「コミュニケーション」「看護職の倫理綱領」について動画視聴を行った。成果として自己評価・他者評価によるチェックを行ったが、目標値達成にはいたらなかった。今年度より対応についてのカンファレンスを行った。苦情が寄せられた場面を中心はどうするべきかを話し合う場を設ける機会となり目標回数を超えるカンファレンスを設けることができたが、参加人数は少なくまた管理者の参加が少なかったため、病棟全体で問題意識を持って改善行動を起こせるように促していくことが必要であった。また今年度の直接監視を目的としたラウンドではあいさつが課題とされた。</p> <p>次年度はラウンドの強化と接遇の基本である挨拶を含めた対応について考える場を作り接遇の向上を目指していく。</p>
	対応についてのカンファレンス 100回以上 カンファレンス参加人数平均: 10人以上	カンファレンス実施回数: 100回以上 カンファレンス参加人数平均: 10人以上	8事例 530回 平均参加 5.7人	
	身だしなみ、品位ある対応についての部署内評価 できていない割合全項目 1.2%以下 身だしなみ0.25%以下 品位ある対応2.0%以下	できていない割合全項目 1.2%以下 身だしなみ0.25%以下 品位ある対応2.0%以下	全項目1.83% 身だしなみ0.55% 品位ある対応2.98%	
	ユニフォームの出し方についての注意喚起・啓蒙活動の実践	2023年より減少	10月113点 12月245点	
	ナーシングスキルの聴講	対象: 看護スタッフ全員 聴講100%	聴講 97.08%	
キャリア開発委員会	・現任研修企画運営サポート ・研修終了後のOJT支援	実施	実施 取り組みを学会発表予定	<p>今年度から現任研修の改変があったため計画の段階でラダーIからVの内容の一貫性があるかを計画の段階で主任と確認しながら進めた。また部署でのOJTはキャリア開発委員会の主任を中心に進捗管理を行った。主任会活動では「中堅の育成」をテーマに取り組みを行い、その結果を学会ポスター形式で発表、言語化できるように支援した。</p> <p>学会発表については、発表に際しての倫理評価と投稿支援を行い、今年度は管理者以外の投稿数が多く、2023年度を上回る投稿演題数であった。</p> <p>2025年度6病院管理者研修会の成功に向けて準備を開始し、骨子は固まりつつある。地域支援病院としての役割では周辺地域の医療機関から現任・臨床教育の受け入れを行った。</p> <p>次年度に向けて、引き続き主任会支援を行い実践・管理能力を向上できるようにキャリア開発委員会メンバーと協力しながら取り組みをすすめる。またクリニックラダー更新に伴う新ラダーの運用の周知をする。</p>
	・主任会進行サポート	実施	ポスター発表企画支援	
	・2025年度6病院管理者研修会の企画	計画・立案作成	企画書作成済み、責任者会議会中	
	・地域からの研修受講者の確保	希望者全て受入	延べ人数36名	
	・学会発表数 ・研究投稿数 ・研究評価	20演題以上	・発表43 ・研究投稿数2 ・倫理評価29	
	・現任研修企画運営サポート ・研修終了後のOJT支援	実施	実施 取り組みを学会発表予定	
基準手順委員会	看護基準・手順の活用率	50%以上	未実施	<p>日本看護協会より「看護補助者の業務に必要な能力の指標」が公表された。内容を参考に次年度看護補助者手順の必要な見直しを行っていく。また、タスクシフトシェアについてのオンライン研修会に委員会メンバーで参加ができた。次年度も引き続き、基準・手順に関する研修会への参加をしていく。</p> <p>マニュアル5項目の見直しの進捗として、看護部業務基準は外出・外泊届けの変更を検討。看護基準、看護師長業務手順、検査手順はワーキング活動や電子カルテ更新に伴い整合性を含め次年度更新していく。介護福祉士のマニュアルは英語版を作成した。現在見直し中であり、4月には修正版で対応できるようにしていく。各部署・基準・手順、パンフレットの監査は申請方法の変更を行い、8件承認することができた。今後、動画作成の際の規約の見直し追加をしていく予定。</p> <p>看護基準・手順は、他の部署でも活用できるように推進していく。</p>
	各部署の基準・手順、パンフレットの監査	申請数すべて	承認8件	
	5項目の見直し	5項目の見直し・終了	5項目見直し・継続中	
	研修事後報告件数	ナーシングスキル受講 100%	100%受講	
	院内・院外研修参加件数	2回以上の参加	2回参加	

2025年度 静岡病院 看護部責任者・他部門看護責任者

2025/4/1 看護部

病棟		病床数	主な診療科	師長	主任
A棟	3階	3AICU	14 全科 術後ICU	間部幸	中村沙織・田上佑一
	5階	5A	58 消化器内科・血液内科	櫻井操	本間友美・石田桃子・松山歩
	6階	6A SCU	44 脳外 12 脳外・脳内	鈴木英子	藤本ゆうこ・梅原萌 山崎裕也
	7階	7A	56 外科・呼吸器外科	佐々木史乃	平子匠文・林南・天野嘉則
	8階	8A	52 循環器・心外・血内	古屋曜子	黒田秀和・岩瀬明音
	9階	9A	41 呼内・呼外・眼科・外科・共有	萩原瑞恵	松岡なつみ・渡邊和信 平馬知実5/31まで
B棟	3階	3B	38 耳鼻科・泌尿器	山口礼	池田定代・上田歩
	4階	4B	47 脳内・眼科・歯科口腔	松尾正人	佐野まいむ・松本千加奈
	5階	5B	47 膜内・呼内・糖内・形成	渡邊美佐子	土屋千晶・渡辺雅代
C棟	2階	2C	20 小児・小児外科	土井尚美	三角百合子・田代まり絵
	4階	4C	33 呼内・腎内・皮膚科	長谷川智美	辻村みどり・沢田瞳
H棟	2階	新生児セ ンター	12 NICU 18 GCU	長友節子	大木直美・鬼塚味佳 鈴木由利香
		救命救急 センター	16 全科 ICU・CCU 18 全科 HCU		森島克明・岡本有子 土佐谷忍・天野淳
	5階	5H	6 MFICU	寺尾さか江	勝又理恵
		5I	33 産科・婦人科		古谷華菜
	6階	6H	37 整形外科	村田文明	飯田沙耶香・井上大輔
	6階	6I	36 整形・救急診療科・婦人科	三枝英美	菊地あやか・稻葉擁亮
病床・病棟合計		633	18病棟 18看護単位	17	38

外 来		プロック	診療科	師長	主任
A棟		A	循環器・心外・呼外 脳外	加藤清美	三島めぐみ
			眼科・産婦人科 歯科口腔外科		
E棟		D	外科	加藤清美	加藤和歌子
			脳神経内科・メンタルクリニック 耳鼻科・血液浄化センター 小児科・小児外科・新生児科		
B棟		B	消内・血内・腎内 呼内・膜内・糖内・麻酔科	土屋智洋	福澤恵美
			整形・形成 皮膚アレルギー科・泌尿器科		
A・G棟		C	救急外来 ドクターへり	土屋智洋	大川安由美
			検査部門 アンギオ・シネアンギオ 回復室・CT室・内視鏡		
H棟		E	患者・看護相談室	望月佳澄	飯田敏秀・鈴木めぐみ 勝間田敏宏・山本優子
			がん治療センター 放射線治療室 化学療法室		
H棟		手術室		山本希	内田佳月・小島恭子・神田李奈
合計				4	13

役職		氏名	部門	師長	主任
部長		堀込克代	医療安全推進センター 感染対策室	杉山美和	田爪千里 平馬知実6/1~
看護総務課	課長	近藤利津枝			
	師長	持田奈津美		高橋真紀子 杉山希	
入院業務課	課長補佐	宮澤初美	医療サービス支援センター 入退院支援室	山下小夜子	渡邊光香
	主任	杉山裕貴			
看護安全管理課	課長	荻島真弓	患者・看護相談室	渡邊あつ子	谷口真紀 菊地麻里
外来業務課	課長	矢田みどり			
看護教育課	課長	濱口真知子	がん治療センター 放射線治療室 化学療法室	安間亜希	
	師長	多田真也			

役職者数 (合計)	91
部長・課長・課長補佐	1・4・1
師長	28
主任	57

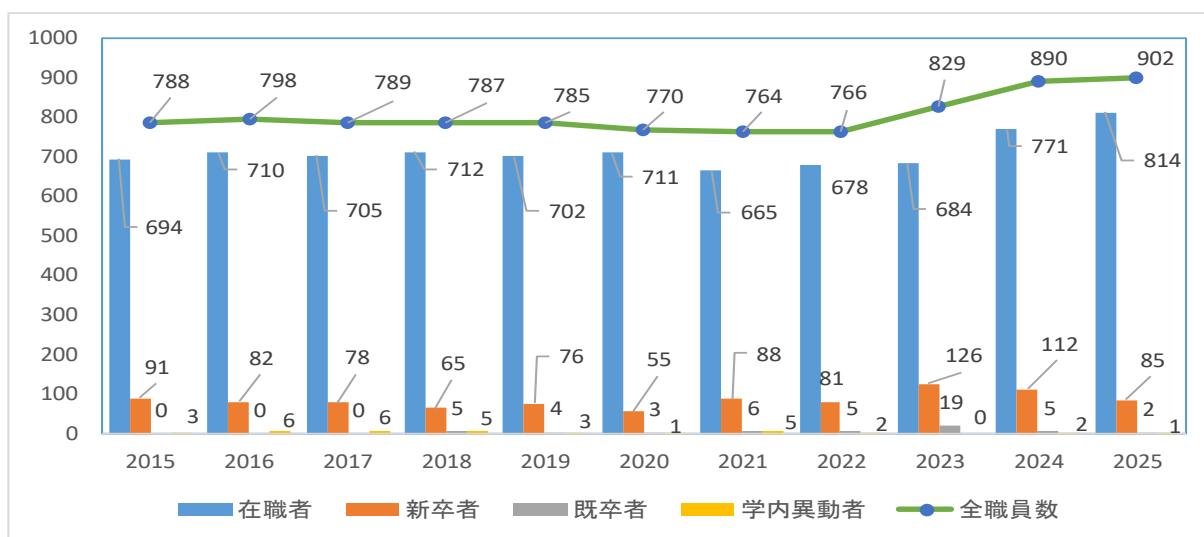
(看護部 23 他部門 5)
(看護部 52 他部門 6)

※赤字：昇格者(2025年度)

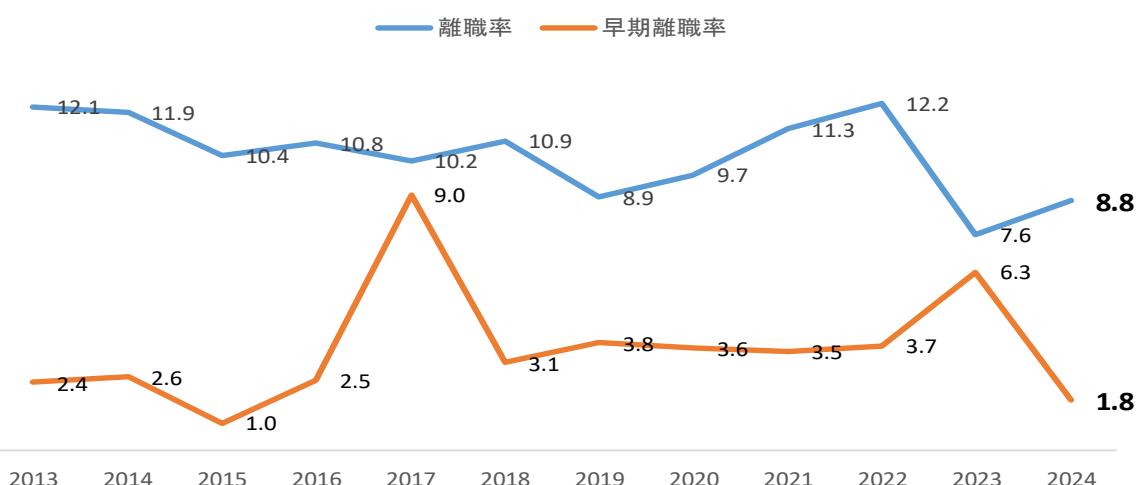
※緑字：異動者 (2025年度)

3-9 (2) 看護總務課

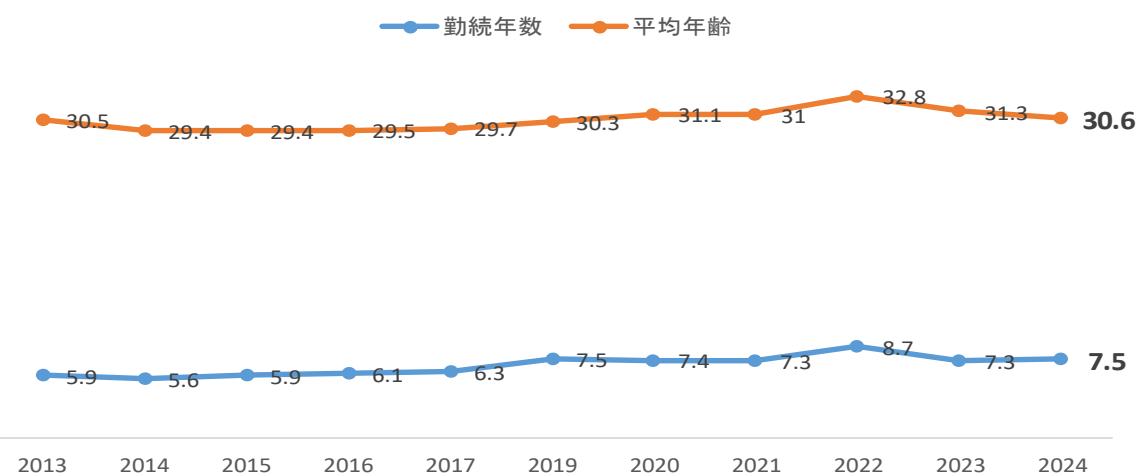
2024年 看護部年報



離職率・早期離職率

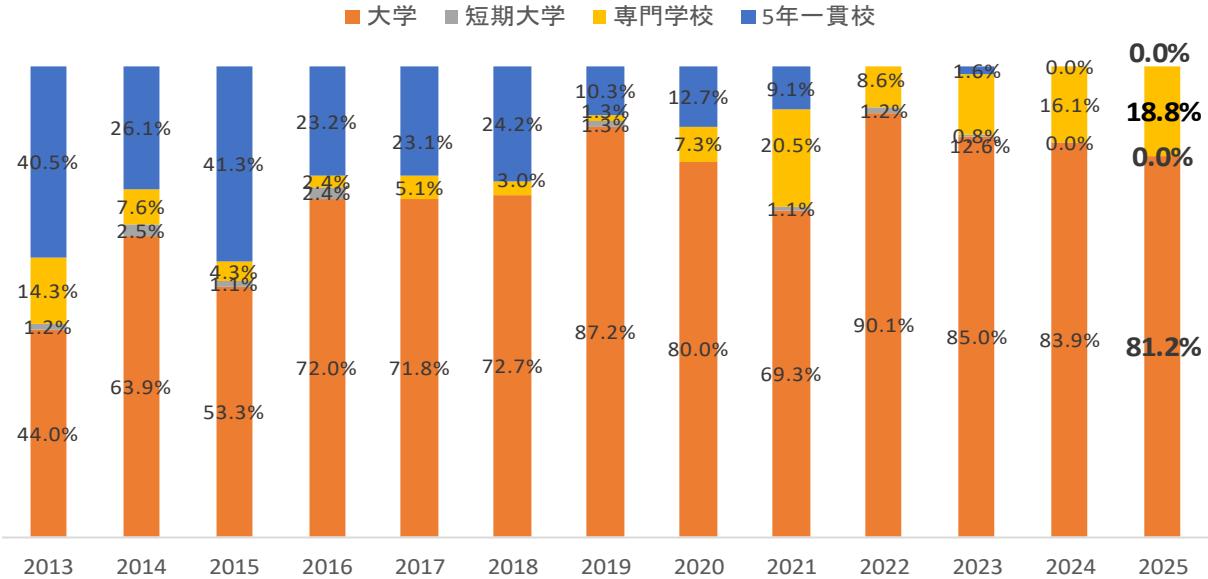


看護職員勤続年数・平均年齢

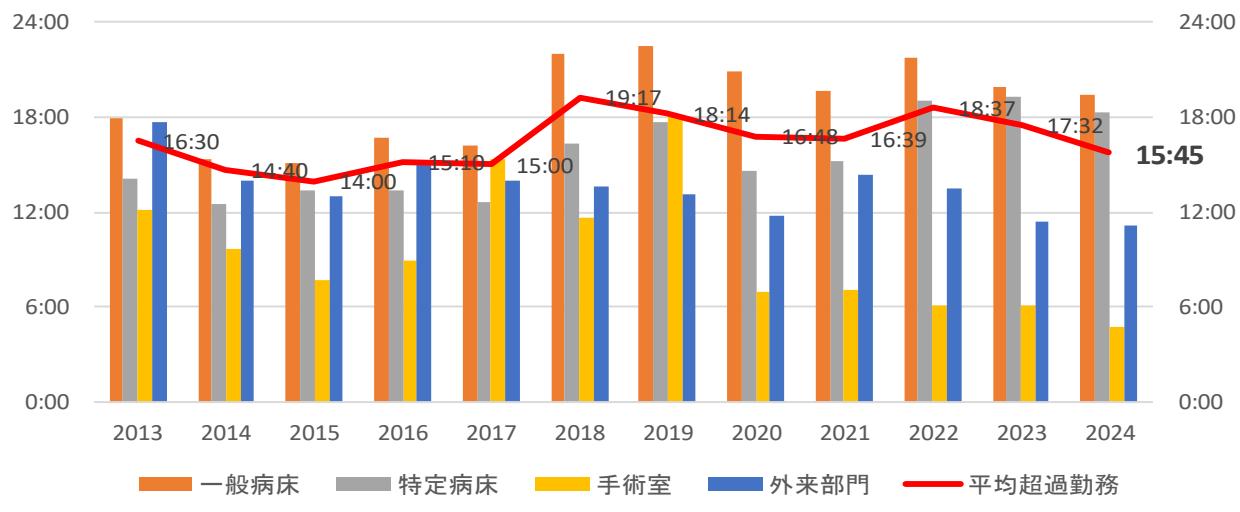


新入職看護職員 卒業校種別推移

4/1現在



部署別時間外勤務時間



年休取得率と平均取得日数



2024 看護部の動向 年間計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
就職	新卒	112												112	
	既卒	5	1		1					1				8	
	パート看護師													0	
	パート助産師													0	
	学内異動者	2												2	
月末退職	新卒		1	1										2	
	既卒	6	3	10	10	3	1	1		10	3	5	17	69	
	准看護師													0	
	学内異動者		1										3	4	
	介護福祉士													0	
	看護補助者													0	
看護職者内訳	常勤看護師	811	795	790	784	776	773	770	768	769	751	747	741		772.9
	常勤助産師	33	34	34	32	33	33	33	33	33	36	36	36		33.8
	パート看護師	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	5		6.5
	パート助産師													#DIV/0!	
	時間短縮勤務	33	43	43	41	38	37	39	42	42	47	47	47		41.6
	准看護師	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		6.0
合計		890	885	880	870	860	856	855	855	856	846	842	835		860.8
介護福祉士		20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21			20.2
看護補助者(内派遣)		101 (92)	103 (94)	105 (96)	102 (96)	104 (95)	107 (98)	103 (94)	101 (92)	101 (92)	103 (94)	109 (100)	109 (99)		
病棟クラーク		18	18	18	19	19	19	22	21	21	20	22	20		19.8
平均超勤時間		17:26	17:51	17:15	18:48	17:15	16:03	16:10	16:30	17:46	14:06	12:27			16:30
一般病棟看護師数		358	435	433	425	416	416	417	416	412	410	401	396		
特定病棟看護師数		185	213	216	216	214	213	211	211	210	206	201	194		
外来看護師数(0外含)		115	117	117	115	115	115	116	117	119	115	117	121		
手術看護師数		48	59	58	57	56	55	56	56	55	54	56	54		
B:看護師実労働者数		706	824	824	813	801	799	800	800	796	785	775	765		790.7
休職者	産休(看・助産)	4	8	11	12	7	10	7	10	7	5	5	5		7.6
	育休(看・助産)	32	27	26	23	27	29	29	28	32	35	34	34		29.7
	産育休(介・助)													#DIV/0!	
	病欠(看・助産・准)	11	10	11	14	10	6	6	9	5	5	3	5		7.9
	病欠(介・助)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1		0.4
	休職	1	1	1	1	1	1			0	0	0	0		0.6
A:合計		48	46	49	50	45	46	42	48	45	46	43	45		46.1
C:看護部		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11		11.0
D:出向		28	28	26	26	27	27	27	26	26	26	26	27		26.7

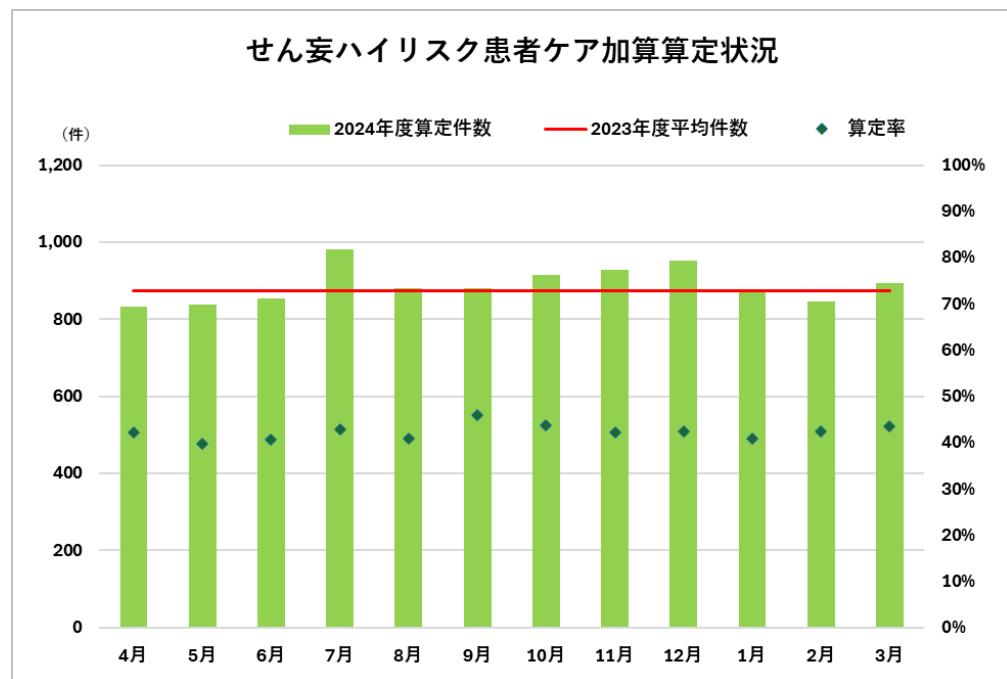
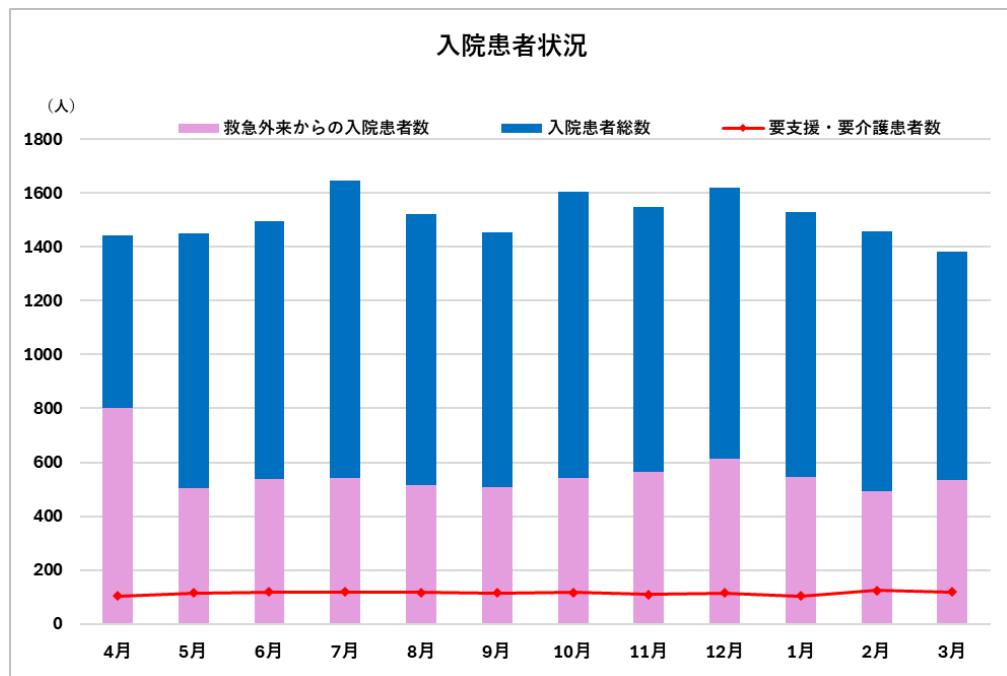
2024年度 一般病棟入院基本料1 各部署平均夜勤時間 ・ 夜勤専従者配置表

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3B	57.2	60.9	57.2	59.3	62.4	56.6	56.3	59.4	61.6	66.8	65.4	68.8	61.0
3C	62.5	64.2	66.7	71.8	68.1	67.9	67.8	59.8	66.5	66.8	60.4	67.5	65.8
4B	63.8	68.3	67.3	73.1	74.8	68.1	63	62.5	61.8	65.2	66	66.6	66.7
4C	63	64.2	67.3	70.7	69.3	68.7	70.1	71.3	71.5	74.7	69.3	74.9	69.6
5A	59.7	67.7	70	75.7	69.3	60.4	62.1	61.8	66.6	68.7	67.5	73.4	66.9
5B	73.7	63.3	60.6	67.7	63.3	70.8	68.2	74.3	66.5	71.2	63.5	74.9	68.2
5C	63.4	64.4	67	75	65.1	61.2	65.6	63.1	64.6	66.9	61.6	70.6	65.7
6A	65.9	65.9	66.6	73	72.7	69.3	73	71.5	67.9	71.4	64.9	70.3	69.4
6H	65	74.6	78.3	77.5	71.5	67.8	68.7	65.3	69.8	69.8	65.3	70.1	70.3
7A	69.5	72.6	73.5	76.5	75.9	62.4	71.6	69.4	70	66.9	66.6	72.4	70.6
8A	64.9	62.8	67.9	64.5	66.9	62.8	64.2	64.1	65.5	66.4	59.9	70.8	65.1
9A	68.2	71.7	74.7	79.7	73.4	75.7	72.4	70.2	70.7	72	69.2	76.6	72.9
一般病棟平均	64.1	66.4	68.1	71.9	69.1	65.7	66.9	65.2	66.9	68.9	65.0	71.4	67.5
夜勤専従者人数	29人	23人	21人	22人	28人	26人	25人	24人	31人	27人	24人	28人	26人

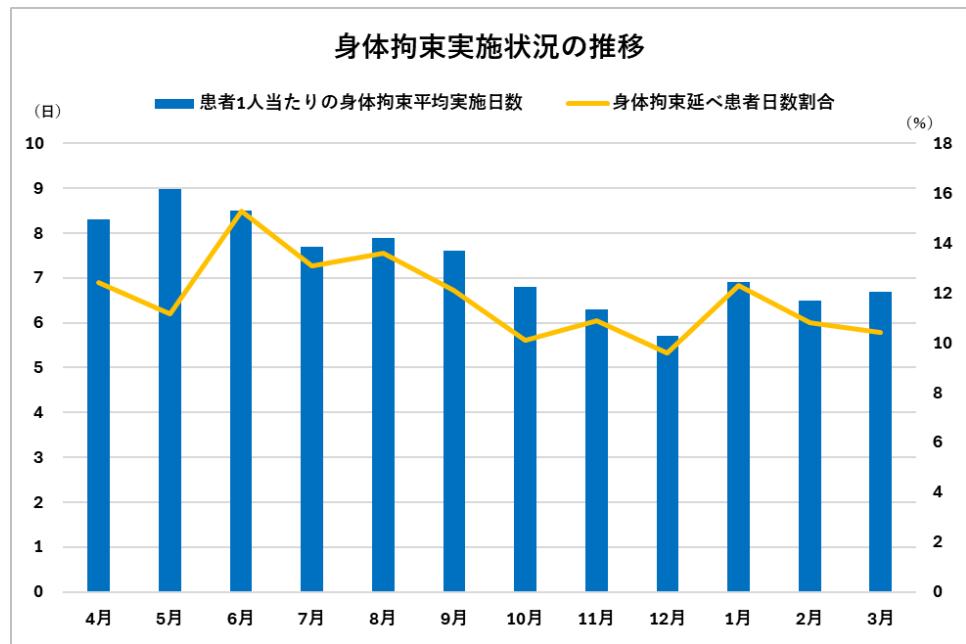
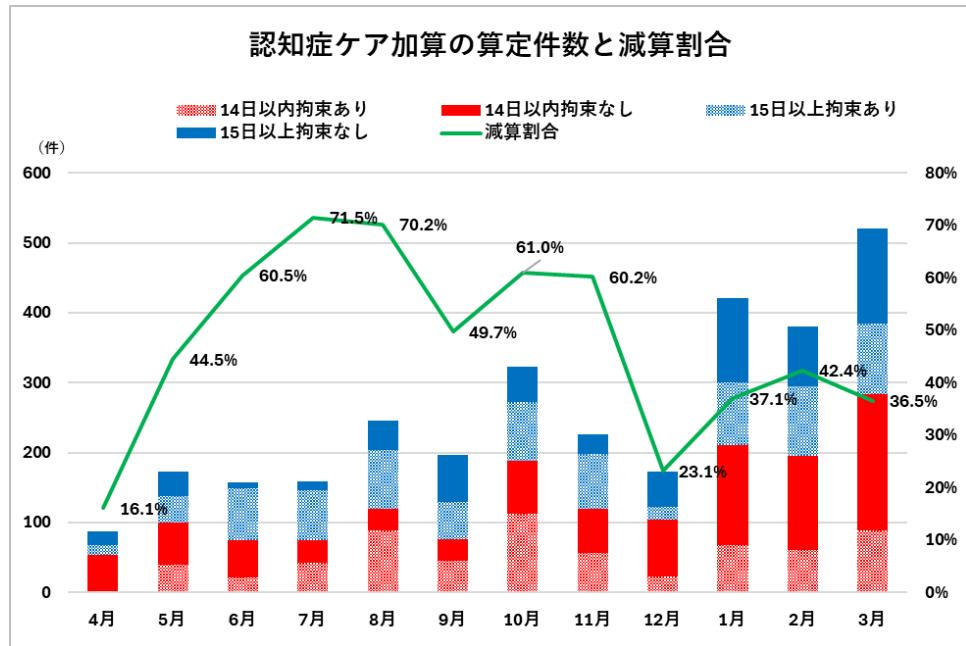
2024年度 特定病棟平均夜勤時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
2C	7対1	65.5	70.1	68.9	71.9	71	67.3	69.2	67.3	68.5	69.3	64.7	72.1	68.8
NICU	3対1	78.9	98.7	88.6	89.7	87.9	83.2	73.9	83.7	87.6	84.4	80.2	89.8	85.6
GCU	6対1	97	60.5	70.7	92.7	94	87.4	87.2	91	96.1	96.1	79.2	88.8	86.7
3AICU	4対1	78	83.3	81	86.5	84.9	84	87.7	82.8	82.8	87.1	90.7	86.4	84.6
IQU/CCU	2対1	87.9	94.5	87.7	93.5	91.7	88	92.6	90	91.4	94.3	85.2	96.1	91.1
HCU	4対1	81.3	93.3	87.6	95.6	85.5	82.2	90.2	87.1	90.4	91.1	80.1	94.9	88.3
MFICU	3対1	85.7	98.7	84.8	74.7	83.8	76.5	87.3	63.6	65.1	75.2	61.6	90.9	79.0

3-9(3) 看護入院業務課



2024年度はH棟完成に伴う病棟移転や病床再編、B棟修繕のための病棟移転が続いたが、各病棟で計画的に準備を進め、安全に完了することができた。地域の急性期病院としての役割を果たせるよう、病棟間で協力しながら多くの入院患者を受け入れた。せん妄発症のハイリスク患者が年間を通して4割程度入院しており、せん妄発症を予防するためのケアに取り組んだ。

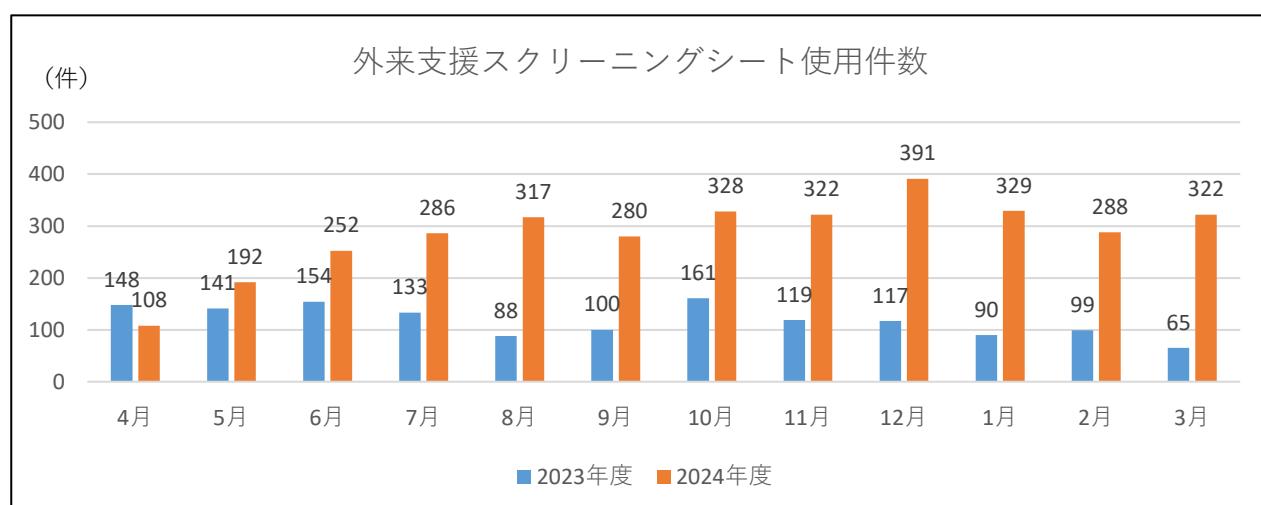


周辺地域の高齢化が進む状況で、認知症ケア加算の算定が少なかったため、各部署のリンクナースへの教育啓蒙活動を行った。個々の患者へのケアを考えながら、身体拘束の減少も目指せるように、リンクナースを中心にカンファレンスの開催を促した。更に、事例検討会を行い、実践した看護を振り返る機会を作った。年間を通して少しづつではあるが、身体拘束の減少に繋がっている。今後も取り組みを続け、患者へのケアの質を高めながら身体拘束最小化を目指していきたい。

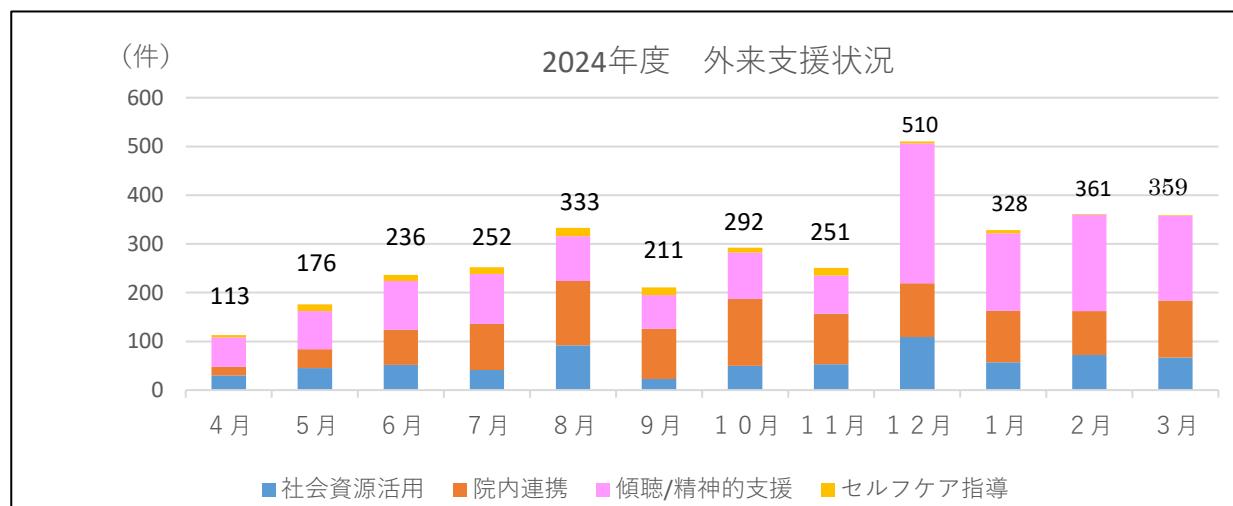
3-9 (4) 看護外来業務課

1. 外来

1) 「ときどき入院、ほぼ在宅」に向け、外来看護の重要性を意識し、「外来支援」「地域との連携」を行っており外来と地域の繋がりは情報連携シート（417件/年）と電話対応（78件/年）で行っている。外来支援は2021年度から実施している「外来アセスメントシート」を活用し、1日平均1760名の外来患者の中から、スクリーニングによるアセスメントで必要な患者に支援を行っている。その中で、外来での支援が必要と判断した患者には、「外来支援」として看護計画を立案し継続看護を行っている。今年度はスクリーニングが定着し昨年度の2倍以上の実施ができており月平均270件程度実施できた。12月は転倒予防策の運用を開始したため、スクリーニング件数が更に伸び510件であった。

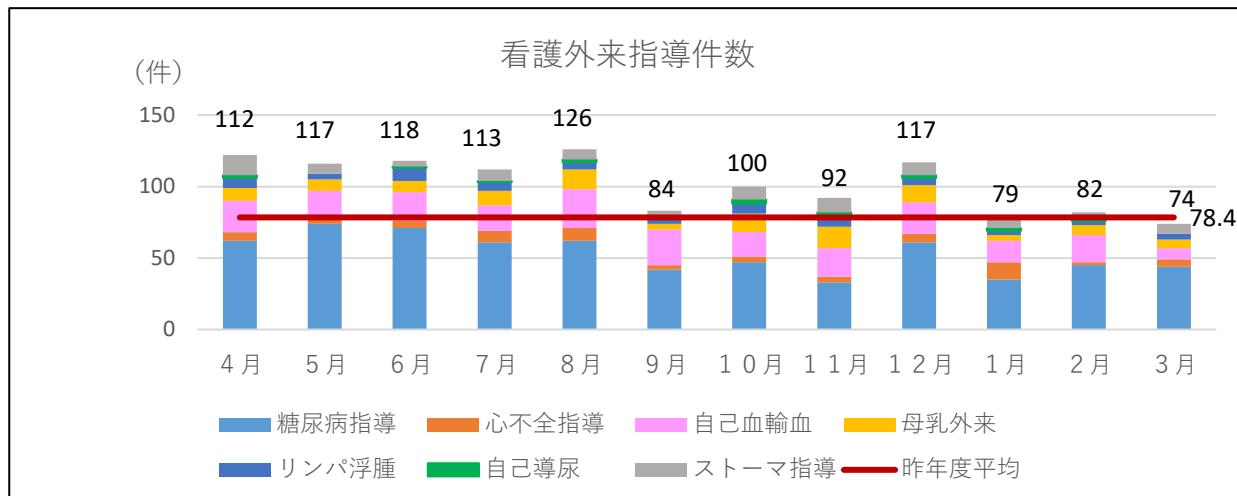


外来継続支援の主な内容は、社会資源活用（受けているサービス支援の確認、地域包括・ケアマネージャーとの連携等）、院内連携（入退院支援室、産婦人科病棟）傾聴/精神的支援（日常生活状況の確認、日常生活での不安・困り事の有無、告知・治療の選択等）セルフケア指導（転倒予防、内服管理、生活指導等）である。項目で多いのは傾聴・精神的支援で月120件程度実施。セルフケア指導等内容によっては個室で30分以上の指導で加算が算定できる内容があるが、場所人員配置の関係で算定できない時があるため、加算数を増やせるよう検討が必要。



2) 専門分野による看護活動件数

看護外来では、今年度より慢性心不全患者指導を加え専門的な知識・技術を持った看護師が、医師や多職種と連携し、患者・家族からの相談・指導・ケアを行い、療養生活の視点に沿った支援を行なっている。昨年度平均は 78.4 件であったが今年度平均は 102 件実施。看護介入の成果の数値化が今後の課題である。

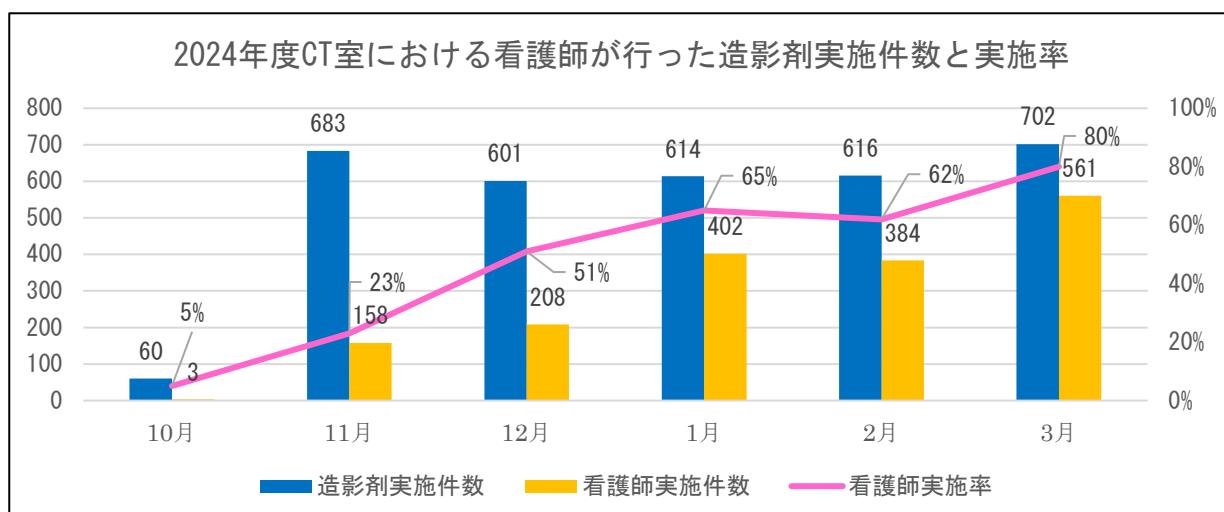


3) 外来部門各資格者数

- ・学会認定内視鏡検査技士（6名）
- ・学会認定自己血輸血看護師（1名）
- ・静脈注射造影剤コース院内認定看護師（26名）
- ・日本禁煙学会禁煙認定指導看護師（1名）
- ・インターベンションエキスパートナース（3名）
- ・静岡東部糖尿病療養指導士（3名）
- ・有機溶剤作業主任者（2名）
- ・学会認定臨床輸血看護師（2名）
- ・腎臓病療養指導士（1名）
- ・リンパ浮腫療養士（1名）
- ・フットケア指導士（1名）
- ・肝疾患医療コーディネーター（9名）
- ・特定化学物質作業主任者（7名）

4) 外来検査 タスクシフト

10月、12月に静脈注射造影剤コース院内認定看護師を育成し外来検査の看護師は21名中17名が取得し3月には看護師の実施率は80%であり、CT室における造影剤の静脈注射を看護師が担う件数が増加し医師のタスクシフトに繋げている。



2. 手術室

- 1) 2024 年度は 5 月に I 棟が 3 室増え年間手術件数 9,330 件で、前年度より 324 件/年増加している。3 次救急医療を担う当院の手術室では、全手術件数のうち 2079 件、22%が緊急手術となっている。
緊急手術を迅速に対応できるように、看護師・医師・臨床工学士・補助者など多職種で協力して手術患者の対応をしている。手術室の稼働状況は、定時外も含む稼働率は 68.9%、全身麻酔下手術に対応している H 棟手術室の稼働率は 87.4%となっている。
- 2) 手術室看護師による入院前支援は、主に外科外来や整形外科で実施している。支援件数は平均 15 件/月で対象者全員には実施できていない現状にある。関わった患者の中で、禁煙、口腔ケア、歯科受診の指導をし行動変容があった患者は平均 74.5%となっており、入院前に関わった成果が出ている。今年度 6 月より、現在実施している入院前支援の内容や呼吸訓練指導などを、スマートフォンによる LINE アプリで視聴できるよう導入を行ったが運用方法に問題があり効果的に実施されず停滞しており活用方法の検討が必要がある。
- 3) 患者が入院後実施する手術前訪問平均 310 件/月、手術後訪問は平均 402 件/月で手術室看護師の中で術前・術後訪問が完全に定着し、訪問の必要性に対しての看護師の意識の高さがうかがえる。
患者から直接情報収集し、術中のポジショニングやスキンテア予防、不安の強い患者への説明による不安軽減などに対応し、安全・安楽な周術期看護に努めてきた。術前訪問から情報を得たうえで周術期の看護に繋がるように、更なるアセスメント力をつけているようにスタッフを育成することが課題である。
- 4) 看護師特定行為術中麻酔管理領域パッケージ終了看護師が 3 名（内 1 名受講中）おり、手術室看護師の教育的関りと共に麻酔科医師のタスクシフトとして、麻酔導入時のサポート（A ライン確保・輸血ルート確保・胃カテ挿入・血ガス測定など）、緊急手術時の麻酔科医（研修医）のサポート（薬品準備・麻酔回路組み立て・リークチェック）、急変/重症症例時の麻酔科医（研修医）のサポート（薬品準備・物品準備・記録など）を行っている。

3. 滅菌室

5 月に新棟 4 階に滅菌室が移転し、滅菌機・洗浄機が各 1 台増設され VRE 対策に対応し洗浄器材の増加があったが、借用器械の洗浄も実施可能となった。また手術件数の増加や緊急手術への対応についても、手術室と業者の良好な関係の上で情報共有や問題解決、業者との協力体制で業務改善を常に実施している。その結果、手術室の運営が円滑に実施できていることに滅菌室スタッフが一翼を担っている。

3-9 (5) 看護教育課

2024年度 現任教育必修研修一覧

4	23(火) 30(火)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	I	指導者研修 I	実地指導者・相談役（エルダー）になるために、アサーティブについて	天野、藤本
	25(木)	16:30~18:00	IV以上	看護管理研修V (2023年度受講生リーダーシップ研修STEP5)	2023年度受講生対象 マネジメント研修 ⑨実践計画発表会	教育課
	1(水)	16:30~17:30	II 新人看護師	中途採用者 入職1ヶ月後のフォローアップ研修(グループワーク) *4月以降の中途入職者は入職後2ヵ月目に実施		石井、加藤
5	2(木)	13:00~16:00		看護研究 II-①	2回コース ①ケーススタディ	田爪、池田
	9(木)	13:00~16:00		看護管理研修IV-①	2回コース ①自部署の課題解決策の立案・実践	菊地麻、田上、教育課
	10(金)	13:00~16:00		指導者研修III-①	3回コース実習指導者研修 ①基礎看護教育の位置付け・学生カンファレンスについて	稻葉亜、本間、三島、鈴木由
	16(木)	9:00~12:00		看護倫理III-②	フィジカルイグザミネーションを使用しての問診とSBAR、アナムネ情報	増田、勝間田 勝亦麻実、大谷英史、榎本ひとみ、金田雅大
	20(月)	9:00~12:00		8:00~12:00 12:00~16:00 (午前午後入れ替え)	学内認定看護師教育課程静脈注射コース	岡本、鬼塚、渡邊あ、神田、土屋 長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳
	23(水)	13:00~16:00		看護管理研修V-①	10回コース マネジメント研修 ①看護管理の基礎知識	教育課
	30(木)	16:30~17:30		看護研究 I (動画配信)	文献検索・事例の記載方法	上田
	3(月)	16:30~17:30		看護研究IV-①	研究計画、研究発表について	鈴木英師長
6	11(火)	13:00~16:00	III 介護福祉士・看護補助者(助手・クラーク)	看護倫理III-①	2回コース ①自部署の倫理的問題について考える機会をつくる	CNS
	5(水)	10:00~12:00 13:30~15:30 (午前午後入れ替え)		看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	松岡、福澤 伊藤彰浩、古田聖典
	13(木)	9:00~12:00		指導者研修III-②	②指導3観作成方法	本間、稻葉亜、三島、鈴木由
	開講なし	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	I	看護記録 I	看護過程の展開 (2023年度以前は新人看護師研修にて実施)	開講なし
	26(水)	16:30~17:30	IV以上	看護管理研修V-②	マネジメント研修 ②社会保障制度について、地域包括ケアシステムについて	教育課
	27(木)	8:00~12:00 12:00~16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護師以外	看護管理研修V-③	学内認定看護師教育課程静脈注射コース	鬼塚、岡本、渡邊あ、神田、土屋 長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳
	23(日)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	急変対応1	1次救命処置（講義・演習）	平子、飯田敏 草薙美樹、特定看護師
	30(日)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)				
7	1(月)	13:00~16:00	II 介護福祉士	看護倫理 II	口腔ケアおよび口腔ケア時の吸引、法律	大川、沢田梢、福田由貴
	4(木)	13:00~16:00		看護管理研修III	日常ケアに潜む倫理(1月にも同様の研修あり)	CNS
	8(月)	13:00~16:00	III	問題解決技法(ロジカルシンキング)	小島、鈴木め、土屋師長	
	11(木)	13:00~16:00		院内認定呼吸ケア看護師コース	土佐谷、石田、平子、橋本	
	20(土)	9:00~15:30	師長推薦者	多重課題・3ヵ月の振り返り	多重課題・3ヵ月の振り返り	三角、飯田沙
	22(月)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	マネジメント研修 ③医療安全管理、災害看護	教育課	
	26(金)	9:00~15:30				
	24(水)	16:30~18:00	IV以上			
8	動画視聴8月1日～8月25日	I	看護倫理 I (動画配信)	ナーシングスキル	CNS	
	5(月)	13:00~16:00	IV以上	看護倫理IV-①	2回コース ①部署の倫理的問題の解決に向けた取り組み	CNS
	7(水)	13:00~16:00	III	看護記録III	記録の監査	谷口、渡邊和
	17(土)	9:00~15:30	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース	土佐谷、石田、平子、橋本	

	2(月)	16:30～17:30	中途採用者フォローアップ研修(2024年度 入職者全員)		情報交換	加藤、石井
	4(水)	16:30～18:00	全スタッフ	看護教育研究会(口演)		教育課
9	12(木)	10:00～12:00 13:30～15:30 (午前午後入れ替え)	介護福祉士・看護補助者(助手・クラーク)	看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	福澤、松岡 伊藤彰浩、古田聖典
	19(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	II	看護管理研修Ⅱ	問題とは	山崎、内田
	26(木)					
	25(水)	16:30～17:30	IV以上	看護管理研修V-④	マネジメント研修 ④看護の質サービス、感染管理	教育課
	20(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	急変対応2・6ヶ月の振り返り	2次救命処置(講義・演習)・6ヶ月の振り返りについて	中村、黒田、渡辺雅
	27(金)					
	21(土)	9:00～15:30	師長推薦	院内認定呼吸ケア看護師コース		土佐谷、石田、平子、橋本
10	3(木)	13:00～16:00 *16:30～17:30は公開講座に参加	III以上	看護研究Ⅲ	クリティック、研修手法	松尾師長
	10(木)	13:00～16:00	IV	指導者研修IV	人材育成、臨床推論から問題解決に向けた看護指導	石田、森島
	22(火)	16:30～17:30	IV以上	看護管理研修V-⑤	マネジメント研修 ⑤労務管理	教育課
	24(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	II	臨床推論	病態の思考プロセスから看護ケアに結びつける	松本、土佐谷 川井智貴、小長谷真輝
	31(木)					
	28(月)	16:30～17:30	III以上	実習指導者フォローアップ研修(全実習指導者対象)		鈴木由、稻葉亜、本間、三島
11	1(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	II	看護記録Ⅱ	正しい記録の書き方	勝又、稻葉擁
	7(木)					
	15(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	入退院支援研修	入退院支援、多職種連携について	平馬、渡邊光
	22(金)					
	14(木)	10:00～12:00 13:30～15:30 (午前午後入れ替え)	介護福祉士・看護補助者(助手・クラーク)	看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	松岡、福澤 伊藤彰浩、古田聖典
	6(水)	16:30～17:30	院内認定呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本
	27(水)	16:30～18:00	IV以上	看護管理研修V-⑥	マネジメント研修 ⑥看護実践における倫理	教育課
	28(木)	8:00～12:00 12:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース		神田、鬼塚、岡本、渡邊あ、土屋長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳
12	4(水)	13:00～16:00	II	看護研究Ⅱ-②	②ケーススタディ発表会	池田、田爪
	12(木)					
	13(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	逝去時の看護	エンゼルケア/グリーフケア	古谷、沢田、渡邊師長
	19(木)					
	16(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	III	看護倫理Ⅲ-②	②実践発表	CNS
	4(水)	16:30～17:30	院内認定呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本
	25(水)	16:30～17:30	IV以上	看護管理研修V-⑦	マネジメント研修 ⑦チームマネジメント、リーダーシップ	教育課
13	14(火)	13:00～16:00	II	看護倫理Ⅱ	日常ケアに潜む倫理(7月にも同様の研修あり)	CNS
	16(木)	13:00～16:00	IV以上	看護倫理IV-②	②取り組み発表	CNS
	17(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	I	看護管理研修Ⅰ	リーダーシップとは、リーダーになるための構え	菊地あ、大木
	23(木)					
	22(水)	16:30～17:30	IV以上	看護管理研修V-⑧	マネジメント研修 ⑧人材育成	教育課
	8(水)	16:30～17:30	院内認定呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本

	7(金)	16:30~18:00	全スタッフ	看護教育研究会（ポスター）		教育課
	10(月)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	メンバーシップ研修・1年の振り返り	メンバーシップとは、1年の振り返り	
2	13(木)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	III	指導者研修III-③	③成果発表	
	21(金)	9:00~12:00	IV	看護管理研修IV-②	②成果発表	
	25(火)	16:30~18:00	IV以上	看護管理研修V（2023年度受講生リーダーシップ研修STEP5）	2023年度受講生対象 マネジメント研修 ⑩実践発表会	教育課
	26(水)	16:30~17:30	IV	看護研究IV-②	研究発表	
	3(月)	16:30~17:30	2024年度既卒入職者全員	中途採用者フォローアップ研修	組織内の役割、情報交換	
3	5(水) 10(月)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	II	指導者研修II	メンターの役割、コーチング・ティーチングについて	
						山本、佐野

2024年度 院外教育活動

1. 学会発表

	テーマ	発表場所（学会・研究会名）	発表日	部署	発表者
1	危険度3b以上の転倒転落低減に向けた取り組み	第11回日本医療安全学会	2025年3月15日	看護部	杉山希
2	看護ケアの均一化を図り感染と安全に配慮したケアの提供を目指して～A病院独自のケアマイスター認証制度導入半年後の意識調査～	第28回日本看護管理学会学術集会	2024年8月23日	看護部	荻島真弓
3	シンポジウム・プレホスピタルにおける多職種連携と診療看護師（NP）の可能性 ドクターヘリフライターナース活動における診療看護師（NP）の可能性	第10回日本NP学会学術集会	2024年11月24日	看護部	多田真也
4	看護師によるRRS担当者配置後の現状と課題～RRS担当者への調査から～	第27回日本救急医学会中部地方会学術集会	2024年12月7日	看護部	多田真也
5	認定看護師が特定行為を取得した後の活動と課題 褥瘡保有者に対し特定行為実践を行い褥瘡治癒に至った症例	第13回静岡県看護学会	2025年1月11日	看護部	杉山裕貴
6	パーキンソン病患者への支援を考える（交流集会企画）	第29回日本難病看護学会学術集会	2024年8月24日	看護部	宮澤初美
7	高齢者パーキンソン病における看護のポイント	第7回パーキンソン病シンポジウム	2024年9月14日	看護部	宮澤初美
8	染色体異常児の自宅退院を可能にした家族への看護実践	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月29日	新生児センター	平野真帆
9	ダイビング事故事案に対する多職種連携強化に向けた取り組み	第31回日本航空医療学会	2024年11月15日	新生児センター	鬼塚味佳
10	身体拘束低減に向けた現状調査	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月29日	2C	土井尚美
11	足潰瘍患者の再発予防のための指導内容の検討～当院における足潰瘍患者へのアンケート結果の考察～	日本フットケア・足病医学会	2024年11月29日	3AICU	間部幸
12	A病院のRRSの現状と今後の課題～RRS要請の視点から～	第27回日本救急医学会中部地方会学術集会	2024年12月7日	3AICU	岡室恵子
13	一般集中治療室（GICU）におけるVAP予防に関する現状と課題～VAPバンドル認知からの考察～	第27回日本救急医学会中部地方会学術集会	2024年12月7日	3AICU	中村沙織
14	パーキンソン病患者への支援を考える～目指すケアを多職種でつなぐ～急性期病院の立場から（交流集会）	第29回日本難病看護学会学術集会	2025年8月24日	4B	古屋曜子
15	優しさをつなぐTwiddle muffを活用したケアの展開（展示発表）	第25回認知症ケア学会	2025年6月15日	4B	古屋曜子
16	認知症をもつ高齢者のケアを考える～マフの活用をパーソン・センタード・ケアの視点で振り返る～	認知症マフチームそわん活動報告会	2025年1月24日	4B	古屋曜子
17	災害支援ナースの一次避難所支援と課題	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月28日	4C	松尾正人
18	病棟全体で取り組む医療安全	第27回日本救急医学会中部地方会学術集会	2024年12月7日	ICU・CCU	森島克明

19	ICU看護師のスピーチロックに焦点を当てた取り組み	第26回日本救急看護学会学術集会	2024年11月18日	ICU・CCU	福田由貴
20	倫理的的感受性を高めるための教育的支援-ラダーⅢを対象とした看護倫理研修-	日本看護倫理学会第17回年次大会	2024年6月22日	ICU・CCU	田村美紀
21	長期人工呼吸器装着患者の離床訓練を円滑にさせる特定行為実践	第52回日本集中治療医学会	2025年3月15日	ICU・CCU	渡邊朋徳
22	ペア制定着に向けた取り組み～OODAループによるタイムリーな取り組み～	順天堂保健看護研究会	2024年6月15日	HCU	天野淳
23	ここが困るよ、中毒初期診療～現場から院内診療まで～	第38回日本中毒学会東日本地方会	2025年2月15日	5A	石田桃子
24	減胎手術後の妊娠継続における患者の心理的葛藤と援助の考察	令和6年度静岡県看護協会東部地区支部看護実践報告会	2024年6月28日	5H/MFICU	岩田啓子
25	主任看護師によるスタッフへの倫理的的感受性を高める支援を目指して	看護倫理学会第17年次大会	2024年6月23日	5H/MFICU	勝又理恵
26	救急搬送された患者との退院後の語り合いからの学び	第13回静岡県看護学会	2025年1月11日	6A	渡辺雅代
27	特定行為研修修了看護師によるエコー評価に向けた教育の効果と課題	第20回日本クリティカルケア看護学会	2024年6月22日	6A	鈴木英子
28	緊急連絡網訓練からみえた災害時の看護職員収集の課題	第26回の本救急看護学会	2024年11月19日	6A	鈴木英子
29	ボジショニング技術確認による褥瘡予防支援	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月28日	6H	山口礼
30	急性期病院における認知機能低下の高齢者への看護実践～患者の個別性へ焦点を当てた関わり～	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月27日	7A	関直純
31	認知症ケア加算の減算からの身体拘束の要因分析	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月27日	7A	村田文明
32	前後方同時固定術における側臥位PPSの導入におけるスキントラブル防止の取り組み	第14回最小侵襲脊椎治療学会	2024年6月28日	手術室	鈴木祐里
33	腰椎前方後方同時固定術での体位変換に手術台を二台使う取り組み	第14回最小侵襲脊椎治療学会	2024年6月28日	手術室	原彩錦
34	看護学生の手術室看護への理解を深める取り組み	第55回日本看護学会学術集会	2024年9月27日	手術室	内田佳月
35	術前外来・術前術後訪問担当者を輪番制にすることによるスタッフの意識変容	第38回日本手術看護学会年次大会	2024年10月19日	手術室	神田李奈
36	手術室中堅看護師のキャリア形成に向けた取り組みと成果～救急外来リリーフ活動を通して～	第38回日本手術看護学会年次大会	2024年10月20日	手術室	芹澤奈穂
37	局所麻酔眼科手術における介護福祉士との協働～安全性の向上と術間の短縮に向けた取り組み～	第64回日本手術看護学会東海地区学会	2024年11月9日	手術室	濱村直斗
38	経皮的信金灼術治療を行う患者との関り	CVIT東北地方会第55回	2024年7月20日	外来検査	岩崎茂巳
39	フライターナース候補者に求められる看護基礎能力	第26回日本救急看護学会	2024年11月19日	救急外来	鈴木めぐみ
40	風水害対策フロー活動後のアンケート結果から見えた今後の課題	第26回日本救急看護学会	2024年11月19日	救急外来	加藤清美
41	他職種間連携の推進に向けた消防機関との取り組み	第31回日本航空医療学会	2024年11月15日	救急外来	杉山遙
42	がん終末期の家族と医療システムとの話し合いにおけるコンフリクトの可視化	日本家族看護学会第31回学術集会	2024年9月15日	外来E	石川満知子
43	糖尿病透析予防指導の再開と今後の課題	第11回JADEC年次学術集会	2024年7月11日	患者・看護相談室	渡邊あつ子

2. 誌上発表

	テーマ	書籍・雑誌名	部署	著者名
1	入院早期での在宅支援スタッフとのカンファレンス開催における病棟看護師の意図 —緊急入院となった在宅療養者への支援を通して—	順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究 第13巻(2025)	2C	村瀬夢帆
2	生後を6か月～3歳までの第1子を初めて育児した母親の育児満足度に関連する要因の検討	2024年度 東海大学紀要	5H/MFICU	勝又 理恵

3. 研修・臨地実習受け入れ状況

施設	実習内容	期間
順天堂保健看護学部	地域包括ケア探索実習(1年)	4/24、4/25
	生活行動援助実習(2年)	9/11～10/2
	領域実習(4年) (3年)	5/7～6/28 10/15～12/20
	看護総合実習(4年)	7/8～7/19
	多職種連携医療体験実習(1年)	1/6～1/17
順天堂医療看護学部	ハイリスク新生児実習	7/22～8/2(各3日間)
	助産分娩実習	8/19～10/4(7週間)
静岡県立看護専門学校	ハイリスク新生児実習	8/20.8/21
	助産分娩実習	10/7～12/20
静岡県看護協会	感染管理認定看護師教育課程	11/5～12/6
東海大学	救急認定看護師教育課程	1/8～2/13
三島総合病院	内視鏡検査室実習	5/21.22.23.24.28.29 11/5.6.7.8.14.15.19.20.26.27
	認定看護管理者研修サードレベル	10月7日
中伊豆温泉	手術室	8/27.12/10
伊豆慶友病院	救命センター/救急外来/手術室/	10/15.16.17.18.21.22.23.24.25
三島市医師会訪問看護ステーション	入退院支援室/5B病棟/脳内外来	10/1～10/4
訪問看護ステーション千本	入退院支援室/7A病棟/脳内外来	9/3～9/6
伊豆赤十字	看護管理IV-①②	5/10.6/26.7/11.24.9/25.10/23
	看護管理V-②③④⑤ 看護管理III、看護記録II、 看護倫理II、指導者研修II	11/7.1/14.2/21.3/6

3-10 救命救急センター

業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターへリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療では救急専用病床 34 床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

業務実績

2024 年度

救急外来受診患者総数	13,961 人
救急入院患者総数	6,635 人
救急車搬送件数	7,515 件
ドクターへリ運航件数	1,062 件

メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール（MC）体制を確保・発展するために、当院に搬送された症例を中心に、救急救命士の技術指導を行った。

次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターへリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターへリ業務を推進する。
- 新救急救命センターへ円滑に業務体制を移行する。

3-11 ドクターへリ運航対策室

業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターへリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成 16 年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径 70 km の医療圏から年間 700 件以上の重症救急患者の広域へリ搬送を実施し、その約 7 割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

次年度目標

- ・ドクターへリ活動周知、啓発活動の継続
- ・消防との更なる連携強化
- ・県防災ヘリとの連携強化
- ・大規模災害、AACN 等の訓練への参加
- ・海上保安庁との連携強化
- ・自衛隊との連携強化

2024 年度ドクターへリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数	
入 院	620	56.9%
外 来	291	26.7%
転 送	112	10.3%
キャンセル	66	6.1%
合 計	1089	100%

要請内容	件 数
現場搬送	833
現場キャンセル	64
病院間搬送	163
病院間キャンセル	2
合 計	1062

令和6年/令和7年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(人)
入 院	49	49	56	61	44	43	44	52	61	62	43	56	620
外 来	21	21	18	30	20	23	24	24	31	35	23	21	291
転 送	9	14	11	11	7	6	7	9	14	6	10	8	112
キャンセル	5	3	5	4	5	1	9	9	6	9	3	7	66
月別合計	84	87	90	106	76	73	84	94	112	112	79	92	1089

令和6年/令和7年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(件)
救急現場	62	69	65	88	64	62	61	70	81	82	58	71	833
転院搬送	15	15	13	13	7	9	10	10	23	18	18	12	163
キャンセル	5	3	5	4	5	1	9	9	6	9	3	7	66
月別合計	82	87	83	105	76	72	80	89	110	109	79	90	1062

出動実績

I -1(件数)

出 動 内 容	
現 場	897 (キャンセル 64件含む)
病院間	165 (キャンセル2 件含む)
現 場	833
病院間	163
小 計	996
キャンセル	66
合 計	1062

I -2(件数)

(消防本部別)

消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
	病 院	診 療 所		
下田消防	43	8	161	212
駿東伊豆消防	37	8	268	313
熱海市消防	10		38	48
富士山南東消防	0	1	153	154
御殿場市・小山町消防	2	3	114	119
富士宮市消防	0		49	49
富士市消防	8		38	46
静岡市消防	0		12	12
その他消防	1		0	1
小 計	101	20	833	954
消防との合流なし	42	0	0	42
合 計	143	20	833	996

II -1(人数)(診療科別)

診 療 科 名	(人 数)
循環器科	208
脳神経外科	123
整形外科	39
外 科	7
呼吸器内科	4
小児科	29
膠原病内科	
呼吸器外科	
腎臓内科	2
消化器内科	17
心臓血管外科	11
脳神経内科	9
産婦人科	3
眼科	
泌尿器科	1
形成外科	
耳鼻咽喉科	
皮膚科	
新生児科	2
血液内科	1
糖尿病・内分泌内科	
救急診療科	567
合 計	1023

II -2(人数)

(収容先別)

出 動 别	当 院(人 数)	他 院(人 数)	合 計(人 数)
現 場	680	64	744
病 院 間	115	48	163
小 計	795	112	907
現場のみ	17	99	116
合 計	812	211	1023

／1023名(キャンセル66件を除く)

疾患別搬送件数

内因性疾患	件 数	内因性疾患	件 数
急性心筋梗塞	79	脾炎	3
狭心症	19	多臓器不全	1
急性冠症候群	1	ショック	16
心不全	32	切迫早産	2
急性大動脈解離	25	腎孟腎炎	1
大動脈瘤	1	心嚢液貯留	1
大動脈瘤破裂	4	過換気症候群	2
完全房室ブロック	6	早産児	1
洞不全症候群	3	出血性ショック	2
徐脈	2	気胸	2
心房細動	3	急性腹症	2
不整脈	1	CO2ナルコーシス	1
心室頻拍	8	下肢動脈閉塞症	1
発作性上室頻拍	1	尿路感染症	1
心室細動	1	乳癌脳転移	1
心肺停止	63	感染症	1
肺塞栓症	4	脱水	2
心筋炎	1	肝膿瘍	1
心筋症	1	心窩部痛	1
僧帽弁閉鎖不全	1	肺気腫	1
大動脈弁狭窄症	2	急性胃腸炎	3
脳内出血	24	肝炎	1
くも膜下出血	14	迷走神経反射	4
脳梗塞	49	十二指腸潰瘍	1
意識消失発作	6	めまい症	5
脳腫瘍	2	尿管結石症	2
けいれん発作	28	口腔底膿瘍	1
意識障害	19	胃食道逆流症	1
一過性脳虚血発作	11	墜落分娩	1
てんかん	10	脳炎脳症	1
失神	7	蜂窩織炎	2
頭痛	2	不明	33
脳卒中	8		
COVID-19	1		
肺炎	14		
呼吸不全	6		
食道静脈瘤破裂	1		
消化管穿孔	3		
消化管出血	15		
低血糖	4		
髄膜炎	2		
嘔吐症	2		
腎不全	2		
敗血症	3		
腸管壊死	1		
高血圧症	1		
胸痛	19		
胆囊炎	2		
胆管炎	2	内因性疾患 小 計	614

外因性疾患	件 数	外因性疾患	件 数
交通外傷	8	前腕挫創	4
頭部外傷	23	足指切斷	2
溺水	12	下腿打撲	2
薬物中毒	5	胸部打撲	2
急性硬膜外血腫	2	外傷性消化管穿孔	1
頭部打撲	7	上腕開放性骨折	2
頸髓損傷	12	手関節開放骨折	1
脊髓損傷	3	肩甲骨骨折	1
減圧症	9	大腿骨骨折	3
蜂刺症	2	不明(外因)	25
外傷性気胸	1	動脈損傷	1
下腿骨骨折	4	下肢切創	1
頸椎骨折	8	上肢挫創	3
腹部外傷	2	手指挫滅創	1
顔面外傷	4	誤嚥性肺炎	3
多発外傷	1	転落外傷	3
胸部外傷	6	背部打撲	1
脾損傷	3	電撃傷	1
縊首	2	足関節骨折・脱臼	1
熱傷	9	アナフィラキシー	11
全身打撲	27	足部骨折	2
熱中症	14	頭部挫創	13
膝開放性骨折	1	前腕開放性骨折	3
頸椎捻挫	1	腹部打撲	1
胸腰椎骨折	1	前腕骨折	6
外傷性心肺停止	6	臀部打撲	1
急性硬膜下血腫	3	頸椎症	1
肋骨骨折	38	胸椎骨折	9
低体温	4	大腿骨開放骨折	1
腰部打撲	1		
骨盤骨折	22		
上腕骨骨折	2		
外傷性くも膜下出血	14		
心肺停止	2		
下腿開放骨折	14		
脳挫傷	2		
手指切斷	11		
血氣胸	2		
腰椎骨折	14		
アナフィラキシーショック	6		
手指挫創	3		
下肢挫創	10		
窒息	8		
一酸化炭素中毒	2		
手指骨折	3		
鎖骨骨折	9		
異物誤飲	1		
股関節脱臼	1	外因性疾患 小 計	475
脳振盪	24	内・外因性疾患 合 計	1089

3-12 新生児センター

業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数
総入院数	363
院内出生	298
院外出生	65

出生体重別の入院数

	入院数
超低出生体重児 (1000g 未満)	22
極低出生体重児 (1000g-1500g 未満)	16

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数
22-23	4
24-27	11
28-33	40
34-36	69

新生児救急車

	出動件数
総出動件数	152
入院数	57
三角搬送	62

研究・教育活動

学会発表

木村寛太郎, 大川夏紀, 橋本わかば, 岩原可名人, 東海林宏道, 清水俊明. 静岡県東部地域における生後に判明した重症先天性心疾患の診断と搬送. 第60回日本周産期・新生児医学会, 大阪, 2024.7.13.

杉山茉莉香, 大川夏紀, 東海林宏道. 外科的切除を選択した早産児の卵巣嚢腫の1例. 第68回新生児生育医学学会学術集会, 松本, 2024.11.8.

平岡由衣, 橋本わかば, 谷本亮輔, 田中智秀, 杉山茉莉香, 中村果歩, 木村寛太郎, 荒井美輝, 佐藤恵也, 大川夏紀. 高ALP血症を契機に診断にたどり着いた先天性GPI欠損症の新生児例. 第159回日本小児科学会静岡地方会, 静岡, 2024.10.6.

3-13 がん治療センター

業務実績

【がん治療センター運営委員会】

6回／年

【がん診療委員会（キャンサーボード・レジメン審査）】12回／年

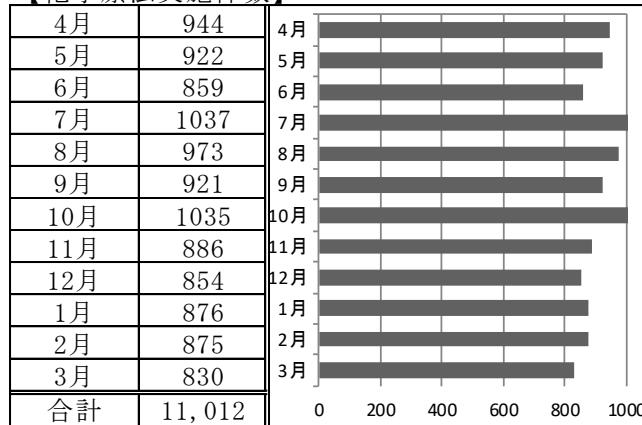
【周辺機関合同研修会・カンファレンス・連絡会等】

10月 31日	合同カンファレンス
12月 25日	合同カンファレンス
1月 26日	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会
3月	がん治療研修会（動画配信） がん対策にかかる診療・患者支援体制について

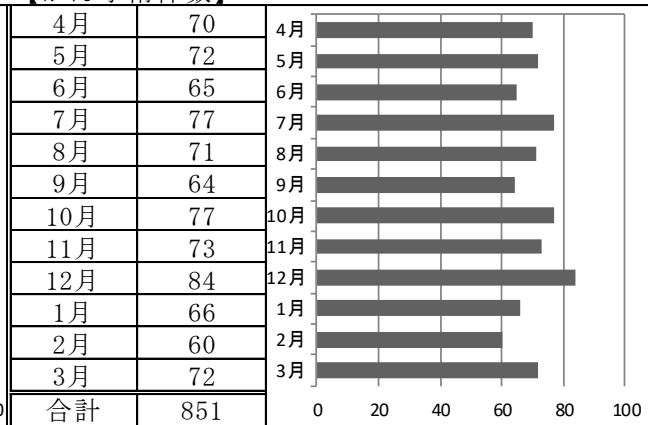
【がん登録件数】(2024.1.1～2024.12.31)

総登録数	5大がん内訳	肺がん	207	大腸がん	277	乳がん	134
1,893		胃がん	115	肝がん	51		

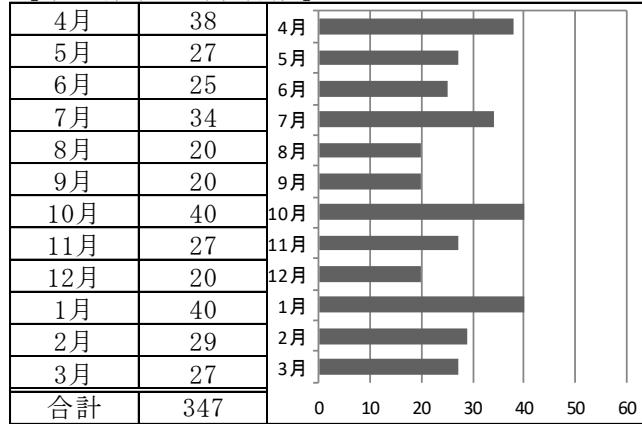
【化学療法実施件数】



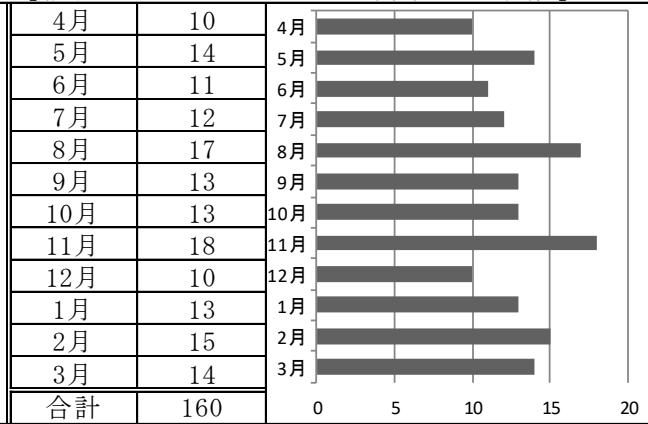
【がん手術件数】



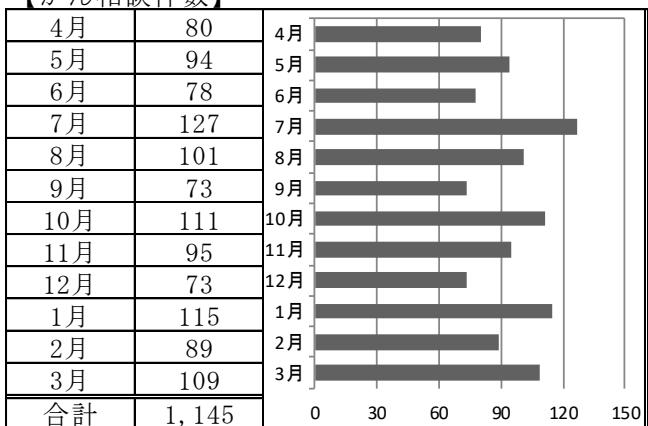
【放射線治療新規件数】



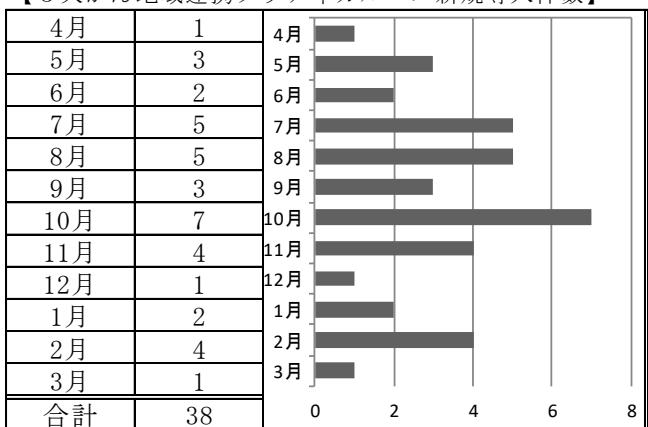
【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】



【がん相談件数】



【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】



連携届出施設数

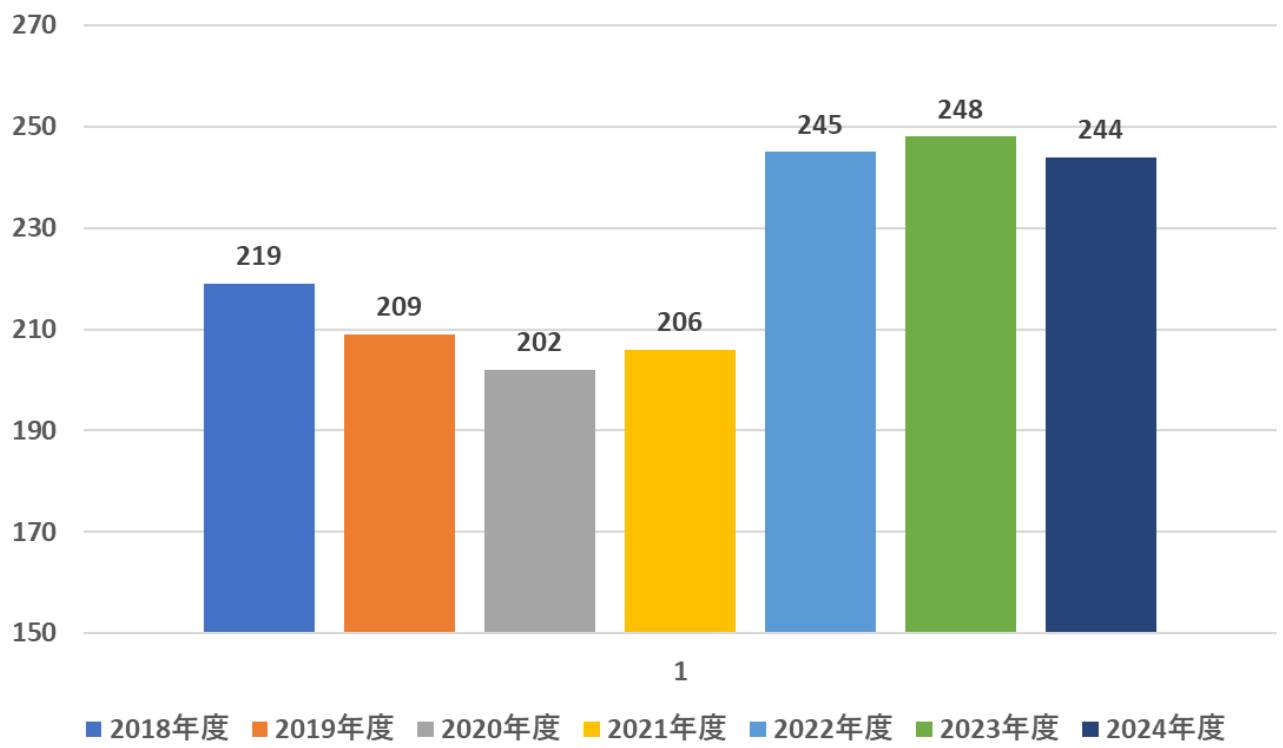
連携届出施設数	
総施設数	127
肺がん	94
胃がん	109
大腸がん	105
肝がん	68
乳がん	38

3-14 子どものこころのケアセンター

業務内容

発達障害・不登校など児童・思春期のメンタル面でのケアを求めるニーズはますます高まっています。当院メンタルクリニックでも児童思春期の患者が増加傾向にあります。静岡県東部地区では児童精神科を標榜している医療機関は少なく、どこを受診してよいかわからない保護者や教育関係者が多かったようです。当センターでは「子どもの支援」・「親への支援」・「学校地域支援」を3つの軸としています。従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング(SST)・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設しています。

順天堂大学医学部附属静岡病院メンタルクリニック
児童思春期（18歳以下）初診患者数（2018—2024年度）



センター開設後3年が経ちましたが、グラフに示すように児童思春期の初診患者数は増加しています。さらに新たな治療プログラムとして、選択性缄默のためのクラス、運動教室、個別の心理療法などが加わりました。選択性缄默とは家族以外とうまく会話ができない子どもたちですが、治療プログラムでは、うまく話せなくても自信を無くさないで必要な意思表示ができるように一緒に考えていきます。運動教室ではコーディネーショントレーニングを主に指導します。コーディネーショントレーニングは、行動を調整する能力を高めるトレーニングで、児童思春期では身体と脳神経系統のバランスのよい発育を促し、成人期では運動を円滑に正確に行なう能力を向上させ技術の習得を促します。強調運動の改善と自

自分で体をコントロールする達成感を得ることが精神症状の改善につながることより、発達障害などの精神疾患への効果が報告されています。個別の心理療法では、ご本人への心理療法だけでなく、保護者や教育者への心理支援として接し方の工夫などをアドバイスしています。

業務実績

当センター開設後新たなプログラムも加わり、児童思春期の初診患者数は増加しています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。またセンター長は地域自治体のいじめ問題対策専門委員会委員を務めており、行政機関・教育機関・各市町の発達障害支援センターと連携しています。センター設立によりこれらの連携がさらにスムーズになっています。

3-15 予防医学センター

人間ドック集計(2024年度)

(1)-1人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
総合日帰りコース	男	7	8	12	10	13	13	12	11	5	12	10	11	124	62.0%
	女	7	4	5	4	9	8	6	8	5	6	5	9	76	38.0%
	小計	14	12	17	14	22	21	18	19	10	18	15	20	200	
総合泊2日コース	男	6	4	1	5	2	2	4	6	4	4	3	2	43	69.4%
	女	2	2	3	2	2	1	1	3	1	1	1	0	19	30.6%
	小計	8	6	4	7	4	3	5	9	5	5	4	2	62	
がんコース	男	2	0	0	2	0	1	2	1	1	1	0	3	13	68.4%
	女	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	6	31.6%
	小計	2	1	1	2	0	2	3	1	1	3	0	3	19	
PET-CTコース	男	0	0	2	0	0	0	1	0	2	2	0	2	9	81.8%
	女	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	18.2%
	小計	0	0	2	1	0	1	1	0	2	2	0	2	11	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(1)-2 人間ドック年齢別、男女別集計表

区分		年齢	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上	合計	比率(%)
総合日帰りコース	男		0	3	12	24	38	37	10	124	42.47%
	女		0	0	9	19	21	25	2	76	26.03%
	小計		0	3	21	43	59	62	12	200	68.49%
	比率(%)		0.00%	1.03%	7.19%	14.73%	20.21%	21.23%	4.11%	68.49%	
総合1泊2日コース	男		1	4	5	9	12	9	3	43	14.73%
	女		0	2	2	4	8	2	1	19	6.51%
	小計		1	6	7	13	20	11	4	62	21.23%
	比率(%)		0.34%	2.05%	2.40%	4.45%	6.85%	3.77%	1.37%	21.23%	
がんコース	男		0	1	2	4	5	1	0	13	4.45%
	女		0	1	2	2	1	0	0	6	2.05%
	小計		0	2	4	6	6	1	0	19	6.51%
	比率(%)		0.00%	0.68%	1.37%	2.05%	2.05%	0.34%	0.00%	6.51%	
PET-CTコース	男		0	0	1	1	4	3	0	9	3.08%
	女		0	0	0	1	1	0	0	2	0.68%
	小計		0	0	1	2	5	3	0	11	3.77%
	比率(%)		0.00%	0.00%	0.34%	0.68%	1.71%	1.03%	0.00%	3.77%	
脳ドックコース	男		0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	女		0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	比率(%)		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
合計	男		1	8	20	38	59	50	13	189	65%
	女		0	3	13	26	31	27	3	103	35%
	小計		1	11	33	64	90	77	16	292	100.0%
	比率(%)		0.34%	3.77%	11.30%	21.92%	30.82%	26.37%	5.48%	100.0%	

(1)-3 年齢別総合判定区分集計

区分	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが 日常生活上心配要りません	2	0	0	0	0	0	1	0	3
C: 経過観察を必要とします	0	1	2	2	1	1	2	0	9
D: 二次検査・精密検査を必要とします	2	6	8	8	8	4	7	6	49
E: 治療を必要とします	1	0	7	6	8	8	2	4	36
F: 治療・経過観察を継続してください	2	2	11	14	17	22	29	98	195
合 計	7	9	28	30	34	35	41	108	292

3-16 GCP センター

業務内容

当センターでは、治験や製造販売後臨床試験に関しては、試験の倫理性・安全性・科学的妥当性を審査するために、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を運営しています。治験の依頼者である製薬企業や実施者である医師等の相談にも対応しています。また治験が安全かつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターを配置し、医師や各部署と協力して治験を進め、被験者をサポートしています。さらに適切に治験を実施されている事を保証するために、製薬企業からの監査やモニタリングを受け入れています。

倫理指針下の臨床研究に関しては、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会の事務局をしています。臨床研究を予定している研究者からの相談や申請の窓口も担当しています。

特定臨床研究に関する報告、患者への侵襲的処置の新規導入および未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用に関しては、順天堂大学医学部附属静岡病院倫理審査委員会を運営しています。

その他、症例報告、製薬会社からの医薬品等の製造販売後調査の申請の窓口も担当しています。

業務実績

治験審査委員会

治験や製造販売後臨床試験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP といいます。）」を遵守しなければなりません。この GCP に従って、科学的および倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により治験実施計画書の内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。毎月 1 回(8 月休会)開催しています。

2024 年度 審議内容・審議件数

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急の 危険回避)	その他の 審議事項	報告事項
治験	67 件	41 件	10 件	3 件	2 件	23 件	37 件
製造販売後 臨床試験	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	67 件	41 件	10 件	3 件	2 件	23 件	37 件

2024 年度 新規件数・予定症例数

	新規件数	予定症例数
治験	3 件	13 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例
合計	3 件	13 症例

2024 年度 終了件数・実施症例数・同意取得数

	終了件数	実施症例数	同意取得数
治験	6 件	9 症例	29 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	6 件	9 症例	29 症例

2024 年度 監査・モニタリング受け入れ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
治験	2回	3回	5回	2回	4回	3回	3回	1回	5回	2回	1回	2回	33回
製造販売後 臨床試験	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回						
合計	2回	3回	5回	2回	4回	3回	3回	1回	5回	2回	1回	2回	33回

医学系研究等倫理委員会

順天堂大学医学部の 6 病院により構成される順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会では、患者さんが参加する臨床研究について、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究の計画および実施が適切かどうかを中立かつ公正な立場から審議しています。病院長の許可を受けた臨床研究のみが実施されます。毎月 1 回(8 月休会)開催しています。

2024 年度 審議内容・審議件数

新規	内容変更	実施状況	その他	重篤な 有害事象	不適合 報告	終了報告
41 件	94 件	41 件	0 件	3 件	0 件	37 件

他機関で一括審査を受けた、当院が分担機関についての報告 37 件	試料・情報を他の研究機関へ提供するのみの試験についての報告 7 件
---	--

倫理審査委員会

治験や倫理指針下の臨床研究を除く特定臨床研究に関する利益相反や研究についての報告、患者への侵襲的処置の新規導入、未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用申請について審議され、病院長より許可された申請のみが実施されます。毎月 1 回(8 月休会)開催しています。

2024 年度 審議内容・審議件数

特定臨床研究 COI	特定臨床研究報告	侵襲的処置の 新規案件	医薬品の 適応外使用	その他
55 件	117 件	4 件	13 件	4 件

症例報告

他の医療従事者への情報共有を図るため、所属する機関内の症例検討会、機関外の医療従事者同士の勉強会や関係学会、医療従事者向け専門誌等で個別の症例を報告しています。

2024 年度 症例報告件数

件数
29 件

製造販売後調査

医薬品が治験を経て承認・販売された後も、販売前の治験や臨床研究では十分に把握できなかつた有効性や安全性について引き続き調査しています。

2024 年度 製造販売後調査件数

新規契約 19 件	使用成績調査・特定使用成績調査	19 件
	副作用詳細調査	0 件

3-17 臨床研修センター

■研修内容

<レクチャー>

「イブニングレクチャー」として 22 回、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を 16 回実施し、救急診療科を研修した研修医から、研修症例をまとめ発表していただく「救急診療科レクチャー」2 回実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

【イブニングレクチャー】

	日	担当科	担当者		講義名
4月	13	呼吸器内科	岩神 真一郎	教授	呼吸器感染症について
	2	感染対策室	鈴木 美沙子	主任	血液培養
5月	9	脳神経外科	足立 知司	助手	頭痛
	6	消化器内科	佐藤 祥	助教	救急外来で遭遇する消化器疾患について
6月	13	医療安全管理室	高橋 真紀子	師長	研修医のインシデントレポート
	6	放射線科	杉山 宗弘	先任准教授	急性腹症・外傷に対する造影CT検査の必要性(ヨード造影剤によるアナフィラシキショックへの対応)
7月	19	脳神経内科	上野 真一		脳神経内科のあれこれ
	8	膠原病・リウマチ内科	片桐 彰	准教授	膠原病疾患へのコンサルトを考える時
8月	15	形成外科	久次米 一輝		形成外科における創傷管理
	5	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	総合失調症・睡眠薬・不穏・離脱
9月	12	薬剤科	山口 香織	薬剤師	今日から読める血算
	2	血液内科	浅妻 和樹	医師	『その疾患は血液疾患が原因ですか?』血液内科をコンサルトする前に
10月	10	臨床検査科	田内 一民	特任教授	検査基準値
	9	新生児科	新井 美輝	助教	NICU退院児の予後
11月	5	糖尿病・内分泌内科	野見山 崇	教授	これだけは知ってほしい糖尿病診療
	12	循環器内科	遠藤 裕久	助教	抗がん剤と心疾患
12月	9	麻酔科	室谷 修平	助手	各種麻酔科で用いる薬剤
	16	皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	教授	アトピー性皮膚炎
1月	6	小児科	大石 賢司	助手	子どもの発疹
	13	腎臓内科	野村 理奈	助手	透析
2月	6	呼吸器外科	曾和 嵩	大学院生	胸部Xpの見方のコツ・胸腔ドレーン手技について
	13	産婦人科	田嶋 俊彬	助手	救急外来で診る女性の腹痛
3月					

【研修医レクチャー】

	日	担当科	医師		講義名
4月	15	臨床研修センター	中尾 保秋	教授	研修上の注意点
	13	腎臓内科	清水 芳男	教授	腎不全
5月	20	エチコン(縫合トレーニング)			
	17	産婦人科	田中 里美	准教授	妊娠出産
6月	24	呼吸器内科	岩神 直子	助教	呼吸困難
	19	血液内科	三澤 恭平		ACP
8月	26	循環器内科	設楽 準		心停止
	30	皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	教授	発疹
9月	21	眼科	土至田 宏	先任准教授	角膜の充血
	28	小児科	馬場 洋介	准教授	虐待
10月	18	外科	上田 修平	助手	腹痛・便通異常
	25	消化器内科	池田 裕至	医師	黄疸
11月	16	整形外科	守屋 秀一	助教	関節痛
	27	脳神経内科	松島 隆史	准教授	もの忘れ
1月	17	救急診療科	柳川 洋一	教授	意識障害・失神
	17	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	体重減少・るい瘦
3月					

【救急診療科セミナー】

	日	担当科	医師		症例発表名
4月 26	救急診療科	小野 祐一朗	研修医	包皮炎を原因とする菌血症の一例	
		鈴木 大輝	研修医	椎体・骨盤骨折に膀胱損傷を合併した一例	
5月 26	救急診療科	苅部 伶	研修医		初回FASTでは発見できなかった外傷性脾臓損傷
		國吉 愛佳	研修医		
		山田 春花	研修医		
		月原 知輝	研修医	外傷からの肺水腫となった一例	

【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	発表科	内容
12 23		石塚 ジュスタン正也	上田 修平	外科	肺癌に対して施行したCRT及びデュルバールマップ維持療法が奏功し、盲腸癌が病理学的完全奏功と診断された重複癌の一例
		村山 倫太郎	加藤 永記	外科	下腿浮腫を契機に発見された後腹膜脂肪内腫
3 22		近藤 哲	椎名 健太	脳神経内科	「急性期に骨髓IL-6上昇を認め救命し得たnew onset refractory status epilepticus」(NORSE)の34歳女性例
		韓 雪	野田 和幸	脳神経内科	「外傷性椎体骨折術後に急激な四肢の筋力低下・呼吸筋麻痺を来たした47歳男性」
		田中 千裕	柳川 洋一	救急診療科	「Kounis症候群の合併を疑われた蜂刺症の一例」

< CPC・CRC デスカンファレンス (臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス) >

年3回開催した。

No.	開催日	担当科	医師		備考
第1回	10月17日	病理診断科 放射線科	和田 了 高橋 正洋	教授 助教	①原発性硬化性胆管炎、肝硬変、急性炎症 ②前立腺癌、DIC、脾腫、肺クリプトコッカス症
		病理診断科 放射線科	和田 了 高橋 正洋	教授 助教	①急性心筋梗塞、血胸 ②急性肺炎、心室拡張(左右)、左心室内血栓、脂肪肝
第2回	12月19日	病理診断科 放射線科	和田 了 高橋 正洋	教授 助教	①髓膜内・血管内悪性リンパ腫、出血性肺炎 ②C型慢性肝炎～肝硬変(B型)、類上皮細胞肉芽腫：結核(肺)肝・脾
		病理診断科 放射線科	和田 了 高橋 正洋	教授 助教	

<日本救急医学学会認定 ICLS コース>

9月25日、26日、27日の3日間に分散し、臨床研修医1年目全員参加にて実際に即したシミュレーション実習を行った。

<臨床研修医のための学術集会>

7月5日（金）順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会がWEBにより開催され、静岡病院としてR1 苅部 伶 先生による「正中弓状靭帯圧迫症候群に対して腹腔鏡下手術を施行した1例」の発表と外科 仁平 高朔 先生による「救急外来での腹痛診療」のミニレクチャーを行った。

<研修医・指導医のための研修会>

9月28日(土) 東京ドームホテルにて順天堂大学4基幹病院合同の研修があり、研修医1年目30名、2部構成にて下記講演会後に懇親会で指導医及び演者と交流を行った。

①「臨床医(研修医)にとってのケースレポートの重要性—執筆のコツー」

(NTT東日本関東病院リウマチ膠原病内科医長 陶山 恭博 先生)

②「Rural Generalistとして生きる」

(匝瑳市民病院 地域医療部長 斎藤 学 先生 下甑手打診療所長 他)

<臨床研修修了証書授与式>

令和7年3月18日(火) 順天堂大学4基幹病院合同で一部WEBにて行い、修了証書授与式は各附属病院での挙行となった。静岡病院では大会議室にて研修医30名が授与された。

■研修管理委員会

令和 7 年 2 月 28 日（金）研修管理委員会を WEB により開催し、令和 6 年度の研修報告が行われた。

■臨床研修病院合同説明会への参加

令和 6 年度はイベント開催に 11 回参加、WEB 説明会は 3 回参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、医学生に参加していただいた。

開催	説明会	場所	参加人数
2024年	4月	レジナビFair オンライン 2024 6 年生 Week	ZOOM
		マイナビレジデント 仙台	仙台国際センター展示棟
	5月	レジナビフェア 2024 福岡	マリンメッセ福岡 B 館
		レジナビフェア 2024 大阪	インテックス大阪 1・2 号館
	6月	レジナビフェア 2024 東京	東京ビッグサイト西1・2ホール
	7月	レジナビFair オンライン2024 東日本Week	ZOOM
		静岡県医師臨床研修病院合同説明会in浜松	アクシティ浜松 コングレスセンター
2025年	11月	レジキャリフェア埼玉	さいたまスーパーアリーナTOIRO
	1月	マイナビレジデント 札幌	アスティ45
		レジナビFair オンライン 2025 6 年生 Week	ZOOM
	2月	マイナビレジデント 東京	産業貿易会館台東館
	3月	レジキャリフェア東京	東京流通センター第一展示場
		静岡県医師臨床研修病院合同説明会in静岡	グランシップ 展示ギャラリー 1
		レジナビフェア2025 東京	東京ビッグサイト南1・2ホール

■令和 6 年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

こうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターへりにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得することができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることがある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行なった。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同志の絆が形成しやすく、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

<採用結果>

(マッチング結果)

定員	本学	他学	男子	女子	合計	マッチング率
36名	21	15	22	14	36	100%

令和 6 年度医師臨床研修医は、マッチング結果では 36 名の 100% であったが、採用では基本プログラム 28 名、産婦人科・新生児・小児科プログラム 4 名、計 32 名となった。（令和 7 年度採用）

3-18 看護師特定行為研修センター

■業務内容

当院では厚生労働省から認可を得て、2020年4月に看護師特定行為研修センターを立ち上げ、特定看護師の育成を、5区分11行為（呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、創傷管理関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）で開始し、2021年度からは、血糖コントロールに係る薬剤投与関連を加え、7区分13行為となりました。

2022年度より、術中麻酔管理領域、集中治療領域、救急領域の3パッケージを加え、7区分21行為（3パッケージ）となりました。

さらに2023年度4月より、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連が加わり、8区分23行為（3パッケージ）となりました。

2024年度4月より、「感染に係る薬剤投与関連」、「ろう孔管理関連」が加わり、10区分26行為（3パッケージ）となりました。10月より、「栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連」が加わり、11区分27行為（3パッケージ）となりました。

当院以外の地域医療機関からも受講生を受け入れており、当研修センターの開設により、静岡県東部地域の看護師のレベルアップとともにキャリアアップにもつなげていきたいと考えております。

■業務実績（2024年度）

受講生数：13名（院内10名（特定看護師追加受講者4名含む）、院外3名）

修了生：13名（院内10名、院外3名）

<看護師特定行為研修管理委員会>

開催日：2024年6月7日、9月25日、2025年3月12日、3月31日（臨時）

特定行為研修計画の作成、特定行為区分の相互間の調整、受講者の履修状況の管理、修了の際の評価等、特定行為研修の実施の統括管理が行われた

■開講区分

特定行為区分	特定行為	定員	受講者数
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	5人	-
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	5人	-
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
	人工呼吸器からの離脱		
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	2人	2人

	膀胱ろうカテーテルの交換		
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	4人	2人
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壞死組織の除去	3人	1人
	創傷に対する陰圧閉鎖療法		
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5人	1人
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	5人	3人
	橈骨動脈ラインの確保		
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	8人	5人
	脱水症状に対する輸液による補正		
感染に係る薬剤投与関連	感染徵候がある者に対する薬剤の臨時の投与	3人	3人
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	5人	2人
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与	3人	3人
	抗精神薬の臨時の投与		
	抗不安薬の臨時の投与		
術中麻酔管理領域パッケージ		3人	1人
救急領域パッケージ		3人	3人
集中治療領域パッケージ		2人	2人

■研修スケジュール

共通科目：2024年4月～9月

区別科目：2024年10月～2025年3月

開講式：2024年4月12日（金） 14:00～

症例発表会：2025年3月14日（金） 16:45～

修了式：2025年3月31日（月） 14:30～

■研修内容

<共通科目>

研修日		時限	科目	シラバス回	授業種別	学習内容	学習内容(細)	2024担当指導者
4月15日 (月)	①	1時限	臨床病態生理学	第28回	演習	4臨床病態生理学 演習	臨床病態生理学の演習	清水
	②	2時限	臨床病態生理学	第29回	演習	4臨床病態生理学 演習	炎症	清水
	③	3時限	臨床薬理学	第20回	演習	2主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3主要薬物の相互作用の理論と演習	呼吸器系 演習	山口
	④	4時限	臨床薬理学	第5回	演習	1薬物動態の理論と演習	薬物動態の演習	勝又
5月16日 (木)	①	1時限	臨床推論	第17回	演習	2臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(1)	岩神真
	②	2時限	臨床推論	第18回	演習	2臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(2)	岩神真
	③	3時限	臨床推論	第19回	演習	2臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(3)	岩神真
	④	4時限	フィジカルアセメント	第41回	演習	5身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	問診	若林
	⑤	5時限	フィジカルアセメント	第43回	実習	5身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	適切な問診、意識の評価	若林
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第11回	演習	1特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	④ケアの質保証 (4)法的側面とケアの質保証に関する判例を分析する	櫛田
5月24日 (金)	①	1時限	臨床推論	第22回	演習	3医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(1)	中尾
	②	2時限	臨床推論	第23回	演習	3医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(2)	中尾
	③	3時限	臨床推論	第24回	実習	3医療面接の理論と演習・実習	医療面接の実習	中尾
	④	4時限	臨床薬理学	第15回	演習	2主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3主要薬物の相互作用の理論と演習	心・血管系 演習	水口
	⑤	5時限	臨床薬理学	第10回	演習	2主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3主要薬物の相互作用の理論と演習	精神神経系 演習	芹澤
	⑥	6時限	臨床薬理学	第25回	演習	2主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3主要薬物の相互作用の理論と演習	消化器系 演習	杉本

研修日		時限	科目	シラバス回	授業種別	学習内容	学習内容(細)	2024担当指導者
6月4日 (火)	①	1時限	疾病・臨床病態概論	第28回	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断 ・治療の演習(1)	岩神直子
	②	2時限	疾病・臨床病態概論	第39回	演習	2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	在宅医療の臨床診断・治療の演習	岩神直子
	③	3時限	臨床推論	第33回	演習	4.各種臨床検査の理論と演習	各種臨床検査の演習	岩神直子
	④	4時限	臨床薬理学	第29回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3.主要薬物の相互作用の理論と演習	内分泌・代謝系 演習	木下
	⑤	5時限	臨床薬理学	第34回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3.主要薬物の相互作用の理論と演習	骨・関節系／腎・泌尿器系 演習	小林淳司
6月14日 (金)	①	1時限	臨床薬理学	第39回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3.主要薬物の相互作用の理論と演習	抗がん薬／抗菌薬 演習	杉本礎
	②	2時限	疾病・臨床病態概論	第29回	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断 ・治療の演習(2)	中尾
	③	3時限	疾病・臨床病態概論	第34回	演習	1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習	救急医療の臨床診断・治療の演習	中尾
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第12回	実習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	⑤医療安全の実習 ・特定行為実践に関連する医療安全の実習	荻島
	⑤	5時限	フィジカルアセスメント	第40回	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習 部位別身体診察手技と所見の演習・実習	全身状態・緊急性の評価	神田
	⑥	6時限	フィジカルアセスメント	第42回	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習 部位別身体診察手技と所見の演習・実習	フィジカルアセスメント	神田
6月28日 (金)	③	3時限	臨床薬理学	第44回	演習	4.主要薬物の安全管理と処方の理論と演習	主要薬物の安全管理と処方の演習	星野剛史
	④	4時限	臨床推論	第39回	演習	5.画像検査の理論と演習	画像検査の演習	大坂
	⑤	5時限	臨床推論	第44回	演習	6.臨床疫学の理論と演習	臨床疫学の演習	大坂
	⑥	6時限	臨床推論		実習	超音波装置の取扱手技など		大坂
	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第15回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割弁済のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	②チーム医療の事例検討 ・チームとしての最大を發揮する 演習	特定看護師
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第18回	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割弁済のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(1)	特定看護師
7月12日 (金)	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第19回	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割弁済のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(2)	特定看護師
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第20回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割弁済のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(1)	特定看護師
	⑤	5時限	医療安全学／特定行為実践	第21回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割弁済のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(2)	特定看護師
	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第24回	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・演習	杉山希
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第25回	実習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・実習	杉山希
7月19日 (金)	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第26回	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・演習(実習の振り返り)	杉山希
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第30回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(1) 作成	特定看護師
	⑤	5時限	医療安全学／特定行為実践	第31回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(2) 評価	特定看護師
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第32回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(3) 改良	特定看護師
	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第36回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ ・特定行為実践課程の演習(1)	特定看護師
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第37回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ ・特定行為実践課程の演習(2)	多田
7月26日 (金)	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第39回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	③特定行為実践のアウトカム ・演習(1)	特定看護師
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第40回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	③特定行為実践のアウトカム ・演習(2)	特定看護師
	⑤	5時限	フィジカルアセスメント	第44回	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	腹部、胸部のアセスメント	夫林神田
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第28回	演習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	②手順書の作成演習 ベーバーシミュレーションによる演習	神田
	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第41回	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習(1)	特定看護師
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第42回	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習(2)	特定看護師
9月4日 (水)	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第43回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習の振り返り(1)	教育課
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第44回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習の振り返り(2)	教育課
	①	1時限	臨床病態生理学	第30回	筆記試験	5.科目修了試験		
	②	2時限	臨床推論	第45回	筆記試験	7.科目修了試験		
9月9日 (月)	③	3時限	フィジカルアセスメント	第45回	筆記試験	6.科目修了試験		
	④	4時限	臨床薬理学	第45回	筆記試験	5.科目修了試験		
	⑤	5時限	疾病・臨床病態概論	第30回 第40回	筆記試験	科目修了試験		
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第45回	筆記試験	科目修了試験		

<区分別科目>

研修日	時限	科目	パッケージ	学習内容	学習内容(細)	2024 担当指導者
9月25日 (水)	1~6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔 救急 集中	呼吸器(気道確保に係るもの)関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔 救急 集中 区分別	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	循環器関連	集中	循環器関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	ろう孔管理関連	区分別	ろう孔管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈 カテーテル管理)関連 CVC	集中	中心静脈カテーテル管理 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置 型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 PICC	区分別	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	創傷管理関連	区分別	創傷管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	創部ドレーン管理関連	区分別	創部ドレーン管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔 救急 集中	動脈血液ガス分析関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	麻酔 救急 集中 区分別	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	感染に係る薬剤投与関連	区分別	感染に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	血糖コントロールに係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	術後疼痛管理関連	麻酔	術後疼痛管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	循環動態に係る薬剤投与関連	麻酔 救急	循環動態に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1~6時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急 区分別	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
10月1日 (火)	1時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 区分別	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(1)	岩神直子
	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 区分別	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(2)	岩神直子
	3時限					
	4時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (1) (ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	5時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (2) (ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	6時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (3) (ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
10月2日 (水)	2時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 <術中麻酔パッケージVer>	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習)<術中麻酔パッケージVer>	麻酔科
	3時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔	(A) 直接動脈穿刺法による採血 <術中麻酔パッケージVer>	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	麻酔科
	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	麻酔	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	麻酔科
	5時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔 集中	(B) 横骨動脈ラインの確保 <術中麻酔パッケージVer>	横骨動脈ラインの確保 (OSCE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	麻酔科
	6時限	循環器関連	集中	(A) 一時のペースメーカーの操作及び管理	一時のペースメーカーの操作及び管理方法(ペーパーシミュレーション)	設楽
	7時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈 カテーテル管理)関連 CVC	集中	(A) 中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の実施	梶本
10月3日 (木)	1時限	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置 型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 PICC	区分別	(A) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 (OSCE前演習)	加藤
10月4日 (金)	6時限	ろう孔管理関連	区分別	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 (OSCE前演習)	上田
	7時限	ろう孔管理関連	区分別	(B) 膀胱ろうカテーテルの交換	膀胱ろうカテーテルの交換 (OSCE前演習)	長屋
10月7日 (月)	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	
	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	(D) 人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベイシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	(D) 人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベイシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	
	6時限	術後疼痛管理関連	麻酔	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	ペーパーシミュレーション(硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整)	
10月9日 (水)	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	谷津
	5時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	谷津
	6時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	設樂

研修日	時限	科目	パッケージ	学習内容	学習内容(細)	2024担当指導者
10月10日 (木)	3時限	創傷管理関連	区分别	(A)褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壞死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壞死組織の除去(OSCE前演習)	苅部
	4時限	動脈血液ガス分析関連	救急区分別	(A)直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE前演習)	大坂
	5時限	動脈血液ガス分析関連	救急区分別	(B)橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE前演習)	大坂
	6時限	創傷管理関連	区分别	(B)創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の実施	苅部
10月16日 (水)	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(C)人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベイシエント)(1)	麻酔科
	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(C)人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベイシエント)(2)	麻酔科
	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(1)	大坂
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベイシエント)(2)	大坂
	6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	救急集中	(A)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習)	大坂
10月17日 (木)	1時限	感染に係る薬剤投与関連	区分别	(A)感染徵候がある者に対する薬剤の臨時の投与	病態に応じた感染徵候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):CDI	水口
	2時限	感染に係る薬剤投与関連	区分别	(A)感染徵候がある者に対する薬剤の臨時の投与	病態に応じた感染徵候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):MRSA	水口
	3時限	感染に係る薬剤投与関連	区分别	(A)感染徵候がある者に対する薬剤の臨時の投与	病態に応じた感染徵候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):肺炎	岩神真
	4時限	感染に係る薬剤投与関連	区分别	(A)感染徵候がある者に対する薬剤の臨時の投与	病態に応じた感染徵候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):尿路感染症	若林
	5時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	区分别	(B)抗精神病薬の臨時の投与	病態に応じた抗精神病病薬の投与とその判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	桐野
	6時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	区分别	(C)抗不安薬の臨時の投与	病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	桐野
10月23日 (水)	1時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急区分別	(A)抗けいれん剤の臨時の投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(1)	中尾
	2時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急区分別	(A)抗けいれん剤の臨時の投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(2)	中尾
	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(D)人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベイシエント)(1)	大坂
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急集中区分別	(D)人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベイシエント)(2)	大坂
10月31日 (木)	1時限	創部ドレーン管理関連	区分别	(A)創部ドレーンの抜去	創部ドレーンの抜去(実習前の演習)	伊藤
	2時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	区分别	(A)持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	<選択式>高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	伊藤
	3時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	麻酔救急集中	(B)脱水症状に対する輸液による補正	<選択式>脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	伊藤
10月22日 (火)	1時限	創傷管理関連	区分别	(A)褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壞死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壞死組織の除去(OSCE)	苅部
11月6日 (水)	4時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔救急集中	(A)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE)	麻酔科 大坂 吉田(外部)
	5時限	ろう孔管理関連	区分别	(A)胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換(OSCE)	小泉 吉田(外部)
	6時限	ろう孔管理関連		(B)膀胱ろうカテーテルの交換	膀胱ろうカテーテルの交換(OSCE)	長屋 吉田(外部)
	7時限	ろう孔管理関連				
11月7日 (木)	1時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔	(A)直接動脈穿刺法による採血 <術中麻酔/パッケージVer>	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE) <術中麻酔/パッケージVer>	麻酔科 神谷(外部)
	2時限		麻酔集中	(B)橈骨動脈ラインの確保 <術中麻酔/パッケージVer>	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE) <術中麻酔/パッケージVer>	
	3時限	動脈血液ガス分析関連	救急区分別	(A)直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE)	大坂 神谷(外部)
	4時限		救急区分別	(B)橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE)	
	5~6 時限	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 PICC	区分别	(A)末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 (OSCE)	伊藤 神谷

実習期間：2024年12月1日～2025年2月28日

■広報活動

SNS、ホームページの更新

<2025年度看護師特定行為研修説明会（ハイブリッド開催）>

看護部長 堀込、教育課 宮澤、診療看護師 多田、特定看護師 渡邊朋、事務局

2024年10月11日（金）17:00～18:00（第2会議室）

■次年度受講生募集活動（2025年度受講生）

願書受付期間：2024年10月15日（火）～2024年10月31日（木）

二次募集期間：2024年11月5日（火）～2024年11月22日（金）

筆記試験・面接：2024年12月3日（火）

■その他の活動

<～生配信シンポジウム～指定研修機関に秘訣を聞く！「修了者の活躍はこう実現する！」>

(Web開催)

聴講：特定看護師、事務局

第1回 2024年7月11日（木）17:00～18:15

第2回 2024年7月20日（土）14:00～15:15

主催：学研メディカルサポート

<看護師特定行為研修指定研修機関における修了者養成から活用までを考えよう！> (Web開催)

聴講：特定看護師 渡邊、内田、診療看護師 多田、事務局

2024年9月18日（水）13:30～15:00

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会

<看護師特定行為研修指定研修機関における修了者養成から活用までを考えよう！> 第2弾 (Web開催)

聴講：特定看護師 内田、小島、診療看護師 多田、事務局

2024年11月15日（金）13:30～15:30

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会

<特定行為研修指導者講習会>

受講：特定看護師 杉山

2025年1月13日（月）12:30～16:50

主催：東海大学看護師キャリア支援センター

<看護師特定行為研修修了者を対象としたスキルアップ研修> (Web開催)

第I部：スキルアップ研修 最前線シリーズ

第II部：情報交換会「特定行為の実践における学びを共有しよう！」

聴講：診療看護師 多田、事務局

2025年2月21日（金）15:10～17:40

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会 事務局

3-19 地域医療連携室

地域別紹介患者数

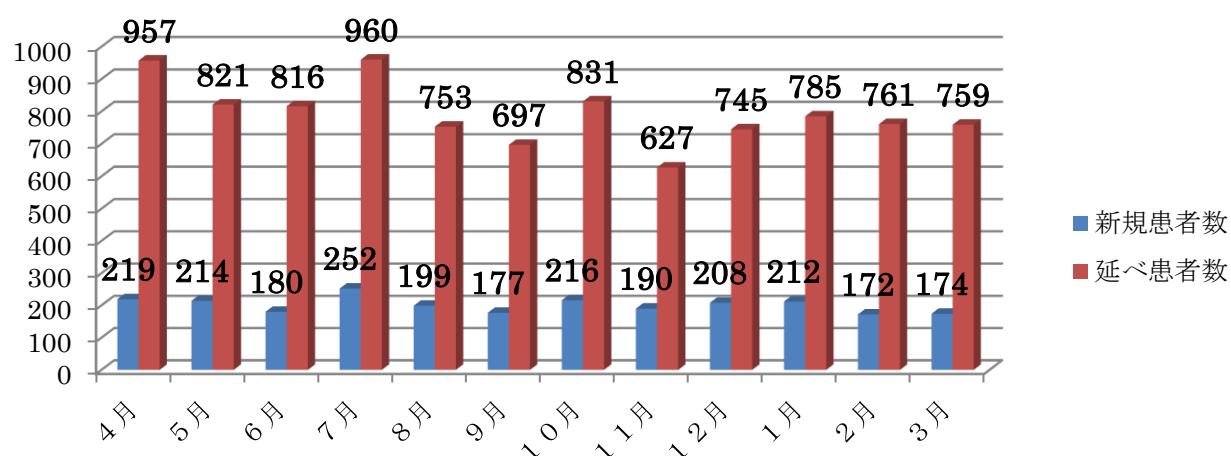
2次保健医療圏	市町村	2022年度	2023年度	2024年度
静岡県	賀茂	下田市	868	888
		賀茂郡東伊豆町	240	267
		賀茂郡河津町	433	475
		賀茂郡南伊豆町	52	47
		賀茂郡松崎町	24	27
		賀茂郡西伊豆町	477	574
		小計	2,094	2,278
	熱海伊東	熱海市	566	582
		伊東市	2,186	2,232
		小計	2,752	2,814
	駿東田方	沼津市	2,554	2,785
		三島市	3,030	3,384
		御殿場市	1,202	1,155
		裾野市	741	801
		伊豆市	1,972	2,169
		伊豆の国市	3,047	3,116
		田方郡函南町	1,869	2,086
		駿東郡清水町	874	929
		駿東郡長泉町	860	855
		駿東郡小山町	48	59
		小計	16,197	17,339
富士	富士宮市	122	125	
	富士市	479	529	
	小計	601	654	
その他		362	330	
県内合計		22,006	23,415	
県外		823	892	
総計		22,829	24,307	26,059

3-20 医療福祉相談室 (社会福祉士)

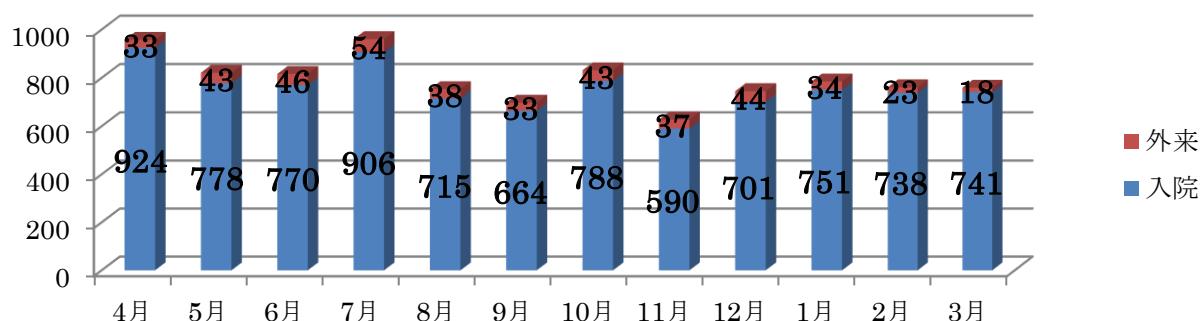
社会福祉士（ソーシャルワーカー）8名にて、入院・外来患者家族・地域の各種機関からの相談や調整業務を行っている。入退院支援において退院支援看護師と社会福祉士が協働し病棟別に対応している。主な業務は、転院・退院支援（地域連携パス含む）・外来相談、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的な問題についての相談・助言、治療と仕事の両立支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別に支援を行っている。

2024 年度業務実績

月別個別援助件数



外来・入院別支援件数



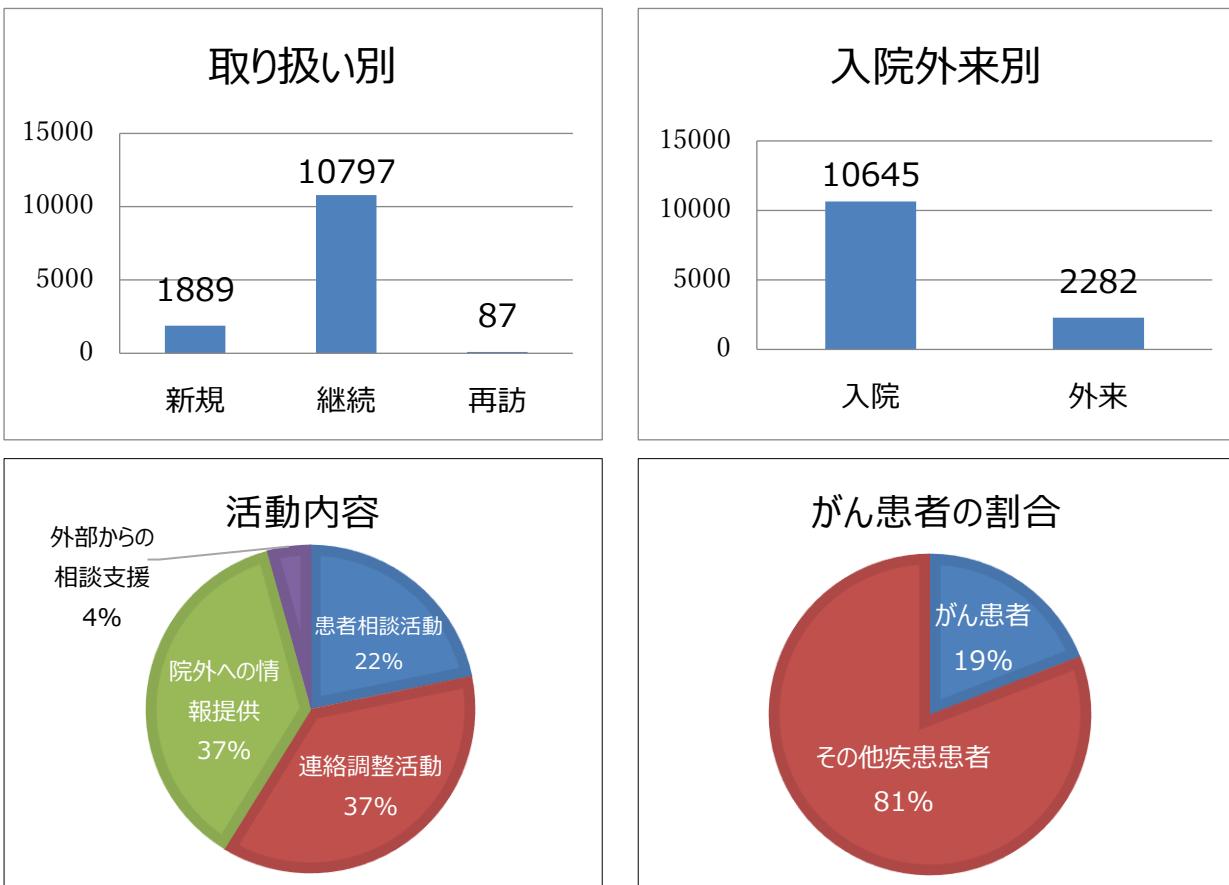
相談内容内訳



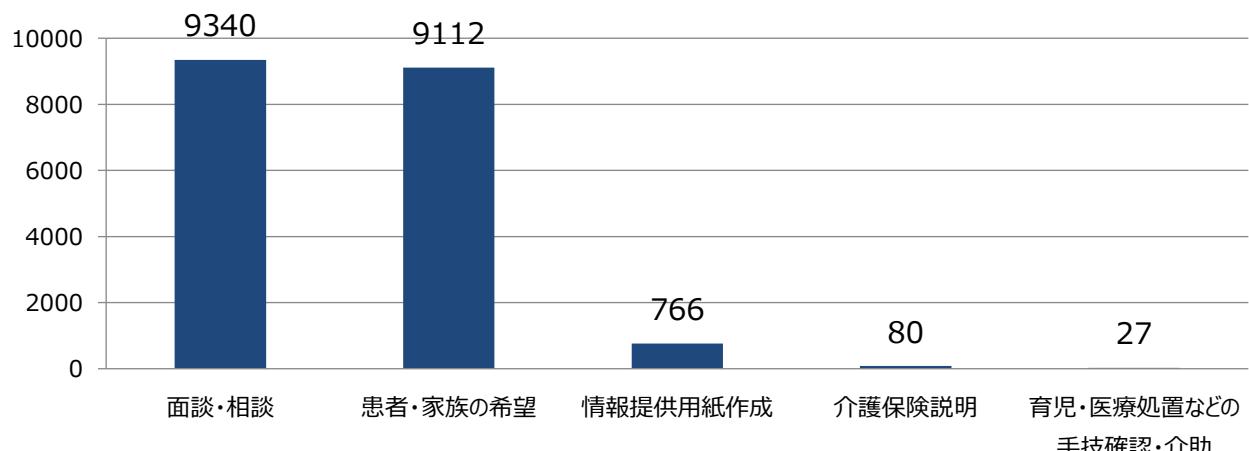
3-21 入退院支援室（入退院支援看護師）

2024年度は1名欠員の補填があり、入退院支援看護師7名（専従1名、専任6名）での活動となつた。まず、地域とのシームレスな連携を図るため、コロナ禍から強化してきたZoomを活用した入院時・退院前カンファレンスは、2023年度1074件から、2024年度は1222件と多くの職種とのカンファレンスが実現できた。次に、2024年6月病院機能評価を受審した際に、サーバイヤーより「入院予定患者への入院前支援件数が当院規模の病院で年間756件は少ない」との指摘があり、システムの再構築の機会を得た。そのため、入院前支援の機能強化は喫緊の課題と捉え、練馬病院の入院前支援システムを見学し、相違点や課題を抽出したこと、現在入院前支援専任看護師の配置や面談室の確保など、外来を中心システムの再構築に取り組んでいる。次に、2024年1月の平均在院日数が12.2日と延長したこと、平均在院日数の短縮に向けた取り組みを積極的に行つた。平均在院日数はDPC機能評価係数に大きく左右することから在院日数の短縮は大きな課題となり、2024年4月から退院ステージⅢ超・2SD超、そして30日以上の長期入院患者の抽出を毎週行い、担当医・師長・入退院支援専任者を中心に、患者・家族の意向を確認しつつ治療方針や退院の方向性、進捗状況を可視化した。この結果を各部署と各診療科にフィードバックすることで、12月には過去最も短い10.2日と短縮することができた。また、年度毎の平均在院日数は2023年度が11.2日、2024年度は11.0日と短縮したことから、『見える化』したことで一定の成果が得られたと考え今後も継続していく方向性である。

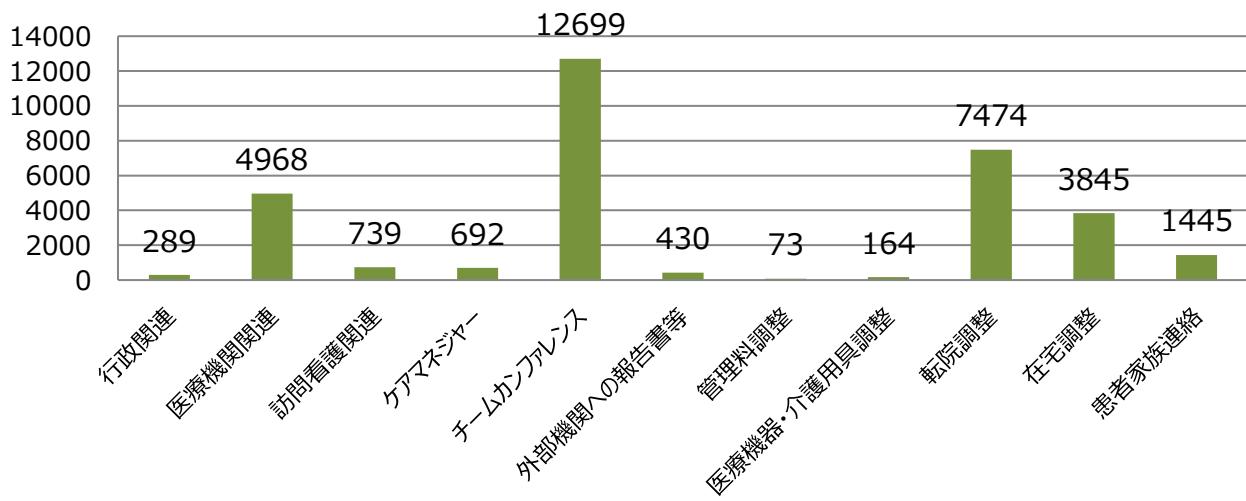
業務実績



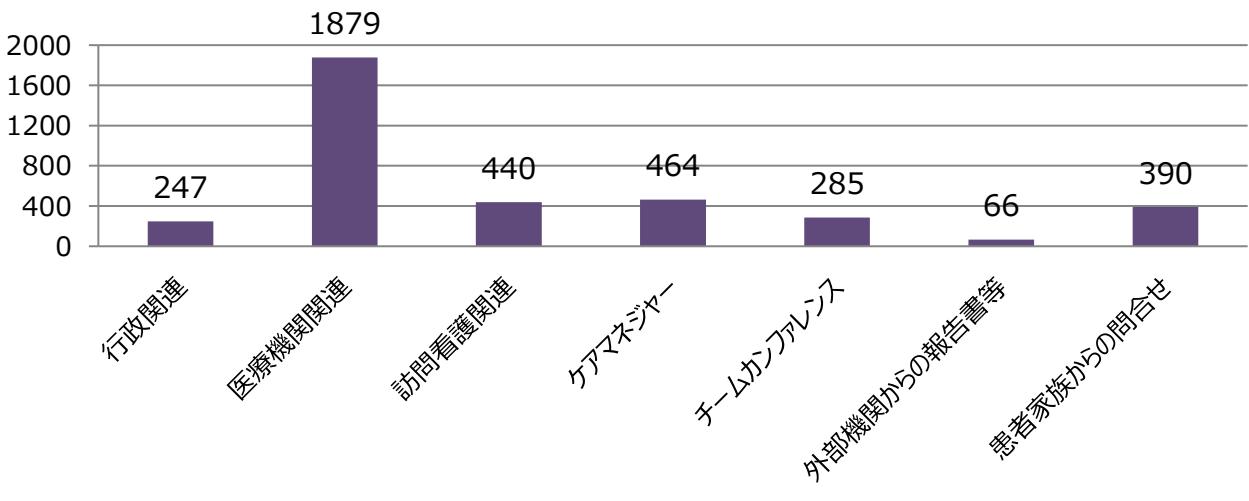
患者相談活動



院外への情報提供

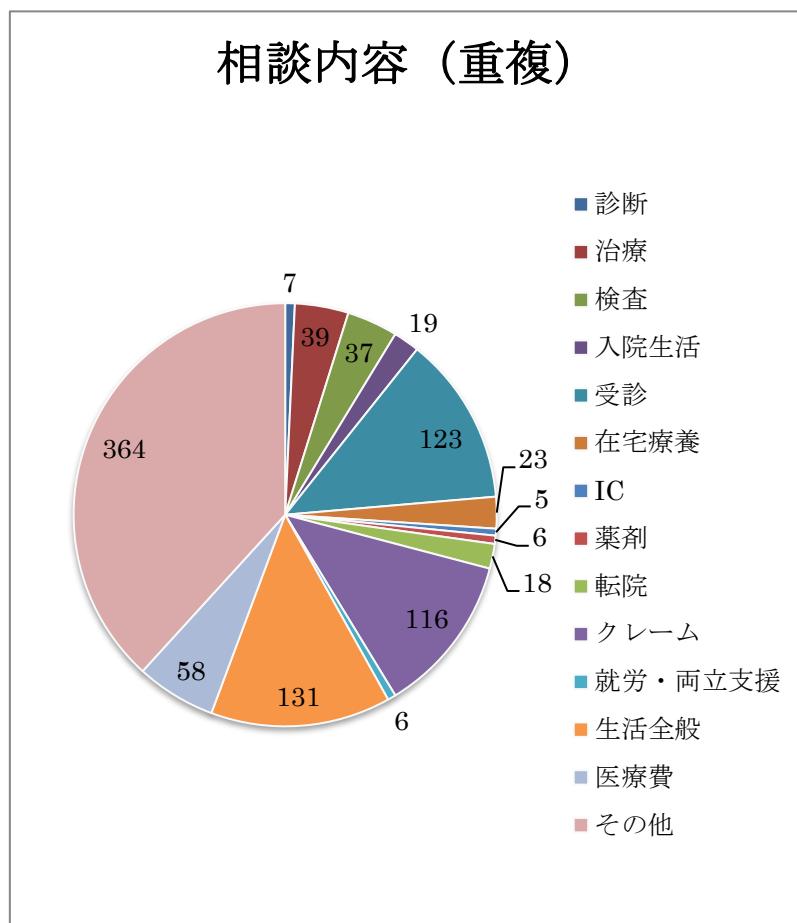


外部からの相談支援

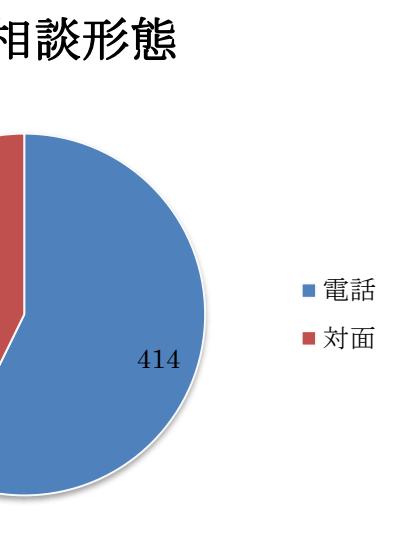


3-22 患者・看護相談室

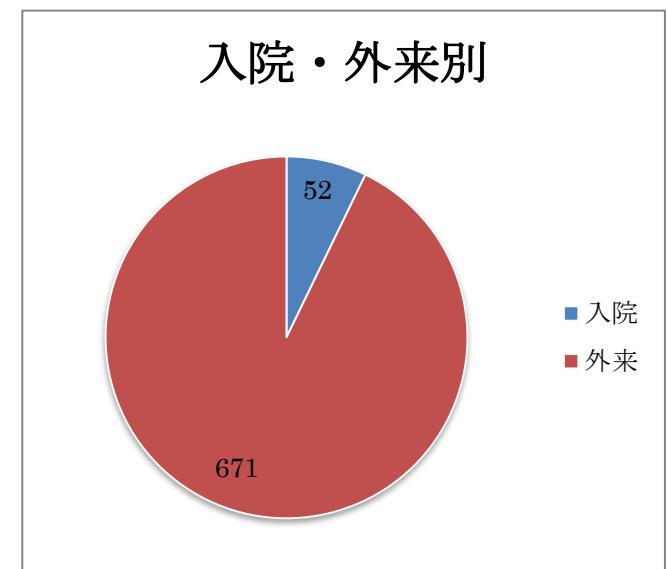
業務実績



相談形態

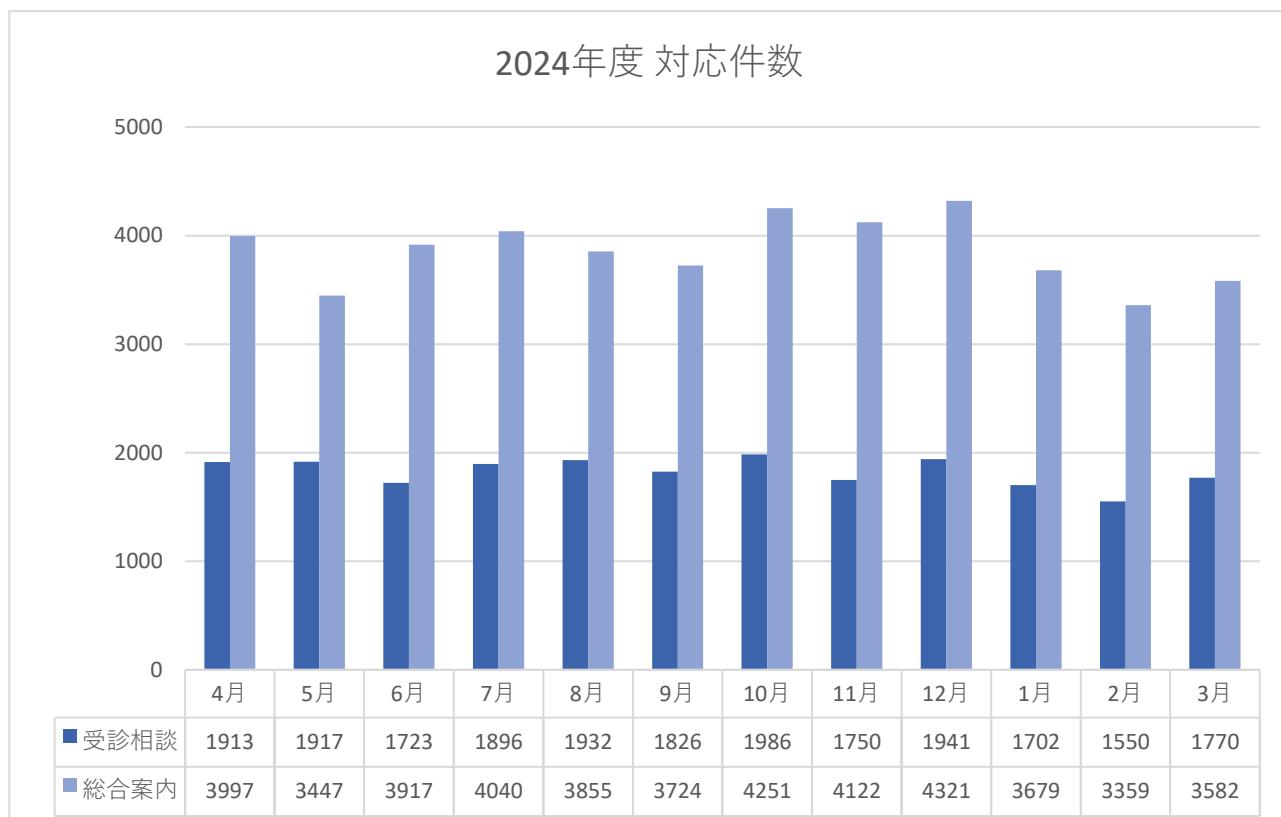


入院・外来別



3-23 受診相談・総合案内

業務実績



内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受 診 相 談	受診相談	229	206	204	268	263	232	240	254	209	257	198	204
	電話相談	135	122	129	169	144	130	139	137	159	154	105	146
	院内案内	387	478	408	446	445	403	417	427	488	356	355	434
	面会者対応	167	144	167	144	166	153	176	156	174	173	148	149
	受付	301	290	288	296	287	285	330	255	250	266	242	282
	その他の相談等	694	677	527	573	627	623	614	521	661	496	502	555
総 合 案 内	院内案内	1,773	1,848	2,141	2,240	2,148	2,041	2,382	2,324	2,512	1,890	1,676	1,927
	面会者対応	475	470	433	460	463	386	474	436	498	502	423	447
	受付	1,735	1,121	1,330	1,329	1,234	1,289	1,385	1,345	1,305	1,270	1,250	1,201
	その他の相談等	14	8	13	11	10	8	10	17	6	17	10	7

3-24 医療安全管理室

主な活動と実績

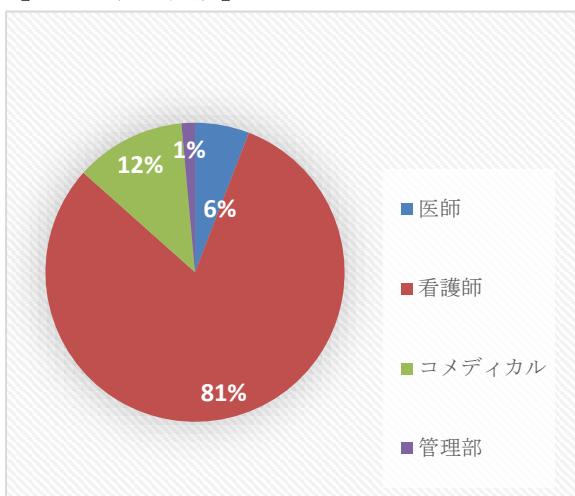
医療安全管理室では、安全で質の高い医療を提供するため医師2名、看護師2名、臨床工学技士1名、薬剤師1名、事務員2名を配置し、①医療の安全を確保するための改善方策に関すること②医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施③医療事故発生時の対応に関すること④医療安全・危機管理委員会の円滑な運営に関すること⑤医療安全管理に関する院内の連絡調整⑥医療安全に係るカンファレンスを週1回程度開催⑦その他医療安全管理に関する業務に取り組んでいる。

この他、医療安全危機管理委員会を毎月、医療安全研修会を3回開催した。委員会はWEB および集合方式、研修会はDVD 視聴による開催とした。医療安全に関する院内広報紙（リスクマネージメントレター）を毎月発行し、医療場面での注意喚起を行った。苦情・クレーム対応では、公平中立な立場で対応市、適正な接遇への指導および信頼回復に努めた。

2024年度 インシデント・アクシデントレポート報告

部門	薬剤	輸血	治療・処置	医療機器等	ドレーン・チューブ	検査	療養上の世話	転倒・転落	個人情報関連	その他	合計	部門別率
医師	25	1	62	6	11	29	3	2	9	21	169	5.9%
看護師	605	10	49	72	407	154	421	515	49	48	2330	80.7%
コメディカル	170	2	30	5	13	86	12	17	7	3	345	12.0%
管理部	1	0	1	0	0	7	16	3	12	2	42	1.5%
合計	801	13	142	83	431	276	452	537	77	74	2886	
項目別率	27.8%	0.5%	4.9%	2.9%	14.9%	9.6%	15.7%	18.6%	2.7%	2.6%		

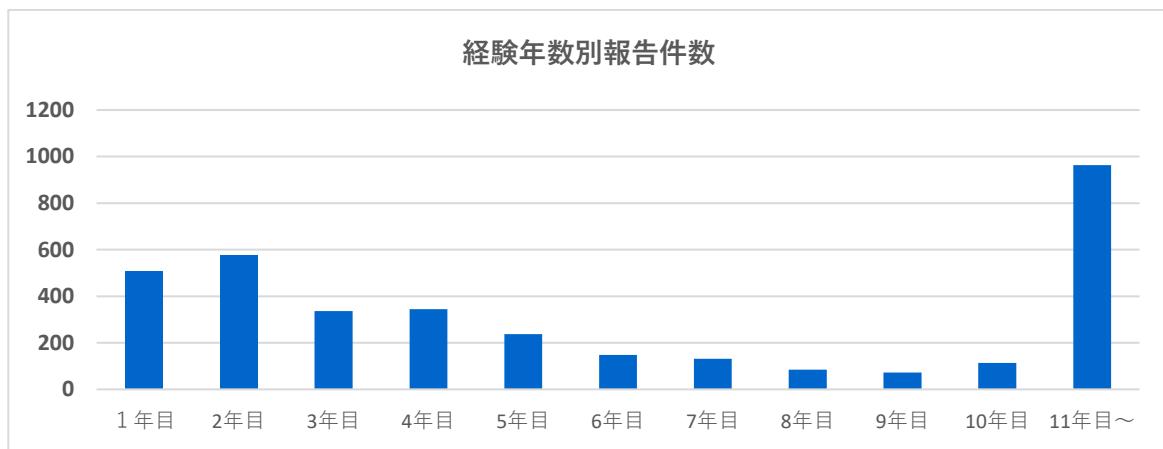
【職種別報告件数】



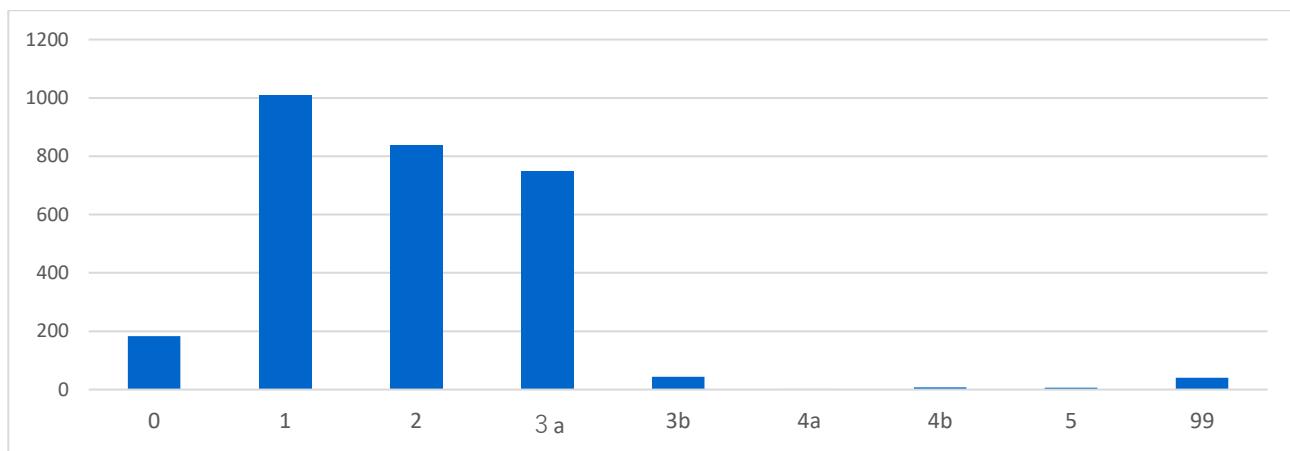
【内容分類別報告件数】



【経験年数別報告件数】



【事象レベル別報告件数】



【2024年度 医療安全対策研修会】

No	研修テーマ	対象	開催日	主催（講演）
1	「採血時の注意点」	全職員	8月6日	NEC・情報管理室
2	「情報セキュリティ研修」	全職員	8月6日	検査室
3	「抗がん剤投与時の血管外漏出と対策」	全職員	10月23日	がん治療センター他

2024年度 医療安全研修会

全体受講率：92.4%

医師：78.6%、コメディカル：87.9%、看護部：100%、事務部：85.7%、委託業者：86.7%、独立部署（その他）：95.2%

3-25 感染対策室

感染対策室では以下のような活動を行っている。

1. 患者に対して安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
 - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
 - 手指衛生モニタリングを行い定期的に結果を職員と共有、アルコールゲルの使用状況も確認し、各部署に指導を行う。
 - 耐性菌の発生率を減少させるために、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用に際して適正な使用状況にあるか、週 1 回程度のラウンドを行う。
 - 年間計画に沿って院内のいずれかの部署の環境ラウンドを週 1 回程度行い、病原微生物が繁殖する温床がないかチェックを行う。ハイリスク病棟は 1 回/週、他の病棟も 1 回/月、病棟以外のハイリスク部署は 1 回/2 ヶ月の頻度で行う。
 - 細菌検査室が耐性菌を中心とした報告書を週 1 回感染対策室に提出し、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。もし、アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
2. 職員を感染曝露から防ぐための活動。
 - 安全衛生管理室と連携して針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
 - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
3. 院内感染対策の広報活動。
 - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な研修会（e-ラーニング）を開催している。
 - 「新型コロナウイルス」「VRE」に関する対策等は院内通達を通じ適時更新している。
4. 近隣病院・施設との連携。
 - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンス及び訪問指導を通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
 - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。

業務実績

月	日 (曜日)	
4 月	1 日 (月)	新入職員オリエンテーション
	2 日 (火)	新任研修医オリエンテーション
	19 日 (金)	感染対策委員会
5 月	2 日 (木)	研修医イブニングレクチャー
	17 日 (金)	感染対策委員会
	27 日 (月)	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
	28 日 (火)	J-ICT

6月	21日（金）	感染対策委員会 感染対策向上加算合同カンファレンス
7月	19日（金）	感染対策委員会
8月	10日（土）	私立医科大学病院感染対策協議会総会
	23日（金）	感染対策委員会
	26日（月）	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
9月	1日（月）	感染対策向上加算相互ラウンド（三島中央病院）
	4日（水）	東部地区 VRE 対策会議①
	13日（金）	院内感染対策研修会（VRE 対策のこれまでとこれから）
	27日（金）	感染対策委員会 感染対策向上加算合同カンファレンス
10月	22日（火）	感染対策向上加算相互ラウンド（伊東市民病院）
	25日（金）	感染対策委員会
11月	5日（火）	静岡県看護協会感染管理認定看護師教育課程実習受入れ（12月6日）
	12日（火）	私立医科大学病院感染対策協議会相互ラウンド (埼玉医科大学総合医療センター)
	13日（火）	福祉施設リーダー育成研修研修（さつき園）
	22日（金）	感染対策委員会
	25日（月）	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
	26日（月）	福祉施設訪問指導（富岳一ノ瀬荘）
12月	13日（金）	がん患者サロン
	20日（金）	感染対策委員会
		感染対策向上加算合同カンファレンス
1月	24日（火）	感染対策委員会
2月	6日（火）	東部地区合同カンファレンス（静岡がんセンター）
	12日（水）	東部地区 VRE 対策会議（ICN）
	28日（金）	感染対策委員会
		感染対策向上加算合同カンファレンス
3月	10日（月）	東部地区 VRE 対策会議②
	21日（金）	感染対策委員会 感染防止対策加算合同カンファレンス
		感染対策研修会・抗菌薬研修会をDVD等で実施
年間		

次年度目標（2024年度の総括と次年度の目標）

1. 2024年度の総括

- VREについては国立感染症研究所の調査支援後、対策を強化しているが、アウトブレイク終息の見込みが立たずVRE病棟の稼動を開始した。約1年間の稼動で解消した。
- MRSAアウトブレイクは2部署で発生を認め対応した。

- COVID-19 感染症の各部署で発生したクラスターに対応した。
- 抗菌薬ラウンド及び抗菌薬適正使用支援チームの活動を通し、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用適正化を進めた。
- 手指衛生の向上は重点課題として取り組み、アルコール使用量は 37.2 回/患者/日であり、年々使用量は増加している。
- 環境衛生については ICT ラウンドの実施、看護部リンクナースと協働し衛生的な病院環境の提供に努め、再ラウンド時に改善を確認している。特に点滴に関する環境と共有物品除染が継続して課題となっている。
- CLA·BSI/CA·UTI サーバランスでは、ほとんどの部署で感染率が横ばい状態。

2. 2025 年度の目標

- VRE の新規発生を「ゼロ」にする。
- 手指衛生、環境衛生、物品管理を重点対策の 3 本柱とし取り組む。
- 安全な処置やケアの提供に向けて、より細かな場面での指導に注力する。
- CLA·BSI/CA·UTI 感染率は昨年度データを下回る。
- アウトブレイクマニュアルを活用し、各部署が耐性菌等の対策遵守を自主的に実施できるよう活動を促し、実践能力の向上を目指すための支援を行う。
- 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。

3-26 健康安全推進センター

2024年度 健康安全推進センター行事

年 月	日	曜 日	行 事
2024 年 4 月	1 22~24 24	月 月～水 水	新入職員オリエンテーション B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会
5 月	20~ 20~22 22 中旬～下旬	月～ 月～水 水 月～金	胃検診(胃内視鏡検査) B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 新入職員面談
6 月	3~28 上旬 1~30 26	月～金 月～金 月～土 水	春季健康診断、ストレスチェック 新入職員面談 胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
7 月	~19 24	～金 水	胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
8 月	28	水	安全衛生委員会
9 月	25	水	安全衛生委員会
10 月	21~23 23 25 28~	月～水 水 金 月～	B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 校医会・法人安全衛生委員会 インフルエンザ予防接種
11 月	~5 27	～火 水	インフルエンザ予防接種 安全衛生委員会
12 月	9~13 25	月～金 水	秋季健康診断 安全衛生委員会
2025 年 1 月	22	水	安全衛生委員会
2 月	3~5 28	月～水 水	流行性ウイルス性疾患(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)ワクチン接種 安全衛生委員会
3 月	10~12 11 26	月～水 火 水	流行性ウイルス性疾患(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)ワクチン接種 全地区合同健康安全推進センター担当者協議会 安全衛生委員会

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便<毎月第2火曜日>

※6月～9月は、第2・4火曜日（月2回）実施

託児所業務従事者検便<毎月第2火曜日>

【随時】 履い入れ時健康診断

業務実績

定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	2024年6月3日～6月28日			2024年12月9日～12月13日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)、内科診察					
受 診 率	全 体	1,517/1,517	(100.0%)	全 体	966/966	(100.0%)
	医 師	281/281	(100.0%)	医 師	214/214	(100.0%)
	コメディカル	228/228	(100.0%)	コメディカル	80/80	(100.0%)
	看護部	887/887	(100.0%)	看護部	663/663	(100.0%)
	事務部	121/121	(100.0%)	事務部	9/9	(100.0%)

4. 統計

4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病床数	630	628	628	628	631	631	631	631	631	631	633	633	630.5
病床利用率	94.5%	89.4%	95.7%	97.0%	96.6%	93.4%	94.0%	95.6%	95.1%	95.9%	97.4%	96.3%	95.0%

4-2 在院日数

(単位:日)

診療科\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科	12.5	11.0	9.4	14.2	14.4	15.5	14.3	11.6	13.4	14.1	11.9	15.4	13.1
血液内科	18.9	21.1	18.9	21.8	15.5	22.4	21.4	18.3	17.5	23.0	18.3	20.1	19.8
消化器内科	9.0	11.8	10.8	12.6	10.7	11.4	11.4	9.6	10.3	12.8	10.1	9.5	10.8
呼吸器内科	15.7	15.7	14.8	14.4	13.6	12.1	15.2	16.0	16.0	18.9	17.4	15.7	15.5
腎臓内科	17.7	15.1	15.3	13.0	15.7	14.3	13.6	12.5	10.9	15.2	13.2	13.8	14.2
糖尿病・内分泌内科	10.4	9.5	9.3	8.2	10.1	11.1	9.5	13.9	8.8	10.8	17.5	12.8	11.0
循環器内科	8.5	9.0	7.8	7.6	7.8	7.9	7.9	7.1	7.9	8.4	8.2	8.2	8.0
小児科	6.1	7.3	5.4	5.1	4.1	5.3	5.2	5.7	6.2	5.2	5.5	6.9	5.7
小児外科	5.6	4.5	4.9	6.1	4.7	3.9	3.5	4.3	4.1	3.3	2.7	3.2	4.2
新生児科	34.5	27.1	22.5	29.8	29.9	25.9	27.5	22.3	23.6	23.3	23.5	31.7	26.8
外科	11.5	10.8	11.9	11.4	13.0	12.2	10.5	12.0	10.0	11.7	11.5	11.8	11.5
脳神経外科	20.3	17.9	18.1	17.4	17.6	16.6	16.8	15.5	16.4	18.5	16.5	19.8	17.6
整形外科	15.2	14.8	17.2	16.7	16.0	17.5	15.0	17.0	15.6	17.7	17.5	15.0	16.3
脳神経内科	19.1	19.1	23.5	21.6	28.6	21.9	16.9	25.3	15.5	18.6	21.3	20.3	21.0
心臓血管外科	14.1	18.4	14.2	14.3	16.6	16.3	12.5	14.3	11.8	12.2	14.2	16.9	14.7
呼吸器外科	10.3	10.1	8.9	9.7	10.7	10.9	9.3	10.1	9.9	11.0	10.1	9.3	10.0
形成外科	11.7	28.4	23.7	20.6	19.0	23.1	17.0	16.0	16.0	17.4	19.7	17.4	19.2
眼科	4.4	4.5	4.2	4.9	6.2	5.2	5.2	5.4	5.3	5.0	4.5	4.7	5.0
耳鼻咽喉科	9.3	9.8	8.0	7.9	10.5	10.6	9.6	9.2	8.2	8.6	6.8	9.1	9.0
麻酔科・ペインクリニック	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタルクリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚・アレルギー科	6.2	5.3	7.3	6.3	6.2	7.9	6.4	6.7	5.1	9.6	6.2	7.9	6.8
泌尿器科	9.5	7.7	8.0	7.7	7.8	8.4	7.4	7.9	7.9	9.6	8.3	9.0	8.3
産婦人科	6.6	7.8	7.9	6.4	6.7	6.7	6.4	7.3	6.3	7.0	6.1	7.2	6.9
救急診療科	11.4	10.7	9.4	8.7	8.3	9.5	8.3	7.5	10.4	13.9	9.4	12.4	10.0
歯科口腔外科	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	3.6	5.0	7.1	4.0	3.3	3.0	2.4	2.6
合計	9.9	10.3	9.7	9.9	10.2	10.4	9.5	9.7	9.0	10.3	9.8	10.4	9.9

4-3 診療科別延患者数 (外来)

(単位:人)

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ	1,549	1,486	1,482	1,638	1,553	1,456	1,668	1,557	1,547	1,520	1,427	1,578	1,538	18,461	17,620	104.8%	
血液内科	1,472	1,431	1,482	1,556	1,564	1,481	1,592	1,591	1,570	1,535	1,415	1,635	1,527	18,324	17,866	102.6%	
消化器内科	2,082	2,012	2,022	2,271	2,114	2,140	2,350	2,234	2,134	2,099	2,031	2,179	2,139	25,668	24,289	105.7%	
呼吸器内科	1,823	1,817	1,725	1,948	1,773	1,882	1,972	1,895	1,984	1,971	1,671	2,098	1,880	22,559	21,453	105.2%	
腎臓内科	1,060	1,145	1,039	1,188	1,181	1,110	1,185	1,130	1,163	1,142	1,052	1,119	1,126	13,514	13,098	103.2%	
糖尿病・内分泌内科	2,646	2,539	2,470	2,556	2,515	2,419	2,629	2,492	2,618	2,427	2,320	2,435	2,506	30,066	29,512	101.9%	
循環器科	4,419	4,141	4,267	4,404	4,187	4,324	4,544	4,238	4,545	4,143	3,984	4,360	4,296	51,556	50,225	102.7%	
小児科	1,317	1,394	1,433	1,568	1,674	1,412	1,515	1,411	1,565	1,435	1,300	1,504	1,461	17,528	17,201	101.9%	
小児外科	108	82	109	129	115	112	125	117	117	101	84	113	109	1,312	1,247	105.2%	
新生児科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	
外科	2,106	2,064	2,077	2,161	2,021	1,977	2,443	2,238	2,175	2,066	1,919	2,009	2,105	25,256	27,664	91.3%	
脳神経外科	1,996	1,899	1,942	1,990	1,908	1,890	2,061	1,892	1,915	1,872	1,800	1,990	1,930	23,155	23,664	97.8%	
整形外科	2,786	2,844	2,677	2,902	2,689	2,773	2,733	2,613	2,779	2,644	2,554	2,864	2,738	32,858	33,892	96.9%	
脳神経内科	2,215	2,127	2,084	2,232	2,102	2,113	2,153	2,094	2,165	2,127	1,920	2,084	2,118	25,416	26,012	97.7%	
心臓血管外科	393	313	346	347	328	359	420	365	351	361	293	354	353	4,230	4,088	103.5%	
呼吸器外科	305	263	303	286	243	311	291	274	304	284	225	299	282	3,388	3,145	107.7%	
形成外科	395	371	379	380	374	320	367	342	323	325	298	353	352	4,227	4,422	95.6%	
眼科	2,821	2,680	2,915	3,048	2,806	2,833	3,133	2,783	3,028	2,905	2,803	3,224	2,915	34,979	34,525	101.3%	
耳鼻咽喉科	1,402	1,344	1,350	1,485	1,533	1,354	1,505	1,329	1,378	1,307	1,273	1,549	1,401	16,809	16,012	105.0%	
麻酔科	122	158	130	162	136	126	154	152	143	141	121	132	140	1,677	1,589	105.5%	
放射線科	383	325	310	314	299	192	478	392	290	299	322	281	324	3,885	4,202	92.5%	
メンタルクリニック	2,351	2,239	2,204	2,505	2,304	2,316	2,493	2,400	2,389	2,325	2,219	2,390	2,345	28,135	28,511	98.7%	
皮膚・アレルギー科	3,037	2,926	2,905	3,136	2,970	2,894	3,105	2,936	2,917	2,755	2,669	2,960	2,934	35,210	33,627	104.7%	
泌尿器科	1,706	1,848	1,721	1,857	1,855	1,873	1,890	1,746	1,800	1,818	1,694	1,885	1,808	21,693	21,268	102.0%	
産婦人科	2,770	2,762	2,832	3,043	2,853	2,905	3,156	2,850	2,872	2,532	2,510	2,864	2,829	33,949	33,207	102.2%	
救急診療科	112	116	111	134	119	111	113	120	150	147	103	144	123	1,480	881	168.0%	
リハビリテーション科	64	78	59	85	84	88	83	100	92	68	70	85	80	956	606	157.8%	
歯科口腔外科	319	356	439	448	416	372	448	425	454	440	436	531	424	5,084	904	562%	
合計	41,759	40,760	40,813	43,773	41,716	41,143	44,606	41,716	42,768	40,790	38,513	43,020	41,781	501,377	490,730	102.2%	

4-4 診療科別延患者数（入院）

(単位:人)

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
膠原病内科 ・リウマチ科	319	316	299	311	354	385	425	342	388	323	251	351	339	4,064	4,204	96.7%	
血液内科	797	818	728	918	896	959	895	773	751	851	790	802	832	9,978	8,476	117.7%	
消化器内科	772	1,068	1,045	1,180	1,122	941	1,086	954	1,066	1,108	952	961	1,021	12,255	11,361	107.9%	
呼吸器内科	780	712	771	803	849	805	964	938	896	1,132	882	1,000	878	10,532	9,187	114.6%	
腎臓内科	448	515	471	463	519	489	484	478	457	503	517	548	491	5,892	5,135	114.7%	
糖尿病・内分泌内科	212	230	206	226	240	212	315	303	185	273	280	303	249	2,985	2,465	121.1%	
循環器科	1,741	1,842	1,780	1,842	1,663	1,519	1,557	1,654	2,059	1,966	1,671	1,817	1,759	21,111	22,442	94.1%	
小児科	463	487	356	407	322	332	379	326	395	374	332	390	380	4,563	4,402	103.7%	
小児外科	77	57	95	122	125	68	73	95	78	47	41	68	79	946	1,244	76.0%	
新生児科	849	885	826	814	941	741	815	831	750	739	796	868	821	9,855	10,211	96.5%	
外科	1,973	1,792	2,014	1,902	1,993	1,859	1,971	1,990	1,807	1,844	1,716	2,039	1,908	22,900	22,689	100.9%	
脳神経外科	2,116	1,629	1,788	1,852	1,984	1,610	1,689	1,826	1,819	1,970	1,885	2,064	1,853	22,232	23,422	94.9%	
整形外科	1,645	1,309	1,418	1,708	1,764	1,688	1,655	1,659	1,748	1,694	1,599	1,560	1,621	19,447	22,144	87.8%	
脳神経内科	652	646	771	788	832	720	702	670	709	845	705	802	737	8,842	9,179	96.3%	
心臓血管外科	553	521	527	608	486	468	499	498	493	446	477	479	505	6,055	4,822	125.6%	
呼吸器外科	181	178	160	177	206	177	150	155	166	162	139	139	166	1,990	2,277	87.4%	
形成外科	183	278	346	296	247	303	225	223	264	294	344	259	272	3,262	2,888	113.0%	
眼科	704	526	628	749	758	662	788	720	790	681	731	792	711	8,529	8,791	97.0%	
耳鼻咽喉科	384	373	407	463	484	519	408	378	405	334	320	403	407	4,878	4,120	118.4%	
麻酔科	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	6	66.7%	
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
メンタルクリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
皮膚・アレルギー科	251	218	269	263	260	267	273	293	206	239	171	245	246	2,955	3,116	94.8%	
泌尿器科	766	687	738	740	640	548	602	591	731	633	668	744	674	8,088	8,044	100.5%	
産婦人科	1,209	1,373	1,539	1,322	1,390	1,357	1,515	1,409	1,463	1,282	1,224	1,248	1,361	16,331	15,676	104.2%	
救急診療科	790	954	837	922	806	1,032	892	954	948	1,002	757	989	907	10,883	8,835	123.2%	
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
歯科口腔外科	-	-	-	-	-	14	21	24	28	23	17	8	17	-	152	-	-
合計	17,865	17,414	18,021	18,876	18,895	17,682	18,386	18,088	18,597	18,759	17,258	18,888	18,227	218,729	215,136	101.7%	

4-5 新患者数 (外来)

(単位:人)

月 診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年 度計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
膠原病内科 ・リウマチ科	48	45	39	64	49	45	33	46	31	47	26	40	43	513	532	96.4%
血 液 内 科	61	63	67	51	52	55	57	68	58	63	57	58	59	710	640	110.9%
消 化 器 内 科	81	88	87	107	102	85	96	118	95	106	96	100	97	1,161	1,093	106.2%
呼 吸 器 内 科	55	78	61	71	72	76	77	79	81	102	68	72	74	892	892	100.0%
腎 臓 内 科	31	42	25	41	61	53	37	38	41	53	39	45	42	506	387	130.7%
糖 尿 病 · 内 分 泌 内 科	47	41	45	42	43	33	45	47	63	39	35	42	44	522	509	102.6%
循 環 器 科	95	87	111	135	116	96	104	107	104	108	93	100	105	1,256	1,093	114.9%
小 児 科	95	150	137	158	118	113	100	110	121	134	83	96	118	1,415	1,392	101.7%
小 児 外 科	12	15	13	14	8	14	15	6	12	9	9	13	12	140	145	96.6%
新 生 児 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 科	72	63	63	72	72	66	107	83	86	77	66	71	75	898	1,067	84.2%
脳 神 経 外 科	78	77	89	85	87	63	80	102	90	79	73	67	81	970	1,002	96.8%
整 形 外 科	231	221	185	216	208	201	204	214	192	207	180	206	205	2,465	2,612	94.4%
脳 神 経 内 科	59	59	49	64	49	72	61	55	55	51	32	55	55	661	793	83.4%
心 臓 血 管 外 科	13	13	16	20	10	18	26	16	13	24	11	17	16	197	178	110.7%
呼 吸 器 外 科	6	2	4	5	5	9	3	4	6	6	6	3	5	59	57	103.5%
形 成 外 科	33	41	36	40	26	32	41	51	40	36	34	42	38	452	462	97.8%
眼 科	149	130	151	146	131	138	167	141	156	126	131	153	143	1,719	1,660	103.6%
耳 鼻 咽 喉 科	93	89	100	108	113	108	101	92	105	100	97	115	102	1,221	1,269	96.2%
麻 醉 科	3	3	2	7	4	1	6	2	3	5	1	1	3	38	23	165.2%
放 射 線 科	12	13	22	19	18	20	14	17	19	13	19	11	16	197	173	113.9%
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	52	51	54	71	43	59	55	44	42	41	44	51	51	607	709	85.6%
皮 膚 ·アレルギー科	165	152	162	182	162	163	166	151	132	131	130	137	153	1,833	1,728	106.1%
泌 尿 器 科	52	63	52	70	62	62	44	58	60	57	73	56	59	709	760	93.3%
産 婦 人 科	160	130	164	177	157	147	170	145	142	105	143	151	149	1,791	1,879	95.3%
救 急 診 療 科	64	55	62	75	63	62	51	70	93	90	55	75	68	815	507	160.7%
リ ハ ピ リ テ 一 シ ョ ン 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
歯 科 口 腔 外 科	149	178	188	195	175	156	189	162	167	186	147	196	174	2,088	502	415.9%
合 计	1,916	1,949	1,984	2,235	2,006	1,947	2,049	2,026	2,007	1,995	1,748	1,974	1,986	23,836	22,066	108.0%

4-6 新患者数（入院）

(単位:人)

月 診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	21	28	27	21	23	26	24	26	28	22	19	22	24	287	292	98.3%
血 液 内 科	39	37	34	45	51	42	39	37	40	37	41	37	40	479	439	109.1%
消 化 器 内 科	77	91	78	92	92	75	85	93	96	83	81	92	86	1,035	1,004	103.1%
呼 吸 器 内 科	44	39	53	50	57	64	61	54	50	58	49	60	53	639	617	103.6%
腎 臓 内 科	24	31	32	33	30	31	31	36	39	31	38	38	33	394	292	134.9%
糖 尿 病 ・内 分 泌 内 科	18	23	20	25	21	18	29	22	15	28	13	22	21	254	241	105.4%
循 環 器 科	192	189	205	226	179	180	180	210	244	214	185	205	201	2,409	2,153	111.9%
小 児 科	62	63	52	67	59	56	62	45	57	62	52	50	57	687	742	92.6%
小 児 外 科	10	11	18	16	20	15	17	16	14	11	11	18	15	177	180	98.3%
新 生 児 科	26	31	33	29	31	27	27	33	31	32	34	25	30	359	344	104.4%
外 科	153	154	154	155	142	140	174	154	154	152	138	156	152	1,826	1,917	95.3%
脳 神 経 外 科	95	86	97	98	110	85	96	113	102	105	106	103	100	1,196	1,199	99.7%
整 形 外 科	87	83	77	101	90	94	96	84	98	89	80	94	89	1,073	1,143	93.9%
脳 神 経 内 科	32	29	32	37	25	32	36	26	43	41	29	34	33	396	454	87.2%
心 臓 血 管 外 科	36	20	31	37	24	25	36	31	26	36	25	23	29	350	325	107.7%
呼 吸 器 外 科	16	15	15	16	17	16	14	14	12	14	12	13	15	174	187	93.0%
形 成 外 科	16	11	14	9	15	11	12	11	15	17	14	13	13	158	150	105.3%
眼 科	128	102	114	134	105	105	128	112	117	120	136	133	120	1,434	1,413	101.5%
耳 鼻 咽 喉 科	39	35	46	54	41	46	37	37	40	38	42	41	41	496	445	111.5%
麻 醉 科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮 膚 ・アレルギー科	35	36	33	35	36	31	35	36	32	27	22	28	32	386	396	97.5%
泌 尿 器 科	69	85	75	86	73	55	70	70	75	69	69	69	72	865	849	101.9%
産 婦 人 科	156	167	173	177	184	173	207	163	197	164	175	146	174	2,082	2,088	99.7%
救 急 診 療 科	67	89	86	104	95	105	106	122	93	74	83	82	92	1,106	816	135.5%
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯 科 口 腔 外 科	-	-	-	-	4	4	4	4	4	4	2	5	3	31	-	-
合 計	1,442	1,455	1,500	1,647	1,524	1,456	1,606	1,549	1,622	1,528	1,457	1,509	1,525	18,295	17,689	103.4%

4-7 退院患者数

(単位:人)

月 診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
膠原病内科 ・リウマチ科	26	25	30	20	23	21	31	28	26	21	20	21	24	292	284	102.8%
血 液 内 科	41	37	39	36	57	40	41	43	41	34	41	39	41	489	450	108.7%
消 化 器 内 科	78	77	97	82	99	77	90	87	93	78	90	92	87	1,040	1,013	102.7%
呼 吸 器 内 科	49	46	45	54	59	59	58	56	55	56	47	60	54	644	610	105.6%
腎 臓 内 科	24	33	26	33	32	33	35	35	38	31	35	36	33	391	306	127.8%
糖 尿 病 ・内 分 泌 内 科	19	21	20	24	22	17	31	19	22	19	17	22	21	253	233	108.6%
循 環 器 科	177	182	200	203	196	165	170	199	220	205	180	193	191	2,290	2,077	110.3%
小 児 科	68	55	59	66	66	51	60	52	53	59	51	49	57	689	730	94.4%
小 児 外 科	13	10	15	18	23	13	16	19	16	11	11	15	15	180	178	101.1%
新 生 児 科	22	32	37	24	30	28	30	38	30	29	31	28	30	359	348	103.2%
外 科	163	149	157	152	143	142	170	153	172	140	136	162	153	1,839	1,932	95.2%
脳 神 経 外 科	103	86	91	103	104	97	94	109	107	97	109	96	100	1,196	1,158	103.3%
整 形 外 科	115	83	79	93	116	89	110	100	112	92	92	101	99	1,182	1,236	95.6%
脳 神 経 内 科	33	35	31	33	31	31	42	25	43	45	34	41	35	424	471	90.0%
心 臓 血 管 外 科	37	33	38	42	31	29	38	34	49	32	37	30	36	430	355	121.1%
呼 吸 器 外 科	16	17	17	17	18	14	15	14	18	13	13	14	16	186	208	89.4%
形 成 外 科	13	8	14	18	10	14	13	15	16	15	19	15	14	170	174	97.7%
眼 科	131	91	125	122	106	108	126	112	132	108	129	142	119	1,432	1,420	100.8%
耳 鼻 咽 喉 科	36	34	45	51	43	44	40	37	47	32	40	39	41	488	437	111.7%
麻 醉 科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮 膚 ・アレルギー科	35	34	32	37	36	29	38	40	35	19	25	27	32	387	396	97.7%
泌 尿 器 科	76	74	88	85	73	61	73	64	88	52	74	79	74	887	859	103.3%
産 婦 人 科	163	148	173	181	176	177	201	174	203	157	170	156	173	2,079	2,083	99.8%
救 急 診 療 科	61	75	76	87	80	93	87	104	75	61	65	67	78	931	684	136.1%
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯 科 口 腔 外 科	-	-	-	-	3	5	4	3	5	4	2	5	3	31	-	-
合 計	1,499	1,385	1,535	1,581	1,577	1,437	1,613	1,560	1,696	1,410	1,469	1,529	1,524	18,291	17,645	103.7%

4-8 年齢別延患者数（外来）

(単位:人)

月年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0 歳	379	449	421	529	793	475	551	452	487	451	391	433	484	5,811	5,137	113.1%
1-6 歳	747	772	808	859	827	720	788	706	798	712	688	739	764	9,164	9,688	94.6%
0-9 歳	1,438	1,520	1,545	1,761	1,746	1,497	1,642	1,458	1,620	1,498	1,373	1,562	1,555	18,660	18,267	102.2%
10-19 歳	1,112	1,023	1,195	1,282	1,467	1,099	1,238	1,247	1,376	1,202	1,131	1,495	1,239	14,867	14,170	104.9%
20-29 歳	1,552	1,501	1,588	1,666	1,782	1,687	1,780	1,729	1,682	1,590	1,519	1,770	1,654	19,846	19,125	103.8%
30-39 歳	2,333	2,281	2,284	2,539	2,398	2,303	2,543	2,395	2,434	2,261	2,158	2,356	2,357	28,285	28,086	100.7%
40-49 歳	3,458	3,335	3,315	3,585	3,433	3,354	3,501	3,394	3,358	3,213	3,007	3,228	3,348	40,181	40,578	99.0%
50-59 歳	5,516	5,419	5,465	5,901	5,603	5,614	6,052	5,704	5,752	5,556	5,334	5,893	5,651	67,809	63,764	106.3%
60-64 歳	3,047	2,928	3,040	3,127	2,960	2,915	3,174	3,136	3,112	3,030	2,855	3,169	3,041	36,493	35,009	104.2%
65-74 歳	8,981	8,655	8,623	9,119	8,515	8,643	9,341	8,640	8,773	8,437	7,875	8,688	8,691	104,290	110,074	94.7%
75 歳 以 上	14,322	14,098	13,758	14,793	13,812	14,031	15,335	14,013	14,661	14,003	13,261	14,859	14,246	170,946	161,657	105.7%
合 計	41,759	40,760	40,813	43,773	41,716	41,143	44,606	41,716	42,768	40,790	38,513	43,020	41,781	501,377	490,730	102.2%

4-9 年齢別延患者数（入院）

(単位:人)

月年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0 歳	1,018	1,033	1,021	1,019	1,074	943	989	951	941	931	932	968	985	11,820	12,352	95.7%
1-6 歳	338	334	258	252	218	189	231	203	190	172	185	245	235	2,815	3,003	93.7%
0-9 歳	1,425	1,432	1,337	1,363	1,393	1,190	1,288	1,193	1,207	1,141	1,159	1,292	1,285	15,420	15,962	96.6%
10-19 歳	210	245	257	353	389	206	245	256	305	276	273	314	277	3,329	2,917	114.1%
20-29 歳	447	442	563	393	581	624	607	477	454	420	468	513	499	5,989	5,835	102.6%
30-39 歳	960	1,019	941	1,095	903	906	992	990	873	697	783	886	920	11,045	10,237	107.9%
40-49 歳	847	850	966	879	898	860	763	840	752	783	635	730	817	9,803	10,552	92.9%
50-59 歳	1,881	1,643	1,785	1,726	1,468	1,615	1,898	1,584	1,745	1,915	1,767	1,825	1,738	20,852	21,178	98.5%
60-64 歳	1,138	1,155	1,023	1,267	1,194	1,171	1,254	1,331	1,451	1,288	1,240	1,203	1,226	14,715	12,952	113.6%
65-74 歳	3,783	3,503	3,446	4,052	4,514	3,927	3,901	4,198	4,282	4,102	3,505	3,944	3,930	47,157	47,717	98.8%
75 歳 以 上	7,174	7,125	7,703	7,748	7,555	7,183	7,438	7,219	7,528	8,137	7,428	8,181	7,535	90,419	87,786	103.0%
合 計	17,865	17,414	18,021	18,876	18,895	17,682	18,386	18,088	18,597	18,759	17,258	18,888	18,227	218,729	215,136	101.7%

4-10 地区別延患者数（外来）

(単位:人)

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度 計	前年度 計	前年比
下田市		1,134	994	1,062	1,086	949	1,006	1,129	1,042	1,111	1,016	908	1,136	1,048	12,573	12,298	102.2%
東伊豆町		731	736	751	756	726	783	830	802	770	787	701	825	767	9,198	8,971	102.5%
河津町		491	469	465	493	466	473	510	483	501	460	383	531	477	5,725	5,537	103.4%
南伊豆町		431	432	450	461	441	426	459	429	435	400	384	465	434	5,213	5,171	100.8%
松崎町		367	325	350	398	348	378	391	364	344	347	329	396	361	4,337	4,037	107.4%
西伊豆町		584	545	552	600	582	567	632	575	554	576	516	586	572	6,869	6,976	98.5%
熱海市		849	839	815	854	816	858	939	908	912	791	830	922	861	10,333	9,883	104.6%
伊東市		3,730	3,673	3,589	3,872	3,649	3,761	4,022	3,637	3,729	3,611	3,456	3,831	3,713	44,560	43,792	101.8%
沼津市		4,612	4,614	4,698	5,107	4,796	4,756	5,153	4,710	4,868	4,670	4,379	5,027	4,783	57,390	54,871	104.6%
三島市		4,667	4,605	4,586	4,902	4,779	4,653	4,980	4,645	4,853	4,610	4,411	5,009	4,725	56,700	54,088	104.8%
御殿場市		1,414	1,392	1,385	1,517	1,392	1,407	1,548	1,417	1,429	1,333	1,272	1,413	1,410	16,919	15,423	109.7%
裾野市		1,022	997	991	1,069	1,028	982	1,032	992	1,065	990	946	1,081	1,016	12,195	12,109	100.7%
伊豆市		4,654	4,403	4,447	4,796	4,488	4,385	4,685	4,386	4,569	4,356	4,230	4,409	4,484	53,808	54,097	99.5%
伊豆の国市		9,249	9,132	9,050	9,725	9,301	9,021	9,733	9,241	9,507	9,011	8,437	9,132	9,212	110,539	110,800	99.8%
函南町		3,548	3,539	3,459	3,675	3,548	3,427	3,909	3,620	3,616	3,356	3,210	3,594	3,542	42,501	42,186	100.7%
清水町		957	907	902	937	936	953	1,025	970	962	1,031	920	1,030	961	11,530	10,948	105.3%
長泉町		870	822	825	892	923	877	987	916	933	957	864	932	900	10,798	10,484	103.0%
小山町		260	231	262	280	227	217	253	218	240	232	223	259	242	2,902	3,102	93.6%
富士宮市		235	228	256	276	248	228	270	262	262	260	215	227	247	2,967	2,789	106.4%
富士市		544	522	571	640	618	578	628	638	577	558	558	586	585	7,018	6,818	102.9%
県内その他		442	442	434	466	457	431	509	458	462	445	477	507	461	5,530	5,124	107.9%
県外		968	913	913	971	998	976	982	1,003	1,069	993	864	1,122	981	11,772	11,226	104.9%
合計		41,759	40,760	40,813	43,773	41,716	41,143	44,606	41,716	42,768	40,790	38,513	43,020	41,781	501,377	490,730	102.2%

4-11 地区別延患者数（入院）

(単位:人)

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市	668	662	789	742	566	614	443	547	569	635	709	858	650	7,802	8,080	96.6%	
東伊豆町	294	394	474	365	352	345	519	606	619	433	519	323	437	5,243	5,017	104.5%	
河津町	296	247	179	211	239	241	172	163	176	251	210	250	220	2,635	2,691	97.9%	
南伊豆町	265	199	331	323	175	231	268	93	214	148	134	310	224	2,691	3,654	73.6%	
松崎町	244	182	148	156	266	216	156	230	150	255	223	215	203	2,441	2,119	115.2%	
西伊豆町	395	464	425	345	341	253	312	265	301	374	324	299	342	4,098	3,469	118.1%	
熱海市	364	477	436	449	383	339	445	345	321	363	292	265	373	4,479	5,097	87.9%	
伊東市	1,594	1,885	1,856	1,549	1,506	1,669	1,703	1,758	1,893	1,896	1,810	1,780	1,742	20,899	19,823	105.4%	
沼津市	1,946	1,882	1,990	1,941	2,319	2,281	2,238	2,277	2,268	2,453	2,213	2,442	2,188	26,250	26,064	100.7%	
三島市	2,130	1,759	1,801	2,047	2,302	1,937	2,130	1,747	1,977	1,833	1,778	2,079	1,960	23,520	21,061	111.7%	
御殿場市	975	1,103	1,008	919	1,076	859	873	745	973	1,127	765	811	936	11,234	11,686	96.1%	
裾野市	602	521	510	722	590	377	538	566	749	607	679	834	608	7,295	6,583	110.8%	
伊豆市	1,634	1,491	1,549	1,831	1,879	1,558	1,647	1,820	1,706	1,685	1,482	1,878	1,680	20,160	21,085	95.6%	
伊豆の国市	2,599	2,554	2,878	3,312	3,122	3,053	3,026	2,909	2,906	2,831	2,627	2,591	2,867	34,408	31,638	108.8%	
函南町	1,478	1,275	1,432	1,278	1,247	1,241	1,335	1,489	1,404	1,291	1,044	1,191	1,309	15,705	17,742	88.5%	
清水町	505	439	429	610	506	435	409	427	422	450	411	536	465	5,579	4,324	129.0%	
長泉町	372	487	281	406	539	475	455	294	475	508	499	378	431	5,169	4,962	104.2%	
小山町	161	176	185	158	128	169	142	135	157	176	79	174	153	1,840	2,237	82.3%	
富士宮市	156	138	177	257	267	250	344	345	173	264	192	209	231	2,772	1,897	146.1%	
富士市	390	389	425	393	405	445	410	445	341	429	513	607	433	5,192	5,161	100.6%	
県内その他	200	113	119	148	165	221	174	182	187	230	196	197	178	2,132	3,010	70.8%	
県外	597	577	599	714	522	473	647	700	616	520	559	661	599	7,185	7,736	92.9%	
合計	17,865	17,414	18,021	18,876	18,895	17,682	18,386	18,088	18,597	18,759	17,258	18,888	18,227	218,729	215,136	101.7%	

